

# 目次

## 文化言語学部 文化言語学科

### 教養教育科目

文化言語入門	1
スタディスキルⅠ	2
スタディスキルⅡ	3
日本伝統文化Ⅰ：華道・能楽	4
日本伝統文化Ⅱ：着付・茶道	5
熊本学	5
西洋史	6
東アジア史	6
心理学	7
メディア学入門	8
ジェンダー論	8
人権論	9
日本国憲法	9
図書館概論	10
生涯学習概論	10
特別支援教育概論	11
情報処理総論	11
情報処理実務Ⅰ	12
情報処理実務Ⅱ	12
文書処理応用	13
表計算応用	13
体育Ⅰ	14
体育Ⅱ	14
英語ⅠA：竹下	15
英語ⅠA：柚木	15
英語ⅠB：竹下	16
英語ⅠB：柚木	16
中国語Ⅰ	17
中国語Ⅱ	17
韓国語Ⅰ	18
韓国語Ⅱ	18
キャリア形成入門	19
キャリアデザインⅠ	19
日本文化論	20
日本史	20
生涯発達心理学	21
臨床心理学	22
情報と社会	22
児童サービス論	23
環境の科学	23
基礎数学	24
英語ⅡA	24
英語ⅡB	25
推計学入門（3年生以上対象）	25
芸術	26

インターンシップ	26
Web ページ作成演習	27
読書と豊かな人間性	27

### 専門教育科目

日本文学概論	31
創作鑑賞Ⅰ	31
日本古典文学史Ⅰ	32
日本古典文学史Ⅱ	32
日本近現代文学史Ⅰ	33
中国文学概説Ⅰ	33
日本語史	34
日本語学概説	34
文章表現	35
音声言語	35
書学概論Ⅰ	36
仮名書法	36
楷書法	37
行書法	37
漢字古典研究	38
書写・書道概論	38
書写・書道Ⅰ	39
書写・書道Ⅱ	39
社会学概説	40
地域社会論	40
中国事情	41
韓国事情	41
ボランティア論	42
サービスマーケティング入門Ⅰ	42
サービスマーケティング入門Ⅱ	43
課題探求プロジェクト演習	43
海外フィールドワーク	44
日本語表現論Ⅰ	44
日本語表現論Ⅱ	45
英語基礎Ⅰ：竹下	45
英語基礎Ⅰ：田口	46
英語基礎Ⅱ：竹下	46
英語基礎Ⅱ：田口	47
中国語基礎Ⅰ	47
中国語基礎Ⅱ	48
韓国語基礎Ⅰ	48
韓国語基礎Ⅱ	49
比較文化入門（3年生以上対象）	49
文学研究概論	50
創作鑑賞Ⅱ	51
専門基礎演習Ⅰ：武田	51
専門基礎演習Ⅱ：河田	52

専門基礎演習Ⅲ：福永	52	韓国語中級Ⅱ	79
専門基礎演習Ⅳ：畠山	53	コミュニケーション韓国語Ⅰ	79
日本古典文学講義Ⅰ	53	コミュニケーション韓国語Ⅱ	80
日本古典文学講読Ⅰ	54	検定韓国語	80
日本古典文学講読Ⅱ	54	対照言語学（3年生以上対象）	81
日本近現代文学史Ⅱ	55	日米比較文化言語基礎演習Ⅰ	81
日本近現代文学講義Ⅰ	55	日米比較文化言語基礎演習Ⅱ	82
日本近現代文学講読Ⅰ	56	日韓比較文化言語基礎演習	82
日本近現代文学講読Ⅱ	56	日本古典文学講義Ⅱ	83
中国文学概説Ⅱ	57	日本古典文学演習Ⅰ	83
漢文学講義Ⅰ	57	日本古典文学演習Ⅱ	84
漢文学講読Ⅰ	58	日本近現代文学講義Ⅱ	84
漢文学講読Ⅱ	58	日本近現代文学演習Ⅰ	85
日本語文法	59	日本近現代文学演習Ⅱ	85
談話分析	59	漢文学講義Ⅱ	86
言語心理学	60	漢文学演習Ⅰ	86
書学概論Ⅱ	60	漢文学演習Ⅱ	87
草書法	61	アナウンス実践論	87
篆書法	61	日本語教育文法概論	88
隸書法	62	日本語教授法概論	88
漢字仮名交じり書	62	日本語学演習Ⅰ	89
仮名古典研究	63	日本語学演習Ⅱ	89
篆刻	63	刻字	90
書式研究	64	中国書道史	90
専門基礎演習（書道コース）	64	日本書道史	91
中国書道文化研究	65	名跡鑑賞	91
地域振興論	65	書論研究	92
地域政策論	66	漢字創作研究	92
現代社会論	66	仮名創作研究	93
社会調査法	67	児童書道教育	93
異文化理解	67	アート表現研究	94
アメリカ事情	68	水墨画研究	94
多文化共生論	68	日米比較文学	95
NPO論	69	米英文学概論	95
サービ斯拉ーニング演習Ⅰ	69	文体論	96
サービ斯拉ーニング演習Ⅱ	70	日米比較文化言語原書講読Ⅰ	96
地域プロジェクトワーク	70	日米比較文化言語原書講読Ⅱ	97
海外プロジェクトワーク	71	日米比較文化言語演習Ⅰ	97
専門基礎演習（現代コミュニケーションコース）	71	日米比較文化言語演習Ⅱ	98
情報技術特論	72	英語学概論	98
消費行動論	73	英語史	99
英語演習Ⅰ	73	プレゼンテーションⅠ	99
英語演習Ⅱ	74	プレゼンテーションⅡ	100
TOEFL/TOEIC PreparationⅠ	74	観光英語	100
英会話Ⅰ	75	TOEFL/TOEIC PreparationⅡ	101
英会話Ⅱ	75	日韓比較文学	101
中国語中級Ⅰ	76	日中比較文化言語原書講読	102
中国語中級Ⅱ	76	日中比較文化言語演習Ⅰ	102
コミュニケーション中国語Ⅰ	77	日中比較文化言語演習Ⅱ	103
コミュニケーション中国語Ⅱ	77	日韓比較文化言語原書講読	103
検定中国語	78	日韓比較文化言語演習Ⅰ	104
韓国語中級Ⅰ	78	日韓比較文化言語演習Ⅱ	104

応用中国語	105
応用韓国語	105
観光中国語	106
観光韓国語	106
熊本の歴史と文化	107
コミュニケーション論	107
社会心理学Ⅰ	108
社会心理学Ⅱ	108
社会福祉論Ⅰ	109
社会福祉論Ⅱ	109
方言学	110
国と地方の役割	110
観光学	111
観光文化	111
消費経済学Ⅰ	112
消費経済学Ⅱ	112
情報社会学	113
交通論	113
流通論	114
社会学演習Ⅲ：山中	114
社会学演習Ⅲ：所	115
社会学演習Ⅳ：山中	115
社会学演習Ⅳ：所	116
日本古典文学演習Ⅲ	116
日本近現代文学演習Ⅲ	117
漢文学演習Ⅲ	117
日本語教育実習	118
観光英語応用	118
観光中国語応用	119
観光韓国語応用	119
旅行業法規	120

## 卒業研究・卒業作品研究

卒業研究：日本文学・言語コース	123
卒業研究：書道コース	124
卒業研究：アメリカ・東アジア文化言語コース	125
卒業研究：地域文化・社会コース	125
卒業作品研究：書道コース	126

## 教職に関する科目

教職論	129
教育原理（教育課程を含む。）	130
教育方法論	131
教育制度	132
国語科教育法Ⅰ	133
国語科教育法Ⅱ	134
書道科教育法Ⅰ	134
道德教育の研究	135

特別活動の研究	136
臨床心理学	136
教育心理学Ⅰ	137
教育心理学Ⅱ	138
国語科教育法Ⅲ	139
国語科教育法Ⅳ	139
書道科教育法Ⅱ	140
英語科教育法Ⅲ	140
英語科教育法Ⅳ	141
教育実践研究	142
教職実践演習（中・高）	143

## 司書に関する科目

図書館情報技術論	147
図書館制度・経営論	148
図書館サービス概論	149
情報サービス論	150
情報サービス演習（A）	151
情報サービス演習（B）	152
図書館情報資源概論	153
情報資源組織論	153
情報資源組織演習（A）	154
情報資源組織演習（B）	154
図書・図書館史	155
図書館情報資源特論	155
図書館基礎特論	156
図書館実習	157

## 司書教諭に関する科目

学校経営と学校図書館	161
学習指導と学校図書館	162
情報メディアの活用	163



# 文化言語学部

---

文化言語学科・教養教育科目



科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文化言語入門	1	専任教員	1年	前期	演習	必修
授業概要	文化言語入門では、大学に入学したばかりの皆さんが大学生活をよりスムーズに始められるようにサポートし、授業履修の方法から図書館活用の方法、学生生活をよりよく送るための基礎知識を習得します。また榎木キャンパス周辺を探索しグループで協力して尚綱アクティブマップを作成します。					
キーワード	履修登録指導、学生支援講座、図書館案内、学外研修、PROGテスト、キャリア指導					
到達目標	学生が初年時に円滑な学生生活ができるような基本生活や基本学習のスキルを身につける。					
受講生に望む事	遅刻や欠席をせずに、学生間のコミュニケーションを心がけること					
評価方法	受講姿勢(60%)、学期末感想文(20%)、セミナー行事への積極的参加姿勢(20%)とする。 欠席回数が前回数の3分の1を超えた場合、単位認定は行わない。					
回	授業計画					
1	履修登録指導	履修登録指導 [情報処理室]			教務課	
2	PROGテスト	テスト実施			教務委員会	
3	学生支援講座1	保健指導講座(養護教諭)			学生支援課	
	学生支援講座2	カウンセラー指導(学内カウンセラー)			学生支援課	
4	PROGテスト	分析結果(配布・解説)			教務委員会	
5	学外学修1	「尚綱アクティブマップ」作成のための事前準備			専任教員	
6	学外学修2	「尚綱アクティブマップ」作成のための散策			専任教員	
7	図書館利用案内	図書館利用案内			司書	
8	学生支援講座3	防犯対策講座(熊本北警察署)			学生支援課	
		マップ報告会準備			専任教員	
9	学生支援講座4	消費者教育講座			学生支援課	
		マップ報告会準備			専任教員	
10	図書館利用案内	試験勉強およびレポート作成のための蔵書検索指導			司書	
11	学外学修3	「尚綱アクティブマップ」報告会			専任教員	
12	学外学修4	「尚綱アクティブマップ」掲示作品制作			専任教員	
13	学生支援講座5	薬物乱用防止講座(熊本県福祉課)			学生支援課	
14	キャリア指導	大学生活と就職活動について			就職支援委員会・就職課	
15	履修指導	試験及び成績について 後期「スタディスキルⅡ」について			教務委員会または専任教員	
関連科目	教養科目及び専門科目全般					
資格						
教科書						
参考資料						
連絡先						
オフィスアワー						
備考	文化言語入門の日程は担当講師の都合により日程が変更となる場合がある。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
スタディスキルⅠ	1	いなば 穂葉 こういち 浩一	1年	前期	講義	必修
授業概要	<p>「大学の勉強は中学や高校と違う」。そう聞いたことがあるひとは多いだろう。ではどう違うのだろうか？たとえば中学や高校でみなさんがやってきた勉強は、おそらく板書を写したり、教科書やプリントのなかの重要（≒テストに出る可能性の高い）とされる単語や文に線を引いたりとしたことが主だっただろう。それは「覚えるための技術＝ラーニングスキル」といえるかもしれない。</p> <p>だがこういった技術は、一言でいえば「覚えるべき知識（情報）を覚える」ことに重きがおかれている。いわば「答え覚え」と「答え合わせ」のための勉強の技術だ。もちろんこういったことは大学の勉強でも重要なのだが、知識（情報）をただテストに出るからと暗記しただけでは（ましてや写したり線を引いただけでは）ほとんど意味をなさない。</p> <p>それでは大学では何が求められているのだろうか？それは、最終的には「答え探し（作り）」や「問題探し（作り）」ができるようになることである。授業ではさまざまな言葉や文が提示される。それをただ写したり、線を引いただけで喜んではいけぬ。その背後にある、その授業で伝えようとしている「考え」や「世界」を理解し、与えられた言葉を自分のものにしていく。そこから「答え探し（作り）」や「問題探し（作り）」が始まるのだ。</p> <p>この授業ではまさにその「はじめの一步」となる、「探究するための技術＝スタディスキル」の基礎の基礎を習得することが目指されている。</p>					
キーワード	スタディスキル、探究的学習					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における探究的学習の基礎となる学習方法の基礎を習得する。</li> <li>・大学の学習活動において必要となる基本的なソーシャルスキルを獲得する。</li> </ul>					
受講生に望む事	これは大学4年間を通じてのことだが、「どれがテストに出るのか」といった態度からいったん離れて、「この授業では何が伝えられようとしているのか」という姿勢で取り組んでほしい。					
評価方法	授業内で提示する課題・提出物（70%）、平常点（30%）とする。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション：スタディスキルとは何か					
2	大学とはどういうところか？					
3	学びを支えるソーシャルスキル					
4	講義はどのように受けるものなのか？					
5	演習とはどういった授業なのか？					
6	レポート・レジュメの作成について①：「それらしい」文章の書き方					
7	レポート・レジュメの作成について②：「丸写し作文」からの脱却					
8	まとめと補論					
関連科目	スタディスキルⅡ					
資格						
教科書	吉原恵子・間瀬泰尚・富江英俊・小針誠，2011，『スタディスキルズ・トレーニング』実教出版。					
参考資料	戸田山和久，2002，『論文の教室』NHK出版 ほか適宜授業内で紹介する。					
連絡先	e-mail. kinaba@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
スタディスキルⅡ	1	専任教員	1年	後期	演習	必修
授業概要	スタディスキルⅠで学んだことの実践編とした授業である。少人数で評論文等を講読し、「本の読み方」、「要約の方法」、「情報検索・収集の仕方」等を実践的に学ぶ。また、レジュメの作成やプレゼンテーション、ディスカッションなどの基礎を体験的に学ぶ。そしてレポート・論文を作成するための基礎的な知識・方法を習得する。					
キーワード	評論文、レポート、卒業論文					
到達目標	本の読み方、要約の方法、情報検索・収集の仕方等を実践的に学習し、レポート・論文を作成するための基礎を身につける。					
受講生に望む事	欠席や遅刻をせずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識をもって取り組んでほしい。 [事前学習] ・指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 [事後学習] ・授業中の課題の復習やレポートを作成する。					
評価方法	まとめのレポート、ディスカッション等 (70%)、平常点 (30%) とする。具体的には各教員が指示する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	各ゼミにてオリエンテーション	9	個別指導			
2	みんなで「評論文」を読もう1	10	個別指導			
3	みんなで「評論文」を読もう2	11	個別指導			
4	みんなで「評論文」を読もう3	12	個別指導			
5	みんなで「評論文」を読もう4	13	個別指導			
6	みんなで「評論文」を読もう5	14	個人指導			
7	みんなで「評論文」を読もう6	15	各ゼミでまとめ			
8	まとめ1 (レポート or ディスカッション or ディベート)					
関連科目	スタディスキルⅠ	連絡先				
資格		オフィスアワー				
教科書		備考	担当教員によって1回の学外学修を実施する場合がある。その場合の交通費等は自己負担とする。			
参考資料	スタディスキルズ・トレーニング 実教出版					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本伝統文化Ⅰ：華道・能楽	2	坂田 弘子 飯富 章宏	1年	前期	講義 実技	必修
授業概要	<p>[華道：坂田全8回] 日本の伝統文化である華道の、歴史的な成り立ちから現代までの流れについて学ぶ。華道について実技を交えて学習し、基本の形を習得する。</p> <p>[能楽：飯富全8回] 能楽は日本の伝統芸能のひとつである。中世という時期に日本古来の芸能を融合し、舞台芸術にまで高めた。その後の様々な日本芸能の基幹ともなった。そのことを理解しながら、能楽という伝統芸能を学んでいく。実技体験やビデオ学習も併用し、その後の日本文化の理解にもつながることを目指す。</p>					
キーワード	<p>[華道] パワーポイントによる作品鑑、実技（一人一作生花をいける。場合によりグループ制作もある。）</p> <p>[能楽] 伝統芸能、芸能史、能楽、世阿弥、熊本の能楽</p>					
到達目標	<p>[華道] 日本の伝統文化である華道について、基礎的事項（歴史的経緯、現代的意義）の理解・小原流挿花の基礎花型（たてるかたち・かたむけるかたち）習得・小原流いけばな初等科修了書授与（希望者）</p> <p>[能楽] 古典芸能が現代に伝承される意味を知って、現代日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。能楽はじめ諸々の日本伝統芸能の理解を深めることも望ましい。</p>					
受講生に望む事	<p>[華道] ・伝統文化であるいけばなを楽しんでください。 ・国内148支部、世界各国（57支部22支所）でいけばなを学んでいる人々があります。大学で学べるこの機会を大切に是非基本を身に付けてください。</p> <p>[能楽] 講義中に映像や実技なども多用するしっかり鑑賞してもらいたい。レポートを課すが、簡潔にして、主旨を明瞭に述べることを求める。礼儀をわきまえた真面目な受講を求む。</p>					
評価方法	<p>[華道] 実技とレポートにより評価する。 実技（技能習得）50% レポート提出50%</p> <p>[能楽] 授業出席を重視する。授業態度の良くない学生には退出を命じる。レポートも課す。</p>					
<b>授業計画</b>						
	[華道]				[能楽]	
1	基礎的ないけばなの鑑賞・現代のいけばな・実技（小さな器に生ける）	1	オリエンテーション 能楽を知ろう。能楽の源流。『翁猿楽』「式三番」			
2	華道の歴史Ⅰ（はじまり～平安時代）・基礎花型の練習（たてるかたち）			2	古代から能楽以前の日本芸能	
3	華道の歴史Ⅱ（～室町時代）・基礎花型の練習（たてるかたち）			3	観阿弥の能『通小町』	
4	華道の歴史Ⅲ（～江戸時代）・基礎花型の練習（かたむけるかたち）			4	世阿弥の能『清経』	
5	華道の歴史Ⅳ（明治時代）・基礎花型の練習（かたむけるかたち）			5	世阿弥の能『井筒』	
6	華道の歴史Ⅴ（～現代）基礎花型の練習・（たてるかたち・かたむけるかたち）			6	元雅の能『隅田川』	
7	基礎花型の練習・応用型（ならぶかたち・ひらくかたち）			7	小次郎の能『船弁慶』	
8	基本のかたちの確認（実技テスト）（たてるかたち・かたむけるかたち）			8	近世以降の伝統芸能への影響。まとめ、評価、質疑応答。	
関連科目	日本伝統文化Ⅱ					
資格						
教科書	<p>[華道] 授業時に説明を行います。</p> <p>[能楽] なし。資料は講義中に配布する。</p>					
参考資料	[能楽] 参考図書として「図解日本音楽史」田中健次／東京出版、「マンガ能百番」渡辺睦子／新潮社					
連絡先	教務課					
オフィスアワー	<p>[華道] 花代は学生の負担となります。（1回200円程度）</p> <p>※授業グループについて</p> <p>Aグループ：能楽終了後、華道の授業となります。 Bグループ：華道終了後、能楽の授業となります。</p>					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本伝統文化Ⅱ：着付・茶道	2	吉田 裕美子 しもじょうかおる 下城 香	1年	後期	講義	選択
授業概要	(吉田：1～8回)着物の基礎知識(着物の部位の説明、着物の種類とTPO)を習得する。・帯の基礎知識(帯の種類とTPO)を習得する。・和装に必要な小物の説明と前準備・実践。自分の着付の手順を体得 (下城：9～15回)「茶の湯とは？」精神と技法を、講義と実践を通して学ぶ。茶の湯が日本文化に与えた影響は大きいものがあります。茶の湯は、日本人の暮らしと共にあり、現在も私達に、心の豊かさ、楽しみをもたらしています。					
キーワード	・和装 器具を使用しない昔ながらの紐のみで気付けと帯結び 礼儀作法 ・おいしいお茶とはどんなものを言うのか、味覚だけに止まらず、茶席の趣向、季節、ふるまいの美しさや語りの奥ゆかしさ、心づかいを味わってみる。					
到達目標	・自分の着付(着物・帯)の基礎的な手順を習得し、実践できるようになる。 ・茶の湯の歴史や精神に触れ、茶の湯が私達の日常生活に、身近な日本文化であることを理解する。					
受講生に望む事	・遅刻しないようにすること。私語は慎むこと。忘れ物のないようにすること。 ・一服のお茶が、受講生の琴線に触れ、日本の美しい豊かな心、日本文化のしとやかさ、素晴らしさの再発見に繋がれば、嬉しくおもいます。そして、日常生活に生かしていただけたらと思います。					
評価方法	(吉田) 実技試験40%、筆記試験40%、学習態度20% (下城) 実践、レポートによって評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	着物 帯の基礎知識の習得と和装に必要な小物の説明と前準備について		9	茶の湯の歴史、背景、精神について学ぶ。(講義)		
2	実践 着物の着方(足袋、下着の身に付け方、補正の仕方、長襦袢、着物の着方)		10	茶室の作法(実践)客として招かれてみる。(10回～15回)		
3	実践 着物の着方と名古屋帯(一重太鼓)の結び方		11	茶室のはいり方。襖や障子の開け方、閉め方、畳の歩き方、お菓子の取り方、		
4	実践 着物の着方と名古屋帯(一重太鼓)の結び方		12	頂き方、抹茶の頂き方、客同志の心づかいを学ぶ。		
5	実践 着物の着方と袋帯(二重太鼓)の結び方		13	茶席の趣向を楽しむ。		
6	実践 着物の着方と半幅帯の結び方		14	一服のお茶に込められたもてなしの心に触れる。		
7	実践 着物の着方と半幅帯の結び方		15	客の心得。心の通い合い		
8	実技試験、筆記試験			美味しいお茶とはどんなものかを感じ味わってもらう。		
関連科目	日本伝統文化Ⅰ		連絡先	教務課		
資格			オフィス アワー			
教科書	授業時に説明を行います。		備考	1～8回「和装に必要な小物」・足袋、肌着、裾よけ、長襦袢(半襟をつけておく)・伊達締め2本、腰ひも5～6本、袴芯、タオル4～5枚、クリップ(洗濯ばさみ)・帯締め、帯揚げ、帯板(なるべくゴムベルト付きが良い)、帯枕・着物、帯(名古屋帯、袋帯、半幅帯)(下城)茶菓子代は各自負担のこと。		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
熊本学	2	うの はただ みやざき 宇野・畑田・宮崎	1年	後期	講義	必修
授業概要	尚綱大学の「地元」である「熊本」について、文化・言語・歴史・地域・情報・芸術・生活などさまざまな観点から学ぶ。知っているようで知らない「熊本」を発見する新鮮さを感じつつ、学問的な切り口で自分たちの「地元」を見つめなおすことで、学ぶことの楽しさ・奥深さを実感してほしい。教室での講義だけでなく、地域の施設などでの学外学修や、グループでの「熊本PR」作成など、多様な形で学修となるので、何事にも積極的に参加することで、より楽しむことができる科目である。					
キーワード	熊本、地域の社会と文化、地域の歴史。					
到達目標	1. 身近な「熊本」について、多様な観点から学修する。 2. 地域社会の現実を知り、自ら積極的に情報を収集することを体験する。 3. グループごとに行動することにより、相互にコミュニケーションを図り、協力して成果を上げることを目指す。 4. 講義・グループ学習・学外学修で得た知識を自分なりに整理し、「熊本」の魅力他者に発信することができる。					
受講生に望む事	●大学で何を学び、身に着けるかは自分次第。あらゆるトピックに興味関心を広げるとともに、自分の好きな領域については、自主的に学修内容を掘り下げていってみよう。また、グループメンバーと協力し、自分から行動するということを実践してほしい。 ●第9回、第15回でそれぞれグループごとの発表をしてもらうので、毎回の講義のポイントをまとめること(第1回ガイダンス時に詳細を説明する)。					
評価方法	講義ごとの「感想文」および「レポート」の提出(90%)、受講態度(10%)。欠席回数全体が全体の3分の1を超えた場合は単位を認定しない。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス/熊本のこと、どれだけ知っていますか?		9	熊本の地域社会②地域社会に貢献する「くまもとの街づくり」(学外講師)		
2	熊本の文化と言語		10	熊本の文化と情報		
3	熊本の歴史		11	熊本の過去・現在・未来-学外学修(菊池恵楓園もしくは県立図書館の予定)		
4	熊本の地域社会①地域社会に貢献する「フェアトレードと熊本」(学外講師)		12	熊本の女性		
5	熊本の芸術		13	後半のふりかえり①-グループワークで「熊本学」を振り返ろう		
6	熊本の文学		14	後半のふりかえり②-「熊本よかとこPR」を作ろう		
7	前半のふりかえり①-グループワークで「熊本」を学ぼう		15	全体のふりかえり		
8	前半のふりかえり②-「熊本3分CM」を作ろう/フェアトレードを実践しよう					
関連科目	文化言語学部のすべての科目に関連する。		連絡先	宇野 funo@shokei-gakuen.ac.jp 畑田 hatada@shokei-gakuen.ac.jp 宮崎 miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー			
教科書			備考	学外学修に係る交通費等は各自で負担する。		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
西洋史	2	うちだ 内田 良太	1年	後期	講義	選択
授業概要	本講義の目的は近世フランスの人々の日常生活に注目し、その特質を解明することです。歴史を学ぶということは過去の人間の営みを知ることです。遠い過去である近世フランスの人々の生活と現代社会に生きる皆さんの生活のあいだには共通する点が数多くあります。本講義を通じて、皆さんとともに過去の、しかも異国の人間の日常生活を知り、大いに共感することができればと考えています。なお、講義毎にリアクション・ペーパーと呼ぶ授業に対する意見・質問・感想を記入する用紙を配布します。皆さんの積極的な書き込みを求めます。					
キーワード	文化 民衆 エリート ブルジョワ 性差 フランス革命 ヴェルサイユ宮殿					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近世フランスの人々の日常生活を知り、大いに共感すること。</li> <li>・ 事件や出来事の羅列ではない歴史の見方をすることができること</li> </ul>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の出席者を妨害する行為には厳しく対応します。その点を忘れないように。</li> <li>・ 過去を知ることが面白さについて理解していただければ幸いです。</li> </ul>					
評価方法	定期試験(60%)、中間レポート(10%)、リアクション・ペーパー(30%)の三つを総合して評価します。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	はじめに――講義の概要	9	働く			
2	歴史学の方法①	10	読む			
3	歴史学の方法②	11	病気と死			
4	近世フランスの社会	12	宮廷文化――国王の儀礼と支配の諸相			
5	生まれる	13	民衆文化①――魔女			
6	結婚する	14	民衆文化②――民衆文化とブルジョワ文化			
7	衣食住	15	おわりに			
8	学ぶ	16	定期試験			
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス ア ワ ー			
教科書	特になし(講義毎に資料配布)		備考	通話や授業とは無関係な私語等、他の出席者を妨害する行為をおこなった場合、当該の学生は履修を放棄したとみなします。		
参考資料	参考資料につきましては講義時に適宜紹介していきます。さしあたり以下を参照して下さい。 ・ 木村尚三郎他編『概説フランス史』有斐閣選書、1982年。 ・ 二宮素子『宮廷文化と民衆文化』山川出版社、1999年。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
東アジア史	2	とう 黨 たけひこ 武彦	1年	前期	講義	MC必修 他コース選択
授業概要	日本を知ること、そのためには歴史を知ることが必須ですが、日本の歴史は東アジアの歴史の一翼を担い、さらに東アジアから大いに影響を受けて発展してきました。その意味でも「東アジア」という視点から歴史を見ることが重要です。本講義では、前近代までの歴史について、中国・朝鮮半島の歴史を中心に、日本(特に九州・熊本)との関係も交えながら、ひたすら暗記するような歴史ではなく、自分で考えることを目標に進めていきます。					
キーワード	東アジア史、中国、朝鮮半島、日本					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東アジアの歴史を理解する</li> <li>・ 東アジアにおける日本・九州・熊本の位置づけを把握する</li> </ul>					
受講生に望む事	「歴史」は身近であることを理解する					
評価方法	学期末テスト(70%)と受講態度(取り組む姿勢等)(30%)で評価します。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	「歴史」を学ぶこと	9	東アジア再編と発展(明清、李氏朝鮮、琉球、日本)①			
2	「東アジア史」について	10	東アジア再編と発展(明清、李氏朝鮮、琉球、日本)②			
3	人類の発展と古代文明と都市国家(春秋戦国)	11	アヘン戦争から明治維新(日本人の中国認識の転換を中心に)			
4	初期古代中国(秦、漢)	12	辛亥革命と日本と熊本			
5	小国分立(魏晋南北朝)と東アジア(高句麗、百濟、新羅、邪馬台国)	13	日中戦争から国共内戦			
6	後期古代中国(隋、唐)と東アジア(後三国時代、渤海、日本)	14	日中国交回復から改革開放政策の展開			
7	「中華」帝国の分裂(五十大国、宋)と「周辺」の台頭(遼、金、西夏、高麗、日本)	15	まとめ			
8	モンゴル帝国(元)と東アジアの危機					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス ア ワ ー			
教科書	各時間プリントを配布します。		備考			
参考資料	尾形勇編『中国史』(新版世界各国史、山川出版社、1998年) 礪波護・尾形勇・鶴間和幸・上田信『中国の歴史』全12巻(講談社、2004～2005年)など。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
心理学		2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	1年	前期	講義	選択
授業概要	<p>【概要】 心理学とは何かについて、心理学の歴史や研究法、または、これまでに見出された興味深い現象や知見とともに概説する。</p> <p>【目標】 心理学の領域は幅広いが、そのうち、認知、学習、記憶、知能、性格、発達に関する知見が、様々な場で活用されていることを学ぶ。</p> <p>【方法】 1. 視聴覚教材を利用し、心理学の幅広い理解を得る。 2. 心理検査を体験的に学び、人間理解を深める。 3. 実験法・調査法に基づいて、日常生活の体験を知る。</p>						
キーワード	知覚、学習理論、記憶、発達の原理、パーソナリティ、集団、適応						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な心理学の方法を理解すること</li> <li>・心理学の各種の理論や知識を説明できること</li> <li>・心理学の知識を応用して日常生活に役立てること</li> <li>・心理学の知識を人間関係において他者理解と自己洞察に生かすこと</li> </ul>						
受講生に望む事	各講義では、評価方法に示す受講記録については、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて（講義内容の箇条書きでなく）自分の言葉で記録してください。事前学習としては、講義ノートを作成し、教科書・参考図書（次回授業）範囲を通読の上、基礎用語の下調べなどを行うこと。事後学習：講義ノートを整理し、確認したい事からは、次回までに調べ学習を行っておくこと。						
評価方法	平素の受講記録と中間レポート等（40%程度）、及び最終レポート（60%程度）による総合評価						
回	授業計画						
1	心理学の視点						
2	感覚と知覚						
3	認知機能						
4	遺伝と環境						
5	学習理論						
6	記憶						
7	思考・言語						
8	知能と測定						
9	パーソナリティと測定						
10	社会行動						
11	発達の原理						
12	初期経験						
13	認知発達						
14	こころの概念						
15	まとめ						
関連科目	生涯発達心理学、教育心理学Ⅰ・Ⅱ、社会心理学Ⅰ・Ⅱ						
資格							
教科書	心理学 第4版 鹿取 廣人（編集）、杉本 敏夫（編集）、鳥居 修晃（編集） 東京大学出版会						
参考資料							
連絡先	榆の木地区大学1号館3階No.1研究室						
オフィスアワー							
備考	市販の心理検査を使用する際は、教材の実費徴収を行うことになる。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
メディア学入門	2	こえじ しんいちろう 越地 真一郎	1年	前期	講義	必修
授業概要	大学の勉強、就職活動、社会に出てからの仕事…そのいずれも基本となるのはコミュニケーション能力、言い換えれば「言葉の力」です。世の中がどう変わろうと、「読む、書く、話す」の力を身につけておくことは、長い人生を生きていく上で大きな武器となります。この講座では、情報との付き合い方を学ぶとともに、新聞をテキストにして①社会を見つめる力②考える力③表現する力(話す、書く中心)の向上を目指します。毎回、グループ討議やワークショップを交えます。					
キーワード	多メディア社会、言葉に強くなる、「新聞ヨム、社会ワカル、自分カワル」					
到達目標	次の3つの力を磨く。①社会を見つめる力(世界や日本、地域でいま何が起きているかを知る)②考える力(さまざまな出来事について自分の考えを持つ)③表現する力(相手に分かりやすく伝えるためのワザを身につける)。					
受講生に望む事	退屈しない、眠らせない授業がモットー。真剣、集中かつワイワイがやがやのメリハリをつけた講義にします。よって受講態度は積極的に。席は前から詰めること。					
評価方法	複数回の課題(コメント、短文作成など)の出来栄え70%、課題の参加・提出状況30%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	(講義テーマは順不同、変更あり) 答えは一つじゃない～「正解のない答え」にどう答えるか	8	先結後各(先に結論、後で各論)の表現方法			
2	世の中に関心を～ニュースを知る、コメントする	9	パラグラフと縮約～文章の組み立て方			
3	情報爆発時代～各メディアの特色を知る	10	本×新聞で新ビブリオバトル(知的書評合戦)			
4	セレンディビティー～偶然を発見する力を磨く	11	時事問題でディベートを楽しむ			
5	記事スクラップでスーパー学生に	12	気分はコメンテーター～ニュース討論を体験			
6	要約のワザ～見出しに学ぶ	13	20年後の自分取材、記事化			
7	「伝える」から「伝わる」書き方に	14	記事スクラップに基づくプレゼンテーション①			
		15	" ②～まとめ			
関連科目		連絡先	榆木キャンパス教務課 越地メール sn-koeji@kunamichi.co.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書		備考	授業当日の新聞(朝刊)を毎回、教材として全員に配布			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
ジェンダー論	2	ますだ めぐみ 増田 仁	1年	前期	講義	選択
授業概要	本講義では、まず「ジェンダー」という概念がどのような経緯で産み出されてきたのかを説明し、この概念が意味するところについて理解を深める。さらに、教育、労働、家族、医療など身近なテーマを取り上げ、ジェンダーという概念から何が見えてくるかについて解説しながら、その有効性を確かめていく。					
キーワード	ジェンダー、現代社会と女性					
到達目標	・「ジェンダー」という概念について理解できるようになる。・教育、労働、家族、医療など身近なテーマをジェンダーの視点から分析できるようになる。・社会と自分の生活との関係を理解できるようになる。					
受講生に望む事	授業を通して自分なりの現代社会の見方を作り上げていってほしい。授業後、関連する文献を適宜読むこと。					
評価方法	授業中に行う小テスト(30%)、学期末に課すレポート(70%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	家族とジェンダー(1):「近代家族」とは何か			
2	「ジェンダー」とは何か	10	家族とジェンダー(2):アンペイドワークとしての家事労働			
3	教育とジェンダー(1):女子教育の系譜	11	家族とジェンダー(3):現代における家族の諸問題			
4	教育とジェンダー(2):家政学教育の布置	12	医療とジェンダー(1):こどもを産むことをめぐって			
5	教育とジェンダー(3):学校現場における女性	13	医療とジェンダー(2):医療現場における女性			
6	労働とジェンダー(1):「M字型就労」とは何か	14	地域社会とジェンダー:地域活性化と女性			
7	労働とジェンダー(2):保護か平等か	15	まとめ			
8	労働とジェンダー(3):女性労働と法					
関連科目	受講後、社会学・女性学関連科目を履修すること。	連絡先	榆木キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー	前期火曜日12時半から13時			
教科書	特になし。授業中にプリントを配布する。	備考				
参考資料	井上輝子・江原由美子編『女性のデータブック 第4版』有斐閣、2005年。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
人権論	2	宇野 文重	1年	後期	講義	選択
授業概要	「人権」にかかわる問題は、毎日のように報道され、本や映画などでも数多く取り上げられています。子どもをめぐる問題には、いじめ、児童虐待、買春、貧困、戦争などがあります。大人にも、過労死やセクハラ・パワハラ、派遣切りなど、「働く」という基本的な生活活動の中で、「人権」を無視するような問題が次々と起こっています。この講義では、「人権」という思想が生まれてきた歴史を振り返りながら、「女性」、「裁判」、「仕事」、「子ども」といったテーマを通して「人権」について考えます。まずは、今起こっていることを「知る」ことから始めましょう。					
キーワード	人権、子ども、命、性別役割分業、ジェンダー、裁判、雇用、「このとりのゆりかご」。					
到達目標	1. 「人権」をめぐる歴史と現在について正しく認識し、何が問題となっているのかを理解する。 2. 「人権」に関する問題について、自分なりに考え、意見をまとめてみる。					
受講生に望む事	●「人権」問題は簡単に「正解」を出せるものではありません。まずは、過去と現在のさまざまな「人権」問題のありようを知って、自分なりの率直な意見や感想を抱いてください。●講義では、図版や新聞記事、映像資料を用いたり、ファッションや「家庭」の歴史などにも触れたりしつつ、幅広い観点から「人権」や「差別」について考えます。●單元ごとに示される「予習ワード」について調べること、論点ごとに「私の一言」(感想)を書くことが、それぞれ予習・復習にあたります。第1回講義でくわしく説明します。					
評価方法	論述試験(90%)、授業態度(10%)、不定期に配布する質問・感想票により授業に対する積極性の有無を評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス(本講義の紹介/講義の受け方)		9	裁判と人権①(冤罪事件と人権)		
2	「人権」の歴史①(中世世界の「人」と「動物」/「身分」の時代から「人」の近代へ)		10	裁判と人権②(刑事裁判の実態/映画鑑賞/死刑制度と人権)		
3	「人権」の歴史②(「おんな・子ども」は「人home」ではない?)		11	仕事と「人権」①(働く人の人権/過労死をめぐって)		
4	「人権」の歴史③(「女は家庭」の「新しさ」/「恋愛」と資本主義/母性という神話)		12	仕事と「人権」②(働く「女性」の人権/男女雇用機会均等法と女性の仕事/あなたのライフプランは?)		
5	世界の中の人権①(ルワンダの大虐殺/児童労働)		13	自分らしく生きる①(同性愛とトランスジェンダー)		
6	世界の中の人権②(世界の女の子たち)		14	自分らしく生きる②(「生」と「死」をめぐる人権問題/「死に方」は選べるのか?)		
7	「命」と人権(「このとりのゆりかご」のこれから/親制度と生殖補助医療)		15	全体のまとめ		
8	前半のふりかえり(「女性」とめぐる歴史と現在/シンデレラの「ガラスの靴」はなぜ消えないのか/映画鑑賞)					
関連科目	日本国憲法。ジェンダーに関する科目も関連する。		連絡先	Email address : funo@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書	講義中に配布するレジюмеおよび資料プリント。		備考	講義は配布プリントを中心に進め、單元ごとに関連する文献を幅広い学問領域から紹介します。小説、映画、漫画なども紹介し、学生のみなさんおすすめの小説・映画等についても感想票に任意に記入してもらっています。講義をベースに多様な分野の文献に挑戦してみてください。		
参考資料	適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本国憲法	2	宇野 文重	1年	後期	講義	各コース選択 教職必修
授業概要	この講義では、日本の「憲法」の歴史や政治的背景、社会や文化との影響・つながりに目を向けた上で「日本」という国が現在直面している問題について、「憲法」を通して考えることを主眼とします。講義の中では、「日本国憲法」の条文にじかに触れつつ、憲法を作った人々やいろいろな事件、他国との違いなど、具体的な例を挙げて、多角的な観点から「日本」という国と憲法を考えていきます。さらに、受講生のみなさんからの質問や意見、感想に対して回答しつつ、さらにみなさんからの感想を募るという双方向的な講義を行います。内容は法律に限らず、歴史や文化、社会・政治問題など幅広い質問を受け付けています。					
キーワード	日本国憲法、人権、権力、裁判、歴史、文化、社会問題、政治問題。					
到達目標	1. 学習の方法として、<講義を聴きながら「ノート作り」をする>という方法を身につけ、「予習」「復習」の習慣をつける。2. 「日本国憲法」の規定が私たち自身の生活・人生とどのように関わりあい、歴史的・国際的にどのような特質をもつものであるのかを理解する。3. 「日本国憲法」という法の構造を理解し、論理的な文章で説明することを試みる。					
受講生に望む事	●「ニュース記録/ノート」を作成し、毎日講義の冒頭に発表してもらいます(1回につき1,2名)。詳細は第1回講義で説明します。●「讀書ノート」を作成してください。詳細は第1回講義で説明します。●条文を暗記したりする必要は一切ありません。講義では、一見、憲法とは関係のなさそうな「万歳三唱」や「谷崎潤一郎」との意外なつながりを紹介したり、一週間のニュースをわかりやすく解説したりします。いろいろなトピックに関心向けながら、「憲法」の世界を一緒に学びましょう。					
評価方法	論述試験(90%)、授業態度(10%)、不定期に配布する質問・感想票により授業に対する積極性の有無を評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス(本講義の紹介/講義の受け方と勉強の方法/受講上の注意など)		9	日本国憲法の権力分立③司法権と裁判員制度		
2	憲法の「かたち」(「日本人」ってだれのこと?/「法」のかたちと種類/裁判のしくみ)		10	戦争放棄(第二次世界大戦と平和主義/自衛隊と集団的自衛権)		
3	憲法の「なかみ」(人権と「国家権力」/憲法と「仇討」)		11	個人と平等(基本的人権と「個人」主義/法の下での平等、家族生活の平等)		
4	日本の二つの憲法(「大日本帝国憲法」と「日本国憲法」/VTR「日本国憲法誕生」鑑賞)		12	日本国憲法の権利保障①(豊かな「自由権」の規定/さまざまな事件と判決/法と「世間」のはざま)		
5	国民と天皇①(「主役」はだれ?/日本にはなぜ大統領がないのか/間接民主制)		13	日本国憲法の権利保障②(生存権/裁判を受ける権利と冤罪事件)		
6	国民と天皇②(「象徴」としての天皇/天皇の「仕事」)		14	国民の義務と新しい権利(国民の三大義務/新しい権利の登場/公共の福祉)		
7	日本国憲法の権力分立①三権分立と民主主義		15	全体のまとめ—憲法の「最高法規」性と「前文」/教員等採用試験の模擬問題解答・解説		
8	日本国憲法の権力分立②国会と内閣					
関連科目	人権論。		連絡先	e-mail : funo@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	教職必修科目		オフィスアワー			
教科書	『法学六法』(信山社)。過去の出版されたコンパクトサイズの六法でもよい。ガイダンス時に詳細を説明する。		備考	講義は配布プリントを中心に進め、單元ごとに関連する文献を幅広い学問領域から紹介する。さらに、小説、映画、漫画なども紹介し、学生のみなさんおすすめの小説・映画等についても感想票に任意に記入してもらおう。講義をベースに多様な分野の文献に挑戦してみてください。		
参考資料	適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館概論	2	畑田 秀将 (はただ ひでまさ)	1年	前期	講義	選択 司書必修
授業概要	わが国における現代の図書館制度が確立して半世紀が経過し、図書館は教養・娯楽に接することのできる機関として身近な存在となりつつある。しかしながら、昨今の図書館や司書を取り巻く状況は好転しているとは言えない。インターネットや電子ブックの広がりによって、市民の図書館利用に対する意識はさらに低下するかもしれない。本科目は、このような現在の図書館を取り巻く状況を踏まえつつ、図書館の歴史的展開と政策について解説し、現場の新しい取り組みと模索について具体的事例を取り上げながら現代の図書館の役割を考察したい。					
キーワード	司書資格、指定管理者制度、PFI、まちづくり					
到達目標	(1) 近年の図書館を取り巻く状況を理解し、図書館の果たす役割について理解する (2) 館種別の図書館の機能と役割について理解する (3) 図書館の法的基盤や行政組織のなかでの位置づけについて理解する					
受講生に望む事	・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。・随時、小試験を行うので次の授業までに復習しておくこと。・グループワークおよびディスカッションを行う。・授業で扱った内容や教科書を丸暗記しようとするのではなく、それに関連する図書や論文を探索したり、様々な図書館を訪問したりと自主的な取り組みを期待する。					
評価方法	試験 (40%)、課題レポート (30%)、小テストなど (30%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	司書科目における本科目の位置づけ (意義・目的)		9	図書館の歴史的展開、公立図書館の成立と展開		
2	図書館と類縁機関		10	学校図書館・大学図書館と利用者ニーズ		
3	図書館の構成要素と機能：図書館の法的基盤、図書館行政、図書館政策		11	国立図書館・専門図書館と利用者ニーズ		
4	図書館と司書		12	図書館職員の役割と司書資格 1		
5	図書館の種類と役割		13	図書館職員の役割と司書資格 2		
6	図書館の社会的意義：まちづくり、文庫活動、住民運動		14	図書館ネットワークと関連団体		
7	知的自由と図書館 1：図書館の自由		15	まとめ：図書館の課題と展望		
8	知的自由と図書館 2：図書館員の倫理要領、図書館の諸基準		16	試験		
関連科目			参考資料	(1) 菅谷明子『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—』(岩波書店、2003年)。その他、授業のなかで随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。		
資格	司書資格		連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト (https://sites.google.com/site/hatadaweb/) [畑田研究室] 検索   榎木キャンパス管理棟 3階 研究室 122 (研究室前にポスト有)		
教科書	(1) 溝上 智恵子『高齢社会につなぐ図書館の役割—高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み』(学文社、2012年)。(2) 今まこ子編『図書館学基礎資料：第11版』(樹村房、2013年)。(3) 猪谷 千香『つながる図書館～コミュニティの核をめざす試み』(みすず書房、2014年)		オフィス アワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45		
			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
生涯学習概論	2	桑原 芳哉 (くわばら よしや)	1年	前期	講義	選択 司書必修
授業概要	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行政・施策・学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。特に、高齢化の進展や情報技術の発展といった社会情勢に伴う生涯学習の内容の変化、及び司書資格取得のための科目として、生涯学習における図書館の位置づけについて学習する。					
キーワード	社会教育施設、教育行政、学習活動					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①生涯学習の体系、社会的役割②現代社会における生涯学習の在り方③生涯学習における図書館の位置づけ					
受講生に望む事	・事前学習として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学習として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。・居住地の近隣などの社会教育施設(公民館、図書館、博物館、生涯学習センター等)を積極的に利用・訪問して、生涯学習に関わる活動について問題意識を持って観察することが望ましい。					
評価方法	レポート 60% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 「生涯学習」とは(教科書 p.2~4)		9	社会教育施設の役割と機能 (4) その他の社会教育施設(体育施設、文化会館等)(教科書 p.86~89)		
2	「生涯学習」の意義(教科書 p.2~11)		10	社会教育施設としての図書館(教科書 p.94~97)		
3	生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育(教科書 p.12~27, p.34~49)		11	社会教育施設の管理運営の動向と課題(教科書 p.86~101)		
4	社会教育の法と行政(教科書 p.52~83, p.28~31)		12	社会教育の内容と方法・形態(教科書 p.104~123)		
5	社会教育施設の種類と役割(教科書 p.86~89)		13	社会教育指導者と社会教育施設の職員(教科書 p.124~127)		
6	社会教育施設の役割と機能 (1) 公民館・公民館類似施設(教科書 p.90~93)		14	今日的課題と生涯学習(教科書 p.130~153)		
7	社会教育施設の役割と機能 (2) 博物館・博物館類似施設(教科書 p.98~101)		15	まとめ 生涯学習の新たな方向性と図書館		
8	社会教育施設の役割と機能 (3) 青少年教育施設及び女性教育施設(教科書 p.86~89)					
関連科目			参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。		
資格	司書		連絡先	研究室(管理棟4階 研究室14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	伊藤俊夫/執筆・編集代表 『新訂生涯学習概論』ぎょうせい、2010 (ISBN 978-4-324-09064-0)   教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。		オフィス アワー			
			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
特別支援教育概論	2	ふるた ひろこ 古田 弘子	1年	後期	講義	選択 教職選択必修
授業概要	教職科目の1つとして特別支援教育の基礎を学ぶ。具体的には、障がい者教育の歴史、インクルーシブ教育の理念、特別支援教育の制度と教育課程、さまざまな障がいの概要、通常学級における障がい児の教育、海外における障がい者教育の実情について講義を行う。また、学生による調査・発表を行う。					
キーワード	特別支援教育、障がい者の教育、インクルーシブ教育					
到達目標	教職科目の1つとして、インクルーシブ教育制度構築の観点から、特別支援教育の歴史、制度、教育課程、各障害、多様な教育的ニーズについて、さらに海外での実情にも目を向け、幅広い見地からとらえることができる。					
受講生に望む事	インクルーシブ教育とは何でしょう。これからの教育現場で求められる特別支援教育の考え方を一緒に学びましょう。科目に関連する学外施設や行事に参加することを望みます。					
評価方法	小課題提出状況 40%、レポート 30%、中間及び期末テスト 30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	聴覚障がい児の教育		
2	インクルーシブ教育：自分自身の受けてきた教育を振り返る		10	知的障がい児の教育		
3	インクルーシブ教育：ユネスコの文献を読む		11	発達障害児の教育		
4	障がい者教育の歴史 熊本県の障害者教育		12	通常学級の特別な教育的ニーズのある子どもへの支援（1）		
5	障がい者教育の歴史 ヘレン・ケラーとアン・サリバン		13	通常学級の特別な教育的ニーズのある子どもへの支援（2）		
6	障害者権利条約		14	通常学級の特別な教育的ニーズのある子どもへの支援（3）		
7	特別支援教育のシステム		15	授業のまとめ		
8	海外の障害者教育					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格	教職免許関連		オフィス アワー			
教科書	「はじめての特別支援教育（改訂版）」 柘植雅義 他編 有斐閣 2,000円		備考	科目に関連する学外施設や行事参加の場合、 交通費等自己負担。		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理総論	2	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	前期	講義	MC 必修 他コース選択
授業概要	ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ、情報モラルなどを習得し、社会生活における ICT（Information and Communication Technology）技術の基礎力、問題分析解決方法及び利用方法を身に付ける。					
キーワード	ハードウェア、ソフトウェア、情報、ネットワーク、セキュリティ、情報モラル					
到達目標	情報通信や情報メディアの発展により、より高い情報学力が求められている。そこで現代社会を生き抜く情報リテラシーの向上を目標とする。					
受講生に望む事	毎回遅刻欠席せずに授業に出席すること。 [事前学習] 授業予定の部分の教科書を読んで不明部分にアンダーラインを引く。 [事後学習] 授業中に関連する問題を1問解く					
評価方法	学期末に実施する定期試験で評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	情報 コンピュータと情報、コンピュータ、パソコン		9	ネットワーク インターネット、仕組みと用語、サービス		
2	ハードウェア 構成と役割、構成と役割		10	ネットワーク インターネットへの接続、ソーシャルメディア		
3	ハードウェア ハードディスク、出力装置		11	セキュリティと情報モラル 情報セキュリティ、セキュリティ対策		
4	ハードウェア 入力装置、役割、キーボード、マウス		12	セキュリティと情報モラル 不正アクセス、リスクと対策		
5	ソフトウェア OSの役割と種類、Windowsの特徴		13	セキュリティと情報モラル 情報モラル、個人情報		
6	ソフトウェア アプリケーションソフトウェア、ワープロ、表計算		14	セキュリティと情報モラル インターネット利用のルールとマナー		
7	ネットワーク ネットワークの特徴、ネットワークの基礎		15	これまでのまとめ		
8	ネットワーク LAN、クライアントサーバ型、ピアツーピア型					
関連科目	情報処理実務Ⅰ、情報処理実務Ⅱ		連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 楡木校地：管理棟3階 研究室10		
資格			オフィス アワー	火曜日 12:30～13:30 金曜日 14:40～16:10		
教科書	これだけは知っておこう 情報リテラシー、 noa		備考			
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理実務 I		1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	前期	演習	必修
授業概要	社会人として必須技能であるワープロソフトの基本操作および電子メールおよびセキュリティの基本について習得する。パソコンやワープロの基本操作から、イラストや写真の挿入、表編集を学習し、基本的なビジネス文書の作成方法からはがき作成、地図作成など日常的に使用する際に支障が無い程度の技術を習得する。さらに、電子メールの基本操作、書類添付、セキュリティ対策についても習得する。						
キーワード	Windows 基本操作、ワープロ、文書編集、ビジネス文書、電子メール、セキュリティ対策						
到達目標	・文字入力の手速が10分間で300文字を超え、ワープロの基本操作、ビジネス文書が作成できること ・電子メールについての知識や操作ができ、日常のセキュリティ対策ができること。						
受講生に望む事	前回の学習や設定などを利用して作業を行うので、遅刻や欠席をせずに毎回必ず出席すること。 [事前学習] TypeQuick または実習問題を演習する。 [事後学習] 実習問題の必須課題または選択課題を演習する。						
評価方法	タッチタイピングが規定値(20WPM, 93%)を越え、必須実習問題の課題を合格した上で、学期末に実施する文書作成の筆記と実技試験で評価を行う。なお、選択実習課題を提出した場合、試験結果に選択実習課題の提出数を補う形式で加点する。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	パソコンの基本操作1 アカウント説明、ログオン、ログオフ、パソコンの必要最低限の操作			9	Wordの活用2 クリップアートの挿入、サイズ変更、移動、回転		
2	パソコンの基本操作2 タイプクイック演習設定、データ同期、USBメモリの取出方法			10	Wordの活用3 ワードアート挿入編集、図形描画、スクリーンショット		
3	Word入門 Wordの起動終了、文字入力訂正、漢字変換、記号入力			11	Wordの活用4 スマートアート挿入編集、段組み、ドロップキャップ		
4	文章の入力 文章の入力、保存、読み出し、文書印刷			12	Wordの応用1 はがき作成、宛名面の作成、文面作成、差し込み印刷		
5	電子メールの基本1 メールソフトの設定、送受信、返信転送、アドレス帳設定、			13	Wordの応用2 グラフ挿入、データ編集、レイアウト変更		
6	電子メールの基本2 電子メールの仕組み、ネチケット、ヘッダ			14	DTP機能の活用 文字の基礎知識、フォント、テキストボックスの行間		
7	電子メールの基本3 添付方法、テキストファイルとバイナリファイル、セキュリティ			15	セキュリティ対策ビデオ セキュリティ対策のビデオのレポートを作成		
8	Wordの活用1 表の挿入、列幅変更、セルの結合、線種変更						
関連科目				連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：管理棟 3F 研究室 10		
資格	日商 PC 検定（文書作成）検定 3 級			オフィスアワー	火曜日 12:30～13:30 金曜日 14:40～16:10		
教科書	30時間でマスター Word2010 実教出版 キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版			備考			
参考資料	キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック キーボード練習ソフトは情報処理実務Ⅱでも継続使用する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理実務Ⅱ		1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	後期	演習	必修
授業概要	社会人として必須技能である表計算ソフト基本機能およびプレゼンテーションソフトについて習得する。ビジネスで必須のソフトである表計算ソフトの基本操作、合計、平均、絶対参照、条件判断等の各種関数、各種グラフ作成技術、応用操作や印刷など実習を通して体得する。さらに、プレゼンテーションでは自分の考えを複数の人に効果的に伝える技術と基本操作を習得する。						
キーワード	Excel, 表計算, グラフ, データベース, プレゼンテーション, PowerPoint						
到達目標	・表計算の合計や平均など基本的な関数を用いた集計作業ができ、適切なグラフが作成できること ・基本的なプレゼンテーション資料の作成方法やプレゼンテーション法について習得できること						
受講生に望む事	前回の学習や設定などを利用して作業を行うので、遅刻や欠席をせずに毎回必ず出席すること。 [事前学習] Type Quick のテンキーまたは実習問題を演習する。 [事後学習] 実習問題の必須課題または選択課題を演習する。						
評価方法	実習問題の必須課題をすべて合格した上で、学期末の表計算実技試験で評価を行う。 なお、選択課題を提出した場合は、試験得点に選択課題合格数を補う形式で加点する。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	Excelの基礎知識 Excelの起動・終了、データ入力、合計、保存と呼出			9	グラフ(3) ドーナツ、レーダーチャート、XYグラフ		
2	グラフの作成と印刷 グラフ作成、サイズ変更、移動、演習問題			10	データベース(1) データベース入門、データの並べ替え		
3	ワークシートの活用(1) 編集、削除、移動、挿入、列幅、平均、表示形式			11	データベース(2) データ検索抽出、条件記述方法、データ集計		
4	ワークシートの活用(2) 罫線、絶対参照、表示形式の変更			12	Excelの応用(1) 順位付け、データ探索、文字列加工、文字列の操作、		
5	ワークシートの活用(3) 最大、最小、カウント、四捨五入			13	Excelの応用(2) シート間の計算、WordへExcelの埋め込み		
6	ワークシートの活用(4) 条件の判定、条件付き書式			14	プレゼンテーション1 基本技法、雛形よりスライド作成、編集		
7	グラフ(1) 棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ			15	プレゼンテーション2 イラスト挿入、グラフ、オブジェクト操作、アニメーション効果		
8	グラフ(2) 3Dグラフ、複合グラフ						
関連科目	情報処理実務Ⅰを履修済みか同等以上の知識・技能を有すること。			連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：管理棟 3F 研究室 10		
資格	日商 PC 検定（データ活用）検定 3 級、情報処理技能検定			オフィスアワー	火曜日 12:30～13:30 金曜日 14:40～16:10		
教科書	30時間でマスター Excel2010 実教出版 キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版			備考			
参考資料	キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック キーボード練習ソフトは情報処理実務Ⅰより継続使用する						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文書処理応用	1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	前期集中	演習	選択
授業概要	日商 PC 検定（文書作成）等のワープロ検定試験の 2～3 級を取得可能な技術を習得する。検定試験概要、学習ポイント、知識科目、実技科目に必要な知識と技術、操作指導解説を行い、2 級や 3 級の試験のデモ演習を実施し、本番と同様な試験に慣れることで本番の検定試験にスムーズに合格できるようにする。					
キーワード	日商 PC 検定試験（文書作成）、ワープロ検定					
到達目標	日商 PC 検定試験（文書作成）2 級または 3 級の資格取得					
受講生に望む事	集中講義で実施するため、絶対に遅刻や欠席をしないこと。 [事前事後学習] 知識問題と実技問題の練習問題あるいは模擬試験問題を実施すること。					
評価方法	最終講義時に実施する筆記及び実技の試験において評価を行なう。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	検定試験概説（知識、実技、受験方法、ビジネス文書作成等）、問題 1 演習解説	9	問題 10 の演習と解説、2 級試験デモ			
2	知識問題 1 演習、問題 2 の演習と解説	10	問題 1 2 の演習と解説、問題 1 3 の演習と解説			
3	問題 3 の演習と解説、問題 4 の演習と解説	11	問題 1 4 の演習と解説、知識問題 4 演習			
4	問題 5 の演習と解説、問題 6 の演習と解説	12	第 3 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、知識問題 5 演習			
5	第 1 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、知識問題 2 演習	13	問題 1 5 の演習と解説、第 4 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説			
6	問題 7 の演習と解説、3 級試験デモ	14	第 5 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、弱点分野の演習			
7	問題 8 の演習と解説、第 2 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説	15	ワープロ応用のまとめの試験			
8	問題 9 の演習と解説、知識問題 3 演習	16	（日商 PC 検定試験）			
関連科目	コンピュータ入門、ワープロ入門、あるいは情報処理実務 I	連絡先	E-Mail : kamaga-1ec@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：管理棟 3F 研究室 10			
資格	日商 PC 検定試験（文書作成）2～3 級の取得 受講生は、基本的にワープロ検定試験を受験すること。	オフィスアワー	火曜日 12:30～13:30 金曜日 14:40～16:10			
教科書	日商 PC 検定 文書作成 3 級 合格教本 技術評論社	備考	日商 PC 検定試験（文書作成）1 級を目標とする者は受講対象としない			
参考資料	30 時間でマスター Word2010 実教出版					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
表計算応用	1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	後期集中	演習	選択
授業概要	企業で最も必要とされている各種の集計表、グラフ、データベースを作成できる能力を習得し、表計算の仕組みと操作方法の修得および日商 PC 検定（データ活用）試験等の表計算検定試験 2～3 級を取得可能な知識と技術を習得する。さらに、2 級や 3 級の模擬試験演習を実施し、本番と同様な試験に慣れることで、検定試験にスムーズに合格できるようにする。					
キーワード	日商 PC 検定試験（データ活用）、表計算検定					
到達目標	日商 PC 検定試験（データ活用）2 級または 3 級の取得					
受講生に望む事	集中講義で実施するので、絶対に遅刻や欠席をしないこと。 [事前事後学習] 知識問題と実技問題の練習問題あるいは模擬試験問題を実施すること。					
評価方法	最終試験の筆記及び実技の試験で評価を行なう。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	検定試験概説、重要点の演習、例題演習 1・2・3	9	模擬試験問題 1 の演習と解説			
2	知識問題 1 の演習、知識問題 2 の演習、知識問題 3 の演習	10	知識問題 10 の演習、練習問題 7 の演習と解説			
3	練習問題 1 の演習と解説、練習問題 2 の演習と解説	11	模擬試験問題 2 の演習と解説			
4	知識問題 4 の演習、知識問題 5 の演習、知識問題 6 の演習	12	模擬試験問題 3 の演習と解説			
5	練習問題 3 の演習と解説、練習問題 4 の演習と解説	13	模擬試験問題 4 の演習と解説			
6	3 級試験デモ	14	模擬試験問題 5 の演習と解説			
7	知識問題 7 の演習、知識問題 8 の演習、知識問題 9 の演習	15	これまでの総まとめ			
8	練習問題 5 の演習と解説、練習問題 6 の演習と解説	16	（日商 PC 検定試験）			
関連科目	ワープロ入門および表計算入門を履修済みか同等以上の知識・技能を有すること。	連絡先	E-Mail : kamaga-1ec@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：管理棟 3F 研究室 10			
資格	日商 PC 検定試験（データ活用）2～3 級の取得 受講生は、基本的に表計算検定試験を受験すること。	オフィスアワー	火曜日 12:30～13:30 金曜日 14:40～16:10			
教科書	日商 PC 検定データ活用 3 級合格教本、技術評論社	備考	日商 PC 検定試験（データ活用）1 級を目標とする者は受講対象としない			
参考資料	30 時間でマスター Excel 2010 実教出版					



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I A : 竹下		1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	前期	演習	MC 必修 他コース選必
授業概要	日常生活はもとより海外の旅行先、留学先で必要となる英語表現を学習する。また、基本的な文法事項の確認も併せて行う。						
キーワード	日常表現、文法						
到達目標	日常使用する典型的な英語の言い回しを可能な限りたくさん習得し、それが口を衝いて出る程度にまで自分のものとする。						
受講生に望む事	必ず辞書を持参すること。辞書を引く労を厭わないこと。						
評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	授業内容、評価方法等についての説明(オリエンテーション)			9	Unit 8: A Visit to the University of California		
2	Unit 1: Getting in Touch with an Old Friend			10	Unit 9: A Cafe Lunch Date		
3	Unit 2: It's Good to See You Again!			11	Unit 10: Beautiful and Historic Monterey		
4	Unit 3: Sightseeing in Kansai			12	Unit 11: A Hilly Downtown Workout		
5	Unit 4: Off to San Francisco			13	Unit 12: Wild and Wonderful Yosemite		
6	Unit 5: After a Long Flight ...			14	Unit 13: Buying Gifts for Friends and Family		
7	Unit 6: A Warm Welcome			15	Unit 14: San Francisco Gourmet		
8	Unit 7: Out and About in San Francisco			16	定期試験		
関連科目				連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(楡木校地)		
資格				オフィスアワー			
教科書	Take a Trip Around San Francisco! 松柏社 1900円+税			備考			
参考資料	授業中、その都度紹介する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I A : 楡木		1	ゆのき しげゆき 楡木 繁之	1年	前期	演習	MC 必修 他コース選必
授業概要	地理的な要因などにより、普通の生活の中で実際に英語を利用する必要性が乏しい我が国においても、インターネットの普及により、コンピュータを利用して国際的なコミュニケーションをはかる機会が着実に増えつつあります。インターネット上においては様々な言語により情報の交換が可能ですが、英語が事実上共通に利用される言語となっていることは否めません。このような背景をふまえて、本科目では、インターネット上で起こる様々なやりとりにおける問題点に関して、英文読解を通して基本的な英語力を養いながら、自分に必要な情報を切り分ける能力を身につけます。						
キーワード	Communicative English Strategies through the Internet						
到達目標	・我が国における英語習得の目的について理解すること ・英語の実践的な習得法を身につけること ・インターネットを利用するうえでの利点と欠点について理解すること ・必要な情報を切り分ける能力を身につけること						
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。						
評価方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定・前年度実績)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	コース・オリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明			9	On-line Commerce and the Environment 2/2		
2	DotComGuy 1/2 (音声指導・内容理解・練習問題解答)			10	The Problem of Cybersmut 1/2		
3	DotComGuy 2/2 (同上 以降同様)			11	The Problem of Cybersmut 2/2		
4	Internet Causes Isolation, Study Says 1/2			12	Net Gambling Attracts College Students		
5	Internet Causes Isolation, Study Says 2/2			13	筆記演習活動1		
6	E-mail's Golden Rule: Be Brief 1/2			14	筆記演習活動2		
7	E-mail's Golden Rule: Be Brief 2/2			15	総括		
8	On-line Commerce and the Environment 1/2						
関連科目	英語 I B・英語 II A・英語 II B			連絡先	電子メール: yunoki@nifty.com IP電話: 050-5532-7900(録音) 研究室: 楡木キャンパス・管理棟・4F・楡木研究室		
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許※教育職員免許法施行規則第66条6に定める「外国語コミュニケーション」該当科目です。			オフィスアワー	前期: 火曜 12:15 ~ 13:00・火曜 16:20 ~ 17:05 後期: 火曜 12:15 ~ 13:00・水曜 16:20 ~ 17:05 ※最新情報は学生支援課掲示を必ず確認して下さい。		
教科書	NetNews - What's Happening on the Web 市川 泰弘・Jim Knudsen NAN'UN-DO			備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。 教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。		
参考資料	英和・和英辞書(電子辞書使用可)						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I B : 竹下		1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	後期	演習	MC 必修 他コース選必
授業概要	授業では、毎回250～350字程度の英文を決められた時間内に読んだ後、その内容理解が正確か否かを確認する。その際、語彙や文法事項の確認も併せて行う。						
キーワード	読解力						
到達目標	易しい英語の長文をできるだけ短時間に正確に読み解く力をつける。						
受講生に望む事	予習には十分な時間をかけ、ユニットの英文の意味を理解しておくこと。 授業には必ず辞書を持参すること。辞書を引く労を厭わないこと。						
評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	Unit 1: Birthdays			9	Unit 9: Table Customs in Thailand		
2	Unit 2: Brasilia			10	Unit 10: Iceland		
3	Unit 3: Laughter			11	Unit 11: Coffee		
4	Unit 4: New Year's Day			12	Unit 12: Money		
5	Unit 5: Perfume			13	Unit 13: Amy Van Dyken		
6	Unit 6: Tiger Woods			14	Unit 14: Chocolate		
7	Unit 7: Choosing a Name for a Baby			15	Unit 15: A Fable		
8	Unit 8: Sleep			16	定期試験		
関連科目	英語 IA			連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：大学1号館2階（楡木校地）		
資格				オフィス アワー			
教科書	Connection 1 Starter's Level 松柏社 1700円+税			備考			
参考資料	授業中、その都度紹介する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I B : 楡木		1	ゆのき しげゆき 楡木 繁之	1年	後期	演習	MC 必修 他コース選必
授業概要	地理的な要因などにより、普段の生活の中で実際に英語を利用する必要性が乏しい我が国においても、インターネットの普及により、コンピュータを利用して国際的なコミュニケーションをはかる機会が増えつつあります。このような背景をふまえて、本科目では、インターネット上で起こる様々なやりとりにおける問題点に関して、英文読解を通してより実践的な英語力を養いながら、自分に必要な情報を切り分ける能力を身につけます。						
キーワード	Communicative English Strategies through the Internet						
到達目標	・我が国における英語習得の目的について理解すること ・インターネットを利用するうえでの利点と欠点について理解すること ・必要な情報を切り分ける能力を身につけること						
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。						
評価方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定・前年度実績)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	コースオリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明			9	"Cyberregs" 2/2		
2	On-line Chat Comes to the Rescue 1/2 (音声指導・内容理解・練習問題解答)			10	Safe Shopping 1/2		
3	On-line Chat Comes to the Rescue 2/2 (同上 以降同様)			11	Safe Shopping 2/2		
4	Cyberdating I 1/2			12	Net Hate 1/2		
5	Cyberdating I 2/2			13	筆記演習活動1		
6	Cyberdating II 1/2			14	筆記演習活動2		
7	Cyberdating II 2/2			15	総括		
8	"Cyberregs" 1/2						
関連科目	英語 I A・英語 II A・英語 II B			連絡先	電子メール: yunoki@nifty.com IP電話: 050-5532-7900(録音) 研究室: 楡木キャンパス・管理棟・4F・楡木研究室		
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許※教育職員免許法施行規則第6条6に定める「外国語コミュニケーション」該当科目です。			オフィス アワー	前期: 火曜 12:15～13:00・火曜 16:20～17:05 後期: 火曜 12:15～13:00・水曜 16:20～17:05 ※最新情報は学生支援課掲示を確認して下さい。		
教科書	NetNews - What's Happening on the Web 市川 泰弘・Jim Knudsen NAN'UN-DO			備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。 教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。		
参考資料	英和・和英辞書（電子辞書使用可）						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語 I	1	ふくなが みか 福永 美佳	1年	前期	演習	選択必修
<b>授業概要</b>	中国語初級文法の学習に先立って、中国語の発音および発音のアルファベット表記（ピンイン）をしっかりと身につける。その後、会話をもちいながら基本的な文法を学び、同時に簡単な文章を簡体字で書き表せるように練習する。中国語の発音を初めて学ぶ人にとっては、1回の欠席が「命取り」になる。遅刻すると、小テストを受けることができないので注意する。出席と予習・復習は、履修の最低条件であると同時に、上達への近道となる。					
<b>キーワード</b>	中国語の基礎、ピンイン表記、正しい発音					
<b>到達目標</b>	ピンインによる表記法を学び、声調に気をつけて発音できるようになる。音声資料や映像資料を通じて、正しい中国語の発音を身につける。簡単な中国語の文章の読み書きや、日本語訳ができるようになる。					
<b>受講生に望む事</b>	教科書に添付されているCDを何度も聞くことと、教科書を繰り返し読むこと。					
<b>評価方法</b>	授業参加（発言など）・小テスト・発音試験を合わせた（100%）をもとに判断する。					
<b>回</b>	<b>授業計画</b>	<b>回</b>	<b>授業計画</b>			
1	ガイダンスと発音その1	9	【第4課】①形容詞述語文、②常用の副詞Ⅱ			
2	発音その2	10	【第4課】③助動詞の“想”、④選択疑問文“?是”、⑤連動文			
3	発音その3 発音その4	11	【第5課】①比較文、②名詞化する“的”			
4	【第1課】①人称代詞、②姓名の言い方、③“是”構文、④挨拶ことば	12	【第5課】③“吧”、④“好好儿”、⑤助動詞の“要”			
5	【第2課】①常用の副詞Ⅰ、②“的”	13	【第6課】①“的”の省略、②“几”と“多少”、③年齢の言い方			
6	【第2課】③疑問詞“哪个”、“谁”、④指示代詞、⑤語気助詞	14	【第6課】④“有”構文、⑤“在”構文			
7	【第3課】①動詞述語文、②“喜欢”+VP	15	まとめ			
8	【第3課】③反復疑問文、④疑問詞“什么”“谁”“哪个”“怎么样”					
<b>関連科目</b>	中国語Ⅱも同時に履修することを推奨する。特に現代コミュニケーションコースの中国分野、日本文学・日本語コースの漢文学分野での卒論執筆を予定している者は、1年次開講の中国語科目を全て履修することが望ましい。	<b>参考資料</b>	中日辞典を持つことが望ましい。中日辞典/プログレッシブ中国語辞典（小学館）、中日辞典（講談社）、中国語辞典（白水社）など。			
<b>資格</b>	中国語検定試験（準4級）	<b>連絡先</b>	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
<b>教科書</b>	相原茂他編『メディア版 1年生のころ（ビデオで学ぶ入門中国語）』（朝日出版社）	<b>オフィスアワー</b>	火曜日 昼休み 金曜日 昼休み			
		<b>備考</b>				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語Ⅱ	1	ふくなが みか 福永 美佳	1年	後期	演習	選択必修
<b>授業概要</b>	前期「中国語ⅠA」で学習した内容を基礎とし、中国語運用能力（読み・書き・聞き・話す）のレベルアップを目指す。同時に発音とピンイン・簡体字の表記については、後期も常にチェックしながら授業を進める。文法の理解は毎回の積み重ねが大切なので、この授業では予習・復習が必須となる。また遅刻すると、小テストを受けることができないので注意する。					
<b>キーワード</b>	初級中国語 読み 聞く 話す 書く					
<b>到達目標</b>	テキストの反復練習を通して、声調に気をつけて発音できるようになる。簡単な中国語の言い回しを暗記し、聞き取れるようになる。挨拶や自己紹介、買い物・旅行における会話、簡単な意思表示ができるようになる。					
<b>受講生に望む事</b>	受講前に教科書に添付されているCDを何度も聞いてくること。受講後は教科書を繰り返し読むこと。					
<b>評価方法</b>	小テスト・発音テストを合わせた（20%）と試験（80%）をもとに判断する。					
<b>回</b>	<b>授業計画</b>	<b>回</b>	<b>授業計画</b>			
1	【第7課】①年月日の言い方、②時刻の言い方	9	【第11課】①介詞“给”、②二重目的語をとる動詞			
2	【第7課】③文末の“了”、④“不”と“没”、⑤主述述語文	10	【第11課】③“过”、④“得”de、⑤“得”dei			
3	【第8課】①場所を表すことば、②動詞につく“了”その1	11	【第12課】①“好”+V、②可能補語			
4	【第8課】③介詞“在”“从”“往”④進行の表し方、⑤数詞	12	【第12課】③常用の副詞Ⅲ、④“能”、⑤“连…都”			
5	【第9課】①量詞、②動詞につく“了”その2、③“一点儿也”+否定形	13	【第13課】①疑問視の不定用法、②“得”+程度をあらわす語、③“让”			
6	【第9課】④結果補語、⑤“～着”	14	【第13課】④“把”構文、⑤“愿意”			
7	【第10課】①“会”、②“和（=跟）…一样”	15	総まとめと発音テスト			
8	【第10課】③“可以”、④“试试”、⑤時量の言い方	16	試験			
<b>関連科目</b>	中国語Ⅰを履修済みであること。未履修者はあらかじめご相談ください。特に現代コミュニケーションコースの中国分野、日本文学・日本語コースの漢文学分野での卒論執筆を予定している者は、1年次開講の中国語科目を全て履修してください。	<b>参考資料</b>	予習・復習に利用できる中日辞典を持つことを推奨する。			
<b>資格</b>	中国語検定試験（4級）	<b>連絡先</b>	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
<b>教科書</b>	相原茂他編『メディア版 1年生のころ（ビデオで学ぶ入門中国語）』（朝日出版社）	<b>オフィスアワー</b>	火曜日 昼休み 金曜日 昼休み			
		<b>備考</b>				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語 I	1	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	前期	演習	選択必修
授業概要	韓国語のハングル文字を覚えると、韓国語で書かれたほぼ全ての表現の読み書きができ、日本語をハングルで表記できるようになる。また、韓国語は日本語は語順が同じ上、共通した単語（漢字語）も多い。さらに、飛行機で40分、船で3時間で往来できるほど地理的に近い外国であるなど、韓国語は多くの利点を生かして効率的・実践的に学習できる外国語である。ここでは「文字、基礎単語、あいさつ・自己紹介、基本的な文章ルール」を学び、コミュニケーションを可能にする表現の知識や言語生活で役立つ文化を学ぶ。					
キーワード	文字、基礎単語、あいさつや自己紹介、基本的な文章ルール、文化					
到達目標	・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。 ・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。 ・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。					
受講生に望む事	日頃、見慣れないハングル文字に戸惑うかも知れませんが、思ったより簡単にマスターできます。新しいスタートラインに立った、新鮮な気持ちで学んでください。【事前学習】・ハングル文字の学習が一番のポイントになります。読めるようにしてください。・CDをたくさん聞いて、韓国語に慣れるようにしてください。【事後学習】・復習をしてください。					
評価方法	試験（80%）、レポート（20%）を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介	9	レッスン2 「こそあど (이 그 저 어느)、これは何ですか (이것은 무엇입니까?)」			
2	ハングル文字を覚えよう-母音・子音、あいさつ言葉1	10	レッスン2 「誰、どこ、いつ (누구, 어디, 언제)」			
3	ハングル文字を覚えよう-母音・子音、あいさつ言葉2	11	まとめ2			
4	ハングル文字を覚えよう-パッチム1、あいさつ言葉3	12	レッスン3 「あります・います (있습니다)」、「～ます・です (～합니다/습니다) (1)」			
5	ハングル文字を覚えよう-自分の名前、地名を書こう、自己紹介	13	レッスン3 「～ます・です (～합니다/습니다) (2)」			
6	まとめ1	14	レッスン4 「すきです・きらいです (좋아합니다/싫어합니다)」			
7	レッスン1 「～です (～입니다)・～ですか (～입니까)」	15	レッスン5 「数字の話し」			
8	レッスン1 「私・わたくしは～です、～ではありません (저・나는~가/이 아닙니다)」					
関連科目	韓国語 I B	連絡先	E-mail : akio@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス 管理棟 3F 研究室 2			
資格	各種の韓国語検定試験	オフィス ア ワ ー				
教科書	朴美子・崔相振、『グループで楽しく学ぼう韓国語』、2015年、朝日出版社	備考				
参考資料	補足プリント、映像資料など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語 II	1	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	後期	演習	選択必修
授業概要	前期に引き続き、「文字、基礎単語、あいさつ・自己紹介、基本的な文章ルール」を学び、コミュニケーションを可能にする表現の知識や言語生活で役立つ文化を学ぶ。特に、文を結ぶ表現を習得することで、聞く→考える→話す力を習得する。					
キーワード	文字、基礎単語、あいさつや自己紹介、基本的な文章ルール、文を結ぶ表現、聞く→考える→話す					
到達目標	・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。 ・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。 ・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。					
受講生に望む事	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。 【事前学習】・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読み、CDを聞くようにしてください。 【事後学習】・次回、単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。					
評価方法	試験（80%）、レポート（20%）を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：復習	9	レッスン9 過去形①			
2	レッスン6 「～ます・です (～요)・～ますか・ですか (～요?)」①	10	レッスン9 過去形②			
3	レッスン6 「～ます・です (～어/아요)・～ますか・ですか (～어/아요)」②	11	レッスン10 「～しに～しましょうか (～러 ~르까요?)」			
4	レッスン6 「～ます・です (～어/아요)・～ますか・ですか (～어/아요)」③	12	レッスン10 「～しましょう! (～시다!)」			
5	レッスン7 数の話②	13	レッスン11 「～てください (～어/아주세요)」			
6	レッスン8 時間	14	レッスン12 「～たいです (～고 싶어요)」			
7	レッスン8 私の日課 (내 일과)	15	まとめ			
8	まとめ					
関連科目	韓国語基礎 II	連絡先	E-mail : akio@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス 管理棟 3F 研究室 2			
資格	各種の韓国語検定試験	オフィス ア ワ ー				
教科書	朴美子・崔相振、『グループで楽しく学ぼう韓国語』、2015年、朝日出版社	備考	韓国語 I、韓国語基礎 I の既履修者か韓国語関連の検定試験に合格した者の履修が望ましい。			
参考資料	補足プリント、映像資料など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
キャリア形成入門	2	ひろせ みきこ 広瀬 美貴子	2年	前期	講義	必修
授業概要	多様化する女性キャリアという側面から、そして社会的役割の面から、自分の人生における「働く」ことの意味を考えます。社会における「働くことは」を学び、社会人基礎力についての理解と実践を促します。また、業種、職種、仕事理解と自己責任を通し、自身のキャリアプランを立てます。					
キーワード	自己理解と職業理解 社会人基礎力 チームワーク					
到達目標	1. 「働くことは」について自分なりの意見を表現できる。 2. 自己理解の重要性を理解し、自分の内的キャリアに気付くことができる。 3. 職業とキャリアについて理解する。 4. 社会人基礎力の評価と向上のためのプランを立てる。 5. リーダーシップとチームビルディングを理解し実践できる。					
受講生に望む事	次の授業の課題については必ず準備をしておくこと。授業最後の200文字作文については、その時間または次の授業時間までに提出をすること。個人ワークやグループワーク等、主体的な参加態度で臨むこと。					
評価方法	授業テーマ毎の課題提出状況 60% 受講状況 20% 受講終了レポート提出 20%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	キャリアと個人の社会的役割	9	対人コミュニケーション			
2	職業とキャリア	10	自分の話し方をチェックする			
3	自分のキャリアを考えるⅠ	11	自己紹介と自己PR			
4	自分のキャリアを考えるⅡ	12	リーダーシップとチームビルディング			
5	就職活動を考える	13	グループディスカッションⅠ			
6	社会の求める人材と能力	14	グループディスカッションⅡ			
7	社会人基礎力	15	総括 自分のキャリアを描いてみよう			
8	やりたい職業の適性を考える					
関連科目		連絡先	PC:hirose@fine-produce.co.jp mobile:sora518-angel@softbank.ne.jp			
資格		オフィスアワー	カウンセリングや講演中以外は対応可。着信歴又はメールには折り返し連絡。			
教科書	テキストは使用しない。その都度資料を配付する。	備考				
参考資料	「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」(小野田博之著/日本能率協会マネジメントセンター/税別1,500円) 「仕事のための12の基礎力」キャリアと能力の育て方(大久保幸夫著/日経BP社/税別1,500円) 「仕事とは何か」(梅澤正著/講談社現代新書/税別700円) 「ネガボ辞典」(ネガボ辞典制作委員会/主婦の友社/税別1,000円)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
キャリアデザインⅠ	1	みやざき なおこ 宮崎 尚子	2年	後期	演習	必修
授業概要	大学で身につけるべき能力について、学業以外に、就労観と社会人基礎力(コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、人と共同して問題解決にあたる能力など)を育成し、社会人への入り口である就職活動の準備を整える。PBL(プロジェクト ベースド ラーニング)を取り入れた学習スタイルで展開する。プロジェクト・マネジメントを疑似体験することで役割分担や連携の大切さ、コミュニケーションの必要性を学習する。					
キーワード	キャリアデザイン、リーダーシップ、男女共同参画基本法					
到達目標	自己表現能力の強化。社会的役割を理解する。論理的思考力とコミュニケーション能力の強化。					
受講生に望む事	自らが気付き、自らが主体的に発信し、社会人としての円滑なコミュニケーションが図れるように努力してほしい。					
評価方法	レポート提出(50%)、発表(30%)、学習態度(20%)により、総合的に評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンスー学生と社会人の違い	9	自立の準備2 自分の強みを伝える「事故PR」			
2	社会人準備1 「会社や組織の目指すもの」	10	自立の準備3 自分の強みを書く「履歴書・応募書類」			
3	社会人準備2 「仕事に必要な基本意識」	11	自立の準備4 会社で働く姿を予想する「面接・面談」			
4	社会人準備3 「職業理解(業界と職種)」	12	自立の準備5 会社で働く姿を予想する「訪問・来客対応」			
5	社会人準備4 「職業理解(働き方とキャリアプラン)」	13	自立の準備6 ライフイベントとキャリアデザイン			
6	社会人準備5 「仕事にかかわるお金」	14	コンプライアンスと社会人としてのルール			
7	社会人準備6 「就職活動の心得」	15	よりよい社会人をめざして			
8	自立の準備1 自分の強みを知る「自己分析」					
関連科目	インターンシップ	連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書	稲本恵子編「キャリアデザインワークプロフェッショナル 社会人 社会生活と自立のためのルール編」ホルス出版	備考				
参考資料	適宜指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本文化論	2	すずき ひろゆき 鈴木 寛之	2年	前期	講義	JL, JC 必修 MC 選択
授業概要	民俗学の立場から、日本文化の特質について考えます。「民俗学」という言葉から皆さんはどのような内容を想像するでしょうか。市街地から離れた農山漁村に伝わる年中行事や祭礼、民話や伝説などの事だろうと漠然とイメージする人が多いと思いますが、それでは現代社会に生きる私たち自身の生活文化は民俗文化には入らないのでしょうか。近年、民俗学の研究領域も大きく変わってきました。この講義では、日本の民俗学の研究動向を紹介しながら、私たち自身が担う「現代民俗」とはどのようなもので、今後どのような研究が期待されているのかについて取り上げます。					
キーワード	民俗学・現代民俗・民間信仰・文化財・地域文化・日常生活					
到達目標	民俗学の基本的な考え方と学問としての特質を理解します。「日本文化」がこれまでいかに語られ、それによつてどのような意味があったのか把握します。現代日本や地域社会にとつての伝承文化の持つ意味を考察します。					
受講生に望む事	自分自身の身近な地域文化を掘り下げて考察する姿勢を常に持って授業に臨んで下さい。					
評価方法	小レポート 30%、試験 60%、授業への貢献度 10%の総合評価です。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	民俗とは何か： 民俗学の成立過程		9	おまじないと俗信： 現世利益論		
2	現代の民俗文化： サブカルチャーと民俗文化		10	ノスタルジーはどこから来るのか： 記憶・回想・歴史		
3	「遠野物語」の意義： 柳田国男の民俗学		11	熊本の祭りと行事： 阿蘇・菊池・八代		
4	日本の祭： 折口信夫の「まればと」論		12	都市伝説と現代民話： 恐怖と不安の民俗史		
5	日本の伝説： 口頭伝承の世界		13	熊本の民俗文化論： 日本の民俗研究史と熊本		
6	あるく・みる・きく～宮本常一の民俗学～： 民俗学と「経世済民」		14	近代と民俗： 民俗の発見から文化財・世界遺産まで		
7	日本人の神観念： 祖霊信仰論		15	現代民俗論の課題： 民俗研究と現代世界		
8	妖怪と怪異： 「妖怪」と日本文化					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格	学芸員		オフィス ア ワ ー			
教科書			備考			
参考資料	宮田登・福田アジオ編『日本民俗学概論』（吉川弘文館）、『精選日本民俗辞典』（吉川弘文館）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本史	2	まつざき のりこ 松崎 範子	2年	前期	講義	JL, JC 必修 MC 選択
授業概要	歴史経過とともに都市の姿は大きく変わったが、近世期に三都（江戸・大坂・京都）といわれる中央都市と地方都市（城下町・在町）が形成されて、今日にいたる都市の基礎ができています。本講座では、各地における都市の建設とともに地域社会が形成される経過をみながら、近世社会と民衆に対する理解を深めることで、時代の流れを大きく見通す歴史感覚を身につける。					
キーワード	近世都市 民衆 地域社会					
到達目標	・近世における都市の形成と発展の経過を知ること、現代につながる日本社会を理解する。 ・三都（江戸・大坂・京都）と一般城下町・在町の違いが説明できる。					
受講生に望む事	配付資料の管理。課題の下調べとまとめ。私語の禁止。					
評価方法	期末試験 80%、これに課題の提出状況と授業への参加態度を加味して、総合的に評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	社会形成の概略		9	城下町の民衆と社会		
2	中世までの日本社会		10	近世の村と地域の開発		
3	幕藩制社会の成立		11	在町の形成と地域社会の変化		
4	幕府の拠点、江戸の建設		12	藩領域における城下町・在町の発展		
5	幕府直轄都市 京都・大坂		13	江戸の発展、大坂の衰退		
6	外交政策と長崎		14	民衆生活の変化		
7	藩領域における城下町の建設		15	近代社会への展望とまとめ		
8	城下町の支配制度		16	定期試験		
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス ア ワ ー	授業後		
教科書	毎回レジユメを配布		備考	内容は予告せずに変更することがある		
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
生涯発達心理学		2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	2年	前期	講義	選択 教職選択必修
授業概要	<p>【概要】 本科目では、ヒトの乳幼児から児童期までまでの人間発達の各段階の特性に関して、知覚、運動、知能、記憶、言語、遊び等について解説する。その後、乳幼児期を土台にした青年期以降に渡るヒトの生涯発達を概説する。</p> <p>【目標】 その誕生から始まるヒトらしさの発達とそれを規定するものについて、遺伝と環境、発達課題、反射、刷り込み、愛着行動、遊びの発達、思考の発達、カテゴリー記憶、道徳性の発達、社会性の発達、自己理解・他者理解の発達などのさまざまな発達メカニズムとともに捉え、個の発達系統的に捉える視点を習得する。</p>						
キーワード	遺伝と環境、発達課題、反射、刷り込み、愛着行動、遊びの発達、思考の発達、カテゴリー記憶、道徳性の発達、社会性、他者理解						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達には、発達段階があり、それぞれに発達上の課題があることを知る</li> <li>・発達には、遺伝と環境の影響があることを知り、発達の多様性を理解する</li> <li>・ヒトの発達を多面的に捉えることができ、各発達の特性を理解する</li> </ul>						
受講生に望む事	各講義では、評価方法に示す受講記録については、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて（講義内容の箇条書きでなく）自分の言葉で記録してください。事前学習としては、講義ノートを作成し、教科書・参考図書（次回授業）範囲を通読の上、基礎用語の下調べなどを行うこと。事後では基本的な用語を中心として理解を深め、定期的に確認作業をすること。なお、心理学、教育心理学、社会心理学などの心理学系の科目を併せて履習する、あるいは、既に履習していることがより望ましいが、本科目のみの履修者も意欲的に受講して欲しい。						
評価方法	平素の各回の受講記録と中間レポート等（40%程度）、及び最終の研究レポート（60%程度）による総合評価						
回	授業計画						
1	遺伝と環境						
2	言語と人間						
3	神経と脳						
4	原始反射						
5	泣き・痛み、感情						
6	気質、性格、人格						
7	愛着						
8	運動発達、身辺の自立						
9	思考						
10	視点取得						
11	心の理論						
12	うそ・ファンタジー						
13	道徳性 / 向社会性						
14	化学概念の獲得：素朴概念						
15	まとめ						
関連科目	心理学、教育心理学Ⅰ・Ⅱ、社会心理学Ⅰ・Ⅱ						
資格	教員免許						
教科書	学習と教育の心理学 増補版 市川伸一 岩波書店						
参考資料	適宜、指示する。						
連絡先	榆木地区大学1号館3階No.1研究室						
オフィスアワー							
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
臨床心理学	2	江崎 百美子	2年	後期	講義	選択 教職選択必修
授業概要	臨床心理学の歴史、心理検査の種類と方法、様々な心理療法についての知識を得られるように、ワークシートを用いながら解説していく。					
キーワード	心理検査、心理療法、心の健康、パーソナリティ、アイデンティティ、ストレス					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や他者の性格、周囲との人間関係、心と体のバランスについて理解すること。</li> <li>様々な悩みをもつ人に対する見立て（アセスメント）と援助の方法（心理療法）について理解すること。</li> <li>日常生活場面での臨床心理学の関わり方について考えを深めること。</li> </ul>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問や意見発表、ワークシートの提出など、自主的、積極的に参加してほしい。</li> </ul>					
評価方法	定期試験の成績（80％）および講義のレポート（20％）を加味して評価を行なう。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	臨床心理学とは何か、臨床心理学を作った人々	9	テストバッテリーの組み方			
2	心の構造と性格類型	10	知能について			
3	正常と異常	11	心理療法とは			
4	健康と障害	12	心理療法の実際（個人心理療法）			
5	心の発達段階、発達観	13	心理療法の実際（集団心理療法）			
6	発達段階における心の問題	14	社会と臨床心理学			
7	心理検査について	15	まとめ			
8	心理検査の実際	16	筆記期末終了確認試験			
関連科目		連絡先	榎木キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	はじめての臨床心理学 森谷寛之・竹松志乃 編著 北樹出版 2,500円	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報と社会	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	前期	講義	選択
授業概要	情報メディアが社会に与える影響を考え、社会や個人をどのように変えていく可能性を持っているのか事例を交えて考察し、テーマ毎にディスカッションする。特にマスメディアやインターネットが発信する情報の捉え方・向き合い方については、他者の意見を交えることで、再考するきっかけとしたい。					
キーワード	著作権、マスメディア、メディアリテラシー					
到達目標	(1) 情報を主体的に捉え、複数の情報源から収集し、比較・検討ができる。(2) 著作権を理解し、情報資源を利用する際に適切な引用ができる。(3) 情報流出や有害情報から身を守るための対策を施すことができる。					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークおよびディスカッションを行う。・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。</li> <li>随時、小試験を行うので毎時間の復習を欠かさないこと。</li> </ul>					
評価方法	グループワークおよびディスカッション（30％）＋課題・レポート（30％）＋試験（40％）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	総説	9	政治とインターネット			
2	ICTと社会	10	インターネットコミュニケーション			
3	情報倫理と知的財産	11	有害情報			
4	デジタル情報と著作権	12	情報と知識			
5	著作隣接権	13	情報探索行動			
6	著作権の制限	14	文化・教育の情報化			
7	個人情報保護・プライバシー	15	総括			
8	政治とマスメディア	16	試験			
関連科目	司書課程の必修科目である情報サービス論および図書館情報資源概論と内容が一部、重複します。	連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 榎木キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)			
資格	情報処理士	オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45			
教科書	上杉隆『新聞・テレビはなぜ平気で「ウソ」をつくののか』PHP 研究所、2012年。	備考				
参考資料	中山信弘他『著作権判例百選 第4版:別冊ジュリスト』有斐閣、2009年。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
児童サービス論	2	北口 己津子	2年	後期	講義	選択 司書必修
授業概要	児童サービスとは公共図書館の行うサービスの中でも乳幼児からヤングアダルトまでを対象としたものである。これは生涯にわたって利用する教育機関である公共図書館の最初となる世代である。児童サービスの意義、サービスの具体的内容について知り、実践まで学ぶ。					
キーワード	絵本 児童文学 お話し会 読み聞かせ 子どもの読書活動推進					
到達目標	・児童サービスの意義を理解する。 ・児童サービスの具体的な方法を知る。 ・読み聞かせ、ブックトーク等、子どもと本を結びつける活動を行うことができる。					
受講生に望む事	・図書館員をイメージするため、普段から公共図書館の見学や利用につとめること。					
評価方法	期末試験50%、小レポート（3回程度）30%、授業への参加度20%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	児童サービスの意義と目的		9	児童サービスの実際について（読み聞かせ）		
2	子どもの発達と読書		10	児童サービスの実践（読み聞かせ）		
3	資料の特色について		11	児童サービスの実際について（ブックトーク）		
4	資料の選択と評価について		12	児童サービスの実践（ブックトーク）		
5	児童図書館員について		13	児童サービスの実際について（ストーリーテリング等）		
6	児童図書館の施設・設備について		14	児童サービスの実際について（レファレンスサービス）		
7	乳幼児サービスについて（ブックスタート等）		15	学校、家庭、地域との連携協力について		
8	ヤングアダルトサービスについて					
関連科目			連絡先	E-mail: mkitagu@shokei-gakuen.ac.jp 榎木キャンパス図書館		
資格	司書資格		オフィスアワー	授業後		
教科書	『児童サービス論』（現代図書館情報学シリーズ6）植松貞夫・鈴木佳苗編集、樹村房、2,100円 ISBN 978-4-88367-206-6		備考	内容は予告せずに変更することがある		
参考資料	随時、関連資料を紹介し、講義内容を補完するプリント等を配布する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
環境の科学	2	種村 公平	2年	前期	講義	選択
授業概要	環境問題について、物質面、生物（生態）面の両面からその影響を考えさせる。具体的には、地球環境、食物連鎖、環境負荷化学物質、大気汚染、廃棄物、生物環境などについて、汚染原因とその分析・評価技術および保全対策・技術（物質面および生物面からのアプローチ）を、技術者論理の観点も踏まえ多面的に考えさせる。					
キーワード	「水汚染」、「生活環境汚染」、「大気汚染」、「地球環境問題」					
到達目標	環境汚染の現状について多面的な角度から理解を深めこれらにどのよに対処していくべきかを科学的に考えることができるようになることを目標とします。					
受講生に望む事	いろんな環境問題を取りあげますが、自分たちが身近に感じていることを自由に質問してほしい。一方的な講義でなく、できるだけディスカッションの時間をとりたい。					
評価方法	定期試験で評価します。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	日本の自然環境		9	都市環境と生物		
2	河川の汚濁：汚染		10	ごみ問題		
3	湖沼の汚濁：汚染		11	人口問題		
4	海域の汚濁：汚染		12	大気汚染		
5	水質汚濁（まとめ）		13	酸性雨		
6	殺虫剤汚染		14	オゾン層破壊		
7	日常生活を汚染する有害物質（1）		15	地球温暖化		
8	日常生活を汚染する有害物質（2）			定期試験		
関連科目			連絡先	E-mail tanemura@kumamoto-nct.ac.jp TEL 0965-53-1381 熊本高専 教員室		
資格			オフィスアワー			
教科書	「環境生物科学」 松原 聡（裳華房）		備考			
参考資料	「環境白書」 環境省		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
基礎数学	2	おかだ のりひろ 岡田 則浩	2年	前期	講義	選択
授業概要	高等学校までに履修した内容を中心に、数学の基礎的な内容を再学習する。特に、計算上の工夫、楽な方法、考え方や注意点、計算機の利用方法など 実生活における数学を対象とし、数学のおもしろさとさらなる学習への意欲を感じる内容とする。					
キーワード						
到達目標	式の意味や利用方法を理解し、数学の基礎的な知識を習得する 数学的な考え方や論理を身につける					
受講生に望む事	「数学を理解したい」「数学がわかるようになりたい」「数学を楽しみたい」等の気持ちを持って臨んでいただきたい。					
評価方法	演習課題 (50%), 小テスト または レポート (50%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション ●本授業の目標、位置づけ、授業の進め方を概説 ●受講生の学力把握のための、簡単な演習実施		8	三角関数		
2	数と式、式の積と展開		9	数列		
3	因数分解		10	数学とPC (数列)		
4	式の除算と分数式		11	数学とPC (関数、方程式)		
5	方程式と不等式		12	場合の数と確率		
6	関数とグラフ		13	指数関数		
7	三角比		14	対数関数		
			15	アルゴリズム、パズル		
			※	学生の理解に応じて適宜内容変更予定。		
関連科目			連絡先	okada-lec@shokei-u.jp		
資格			オフィスアワー	随時 (via E-mail)		
教科書	“もういちど読む 数研の高校数学 第1巻”, 数研出版, 978-4-410-13951-2, 本体 1500 円		備考			
参考資料	“もういちど読む 数研の高校数学 第2巻”, 数研出版, 978-4-410-13954-3, 本体 1500 円					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語ⅡA	1	ゆきの しげゆき 柚木 繁之	2年	前期	演習	選択
授業概要	英語 (言語) 学習における4技能のうち、LISTENINGとSPEAKINGの2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない者にとっては、獲得しようとする言語の基本的な文法を正しく習得することなくしては、これら2技能を有効に運用することは困難です。本科目では初級の英文法を確認する中で、初等・中等教育において定着しがちな誤った英文法知識の矯正を行うとともに確認し、英語でのコミュニケーションに必要な基礎的知識を養います。なお、本科目は初等・中等教育における外国語 (英語) の単なる復習科目ではないことを申し添えます。					
キーワード	Brushing Up Our Basic English Grammar and Skills					
到達目標	・我が国における英語習得の目的について理解すること ・外国語としての言語の学習方法について理解し、英語の効率的な習得法を身につけること ・英文法に関する知識を向上させること					
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。					
評価方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定・前年度実績)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	※各回においては、初等・中等教育で身につけてしまいがちな誤った英文法に関する知識の矯正を取り扱う。 コースオリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明		8	動詞 be と助動詞 be (テーマ: 文化の価値)		
2	動詞-自動詞 (テーマ: スポーツ・運動)		9	副詞 (テーマ: 奉仕・忠誠・ボランティア)		
3	動詞-他動詞 (テーマ: スポーツ・運動)		10	句と節 (テーマ: 教育・学校システム)		
4	名詞-数える名詞 (テーマ: コミュニケーション)		11	助動詞 (テーマ: メディア、テレビ・報道新聞)		
5	名詞-数えない名詞 (テーマ: コミュニケーション)		12	時制-現在 (テーマ: ネットワーク社会)		
6	冠詞・代名詞 (テーマ: コミュニケーション)		13	筆記演習活動1		
7	形容詞 (テーマ: 健康・フィットネス)		14	筆記演習活動2		
			15	総括		
関連科目	英語ⅠA・英語ⅠB・英語ⅡB		連絡先	電子メール: yunoki@nifty.com IP電話: 050-5532-7900 (録音) 研究室: 楡木キャンパス・管理棟・4F・楡木研究室		
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許 (教職志望者は積極的に履修して下さい)		オフィスアワー	前期: 火曜 12:15 ~ 13:00・火曜 16:20 ~ 17:05 後期: 水曜 12:15 ~ 13:00・水曜 16:20 ~ 17:05 ※最新情報は学生支援課掲示を必ず確認して下さい。		
教科書	First Things First - 英語コミュニケーションの基礎 Tetsuro Fujii MACMILLAN		備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。		
参考資料	英和・和英辞書 (電子辞書使用可)・高等学校等までに利用した各種英文法書					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 II B	1	ゆのき 柚木 繁之	2年	後期	演習	選択
授業概要	英語（言語）学習における4技能のうち、LISTENINGとSPEAKINGの2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない者にとっては、獲得しようとする言語の基本的な文法を正しく習得することなくしては、これら2技能を有効に運用することは困難です。本科目では初級の英文法を確認する中で、初等・中等教育において定着しがちな誤った英文法知識の矯正を行うとともに確認し、英語でのコミュニケーションに必要なより高度な知識を養います。なお、本科目は初等・中等教育における外国語（英語）の単なる復習科目ではないことを申し添えます。					
キーワード	Brushing Up Our Basic English Grammar and Skills					
到達目標	・我が国における英語習得の目的について理解すること ・外国語としての言語の学習方法について理解し、英語の効率的な習得法を身につけること ・英文法に関する知識を向上させること					
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。					
評価方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30%（予定・前年度実績）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	※各回においては、初等・中等教育で身につけてしまいがちな誤った英文法に関する知識の矯正を取り扱う コースオリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明	8	単文・重文・複文（テーマ：哲学・宗教）			
2	完了形（テーマ：旅行・経験・体験）	9	知覚動詞（テーマ：迷信・神話・占い）			
3	前置詞（テーマ：政治・戦争と平和）	10	使役動詞（テーマ：迷信・神話・占い）			
4	不定詞（テーマ：自己発見・自分探し）	11	受動態（テーマ：名声・セレブ・有名人）			
5	動名詞（テーマ：自己発見・自分探し）	12	能動態（テーマ：名声・セレブ・有名人）			
6	接続詞（テーマ：働く意欲・就職）	13	筆記演習活動1			
7	関係詞（テーマ：市場経済・ビジネス）	14	筆記演習活動2			
		15	総括			
関連科目	英語 I A・英語 I B・英語 II A	連絡先	電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900（録音） 研究室：榆木キャンパス・管理棟・4F・柚木研究室			
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許 （教職志望者は積極的に履修して下さい）	オフィス アワー	前期：火曜 12:15～13:00・火曜 16:20～17:05 後期：水曜 12:15～13:00・水曜 16:20～17:05 ※最新情報は学生支援課掲示を必ず確認して下さい。			
教科書	First Things First - 英語コミュニケーションの基礎 Tetsuro Fujii MACMILLAN	備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。 教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。			
参考資料	英和・和英辞書（電子辞書使用可）・高等学校等までに利用した各種英文法書					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
推計学入門（3年生以上対象）	2	篠原 弘章	3,4年	後期	講義	選択
授業概要	この科目は、社会科学の調査研究で必須な推計学の考え方を理解し、卒業論文作成においてデータを科学的に分析し解釈する基礎を養うことを目的としています。そのためには、測定尺度の種類とグラフの書き方、正規分布の応用、平均値の差や分散の検定、多要因分散分析法、 $\chi^2$ 検定、ノンパラメトリック法を理解する必要があります。講義では、数表ソフトであるエクセルを利用した計算法を解説します。エクセルを使うことによって計算嫌いな方でも、安心して統計手法を容易に使えるようになるでしょう。					
キーワード	尺度の種類、図表の書き方、正規分布の利用法、平均値の差のt検定、F検定、カイ2乗検定					
到達目標	・4種類の尺度と表やグラフの書き方 ・正規分布の利用法、各種の尺度の変換法 ・平均値や分散の差の検定（t検定、分散分析法）、カイ2乗検定（%の差の検定） ・ノンパラメトリック法の理解					
受講生に望む事	下記の受講記録は、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて自分の言葉で（講義内容の箇条書きでなく）記録してください。					
評価方法	平素の各回の学習記録（40%程度）と最終レポートの成績（60%程度）の総合的な評価					
回	授業計画	回	授業計画			
1	推計学の考え方、測定尺度の種類とグラフの書き方	9	2元配置法（くり返し測定要因）			
2	度数分布、代表値と散布度	10	多要因分散分析法			
3	正規分布とその応用	11	2×2表のカイ2乗検定			
4	測定値の変換	12	r×c表のカイ2乗検定			
5	ピアソンの相関係数	13	3要因のカイ2乗検定			
6	調査における標本抽出法	14	ノンパラメトリック法その1			
7	平均値と分散の統計的検定	15	ノンパラメトリック法その2			
8	完全独立1要因分散分析法					
関連科目	心理学、教育心理学 I, II, 発達心理学 I, II, 社会心理学 I, II, 社会調査法, 社会学	連絡先				
資格		オフィス アワー				
教科書	講義時に資料配付	備考				
参考図書	篠原弘章著、行動科学のための推計学入門、ブレーン出版（ISBN978-4-89242-737-4）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
芸術	2	よこやま ひろゆき 横山 博之	3年	前期	講義	選択
授業概要	芸術は、美術概論を主とした講義を行う。芸術（アート）とは美しさを追求することはもちろん、その本質は多様な価値観を見出すことにある。本科目では、古今東西の人類が残してきた作品や表現技法、そして芸術のそれぞれの分野を、あくまでも広く浅く取り上げながら、芸術の本質に迫ろうとするものである。講義と映像での鑑賞を通して、様々な考えや価値観に触れていく。					
キーワード	自分なりの美意識 多様な価値観 作品鑑賞					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古今東西の人類が残してきた作品や表現について知り、芸術に関心を抱くようになる</li> <li>・自分の考えや美意識で、能動的な作品鑑賞ができるようになる</li> <li>・様々な作品や考えに触れることで、多様な価値観を認めることができるようになる</li> </ul>					
受講生に望む事	講義では様々な表現・作品を鑑賞します。まずは偏見をなくした状態でそれらに出会ってほしいと思います。					
評価方法	学期末実施の課題内容（60%）・レポート提出状況など（40%）をみて評価を行う					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション 授業内容の解説/芸術とは何だろう	9	立体/空間 虚と実の空間表現/ロダン、ジャコメッティ/空間/コンテンポラリー・ダンス			
2	絵画の読み方1 絵画は「見る」だけでなく「読む」ものでもある/絵画の構成要素/図像解釈学	10	美術館/キュレーター 美術館の歴史とその役割/キュレーター（芸員）の仕事/熊本市現代美術館の取り組み			
3	絵画の読み方2 絵画の私的な楽しみ方/アート・リテラシー/絵画作品を能動的に見てみよう	11	作品鑑賞 熊本市現代美術館で作品鑑賞			
4	西洋絵画1 美術史的視点で近代～現代絵画を解釈しよう/写実主義～印象派～新印象派	12	写真 写真の特質/写真、そしてカメラの誕生/写真家の登場/現代の写真家			
5	西洋絵画2 美術史的視点で近代～現代絵画を解釈しよう/キュビズム～未来派～抽象表現主義	13	現代アート サイトスペシフィック/インスタレーション/ランドアート			
6	西洋絵画3 美術史的視点で近代～現代絵画を解釈しよう/ポップアート～ミニマルアート/まとも	14	アウトサイダーアート 美術の専門教育を受けなかった人による芸術？/シュールレアリスム/アール・ブリュット			
7	日本美術 現代日本絵画から日本の美意識とその魅力を探る/スーパーフラット	15	絵を描くということ コンゴの絵、幼児の絵～なぜ人は絵を描くのか/まとも			
8	反芸術 反芸術とは/マルセル・デュシャンという事件/ダダイズム/芸術とは					
関連科目	なし	連絡先	E-Mail : yokoyama@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：短大2号館 2F 横山研究室			
資格	なし	オフィスアワー				
教科書	なし。毎回資料を配布	備考	熊本市現代美術館での作品鑑賞では、現地までの交通費と観覧会料（合計1,000円程度）は学生の自己負担とする。また、時間割上、土曜や日曜に実施する予定。			
参考資料	なし					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
インターンシップ	1	みやざき なおこ 宮崎 尚子	3年	通年	実習	選択
授業概要	この授業では、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い職業意識の育成、自主性・独創性・柔軟性のある人材育成を目的とした、講義と職業実践を行う。ディスカッション等を通して、考え方に幅が出来たことを認識する。実際にインターンシップを体験し、自分の希望する「働く環境」を体験することで、新しい発見や自己成長につながることを実習する。					
キーワード	男女共同参画基本法、男女平等、リーダーシップ、キャリア					
到達目標	学生の学習意欲を喚起する。 自主性・独創性・柔軟性のある人材を育成する。 職業意識を育成する。					
受講生に望む事	外部の講演会への参加など、積極的に行動する。					
評価方法	インターンシップの実習（50%）、提出物（20%）、事前事後指導の学習態度（30%）等を総合的に評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス：インターンシップの意義	9	インターンシップの実習時間			
2	事前指導：心構えと手続き、ビジネスマナーについて	10	インターンシップの実習時間			
3	事前指導：礼状の書き方とレポート提出について	11	インターンシップの実習時間			
4	インターンシップの実習時間	12	インターンシップの実習時間			
5	インターンシップの実習時間	13	インターンシップの実習時間			
6	インターンシップの実習時間	14	インターンシップの実習時間			
7	インターンシップの実習時間	15	事後指導：体験報告会（ディスカッション）			
8	インターンシップの実習時間					
関連科目	男女共同参画入門 ・キャリア開発 ・キャリアデザイン論	連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書	稲本恵子他『キャリアデザインワークプロフェッショナル社会人 コミュニケーション・マナー編』ホルス出版	備考				
参考資料	適宜指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
Web ページ作成演習	1	かまが せいいち 釜賀 誠一	3年	後期	演習	選択
授業概要	Web ページ作成に必要な知識を学ぶとともに、実際にページをデザインし作成する。スタイルシートを用いたページの作成やアクセシビリティも学ぶ。					
キーワード	Web ページ, ホームページ, HTML					
到達目標	Web ページ作成に必要な知識の習得し、Web アクセシビリティの概念を把握する。					
受講生に望む事	Web 公開したい内容を持ち、具体化・明確化しておくこと。 [事前学習] 授業予定の部分の教科書を読んで不明部分にアンダーラインを引く。 [事後学習] 授業中に関連する Web ページを部分的に作成					
評価方法	課題演習 (20%), 個人の Web ページ公開 (80%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Web 作成の概要	Web サイト作成手順、Web デザインの基礎	9	実践的ページ3	背景の指定、ボックスモデル	
2	Web デザインの基礎	レイアウト、配色、カラーユニバーサルデザイン	10	実践的ページ4	レイアウトに関するプロパティ、マルチカラムレイアウト	
3	HTML 概要1	HTML5 の概要、Web サイト作成の準備	11	実践的ページ5	CSS を組み合わせたデザイン	
4	HTML 概要2	簡単な Web ページの作成、テキスト、ルビ	12	Web サイト実例1	企画書、Web サイト作成の流れ	
5	HTML 概要3	リスト、画像の表示、ハイパーリンク	13	Web サイト実例2	Web サイトのコーディング	
6	HTML 概要4	セクションとアウトライン、フォーム	14	HTML5 応用技術	Web ページで動画再生、図形描画、ライブラリ、地図表示	
7	実践的ページ1	CSS の基本、セレクト、Class 名と id 名	15	総合演習	各自 Web ページ作成	
8	実践的ページ2	CSS の記述場所、基本の CSS				
関連科目	情報処理実務 I を履修済みか同等以上の知識を有すること		連絡先	kamaga-1ec@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書	30 時間アカデミック Web デザイン, 実務出版		備考			
参考資料	よくわかるホームページ・ビルダー 15、FOM 出版					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
読書と豊かな人間性	2	くわはら よしや 桑原 芳哉	4年	前期	講義	選択 司書教諭必修
授業概要	豊かな人間性を形成するうえで、読書活動は重要な役割を果たしている。児童生徒の発達段階に応じた読書教育のあり方について概説したうえで、子どもの読書実態に基づいた読書指導、子どもと図書館を結びつけるための方法や技能について、具体的な事例を交えて解説する。さらに読書活動への参加を促し、それを支援する司書教諭の役割と責務について解説する。					
キーワード	読書活動、読書指導、学校図書館					
到達目標	司書教諭資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。①子どもの読書を巡る昨今の政策や社会動向 ②子どもの発達段階に応じた読書指導 ③子どもと読書を結びつける技能と司書教諭の役割					
受講生に望む事	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Web サイト等により各自で確認し、理解を深めること。・居住地などの公共図書館や公民館図書室等を積極的に利用・訪問して、図書館における児童サービスの現状や子どもの読書活動について問題意識を持って観察すること。					
評価方法	レポート 50% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 50% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 子どもにとっての読書 (教科書 p.9 ~ 26)		9	読書活動の実例：ブックトーク、読書へのアニメーション (教科書 p.83 ~ 88)		
2	子どもの読書環境 (教科書 p.27 ~ 42)		10	地域と連携する読書活動 (教科書 p.139 ~ 151)		
3	多様な読書資料：子ども向けの図書・資料 (教科書 p.43 ~ 58)		11	学校図書館支援センター事業：熊本市の実例 (教科書 p.143 ~ 145)		
4	発達段階に応じた読書指導 (教科書 p.59 ~ 75)		12	公共図書館における児童・ヤングアダルトサービスの概況 (教科書 p.139 ~ 143)		
5	読書指導の実践 (教科書 p.94 ~ 118)		13	学校における読書活動の実践の事例：学校図書館職員の日 (教科書 p.94 ~ 118)		
6	子どもと本を結ぶための方法 (1) 読書環境の整備 (教科書 p.76 ~ 80)		14	地域における子どもの読書活動 (教科書 p.148 ~ 151)		
7	子どもと本を結ぶための方法 (2) 読書活動プログラム (教科書 p.80 ~ 93)		15	まとめ：熊本県内の「子ども読書活動推進計画」と学校図書館の活性化に関する取り組み		
8	学校における読書活動 (教科書 p.119 ~ 138)					
関連科目			参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。		
資格	司書教諭		連絡先	研究室 (管理棟 4 階 研究室 14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	全国学校図書館協議会「シリーズ学校図書館学」編集委員会/編『読書と豊かな人間性』(シリーズ学校図書館学第4巻) 全国学校図書館協議会、2011 (ISBN 978-4-7933-2245-7) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。		オフィスアワー			
			備考	司書採用試験・募集に関する情報を随時提供します。		



# 文化言語学部

---

文化言語学科・専門教育科目



科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本文学概論	2	たけだ 昌憲 まさのり	1年	前期	講義	JL 必修 JC 選必、MC 選択
授業概要	日本文学概論は文学史と異なり、その内容は様々です。本講義では、日本文の学（研究）と、日本文学（作品）の概説という両方の解説を行い、広く日本文学に流れる「美」や「道」について、また、日本文学と歴史・社会とのかかわりについて、古代から近代まで概説していきます。					
キーワード	日本文学 文学環境 文学概論 文学史					
到達目標	日本文学及び日本文学研究の歴史的・時代的背景について理解する。各時代における作品の魅力をそれぞれの「美」として認識できる。文学を空間的・時代的に幅広い視野で見通す力、研究する力を身に付けることができる。					
受講生に望む事	【事前学修】該当する作品や特定（指定）箇所は必ず読んで理解しておくこと。不明な点もチェックしておくこと。 【事後学修】不明な点の理解や講義上の重要な指摘は再確認しておくこと。NHK 大河ドラマはできるだけ視聴してほしい。					
評価方法	授業態度・教場レポート 50%。期末試験（または期末レポート） 50%。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	はじめに 日本文学の概論か、日本文の学の概論か、文学とは何か。		9	中世・室町の文学環境 幽玄美・中世小説概論・北山文化 日明貿易		
2	古代の文学研究 古典研究		10	中世・戦国・織豊の文学環境 茶道 地方の時代 軍記概論 南蛮文化		
3	中世の文学研究 歌学と注釈		11	近世前期の文学環境 浮世 町民文化 さび しおり 鎖国		
4	近世の文学研究 国学		12	近世後期の文学環境 江戸文化 改革 幕末 開国		
5	近代の文学研究 文学性の基準とは		13	近代・明治の文学環境 市民文学 自然主義 維新・文明開化・近代化		
6	古代・上代の文学環境 たをやめぶり 遣唐使		14	近代・大正・昭和前期の文学環境 浪漫主義 戦時文学		
7	古代・平安の文学環境 をかし あはれ 歴史物語概論 国風文化		15	近代・戦後・現代の文学環境 マンガ 映像 まとめ		
8	中世・鎌倉の文学環境 禅・説話概論 日宋貿易		16	試験		
関連科目	日本古典文学史Ⅰ、Ⅱ 日本近現代文学史Ⅰ、Ⅱ 日本文学研究概論		連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み		
教科書	『日本文学概論』井上豊著 笠間書院 1600円（税別） ISBN00037-8		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
創作鑑賞Ⅰ	2	はまな りか 濱名 理香	1年	後期	演習	選択必修
授業概要	短歌は、五句三十一音の定型韻文叙情詩であり、『万葉集』の時代から、現代に至るまで、日本人に大切に愛されてきたものである。現代歌人の作品に触れながら、読む楽しみと、詠む喜びを実感する。					
キーワード	短歌の鑑賞・短歌の実作・女性と短歌					
到達目標	短歌における日本語の修辞の表現効果を学習する。					
受講生に望む事	短歌を気軽に楽しんでほしい。					
評価方法	レポート（60%）、毎回の宿題、課題、提出物（40%）で評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	鑑賞1 中学校教科書教材の短歌を読み直す（1）		9	実作3 作品鑑賞（1）		
2	鑑賞2 高等学校教科書教材の短歌を読み直す（2）		10	実作4 作品推敲の方法（1）		
3	実作1 五・七・五・七・七を展開する		11	実作5 作品鑑賞（2）		
4	実作2 上の句と下の句の働きを知る		12	実作6 作品推敲の方法（2）		
5	鑑賞3 現代歌人の作品の鑑賞（1）熊本ゆかりの歌人たち		13	実作7 歌会を開く（1）		
6	鑑賞4 現代歌人の作品の鑑賞（2）恋の歌・母の歌		14	実作8 歌会を開く（2）		
7	鑑賞5 現代歌人の作品の鑑賞（3）短歌とフェミニズム		15	まとめ 自信作を発表する		
8	鑑賞6 鑑賞文を書く					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィスアワー			
教科書	プリント		備考			
参考資料	現代短歌の鑑賞101 小高賢 編著（新書館） 現代の歌人140 小高賢 編著（新書館）					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学史Ⅰ		2	たけしま かずき 竹島 一希	1年	前期	講義	JL必修 JC選必, MC選択	
授業概要	この授業では、日本古典文学の中でも、上代文学（奈良時代）、中古文学（平安時代）の歴史を辿り、主要な作品と作者について概観します。							
キーワード	古典文学、文学史、上代文学、中古文学							
到達目標	1 上代文学、中古文学の歴史的展開を理解することができる。 2 主要な作品と作家について、的確な位置づけを行うことができる。							
受講生に望む事	特にありません。							
評価方法	学期末試験で評価します（100％）。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	『大鏡』『栄花物語』			
2	『古事記』『日本書紀』			10	『和漢朗詠集』			
3	『万葉集』			11	日記文学			
4	『伊勢物語』			12	『今昔物語』			
5	『古今和歌集』			13	『古今和歌集』以後			
6	『枕草子』			14	翻訳文学			
7	『源氏物語』1			15	まとめ			
8	『源氏物語』2							
関連科目	日本古典文学史Ⅱ			連絡先	榎木キャンパス教務課			
資格				オフィスアワー	質問等は授業の前後で受け付けます。			
教科書	レジュメを配布します。			備考				
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学史Ⅱ		2	たけしま かずき 竹島 一希	1年	後期	講義	JL必修 他コース選択	
授業概要	この授業では、日本古典文学の中でも、中世文学（鎌倉時代・室町時代）、近世文学（江戸時代）の歴史を辿り、主要な作品と作者について概観します。							
キーワード	古典文学、文学史、中世文学、近世文学							
到達目標	1 中世文学、近世文学の歴史的展開を理解することができる。 2 主要な作品と作家について、的確な位置づけを行うことができる。							
受講生に望む事	特にありません。							
評価方法	学期末試験で評価します（100％）。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	芭蕉2			
2	『新古今和歌集』			10	近松門左衛門			
3	『方丈記』			11	与謝蕪村			
4	『平家物語』			12	上田秋成			
5	『太平記』			13	滑稽本			
6	連歌			14	読本			
7	井原西鶴			15	まとめ			
8	芭蕉1							
関連科目	日本古典文学史Ⅰ			連絡先				
資格				オフィスアワー	質問等は授業の前後で受け付けます。			
教科書	レジュメを配布します。			備考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学史 I	2	かわだ かずこ 河田 和子	1年	前期	講義	JL 必修 JC 選必、MC 選択
授業概要	明治、大正、昭和期（戦前）までの文学史を概観する。主要な作家の作品を取り上げて、その時代背景や文芸思潮を見ていき、作品の文学史的な位置づけ、評価について解説する。明治期の「恋愛」の概念や小説における「告白」の形式、私小説と虚構の問題などを見ていながら、それぞれの時代の人々の意識や価値観に対して文学がどう反応し、相対化しているのか、その表現の特徴を考察する。					
キーワード	文芸思潮、言文一致、モダニズム文学					
到達目標	・近現代の文学史についての知識を習得する。 ・近現代の文芸思潮の流れを理解し、幅広い視野から物事を捉える思考力を身につける。 ・その時代の文化現象や社会状況と文学の関わりについて理解する。					
受講生に望む事	事前に配布プリントの資料に目を通しておくこと。 授業内容について復習し、作品に関する感想を書けるようにしておくこと。					
評価方法	学期末の筆記試験（90%）、授業態度（授業時の小レポートなど10%）					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	夏目漱石の文学		
2	明治初年・20年代の文学－立身出世の時代と言文一致小説		10	耽美派・谷崎潤一郎の「刺青」		
3	明治20年代の文学と〈恋愛〉の発見－森鷗外『舞姫』前後		11	大正期・白樺派の文学と美術		
4	明治20～30年代の浪漫主義		12	志賀直哉の私小説		
5	島崎藤村の詩集『若菜集』の浪漫性		13	大正教養主義と芥川龍之介		
6	明治30年代・日露戦争後の文学－自然主義文学と自己告白の形式		14	芥川龍之介「河童」の風刺性		
7	田山花袋の私小説「蒲団」		15	昭和初年代の文学－新感覚派・横光利一		
8	反自然主義の文学					
関連科目			連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書	十川信介『近代日本文学案内』（岩波文庫別冊）		備考			
参考資料	参考書類は授業のガイダンスで紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国文学概説 I	2	ふくなが みか 福永 美佳	1年	後期	講義	JL, JC 選必 MC 選択
授業概要	中国文学には長い歴史と豊富な蓄積がある。そこでこの講義では、数ある文学作品をジャンルごとに分け、中国における現存最古の文学作品集（詩集）である『詩経』から、唐代の伝奇小説までの文学史を、時代によって代表作品を読みつつ解説する。なお、この文学史の解説は、2年次前期の「中国文学概説Ⅱ」へと連続するので、通年で受講することが望ましい。授業で使用する資料には、各作品の原文だけでなく、書き下し文（訓読文）や注釈、現代日本語訳などもあわせて用いる予定である。それゆえ中国古典文学や「漢文」について、知識や読解力があまりなくとも、受講には差し支えない。					
キーワード	諸子百家、六朝志怪、唐詩、李白と杜甫					
到達目標	中国古典文学史について、それぞれの文体・作品などの特徴を知り理解を深める。					
受講生に望む事	2年次前期に開講される「中国文学概説Ⅱ」を引き続き履修すること。授業中に扱った作品について、目を通すこと。					
評価方法	論述形式による課題（100%）で評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 中国文学の性質		9	魏晋南北朝③——陶淵明の詩		
2	先秦①——『詩経』		10	魏晋南北朝④——志怪『搜神記』		
3	先秦②——『楚辞』		11	隋唐①——辺塞詩		
4	先秦③——諸子百家の文章		12	隋唐②——李白・杜甫		
5	秦漢①——辞賦		13	隋唐③——白居易		
6	秦漢②——『史記』		14	隋唐④——韓柳の古文		
7	魏晋南北朝①——四六駢駢文		15	まとめ		
8	魏晋南北朝②——三曹と建安七子					
関連科目	ルコースで漢文学（中国文学史）分野での卒業論文執筆を希望する者は、その他にも、漢文学関係科目、「日中比較文化論」「東アジア史Ⅰ・Ⅱ」などを履修することが望ましい。		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00		
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。		備考	教職課程「教科に関する科目」 中学一種／高校一種（国語・書道）必修科目		
参考資料	前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会）、吉川幸次郎述／黒川洋一編『中国文学史』（岩波書店）、興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）、奥野信太郎著・村松暎編『中国文学十二話』（NHKブックス）など。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語史	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	2年	前期	講義	JL必修 JC選択, MC選必
授業概要	本講義では、教科書と言語資料に基づき、古典文法の基礎を学ぶと共に日本語の歴史の変遷を学ぶ。授業は、講義形式でおこなわれるが、受講者の授業参加は必須である。					
キーワード	古典文法、敬語、音声の変遷、文字の発明					
到達目標	・日本語の音声の変遷を理解し、現代の仮名遣いの意味を理解する ・日本語の文法の変遷を理解し、時代毎の文学作品を読む力を育てる ・熊本方言の中に、中世語が残っていることを理解する					
受講生に望む事	わからなければ古語辞典をひく労力を惜しまないこと					
評価方法	2回行われる小テスト (100%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する (1)		
2	上代日本語の音声		10	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する (2)		
3	上代日本語の文字・文法		11	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する (3)		
4	中古日本語の文字		12	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する (4)		
5	更級日記御物本を翻字・分析する (1)		13	中世日本語の音声・文法		
6	更級日記御物本を翻字・分析する (2)		14	キリシタン資料を翻字・分析する		
7	更級日記御物本を翻字・分析する (3)		15	まとめ		
8	更級日記御物本を翻字・分析する (4)					
関連科目			連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書			備考			
参考資料	『日本語の歴史』, 坂梨隆三, 月本 雅幸 (編集), 放送大学教材 『日本語の歴史—青信号はなぜアオなのか—』, 小松英雄, 笠間出版					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語学概説	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	1年	後期	後期	JL必修 他コース選必
授業概要	本講義では、配布するハンドアウトと言語資料に基づき、日本語の体系を学んでいく。授業は、講義形式でおこなわれるが、受講者の授業参加は必須である。					
キーワード	音声学、第二言語習得、教授法、方言と歴史					
到達目標	・日本語の音声的特質を、他言語と比較しつつ理解する ・第二言語獲得と外国語教授法を概観する ・方言と日本語の歴史の間に見られる関係を理解する					
受講生に望む事	事前準備は必要ありませんが、授業後に授業内で指示された課題・調査を実施し、当該分野に関する理解を深めておくこと。					
評価方法	3回の小テスト					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	日本語の文字の歴史		
2	日本語の母音と五十音図		10	方言と日本語の歴史		
3	日本語の子音と五十音図		11	九州方言の特性		
4	日本語のアクセント		12	日本語史まとめ		
5	日本語のリズムとイントネーション		13	言語獲得		
6	日本語音声のまとめ		14	外国語教授法		
7	日本語の歴史的变化 1		15	全体のまとめ		
8	日本語の歴史的变化 2					
関連科目	日本語史, 方言学, 音声言語, 日本語教育文法		連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書	ハンドアウトを使用する。		備考			
参考資料	『いろはうた』, 小松英雄, 中央公論社					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文章表現	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	1年	後期	講義	JL 必修 他コース選択必修
授業概要	本講義では、様々な作品を分析する手法を学びつつ、文章作成の技法について考察し、現代的なサブカルチャーを分析する視座を確立する。					
キーワード	文章の構造, ジェンダースタディ, 受容論, 間テキスト性					
到達目標	様々な文章を読み, 書く力をつける。					
受講生に望む事	授業に積極的に参加するという態度をもって臨んでほしい。					
評価方法	授業中の課題提出 (30%) と学期末レポート (70%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス	9	良い曲とはどのようなパターンを持つか			
2	トーキーの発明とアニメーション	10	JPOPの歌詞を分析する			
3	映画を観るとはどのようなことか	11	日本語ラップの日本語			
4	音楽と映像とことば	12	現代短歌の日本語			
5	ホモソーシャルとは何か	13	フェイクドキュメンタリーという手法			
6	映画におけるLGBT	14	翻訳文体と文体のリミックス			
7	メタフィクションとは何か	15	まとめ			
8	間テキスト性とは何か (ゾンビ映画を題材に)					
関連科目		連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	秘書士、上級秘書士	オフィス アワー				
教科書		備考				
参考資料	授業中指示します。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
音声言語	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	1年	後期	講義	JL, MC 選必 JC 選択
授業概要	音声がどのように作られているのかを、音響分析や映像資料等を通して学ぶ。また、音声の表記方法や、日本語の調音的特徴、韻律的特徴について学ぶ。本講義では、日本語のいわゆる標準語の音声を中心に学ぶが、日本各地の方言や日本語を母語としない日本語学習者の音声についてもふれる。					
キーワード	調音音声学, 音響音声学, 音韻論					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPA (国際音声字母) による音声の記述ができるようになる</li> <li>調音器官の動きと音声出力の関係を理解する</li> <li>韻律的特徴を理解する</li> </ul>					
受講生に望む事	前回の学習内容を復習の上, 授業にのぞむこと					
評価方法	授業内課題 (40%), 小テスト (60%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション: 音声とは何か	9	発音の変化			
2	五十音図, 音声を作るしくみ	10	音の単位とリズム			
3	国際音声記号 (IPA)	11	アクセント①			
4	子音の発音①	12	アクセント②			
5	子音の発音②	13	イントネーション①			
6	子音の発音③	14	イントネーション②			
7	母音の発音①	15	まとめ			
8	母音の発音②					
関連科目	日本語学概説, 対照言語学, 日本語教授法概論	連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教員, 日本語教育能力検定試験	オフィス アワー				
教科書	プリントを配布する	備考				
参考資料	『国際音声記号ガイドブック』, 国際音声学会 編, 竹林・神山 訳, 大修館書店 『日本語音声学入門』, 齊藤純男, 三省堂 『音声の音響分析』, R.D.Kent, C.Read 著, 荒井隆行 他訳, 海文堂 など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書学概論 I	2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	1年	前期	講義	JC 必修 他コース選択
授業概要	書とは何かをさまざまな視点から追求していくと共に、高等学校書道教育における理論面や書道用語及び技法・学習法等について基本的な知識を幅広く学習する。					
キーワード	理論、文字、歴史、書体、芸術、書教育					
到達目標	・書独自の存在価値を理解する。 ・書についての基本的知識を身につける ・書美についての理解を深める。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 [事前学習]・資料をしっかりと読みこんでくる。 [事後学習]・各テーマごとにまとめる。					
評価方法	授業への取り組み 20% 提出物 50% 定期試験 30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	書について (1)		9	" (2)		
2	" (2)		10	篆刻について (1)		
3	" (3)		11	" (2)		
4	拓本について (1)		12	作品制作について (1)		
5	" (2)		13	" (2)		
6	作品について (1)		14	鑑賞について (1)		
7	" (2)		15	" (2) 学外実習		
8	文房四宝について (1)		16	定期試験		
関連科目	書学概論Ⅱの履修が望ましい。		連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 榎木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)		
資格			オフィス アワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00		
教科書	書の古典と理論 (光村図書)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
仮名書法	1	くたみ たけし 久多見 健	1年	前期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	仮名の歴史を学び、ひらがな単体、草がな、連綿など仮名の基本を学ぶ。平安時代の古筆を中心に書風分析の方法を習得し、それぞれの特徴を理解しながら臨書して、仮名の技法を身につける。					
キーワード	仮名・古筆・臨書					
到達目標	・漢字からできた仮名の変遷を理解する。 ・仮名の筆使いなど技法を身につける。 ・古筆の書風分析の方法を理解する。 ・それぞれの古筆の特徴を理解し、表現できるようにする。					
受講生に望む事	課題など授業以外の時間の練習を充分すること。					
評価方法	授業時の提出作品 (50%)、課題作品・レポート (50%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	仮名の歴史、用具について		9	関戸本古今集 解説・臨書		
2	ひらがなの字母・単体・変体仮名		10	三色紙 解説・臨書		
3	連綿、行の構成		11	"		
4	蓬萊切 解説・臨書		12	元永本古今集 解説・臨書		
5	高野切第三種 解説・臨書		13	細線の古筆 (針切・香紙切・小島切) 解説・臨書		
6	"		14	平安古筆の系統的分類		
7	高野切第二種・第三種 解説・臨書		15	まとめ		
8	関戸本古今集 解説・臨書					
関連科目	仮名古典研究		連絡先	kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：1号館3階 久多見研究室		
資格			オフィス アワー	火曜日 16:20~17:20 木曜日 12:15~13:00		
教科書	日本名筆選『高野切第三種』、『関戸本古今集』 (二玄社)		備考			
参考資料	書道技法講座各古筆 (二玄社) 『かな字典』 井茂圭洞編 (二玄社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
楷書法	1	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	1年	後期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	中国の有名な古典作品を中心に学びながら楷書の書美について解明し、創作へとつなげる。時代ごとに作品を掲げ、それぞれの作品を臨書しながら実技指導をし、合わせて作品や用語解説も行う。					
キーワード	定義、変遷、歴史、技法					
到達目標	・楷書の特徴を理解する。 ・古典作品の特徴的な技法を習得する。 ・表現の多様性について理解し、鑑賞力を高める。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 [事前学習] ・授業で取り組む古典作品についての関連資料を読み込んでくる。 [事後学習] ・授業で取り組んだ古典作品についてまとめる。 ・課題作品を仕上げてくる。					
評価方法	授業への取り組み 20% 提出物 80%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	楷書について (1) 楷書の特徴、基本的技法		9	九成宮醜泉銘 (1) 九成宮醜泉銘について、欧陽詢		
2	" (2) 歴史		10	" (2) 唐時代		
3	顔勤礼碑 顔勤礼碑について、顔真卿、唐の四大家		11	孔子廟堂碑 孔子廟堂碑について、虞世南		
4	雁塔聖教序 雁塔聖教序について、褚遂良		12	課題作品 (3)		
5	課題作品 (1)		13	細字		
6	鄭義下碑 鄭義下碑について、鄭道昭		14	作品制作 (1)		
7	牛欄造像記 牛欄造像記について、造像記		15	" (2)		
8	課題作品 (2)					
関連科目			連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス；大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)		
資格			オフィスアワー	月曜日 12:10～13:00 水曜日 12:10～13:00		
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)		備考	高1 書道教員免許状必修科目		
参考資料	新書道字典 (二玄社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
行書法	1	くろだ きよかず 黒田 清和	1年	後期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	漢字の行書体を実習形式で学習する。その中身としては、さまざまな行書の古典の臨書を通してその書美を鑑賞し、行書の魅力・技法を学習する。また、行書の歴史の変遷についても理解を深め、書道教育における行書学習へ生かす。そして習得した技法を基に表現の幅を広げ、これからの作品制作における自己表現の達成を目標とする。					
キーワード	晋唐宋、古典、臨書、創作。					
到達目標	・行書体の書美を理解する。 ・行書体の歴史の変遷を理解する。 ・行書作品への興味・関心・意欲を持ち、これからの制作活動に生かす。					
受講生に望む事	古典鑑賞における意欲的な姿勢と、レポート提出のための根気と熱意。					
評価方法	課題の提出・質 80%および平常点 20%として評価を行う。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	行書の歴史の変遷、古典の鑑賞、行書の特徴・技法の基本 (書写教育での学習をふまえて)		9	古典の臨書 (半紙) 争坐位文稿<顔真卿>		
2	古典の臨書 (半紙) 集字聖教序<王羲之>		10	" 蘇軾の行書		
3	" "		11	" 黄庭堅の行書		
4	" "		12	" 米芾の行書		
5	" "		13	行書作品制作 (半切) 詩句選定・集字・草稿作り		
6	" 温泉銘<唐 太宗>		14	" イメージ・全体構成・落款		
7	" "		15	" 批評会を実施し、それを基に仕上げる		
8	" 争坐位文稿<顔真卿>					
関連科目	草書法の履修が望ましい。		参考資料	漢字の書Ⅱ行書 (雄山閣書道講座5) 新修墨場必携 上・下 (法政大学出版局)		
資格			連絡先			
教科書	中国法書選 16 集字聖教序、36 晋祠銘・温泉銘、41 祭姪文稿・祭伯文稿・争坐位文稿、46 蘇軾集、47 黄庭堅集、48 米芾集 (二玄社)		オフィスアワー			
			備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
漢字古典研究		2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	1年	前期	演習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	漢字の古典作品について研究し、様々な角度から分析し、書美を解明する。各自最も興味ある作品を選び、作品に対する認識を深めるために作品研究を行う。その上で作品分析を行い、まとめる。又、作品制作との関性についても考える。							
キーワード	古典作品、書美、分析							
到達目標	・作品の分析方法を習得する。 ・古典作品の書美の要因について理解する。 ・作品制作に生かす。							
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 [事前学習] ・毎時間の取り組む内容について理解し、準備する。 [事後学習] ・分析内容について着実に作業を進める。							
評価方法	授業への取り組み 20% 発表点 40% 提出物 40%							
回	授業計画			回	授業計画			
1	漢字古典研究について 研究法、分析法			9	作品分析 (4) 全体			
2	古典の鑑賞			10	" (5) まとめ			
3	作品選び			11	" (6) "			
4	作品研究 (1) 時代背景			12	個人発表 (1)			
5	(2) 書人、関連作品			13	" (2)			
6	作品分析 (1) 用筆			14	" (3)			
7	" (2) 字形			15	まとめ			
8	" (3) 線、リズム							
関連科目				連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格				オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)、中国法書選 (二玄社)、中国法書ガイド (二玄社)			備考				
参考資料	各書道全集、各技法講座等							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書写・書道概論		2	まえだ よりこ 前田 頼子	1年	前期	講義	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	・中学校国語科書写の指導内容、授業理論を学習し、書写教育についての理解を深める。 ・文字力テストの実施や、書写・書道の基礎基本となる理論を学習し、文字についての関心と理解を深める。							
キーワード	手書き文字 学習指導案 書の歴史							
到達目標	・中学校国語科書写教育の概要を理解する。 ・漢字や仮名についての基礎知識及びその歴史を理解する。 ・書写の授業を構想し、その学習指導法を理解する。							
受講生に望む事	実際に授業をしている自分を思い描きながら、学んでほしいと思います。							
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 20%、平常点 10%。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習計画、文字と書くことの基礎			9	国語科書写授業の構想 ④教材研究			
2	国語科書写教育の目標と内容			10	" ⑤評価			
3	書写の指導内容①			11	学習指導案の作成①			
4	" ②			12	" ②			
5	年間計画の要点と事例			13	模擬授業			
6	国語科書写授業の構想 ①書写教育の推移と課題			14	漢字の歴史			
7	" ②基本的学習指導過程			15	仮名の歴史			
8	" ③学習指導法			16	試験			
関連科目				連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格	硬筆検定試験			オフィスアワー				
教科書	明解書写教育 (萱原書房)、新しい書写1年用、2・3年用 (東京書籍)			備考	中1国語・高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	国語科学習指導要領、筆順のすべて							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書写・書道Ⅰ		1	まえだ よりこ 前田 頼子	1年	前期	実習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校国語科書写の実技に関する内容を、毛筆と硬筆の両面から学習し、書写技能の育成を図る。</li> <li>・ 文字構造の理論や書写教材を分析研究し、理解を深める。</li> </ul>							
キーワード	姿勢 字形のバランス 書体							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の楷書や行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書くことができる。</li> <li>・ 字形や文字の大きさ、配置・配列などに考慮し、目的や必要に応じて調和よく書くことができる。</li> <li>・ 文字に関する知識を高める。</li> </ul>							
受講生に望む事	実技は繰り返し練習することで身につけていきます。努力をして下さい。							
評価方法	提出作品 50%、試験 40%、平常点 10%。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習計画 実技の基本（姿勢、執筆法、用具・用材）			9	楷書と平仮名の調和①			
2	楷書の基本点画			10	" ②			
3	楷書の字形①			11	行書の特徴と基本①			
4	" ②			12	" ②			
5	" ③			13	" ③			
6	楷書の筆順と許容体			14	行書と平仮名の調和			
7	平仮名、片仮名の特徴と基本①			15	教材作成			
8	" ②			16	試験			
関連科目				連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格	硬筆検定試験			オフィス アワー				
教科書	明解書写教育（萱原書房）、新しい書写1年用、2・3年用（東京書籍）			備考	中1国語・高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	硬筆検定の試験問題集							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書写・書道Ⅱ		1	まえだ よりこ 前田 頼子	1年	後期	実習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科書写の内容全般にわたって理解を深め、実技面での習熟と生活化を図る。</li> <li>・ 基本的古典の臨書を通して、多様な表現技法を学習する。</li> </ul>							
キーワード	実用の書 掲示物 古典に学ぶ							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて日常の実用の書式を適切に書くことができる。</li> <li>・ 硬筆や毛筆で漢字の楷書、行書、仮名を読みやすく、速く書くことができる。</li> <li>・ 毛筆による多様な表現技法を習得する。</li> </ul>							
受講生に望む事	実技は繰り返し練習することで身につけていきます。努力をして下さい。							
評価方法	提出作品 50%、試験 40%、平常点 10%。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習計画、古典の臨書（楷書）			9	古典の臨書（行書）			
2	古典の臨書（楷書）			10	"（行書）			
3	実用の書式①細字の基本（住所・氏名・芳名録）			11	"（行書）			
4	" ②封筒・慶弔表書き			12	古典の臨書（仮名）			
5	" ③手紙文			13	"（仮名）			
6	" ④賞状			14	書き初め			
7	" ⑤掲示物			15	教材作成			
8	" ⑥年賀状			16	試験			
関連科目				連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格	硬筆検定試験			オフィス アワー				
教科書	明解書写教育（萱原書房）、新しい書写1年用、2・3年用（東京書籍）			備考	中1国語・高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	古典法帖							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会学概説	2	やまなか まもる 山中 守	1年生	後期	講義	MC 必修 JC 選必, JL 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、社会全般のことについて解説します。特に近年は情報化が進んできましたので、情報化による社会の変化について分かりやすく取り上げます。学習の効果が上がるように教科書を使用します。これからの進路にも役立つ重要な講義ですので、教科書の具体的な事例を取り上げながら進めます。					
キーワード	社会 (Community), 情報化社会 (Information Society)					
到達目標	社会全般と情報化社会の現状と課題について理解すること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	評価方法は、(1) 授業中の小レポート、(2) 期末テストまたは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、(1) が80%, (2) が20%です。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義の目的と内容について		9	産業社会の変化②		
2	社会の動き①		10	産業社会の変化③		
3	社会の動き②		11	情報社会の課題と展望①		
4	社会の動き③		12	情報社会の課題と展望②		
5	情報社会の現状①		13	情報社会の課題と展望③		
6	情報社会の現状②		14	これからの社会について①		
7	情報社会の現状③		15	これからの社会について②		
8	産業社会の変化①					
関連科目	地域社会論、現代社会学、地域振興論、地域政策論		連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィス アワー	水: 12:00~12:50. 木: 12:10~12:55.		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版, 2013年。(注: 関連科目と共通の教科書です)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域社会論	2	やまなか まもる 山中 守	1年	前期	講義	MC 選必, 他コース選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、現在、急速に普及してきた情報化社会と地域社会の関係について取り上げます。地域社会や情報というと何だか難しいように思うかもしれませんが、テキストを使って分かりやすく説明します。将来の進路や職業の選択にも役立ちます。					
キーワード	地域社会 (Regional Community), 情報化社会 (Information Society)					
到達目標	1) 地域社会の現状と課題について理解すること。 2) 地域社会に関する簡単な分析ができること。 3) 地域社会の現状と課題についての意見が述べられること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	評価方法は、(1) 講義中の小レポート、(2) 期末テストまたは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、(1) が80%, (2) が20%です。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義の目的と概要		9	地域社会の課題①		
2	地域社会の新しい動き①		10	地域社会の課題②		
3	地域社会の新しい動き②		11	地域社会の課題③		
4	地域社会の新しい動き③		12	地域と情報社会の発展について①		
5	情報社会の現状①		13	地域と情報社会の発展について②		
6	情報社会の現状②		14	地域と情報社会の発展について③		
7	イギリス社会の事例①		15	まとめ		
8	イギリス社会の事例②					
関連科目	社会学概説、現代社会学、地域振興論、地域政策論		連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィス アワー	水: 12:00~12:50 木: 12:10~12:55		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版, 2013年。(注: 関連科目と共通の教科書)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国事情	2	きたぐち ひでほ 北口 英徳	1年	前期	講義	JC, MC 選必 JL 選択
授業概要	アジア諸国の発展が進む昨今、日本は各国との政治的・経済的・文化的関係の緊密化を進めつつある。中でも中国との関係は欠かせないものになっている一方、安定した関係を維持できていない。本講義では中国・台湾に関する歴史、文化、政治など基本的な知識や時事問題などをおさえながら、中国理解を進めることを目標とする。					
キーワード	中国、台湾、東アジア					
到達目標	中国理解を深める					
受講生に望む事	新聞を見る					
評価方法	学期末テスト（70%）と受講態度（取り組む姿勢等）（30%）で評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	中国時事問題（文化①）		
2	中国・台湾の基礎知識①		10	中国時事問題（文化②）		
3	中国・台湾の基礎知識②		11	中国時事問題（経済①）		
4	中国・台湾の基礎知識③		12	中国時事問題（経済②）		
5	中国・台湾の基礎知識④		13	中国時事問題（日中関係①）		
6	中国・台湾の基礎知識⑤		14	中国時事問題（日中関係②）		
7	中国時事問題（政治①）		15	中国時事問題（日台関係）		
8	中国時事問題（政治②）					
関連科目	韓国事情、東アジア近現代史		連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室		
資格			オフィス アワー			
教科書	特定のテキストは使用せず、随時プリントを配布。		備考			
参考資料	愛知大学現代中国学部編『ハンドブック現代中国』					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国事情	2	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	後期	講義	JC, MC 選必, JL 選択
授業概要	グローバル化が進む中、日本と東アジア諸国との関係は、ますます緊密になりつつある。特に、地理的に最も近い韓国（北朝鮮）との関係は、文化的・経済的・政治的に更に緊密度を高めることが予想される。本講義では過去・未来を踏まえた個人～社会に亘る文化・経済などのコミュニケーションの場としての日韓関係について考察する。					
キーワード	グローバス化、韓国（北朝鮮）、文化的・経済的・政治的、日韓関係					
到達目標	・東アジアの観点から日韓関係を理解する。 ・文化・経済・政治・教育とコミュニケーションとの関連性を理解する。					
受講生に望む事	東アジア・韓国と「私」という広い観点を持ちましょう。 〔事前学習〕 ・次回使用するプリントなどの補足資料をよく読んでおいてください。 ・授業ごとのテーマに添った資料を新聞・テレビ・インターネットで調べておいてください。 〔事後学習〕 ・授業で扱った資料（主に映像）についての所感文を提出してもらいます。これは定期試験の参考資料として一時返却しますので、具体的に作成してください。					
評価方法	テスト・課題（80%）、態度（20%）					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション：授業内容、進め方		9	日韓の考え方 2		
2	日韓の歴史 1		10	まとめ		
3	日韓の歴史 2		11	日韓の民俗 1		
4	日韓の外交 1		12	日韓の民俗 2		
5	日韓の外交 2		13	日韓のコミュニケーション 1		
6	日韓の文化 1（伝統）		14	日韓のコミュニケーション 2		
7	日朝の文化 2（現代）		15	日韓の未来		
8	日韓の考え方 1					
関連科目	韓国語関連の授業、海外フィールドワーク、異文化理解、東アジア史など		連絡先	akio@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3 F、第2研究室		
資格	通信案内士、ビジネス実務士、日本語教員、韓国語検定		オフィス アワー			
教科書	プリントを配布。		備考			
参考資料	曹喜 著『現代韓国を知るキーワード77』（大修館書店） 田中俊明監修『東アジア三国史』（日本実業出版社）など					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
ボランティア論		2	安川 正雄	1年 3年	後期	講義	JC, MC 選必 JL 選択	
授業概要	現代社会の諸相に焦点をあて、ボランティア活動の基礎を学ぶ。また具体的な社会現象の分析をとおして、ボランティア活動の社会的な意義と役割の大切さを発見したい。また、変わりゆく社会とボランティア活動の支えによるさまざまな可能性について理解を深める。さらに、国内外のボランティア体験などの紹介をとおして、共に生きる姿勢を学習する。							
キーワード	共助 地域社会 NGO							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の基礎的な理論を修得すること</li> <li>・ボランティア活動の社会的な意義と役割を理解すること</li> <li>・共に学び、共に生きる姿勢を理解すること</li> </ul>							
受講生に望む事	授業に関する質問、発言を積極的に行うことを求めます。また、ボランティア活動を体験することを望みます。「事前学習」 ・ 毎回、テキスト・参考文献・資料等指定のとおり、事前の学習を行うこと。「事後学習」 ・ 講義ノート、レポート等を適宜、提出すること。							
評価方法	定期試験 (70%)、レポート等提出ならびに実践活動 (30%) を併せて評価する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	現代社会の諸相 (近代から現代へ)			9	ボランティアが創り出す新たな価値 (社会起業と国際社会)			
2	現代社会の発展 (現代社会とボランティア)			10	ボランティア活動と社会福祉 (少子高齢社会の担い手として)			
3	ボランティア活動を問う (ボランティアとNPO・NGO)			11	ボランティア活動と社会福祉 (地域福祉の担い手として)			
4	私にとってのボランティア (世界のボランティア活動の歩み)			12	ボランティア活動と環境 (地球環境とのかかわり)			
5	私にとってのボランティア (日本のボランティア活動の歩み)			13	ボランティア活動と国際社会 (ソーシャルネットワーク)			
6	人はなぜボランティアをするのか (自ら選択する生き方)			14	国際ボランティア NGO 活動 (開発途上国の事例研究)			
7	ボランティアが創り出す新たな価値 (新たな公共と私)			15	ボランティアセンターとマネジメント			
8	ボランティアが創り出す新たな価値 (災害ボランティア)				定期試験			
関連科目	社会学、社会福祉			連絡先	榆木校地 短大部 2 号館 1F 研究室内線 149 yasukawa@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィス ア ワ ー	随時			
教科書	「学生のためのボランティア論」岡本・菅井・妻鹿編 (発行 大阪ボランティア協会)			備 考	身近な生活問題を例示するとともに、白書等のデータを取り上げ検討したい。			
参考資料	各種の白書							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
サービスラーニング入門 I		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	前期	演習	JL: 選択 JC: 選必 MC: 必修	
授業概要	この授業ではキャンパス内で考えられる課題を設定し、プロジェクトを進め、サービスラーニングの初歩を理解します。そして、受講生がチームで動き、実践し、振り返ることで、他者への理解を深め、自分の立ち位置を確認するために、考え行動するきっかけになることを目指します。							
キーワード	サービスラーニング							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の生き方や考え方に関心を持ち、学びとる姿勢を身に着ける</li> <li>・自発的に行動し、振り返りながら考えを深める</li> <li>・大学で学ぶことの意味や自分の将来を考える姿勢を身に着ける</li> </ul>							
受講生に望む事	チャレンジする							
評価方法	授業とチーム活動の貢献度 40 毎回の振り返りシート 30 プレゼン・レポート 30							
回	授業計画			回	授業計画			
1	授業ガイダンスとアイスブレイク			9	課題の中間報告 II			
2	グループワーク①			10	チームミーティング II			
3	グループワーク②			11	最終報告準備			
4	学内プロジェクトの設定			12	最終報告、振り返り			
5	参加プロジェクトの決定と課題設定			13	これからの大学生活を考える I			
6	課題のプレゼンとブラッシュアップ			14	これからの大学生活を考える II			
7	課題の中間報告 I			15	自分のこれらのアクションプランプレゼン			
8	チームミーティング I							
関連科目	サービスラーニング入門 II、課題探求プロジェクト演習			連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第 9 研究室			
資格				オフィス ア ワ ー				
教科書	『リテラシーの強化書 講義編』1,500 円 (授業中に案内します。)			備 考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
サービスラーニング入門Ⅱ	2	所 吉彦 はたけやま しんいち 島山 真一 はただ ひでまさ 畑田 秀将	1年	後期	講義	MC 必修、JC コース選必 JL コース選択
授業概要	地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動などを体験することにより、学外におけるサービスラーニングを理解します。「日本語学習」「図書館運営」「市民活動」を支援する3コースから選択し学修を進めます。					
キーワード	体験学習、アクティブラーニング、意識変化、日本語、学校司書、NPO					
到達目標	サービスラーニング入門Ⅰ（学内編）に続き、今回は学外編により知識として学んできたことを実際のサービス活動にいかすことを試み「気づき」を得る、「自己変化」を得ることを目標とします。					
受講生に望む事	事前学修は能動的に動けるような必要なイメージを作り上げ学外学修に備える。事後学修では次回クラス充実につながる内省（振り返りノート）を記録し行ってください。					
評価方法	授業とチーム活動の貢献度 40%、振り返りノート提出 30%、成果発表 30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション・コース内容説明		10	共通授業（取組状況中間報告）		
2	共通授業（能動的学修の意義とコース分け）		11	専門知識習得、学外学修、振り返り・内省		
3	コース別課題確認、専門知識習得、学外学修および振り返り・内省		12	"		
4	"		13	"		
5	"		14	"		
6	"		15	共通授業 まとめ・成果発表		
7	"		※学外学修が6回、武蔵ヶ丘小、パレア、国際交流会館、交通費や学外学修に必要な実費があります。			
8	"					
9	コース別課題確認、専門知識習得、学外学修および振り返り・内省					
関連科目	サービスラーニング入門Ⅰ、課題探求プロジェクト演習、サービスラーニング演習Ⅰ、Ⅱ		連絡先	所 吉彦：楡木1号館2F所研究室、toko@shokei-gakuen.ac.jp 島山真一：楡木管理棟3F 島山研究室、htk@shokei-gakuen.ac.jp 畑田秀将：楡木管理棟3F 畑田研究室、hatada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	秘書士・上級秘書士・ビジネス実務士・情報処理士・上級情報処理士		オフィスアワー	所 吉彦：火 12:00-13:00、木 10:30-11:30 島山真一： 畑田秀将：月 12:00-12:45、木 12:30-12:45		
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。		備考	金曜4-5限と連続して行います（基本隔週開講、外部講師（予定）による講話を含むコースがあります。コースごとに詳細説明があります。）		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
課題探求プロジェクト演習	2	たくち せいいち 田口 誠一 きたぐち ひでほ 北口 英穂 うの ふみえ 宇野 文重	1年	前期	演習	MC 選必 他コース選択
授業概要	教室における「学び」と社会における「実践」を双方向でつなげるサービスラーニングを通して、課題探究力や実践的コミュニケーション力を向上させる。大津町に関する視察と大津町の「地蔵祭り」でのブース運営といった活動をおこなう。					
キーワード	課題探究 サービスラーニング					
到達目標	課題探究力と実践的コミュニケーション力の育成					
受講生に望む事	事前（2時間）・事後（2時間）を学修時間の目安とする。大津町について調べてその現状を出来るだけ理解してほしい。また、学外活動の事前準備や課題考察、活動後のプレゼンテーション等の準備に時間をかけてほしい。					
評価方法	学外活動への取り組み 50%、レポート 50%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	・オリエンテーション 7月下旬 ※1コマ分		9			
2	・大津町に関する視察（大津町歴史文化伝承館等）-大津町の歴史や文化、観光など知る		10			
3	8月上旬（9時20分～12時30分） ※2コマ分		11			
4	・事前指導 8月上旬から中旬 ※2コマ分		12			
5	"		13			
6	・大津町「地蔵祭り」でのブース運営 8月下旬（23日と24日の予定 両日共に12時頃～20時頃）		14	・事後指導、振り返り 8月下旬 ※2コマ分		
7	交通費自己負担（参考 武蔵塚駅と肥後大津駅間往復 500円） ※4コマずつ、計8コマ分の見込み		15	・授業計画の日程等については、第1回の授業のオリエンテーション時に説明する。		
8	"					
関連科目	課題解決プロジェクト演習		連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F、第9研究室		
資格			オフィスアワー	田口（火 12:10～12:55、木 12:10～12:55） 北口（水 13:30～14:30、金 12:15～13:00） 宇野（火 11:00～12:00、木 12:15～13:00）		
教科書	特になし。		備考	大津町に関する視察「地蔵祭り」ブース運営についての企画、準備等があるので積極的に参加すること。		
参考資料	授業中適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
海外フィールドワーク	2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	後期	演習	MC 選択
授業概要	海外の協定校へのフィールドワークに参加し、プレゼン等積極的に関わり、所定の評価基準をクリアした学生に対して、「海外フィールドワーク」としての単位が認められます。今年度は慈済大学（台湾）を訪問します。今回の全体テーマは、台湾花蓮市内の観光地を巡り、日本人観光客の目線に立った場合の環境改善を考えます。受入先の学生との合同ワーク、合同プレゼンを行います。中国語力が高い方が効果的ですが、受入先は日本語ができる学生を想定していますので、基本的に中国語力は問いません。					
キーワード	海外、異文化体験					
到達目標	異文化理解の促進					
受講生に望む事	前向きな姿勢					
評価方法	授業に取り組む姿勢（30％） プレゼン＋レポート（70％）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9				
2	事前指導①	10				
3	事前指導②	11				
4	事前指導③	12				
5	フィールドワーク、合同グループワーク、合同プレゼン	13				
6		14				
7	夏季休暇中5日間程度	15				
8	費用：60,000円程度 ※その他の食費5,000円程度、海外旅行保険4,000円程度必要					
関連科目	各種中国語科目	連絡先	管理棟3F 第9研究室 wada@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィス ア ワ ー				
教科書		備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語表現論 I	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	1年	前期	講義	必修
授業概要	本講義は、正確にわかりやすく自分の意図を伝える文章作成スキルを磨くことを目的とする授業である。具体的には、文学的でない実用的な文章（お願い、謝罪、問い合わせ、チラシ、メニューなど）を作成しつつ、円滑なコミュニケーションを実現する日本語力を身につける。また、おりにふれ、架空の商品に対するキャッチコピーや字幕作成といった日本語技術についても解説する。					
キーワード	実用文、文章の組立・構成、配慮表現、日本語技術					
到達目標	1. 多様なジャンルにおいて、受け手を意識したわかりやすく正確な文章作成ができる。 2. インパクトのある日本語表現を作成できる。					
受講生に望む事	受身ではない受講態度を取ること。					
評価方法	ほぼ、すべての授業で提出物があるので、その提出物によって判断する（100％）。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	授業の説明	9	配慮表現 2			
2	お願いのメールの書き方	10	字幕を作り替える			
3	謝罪のメールの書き方	11	パンチラインを作る			
4	レストランのメニューを作成する	12	電話対応の日本語			
5	架空の商品に対するキャッチコピー作成する	13	SNSの日本語			
6	新製品のポスターを作成する	14	まとめ（実用日本語）1			
7	自己アピールする	15	まとめ（インパクトのある日本語）2			
8	配慮表現 1					
関連科目	スタディスキル I , II	連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本漢字能力検定試験 2 級・日本語検定試験 2 級取得をめざす	オフィス ア ワ ー				
教科書	ハンドアウトを配布する	備考				
参考資料	授業中指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語表現論Ⅱ	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	1年	後期	講義	必修
授業概要	日本語による基礎的な表現技術を学び、その知識の確実な定着を目的とする。特に、大学における学修に欠かせない2つの文章力（①事実を正確にかつわかりやすく説明する力、②論理的に自分の意見を述べる力）を身につけることに重点を置く。					
キーワード	文章表現、わかりやすい文章、論理的文章					
到達目標	・レポートや論文にふさわしい文体で書くことができるようになる ・事実を正確にわかりやすく説明できるようになる ・論理的に自分の意見を述べられるようになる					
受講生に望む事	自宅や授業中など随時使えるように辞書を用意しておくこと（電子辞書、単行本の辞書どちらでもよい）。わからない言葉の意味はその都度、辞書を引いて調べる。新聞や報道番組などに親しみ、日常会話で用いない用語や表現に注意を払う習慣をつけてほしい。					
評価方法	授業内課題（60%）と学期末レポート（40%）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	論理的に意見を述べる（1）			
2	話しことばと書きことば	10	論理的に意見を述べる（2）			
3	敬語	11	レポートの書き方（1）レポートの構成			
4	手紙とEメール	12	レポートの書き方（2）情報の集め方			
5	わかりにくい文の直し方（1）あいまいな文、わかりやすい語順	13	レポートの書き方（3）参考文献の書き方、引用の仕方			
6	わかりにくい文の直し方（2）長い文を分ける	14	レポートの書き方（4）体裁・書式			
7	わかりにくい文の直し方（3）文のねじれ	15	まとめ			
8	わかりにくい文の直し方（4）接続表現					
関連科目		連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	秘書士、上級秘書士	オフィス アワー				
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』、安部朋世、他 編著、三省堂	備考				
参考資料	『日本語表現法 改訂版』、沖森卓也 他編、三省堂 など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語基礎Ⅰ：竹下	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	前期	演習	MC 必修 JL, JC 選択
授業概要	各ユニットのテーマとなる文法事項についての基本的な練習問題に取り組む。問題の解答・解説には十分な時間をかけ、必要に応じてプリント等を配付して理解を深める。					
キーワード	基礎、リメディアル					
到達目標	英語学習の初期段階で学ぶ文法項目を充分理解する。					
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わずに、英語を一から学び直すつもりで取り組むこと。					
評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	Unit 6: 基本動詞の変身スタイルを探ろう 1			
2	Unit 1: 英文と日本語の構成の違いを発見しよう	10	Unit 7: 「それは」と訳さない it と「そこ」と訳さない there			
3	"	11	Unit 8: 「動詞-ing」の働きを知ろう 1			
4	Unit 2: 「品詞」って何?	12	"			
5	"	13	Unit 9: 修飾語句の働きを知ろう 2			
6	Unit 3: 基本動詞を含む英文を理解しよう 1	14	"			
7	Unit 4: 基本動詞を含む英文を理解しよう 2	15	Unit 10: 基本動詞の変身スタイルを探ろう 2			
8	Unit 5: 修飾語句の働きを知ろう 1	16	定期試験			
関連科目		連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(楡木校地)			
資格		オフィス アワー				
教科書	Grammar Discovery センゲージ ラーニング 株式会社 2000円+税	備考				
参考資料	授業中、その都度紹介する。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅰ：田口		1	たぐち せいいち 田口 誠一	1年	前期	演習	MC 必修 JL, JC 選択	
授業概要	高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、練習問題や読解問題を課することにより、基礎的な英語力を定着させる。							
キーワード	読解力 (Reading Comprehension) 文法 (Grammar) 語彙 (Vocabulary)							
到達目標	基本的な文法項目の習得							
受講生に望む事	リメディアルの授業であるので、理解できないところがあれば積極的に質問してほしい。事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。予習としては、教科書の文法事項をよく読んで理解しておくことが望まれる。また、教科書よりも少しレベルが高い練習問題のプリントも配布するので、時間をかけて復習することも大切である。							
評価方法	定期試験の成績 (80%)、学習態度 (20%) で評価する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	Lesson 7 進行形			
2	Lesson 1 文型 (1)			10	Lesson 8 完了形 (1)			
3	Lesson 2 文型 (2)			11	Lesson 9 完了形 (2)			
4	Lesson 3 名詞			12	Lesson 10 助動詞 (1)			
5	Lesson 4 冠詞			13	Lesson 11 助動詞 (2)			
6	Lesson 5 代名詞 (1)			14	Lesson 12 態 (1)			
7	Lesson 6 代名詞 (2)			15	復習プリント			
8	復習プリント			16	定期試験			
関連科目	英語基礎Ⅱ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ			連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 楡木校地管理棟 3F 研究室 11			
資格				オフィスアワー	火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55			
教科書	Basic English Grammar with Short Readings (朝日出版社)			備考	最初の授業の時に説明しますが、英語演習Ⅰは2クラスに分かれます。自分のクラスが決定したのち教科書を購入してください。			
参考資料	授業中に適宜指示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅱ：竹下		1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	後期	演習	MC 必修 JL, JC 選択	
授業概要	各ユニットのテーマとなる文法事項についての基本的な練習問題に取り組む。問題の解答・解説には十分な時間をかけ、必要に応じてプリント等を配付して理解を深める。							
キーワード	基礎、リメディアル							
到達目標	英語学習の初期段階で学ぶ文法項目を充分理解する。							
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わず、英語を一から学び直すつもりで取り組むこと。予習・復習には十分な時間をかけることを忘れずに。							
評価方法	100% 定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	Unit 11: 否定文・疑問文を使って表現しよう			9	Unit 17: [動詞-ing] の働きを知ろう 2			
2	Unit 12: 話し手の心理を表現しよう			10	"			
3	"			11	Unit 18: 過去分詞の働きを知ろう			
4	Unit 13: 形容詞・副詞を変身させて表現しよう			12	"			
5	Unit 14: 英文をつなぎ合わせて長い文を作ろう			13	Unit 19: 幅のある時制を知ろう			
6	"			14	"			
7	Unit 15: [to+動詞の原形] の働きを知ろう 1			15	Unit 20: 名詞を修飾する文の働きを知ろう			
8	Unit 16: [to+動詞の原形] の働きを知ろう 2			16	定期試験			
関連科目				連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：大学1号館2階 (楡木校地)			
資格				オフィスアワー				
教科書	Grammar Discovery センゲージ ラーニング株式会社 2000円+税			備考				
参考資料	授業中、その都度紹介する。							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅱ：田口	1	たぐち せいいち 田口 誠一	1年	後期	演習	MC 必修 JL, JC 選択	
授業概要	高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、練習問題や読解問題を課することにより、基礎的な英語力を定着させる。						
キーワード	読解力 (Reading Comprehension) 文法 (Grammar) 語彙 (Vocabulary)						
到達目標	基本的な文法項目の習得						
受講生に望む事	リメディアルの授業であるので、理解できないところがあれば積極的に質問してほしい。事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。予習としては、教科書の文法事項をよく読んで理解しておくことが望まれる。また、教科書よりも少しレベルが高い練習問題のプリントも配布するので、時間をかけて復習することも大切である。						
評価方法	定期試験の成績 (80%)、学習態度 (20%) で評価する。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	Lesson 13 態 (2)			9	Lesson 20 比較 (1)		
2	Lesson 14 不定詞 (1)			10	Lesson 21 比較 (2)		
3	Lesson 15 不定詞 (2)			11	Lesson 22 関係詞 (1)		
4	Lesson 16 分詞 (1)			12	Lesson 23 関係詞 (2)		
5	Lesson 17 分詞 (2)			13	Lesson 24 仮定法 (1)		
6	Lesson 18 動名詞 (1)			14	Lesson 25 仮定法 (2)		
7	Lesson 19 動名詞 (2)			15	復習プリント		
8	復習プリント			16	定期試験		
関連科目	英語基礎Ⅰ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ			連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen. ac. jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11		
資格				オフィスアワー	火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55		
教科書	Basic English Grammar with Short Readings (朝日出版社)			備考	前期の教科書を継続して使います。		
参考資料	授業中に適宜指示する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
中国語基礎Ⅰ	1	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	前期	演習	選択	
授業概要	中国語は発音が非常に重要で「発音よければ半ばよし」と言われるほどです。発音のちょっとした違いで意味が全く異なることもあります。日本人は漢字を理解できるため、中国語に入り込みやすい反面、発音が難解であるため、発音で挫折する場が少なくありません。そこで、この講義では最初で最大のハードル「発音」をクリアすることを重点に置いて実施します。						
キーワード	中国語、発音						
到達目標	・中国語の発音を一通りマスターすること ・発音記号の「ピンイン」をマスターすること						
受講生に望む事	・語学習得は予習・復習必須です。徹底しないとすぐに置いていかれます。 ・この授業は発音中心です。中国語ⅠA (文法中心) の同時受講をお勧めします。						
評価方法	学期末テストと小テスト (70%) と受講態度 (取り組む姿勢等) (30%) で評価します。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	講義計画、中国語について			9	声調変化		
2	単母音			10	総合トレーニング (1)		
3	複母音			11	総合トレーニング (2)		
4	鼻母音			12	総合トレーニング (3)		
5	子音 (1)			13	総合トレーニング (4)		
6	子音 (2)			14	総合トレーニング (5)		
7	声調			15	まとめ		
8	音節						
関連科目	中国語ⅠAも同時に受講することが望ましい。			連絡先	Email : wada@shokei-gakuen. ac. jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室		
資格	中国語検定試験準四級			オフィスアワー			
教科書	荒川清秀『読めて書ける中国語』(NHK出版)			備考			
参考資料	推奨辞書：『中日辞典』(小学館)、『講談社中日辞典』(講談社)						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語基礎Ⅱ	1	北口 英穂 <small>きたぐち ひでほ</small>	1年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き発音を重点におこないます。基本的な文法事項を確認しながら、発音練習を繰り返し、会話練習もおこなっていきます。					
キーワード	中国語、発音					
到達目標	・発音を聞き、ピンインと漢字（簡体字）を書き取れること ・簡単な会話ができること					
受講生に望む事	・語学習得は予習・復習必須です。徹底しないとすぐに置いていかれます。・次回の単語についての予習と、前回の単語、文法についての復習を行うこと。・授業で学習した文法事項や単語を使い、毎日1行日記を中国語で書くこと。					
評価方法	学期末テストと小テスト（70%）と受講態度（取り組む姿勢等）（30%）で評価します。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	前期の復習	9	時間詞、連動文			
2	「是」	10	動量詞、「过」			
3	「有」「都」	11	「能」「会」「可以」			
4	主語＋動詞＋目的語	12	比較			
5	「在」＋場所＋動詞	13	受身			
6	「喜？」	14	総合トレーニング（1）			
7	名詞述語文	15	総合トレーニング（2）			
8	「了」					
関連科目	中国語ⅠBも同時に受講することが望ましい。		連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室		
資格	中国語検定試験4級		オフィス ア ワ ー			
教科書	陳淑梅『読めて話せる中国語』（NHK出版）		備考			
参考資料	推奨辞書:『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語基礎Ⅰ	1	中川 明夫 <small>なかがわ あきお</small>	1年	前期	演習	選択
授業概要	「文字、基礎単語、あいさつ・自己紹介、基本的な文章ルール」を学び、韓国語によるコミュニケーションの特徴を把握しつつ、言語による意思疎通を可能にする表現の知識や言語生活で役立つ文化を学ぶ。					
キーワード	文字、基礎単語、あいさつ、自己紹介、基本的な文章ルール、コミュニケーションの特徴					
到達目標	・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。					
受講生に望む事	日頃、見慣れないハングル文字に戸惑うかも知れませんが、思ったより簡単にマスターできます。新しいスタートラインに立った、新鮮な気持ちで学んでください。【事前学習】・学習する箇所を予習してください。・質問する内容を考えておいてください。【事後学習】・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。					
評価方法	試験（80%）、レポート（20%）を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介	9	レッスン3 「～が（～가/이）」、「～と（～와/과）」・～の（～의）」			
2	ハングル文字を覚えようー母音、あいさつ言葉1	10	レッスン4 「～の上・下・横・前」、「いる・ない（있다・없다）」			
3	ハングル文字を覚えようー子音音、あいさつ言葉2	11	レッスン4 場所・方向・位置の表現			
4	ハングル文字を覚えようーパッチム（終音）、あいさつ言葉3	12	レッスン5 曜日・値段を表す表現、「～をください（～를/을 주세요）」			
5	レッスン1 人を表す言葉、「～は（는/은）」	13	レッスン5 年・月・日を表す表現			
6	レッスン2 「～です（～입니다）・～ですか（～입니까?）」、自己紹介	14	レッスン6 「～ます・です（～합니다/습니다）」1			
7	レッスン2 「～ではありません（가/이 아닙니다）」	15	レッスン6 「～ます・です（～합니다/습니다）」2			
8	レッスン3 「こそあど（이 그 저 어느）」、何ですか「무엇입니까?」					
関連科目	韓国語基礎Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ		連絡先	E-mail: akio@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス 管理棟3F 研究室2		
資格	各種の韓国語検定試験		オフィス ア ワ ー			
教科書	中川明夫、『スタート！韓国語1』、自作教材		備考			
参考資料	補足プリント、映像資料など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語基礎Ⅱ	1	柳 景沃 <small>りゅうきんわく</small>	1年	後期	演習	選択
授業概要	習得した基本単語と基本的な文章ルールを生かした応用会話ができる語学・文化力を習得する。特に、韓国語の習得でもっとも大事な「動詞・形容詞を使った文章」の作り方を学んで、自分の言いたい内容が言えるように練習する。希望者は「韓国語スピーチ大会」への参加、「ハングル能力試験」などの検定試験の受験にチャレンジしてみる。					
キーワード	応用会話、語学・文化力、動詞・形容詞を使った文章					
到達目標	・会話でよく使う結びの表現が作れ、言えるようにする。 ・ネイティブスピーカーの話が理解できるようにする。 ・日韓交流で通用する「言語的・文化的」なマナーを理解する。					
受講生に望む事	韓国語の学習でとても大事な文章を結ぶ表現をマスターすれば、韓国語の表現力が大幅にアップします。ゆっくり、かつ、着実に用言の活用を学んでください。 [事前学習] ・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 [事後学習] ・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。					
評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介	9	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(3)			
2	レッスン7 「～ます・です(～합니다/습니다)」(1)	10	まとめ			
3	レッスン7 「～ます・です(～합니다/습니다)」(2)	11	レッスン9 「～て・ています」(1)			
4	レッスン7 「～ます・です(～합니다/습니다)」(1)	12	レッスン9 「～て・ています」(2)			
5	まとめ	13	レッスン10 「～ました・でした(～ /있어요)」(1)			
6	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(1)	14	レッスン10 「～ました・でした(～ /있어요)」(2)			
7	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(2)	15	まとめ			
8	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(3)					
関連科目	韓国語Ⅱ、韓国語基礎Ⅰ、日本語教育		連絡先			
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員資格試験		オフィス アワー			
教科書	中川明夫、『スタート！韓国語』、自作教材		備考	韓国語Ⅰまたは韓国語基礎Ⅰの履修者、韓国語初級レベルの知識を持っている者、韓国語関係の検定資格(初級以上)を持っている者の履修が望ましい。		
参考資料	補足プリント、映像資料など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
比較文化入門 (3年生以上対象)	2	田口 誠一 <small>たくち せいいち</small>	1年	前期	講義	AAコース必修 他コース選択必修
授業概要	日本人としての立場を踏まえた上で、外国の文化と比較するためのテーマや方法を考察し、比較文化研究の基礎をつくる。特に世界13カ国に関する基礎的な知識を身につけ、日本の文化や歴史との差異に注目する。					
キーワード	文化(Culture) 慣習(Custom) 宗教(Religion)					
到達目標	・比較文化への興味を高めること ・日本と外国との文化的相違への理解 ・視聴覚教材等を通しての英語力の養成					
受講生に望む事	事前(2時間)・事後(2時間)を学修時間の目安とする。予習としては授業で扱う国について調べてくること が望まれる。また、英文読解には時間をかけて復習をしてほしい。					
評価方法	レポート等課題(70%)、学習態度(30%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	比較文化について	9	デンマーク			
2	インド	10	ポルトガル			
3	フィリピン	11	トルコ			
4	タイ	12	エジプト			
5	ベトナム	13	南アフリカ			
6	韓国	14	ブラジル			
7	フランス	15	まとめ			
8	イタリア					
関連科目	日米比較文化論		連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen. ac. jp 楡木校地管理棟 3F 研究室 11		
資格			オフィス アワー	火曜 12:10～12:55 木曜 12:10～12:55		
教科書	プリントを配布する。		備考			
参考資料	世界比較文化辞典(マクミランランゲージハウス)など多数あり。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文学研究概論		2	たけだ 武田 昌憲 かわだ 河田 和子 ふくなが 福永 美佳	2年	前期	講義	JL 必修 他コース選択
授業概要	<p>(武田 1-5回) 日本古典文学研究における様々な方法や、注意事項を確認して行く。ひと口に古典研究と言っても書誌学あり、民俗学ありの幅広い研究方法がある。千数百年に及ぶ継続した歴史を持つ古典の宿命を含めて概説する。研究文献資料も合わせて配布する。</p> <p>(河田 6-10回) 近代日本において〈文学〉という言葉＝概念は、明治期に西洋の文学や思想が入ってくることで成立する。その歴史的経緯を踏まえながら、近現代の文学を研究するにあたり必要な基本的知識、研究資料や研究方法について概説する。</p> <p>(福永 11-15回) 福永担当の5回では、漢文学（中国古典文史哲）分野におけるさまざまなテキスト分析方法のうち、日本文学と中国文学のテキストを使ったテキストクリティックの研究法などを解説する。</p>						
キーワード	<p>(武田) 諸本 文献 版本 (河田) 芥川賞 直木賞 菊池寛 文芸春秋 (福永) 日中比較文学研究『聊齋志異』芥川龍之介</p>						
到達目標	<p>古典におけるテキスト研究の方法を知る。 卒業論文作成のためにどのようなテキスト分析を用いるか考え始める。 漢文学分野におけるテキスト研究の方法を知る。</p>						
受講生に望む事	<p>いろいろな分野の研究方法を理解してもらいたい。 事前に配布プリントを読んでおくこと。 蒲松齡と芥川の「酒虫」を比較し、自分の考えをまとめる。</p>						
評価方法	<p>(武田) 授業態度・教場レポート 30 点分 (河田) 30 点分を授業態度（小レポートも含む 10%）と課題レポート（90%）で評価。 (福永) 授業態度及びレポート（40 点分）</p>						
回	授業計画						
1	古典文学研究の宿命と魅力 諸本・書承関係 平家物語を一例として						
2	書誌学・文献学 記録の仕方						
3	解釈学と注釈書類 中世・近世の学問と考証学						
4	版本 古活字・製版本						
5	比較文学と歴史社会学 研究に当たっての諸注意 まとめ						
6	ガイダンス 文学とは？ 研究とは？						
7	日本近代文学の誕生 〈文学〉という概念、ジャンルについて						
8	純文学と大衆文学という区分 芥川賞と直木賞、菊池寛						
9	文学研究の資料について 事典類、全集等の活用方法						
10	テキストの改稿について 井伏鱒二「山椒魚」を例に						
11	論文とは何か						
12	論文の書き方						
13	芥川龍之介「酒虫」をよむ						
14	蒲松齡「酒虫」をよむ						
15	研究の進め方とまとめ						
関連科目							
資格							
教科書	(武田・河田・福永) プリント配布 『日本文学概論』井上豊著（1年の時使用）						
参考資料	(河田) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』全六巻（講談社）他の参考資料については、授業で紹介する。 (福永) 蒲松齡作 / 柴田天馬訳『ザ・聊齋志異』（第三書館）、蒲松齡作 / 立間祥介編訳『聊齋志異』（岩波文庫）、新堀聰『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』（同文館出版）など。						
連絡先	(武田) takeda@shokei-gakuen.ac.jp (河田) kawada@shokei-gakuen.ac.jp (福永) fuyong@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィス アワー							
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
創作鑑賞Ⅱ	2	あとかみ 跡上 史郎	2年	前期	演習	選択必修
授業概要	今神奈川県近代文学館と漫画『文豪ストレイドッグス』がコラボレーションするなど、「文豪」が注目されています。もちろん漫画の文豪は実際とは大きく異なるデフォルメがされていますが、漫画を入りに、近代文学の有名な文豪に親しむことができるならば、それは素晴らしいことに違いありません。漫画のキャラクターとなった文豪と、実際の文豪を比べながら、近代文学の名作を鑑賞しましょう。					
キーワード	文豪、ポップカルチャー					
到達目標	図書館の資料を活用して、文豪に関するエピソードや、有名な作品を解説できるようになる。					
受講生に望む事	早めに発表準備にとりかかり、準備に行き詰まる前に相談するようにしてください。					
評価方法	発表準備過程(60%)と、他の発表者への評価用紙の作成および期限内の提出(40%)。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス	9	太宰治はどれぐらいすごい文豪か2			
2	夏目漱石はどれぐらいすごい文豪か1	10	太宰治はどれぐらいすごい文豪か3			
3	夏目漱石はどれぐらいすごい文豪か2	11	その他の文豪1			
4	夏目漱石はどれぐらいすごい文豪か3	12	その他の文豪2			
5	芥川龍之介はどれぐらいすごい文豪か1	13	その他の文豪3			
6	芥川龍之介はどれぐらいすごい文豪か2	14	その他の文豪4			
7	芥川龍之介はどれぐらいすごい文豪か3	15	その他の文豪5			
8	太宰治はどれぐらいすごい文豪か1					
関連科目		連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー	オフィスアワーはありません。			
教科書	適宜プリント配布	備考	授業の前後の時間等で相談に応じます。			
参考資料	朝霧カフカ・春河 35『文豪ストレイドッグス』(KADOKAWA) 文豪失格 <a href="http://j-nbooks.jp/comic/original.php?oKey=16">http://j-nbooks.jp/comic/original.php?oKey=16</a>					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習Ⅰ	2	たけだ 武田 昌憲	2年	後期	演習	JL 選択必修
授業概要	前期で履修した文学研究概論を踏まえて、実際に演習形式で学問領域の一端に触れていきたい。基本的に日本文学の全時代を視野に入れ、また韻文・散文の違いも意識してその対処方法を検討していく。その中で研究の基礎固めをしていく。					
キーワード	基礎研究 作品論 作者論 文学研究 古事記 方丈記 奥のほそみち 芥川龍之介 司馬遼太郎 金子みすゞ 種田山頭火					
到達目標	基礎的な文献研究ができること。積極的かつ自由に意見を述べ合う土台を構築する。与えられた基礎テーマを自分なりに分析し発表できる。卒業論文の作成に向けたテーマを徐々に絞ることができる。					
受講生に望む事	毎時間作品を読んでくること。毎時間の積極的な質疑応答を期待します [事前学修] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと					
評価方法	演習発表及び授業態度(50%)、後期試験(レポート提出)(50%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	はじめに 導入 演習割り当て	9	古事記を調べて発表する(1)。作品論			
2	方丈記を読んでみる。作者論	10	古事記を調べて発表する(2)。作品論			
3	方丈記を調べて発表する(1)。作品論 仏教思想	11	司馬遼太郎の作品を読んでみる。作者について発表する			
4	方丈記を調べて発表する(2)。作品論	12	『竜馬がゆく』について発表する。長編作品論の対応			
5	奥のほそみちを読んでみる。作者論	13	芥川龍之介について発表する。作者論と作品論 散文の場合			
6	奥のほそみちを調べて発表する(1)。作品論	14	金子みすゞについて発表する。作者論と作品論 韻文の場合			
7	奥のほそみちを調べて発表する(2)。作品論	15	種田山頭火について発表する。移動作者の場合			
8	古事記を読んでみる。成立論	16	レポート提出			
関連科目	文学研究概論 日本文学概論	連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	プリント配布	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
専門基礎演習Ⅱ	2	かわだ 和子 河田 和子	2年	後期	演習	JL 選択必修	
授業概要	文学作品をもとにそれぞれが調査し、考察したことを発表する。先行論文や作家、作品に関わる様々な資料を集め、それらを整理しながら作品を分析し、まとめる力を身につける。						
キーワード	作品論 作家論 テキスト 全集 事典 先行論文						
到達目標	・文学研究の基本的な方法を習得する。 ・自分の意見をまとめ、発表するプレゼンテーション能力を身につける。						
受講生に望む事	発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望みます。それぞれ担当作品を決めて、個人発表をしてもらいますので、きちんと準備しておくこと。 【事前学習】 事前にテキストの作品を読んでくること。※発表担当者は、発表内容をまとめ、レジメを作成すること。 【事後学習】 発表担当者のレジメを読み直して、質問や意見を言えるようにしておくこと。						
評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など20%）、発表（レジメの作成も含む80%）						
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス① 研究の方法・担当作品について			8	発表3		
2	ガイダンス② 資料の調査の仕方 図書館の資料、インターネット上の資料の注意点			9	発表4		
3	ガイダンス③ 文学辞典の利用の仕方			10	発表5		
4	ガイダンス④ 先行文献の探し方			11	発表6		
5	ガイダンス⑤ 発表の方法、レジメの作成について			12	発表7		
6	発表1			13	発表8		
7	発表2			14	発表9		
				15	まとめ		
関連科目				連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書				備考			
参考資料	参考書類は、授業のガイダンスで紹介する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
専門基礎演習Ⅲ	2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	後期	演習	JL 選択必修	
授業概要	指定する書籍および論文をよみ、まとめる。毎授業で扱う資料についてはこちらで用意し、担当者に発表してもらおう。担当者は論文を読み、要約したものをレジメにまとめる。そのほかの学生は、疑問点や自分の意見について授業中に述べる。						
キーワード	発表、議論						
到達目標	論文を批判的によみ、それについて解説したり、自分の意見を述べたりできるようになること。						
受講生に望む事	発表担当者は事前にレジメを作成すること。そのほかの学生は、該当論文を批判的に読み、自分の意見を持って授業に参加すること。						
評価方法	発表およびレポートで100%						
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	演習		
2	演習			10	演習		
3	演習			11	演習		
4	演習			12	演習		
5	演習			13	演習		
6	演習			14	演習		
7	演習			15	まとめ		
8	演習						
関連科目	漢文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	特に無し。			オフィスアワー	火曜：昼休み 金曜：昼休み		
教科書	特に無し。			備考			
参考資料	特に無し。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習Ⅳ	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	2年	後期	演習	JL 選択必修
授業概要	卒業論文を書くためのスキルを身につける。					
キーワード	方言学, 日本語文法, カルチュラル・スタディーズ					
到達目標	当該分野の文献を読むだけの基礎的教養を身につける。					
受講生に望む事	後半, 発表形式で進むのできちんとしたプレゼンを提供できるよう準備すること。					
評価方法	プレゼンの内容によって評価する (100%)。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	日本語学2 (熊本方言のアスペクト)			
2	マンガ研究1 (コマ割り・歴史)	10	言語学 (文法化)			
3	マンガ研究2 (記号)	11	日本語教育学1 (バイリンガリズム)			
4	映画研究1 (歴史)	12	日本語教育学2 (教授法)			
5	映画研究2 (古典ハリウッド映画の手法)	13	参加者による発表1			
6	ジェンダー研究1 (少女の誕生)	14	参加者による発表2			
7	ジェンダー研究2 (ミソジニー・ホモソーシャル)	15	参加者による発表3			
8	日本語学1 (配慮表現)					
関連科目		連絡先				
資格		オフィスアワー				
教科書	使用しません。	備考				
参考資料	授業中指示します。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学講義Ⅰ	2	もり まさと 森 正人	2年	後期	講義	JL 必修 他コース選択
授業概要	日本の古代・中世における異境(異郷)をめぐる文学について、「ここではない世界」に向けられる日本人の視線と想像力、及び反転して「今、ここ」を見つめる心情を、説話、和歌、物語の作品本文に即して読み解き、古代・中世人の世界観と表現方法を分析します。					
キーワード	古代、中世、世界観、異境、異郷、現世、想像力、表現					
到達目標	1、古代・中世日本人の世界観と想像力を理解します。 2、古代・中世文学作品について幅広い知識を習得します。					
受講生に望む事	講義を聴きながらノートを取り、知識を整理して習得することを期待します。					
評価方法	学期途中の小テスト(20%) 及び学期末の試験(80%)により評価します。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	異境訪問と異人來報	9	源氏物語と長恨歌(2) - 「幻」巻			
2	浦島説話の展開(1) - 日本書紀・丹後国風土記・万葉集	10	浜松中納言物語における唐土			
3	浦島説話の展開(2) - 漢文浦島子伝と歌学書	11	浜松中納言物語における転生			
4	浦島説話の展開(3) - 御伽草子「浦島太郎」	12	寝覚物語における天人降下の夢			
5	竹取物語の構成	13	寝覚物語の主人公(女君)の運命とかぐや姫			
6	竹取物語におけるかぐや姫の罪	14	今昔物語集における天竺・震旦			
7	竹取物語における天界と地上の価値	15	今昔物語集における日本の隠れ里説話			
8	源氏物語と長恨歌(1) - 「桐壺」巻					
関連科目	日本古典文学史Ⅰ、Ⅱ	連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	プリントを配布します。	備考				
参考資料	授業中に紹介します。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学講読Ⅰ	2	たけだ まさのり 武田 昌憲	2年	前期	演習	JL 必修 JC 選必, MC 選択
授業概要	『平家物語』の人間の様々な生きざまを間接経験していきます。本作品は『源氏物語』等の平安王朝の優美さと、鎌倉武士の勇壮さ・悲愴さを併せ持ち、琵琶法師が語り継いだ国民文学です。同時に軍記の進化発展と本作品の位置・中世の女性の魅力等をみていきます。同時に、NHK大河ドラマ『平清盛』『八重の桜』『軍師官兵衛』『花燃ゆ』等についても所々で解説して行く予定です。その話題によって授業計画がずれることがあります。					
キーワード	平家物語 無常観 軍記物語 中世文学					
到達目標	軍記物語の流れが理解できる。中世の男女、様々な人々の暮らしや立場・心理が理解できる。作品の読解が出来る。					
受講生に望む事	大河ドラマを出来る限り視聴してほしい。 【事前学修】事前に本文をよく読んでおくこと。旧字体、旧仮名遣いに慣れておくこと。 難字、難読は事前に調べておくこと。指名して読ませるので、準備しておくこと。 【事後学修】講義内容は整理しておくこと。					
評価方法	授業態度・質疑応答・教場レポート 50% 前期末試験 50%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	始めに 軍記物語の定義。『将門記』の特徴の確認	9	妓王Ⅱ	国際社会と清盛権力者の横暴		
2	『陸奥話記』の特質 『今昔物語』の武士	10	妓王Ⅲ	母の教訓		
3	前九年・五三年の役、院政期	11	妓王Ⅳ	出家と往生 女性は救われるか		
4	『保元物語』の特質の確認と清盛の活躍	12	俊寛Ⅰ	硫黄島の位置と国際性		
5	『平治物語』の特質の確認と清盛の活躍	13	橋合戦Ⅰ	僧兵の面白さ		
6	『平家物語』の特質と成立、読み・語り	14	橋合戦Ⅱ	競技としての合戦		
7	祇園精舎と無常観 序の思想	15	橋合戦Ⅲ	英雄		
8	妓王Ⅰ 白拍子と遊女 (あそびめ)					
関連科目	日本古典文学講読Ⅱ	連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	教職 中学・高校「国語」取得の学生は必ず受講すること。	オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『平家物語』上下二冊 (角川文庫) 各 700 円 ISBN04-400702-0C0193	備考				
参考資料	新日本古典文学大系『源氏物語』、新編日本古典文学全集『源氏物語』					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学講読Ⅱ	2	たけだ まさのり 武田 昌憲	2年	後期	演習	JL 必修 JC 選必, MC 選択
授業概要	前期に引き続いて『平家物語』を講読します。平家滅亡一滅びの美学を感得してください。特に後期は『平家物語』の後半を中心に講読。また、時間が許す限り、後の軍記(『太平記』等)についても九州と関わらせて解説して行く予定です。なお、大河ドラマ(花燃ゆ・真田丸)の進行状況・話題によっては授業計画がずれることがあります。					
キーワード	平家物語 無常観 源平 那須与一 源義経					
到達目標	軍記物語の流れが理解できる 登場人物の心理や背景が理解できる 作品の読解が出来る					
受講生に望む事	出来る限り大河ドラマを視聴してもらいたい。 【事前学修】毎回、次回の文章を熟読しておくこと。難しい語句は事前に調べておくこと。 歴史的背景については事前に調べておくこと。基本的質問に答えられること。 【事後学修】重要事項の整理を行うこと。次回の質問を考えること。ノート整理をしておくこと。					
評価方法	授業態度・質疑応答(教場レポート含む) 50% 期末試験(レポート) 50%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	はじめに 中世軍記の世界	9	那須与一Ⅰ			
2	木曾最期Ⅰ	10	那須与一Ⅱ			
3	木曾最期Ⅱ	11	壇の浦合戦			
4	木曾最期Ⅲ	12	先帝入水			
5	一の谷の合戦	13	その後の軍記一『太平記』の世界Ⅰ			
6	敦盛最期	14	その後の軍記一『太平記』の世界Ⅱ			
7	義経の魅力Ⅰ	15	戦国軍記と島原の乱 まとめ			
8	義経の魅力Ⅱ	16	試験			
関連科目	日本古典文学講読Ⅰ	連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	教職 中学・高校「国語」取得の学生は必ず受講すること。	オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『平家物語』上下二冊 (角川文庫) 各 700 円 ISBN 04-400702-0C0193	備考				
参考資料	『平家物語』上下二冊 (角川文庫) 各 700 円 ISBN04-400702-0C0193					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学史Ⅱ	2	かわだ かずこ 河田 和子	2年	前期	講義	JL 必修 他コース選択
授業概要	日本の近現代文学を読み解くための理論、方法論について概説し、作品を分析するための様々な観点・手法を学ぶ。夏目漱石、樋口一葉、小林多喜二、横光利一、石川啄木、中原中也など主要な作家の小説や詩歌を取り上げ、様々な文学理論、方法論に基づく読みのありようを見ていく。作品や文学理論の背後にある文化的、社会的問題にも着目し、幅広い視点から〈文学〉を読むことの意味を考える。					
キーワード	作者と読者 表現 新聞・雑誌メディア 映画的手法 童心主義 ジェンダー					
到達目標	・近現代文学に関する基本的な知識と方法論を学ぶ。 ・文学を読み解く上で、様々な観点や文学理論（批評理論）があることを理解する。 ・文学とその背後の文化、社会的問題、思想との関わりを理解し、幅広い思考力を身につける。					
受講生に望む事	事前に配布プリントの資料に目を通しておくこと。 授業内容について復習し、作品に関する感想を書けるようにしておくこと。					
評価方法	授業態度（授業時の小レポートなど10%）、学期末レポート（90%）					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	児童文学の童心主義 鈴木三重吉と「赤い鳥」		
2	近現代文学における作者の問題		10	文学と映画の関係 新感覚派とプロレタリア文学		
3	作者の意図 森鷗外「高瀬舟」のテーマ		11	横光利一「蠅」の映画的手法		
4	読者の問題 夏目漱石『こころ』の読みをめぐる		12	小林多喜二「蟹工船」		
5	新聞・雑誌メディアと文学		13	蟹工船ブームについて・映画「蟹工船」と原作の比較		
6	朝日新聞社と漱石・石川啄木		14	詩の言語と音楽性 中原中也の詩		
7	文学とジェンダー（文化的性差）		15	まとめ		
8	女性の視点 樋口一葉「にぎりえ」					
関連科目	日本近現代文学史Ⅰ		連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー			
教科書			備考			
参考資料	石原千秋・木股知史・小森陽一・他『読むための理論－文学・思想・批評』世織書房 他の参考資料は、授業で紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学講義Ⅰ	2	かわだ かずこ 河田 和子	2年	後期	講義	JL 必修，他コース選択
授業概要	明治、大正、昭和期から現代までの、純文学作家のミステリー小説を鑑賞する。ここでいう「ミステリー」とは広義に解しており、〈探偵小説〉に限らず、人間心理の謎や不可思議に迫るものも含む。人の心に潜む問題がどのように捉えられているのか、それぞれの作家の認識の仕方と表現の特徴について考察する。小説の背後にある社会的・文化的現象や、日本で探偵小説が登場した歴史的経緯についても見ていく。					
キーワード	夏目漱石 久米正雄 芥川龍之介 大岡昇平 村上春樹 探偵小説					
到達目標	・小説を読むことを通して、人間の心の深層について考える。 ・各作家の心に対する認識の仕方と表現の特徴について理解する。 ・文学において虚構とは何かを考える。					
受講生に望む事	授業に積極的に参加するという態度をもって臨んでほしい。 【事前学習】 ・次回対象とする作品について、必ずテキストや配布プリントを読んでおくこと。 ・分からない言葉の意味などは、辞書を引いて調べておくこと。 【事後学習】 ・授業内容について復習し、質問や作品に関する感想を書けるようにしておくこと。					
評価方法	授業態度（授業時の課題、小レポートなど30%）、学期末レポート（70%）。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	黒澤明監督「羅生門」（映画）鑑賞・「藪の中」との比較		
2	夏目漱石「琴のそら音」① 心理学者とオカルトブーム		10	日本の探偵小説とエドガー・アラン・ポーの影響		
3	「琴のそら音」② 非日常の世界と神経		11	大岡昇平「真昼の歩行者」① 大岡の探偵小説批評		
4	「琴のそら音」③ 漱石の文明開化批判		12	「真昼の歩行者」② 科学と探偵		
5	久米正雄「嫌疑」① 作品の背景と神経病		13	村上春樹「鏡」① ドッペルゲンガーのモチーフ		
6	「嫌疑」② 人間心理のミステリー		14	「鏡」② 無意識と〈鏡〉		
7	芥川龍之介「藪の中」① 今昔物語の素材		15	まとめ		
8	「藪の中」② 語りの相対性					
関連科目			連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー			
教科書	山前謙 編『文豪のミステリー小説』（集英社文庫）		備考			
参考資料	参考資料は、授業で適宜紹介する。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本近現代文学講読Ⅰ		2	かわだ かずこ 河田 和子	2年	前期	演習	JL必修 JC選必, MC選択	
授業概要	宮沢賢治の詩や童話を鑑賞し、その表現世界について検討する。前半は、法華信者、農学校教師、農業指導者でもあった宮沢賢治の多様な側面に着目し、詩や童話との関わりを見ていく。後半は、「銀河鉄道の夜」を精読し、賢治の自然観や死生観について考察する。詩や童話の表現の特徴に着目しながら、映像メディアとの比較考察も行う。							
キーワード	宮沢賢治、仏教、童話、死生観							
到達目標	・賢治の詩や童話の特徴、文学的表現に関する理解を深め、しなやかな感性を養う。 ・多角的な視点から物事を捉える思考力を身につける。 ・映画（映像）と小説（活字）の表現手法の相違についても考える。							
受講生に望む事	必ず事前にテキストを読んでおくこと。 授業内容について復習し、作品に関する感想を書けるようにしておくこと。							
評価方法	授業態度（授業時の課題、小レポートなど30%）、学期末レポート（70%）							
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	『銀河鉄道の夜』① 作品の背景、改稿の問題			
2	宮沢賢治という作家について			10	『銀河鉄道の夜』② 天文学と夢			
3	『心象スケッチ 春と修羅』 妹トシに関する詩「永訣の朝」			11	『銀河鉄道の夜』③ 「幻想第四次」の銀河鉄道			
4	『心象スケッチ 春と修羅』 「青森挽歌」など			12	『銀河鉄道の夜』④ ほんとうの幸い探しの問題			
5	「注文の多い料理店」① 童話集のモチーフ			13	映画『銀河鉄道の夜』鑑賞			
6	「注文の多い料理店」② 山猫の問題			14	『銀河鉄道の夜』の漫画・アニメにおける受容の問題			
7	「ビジタリアン大祭」① 菜食主義者と反菜食主義者			15	まとめ			
8	「ビジタリアン大祭」② 改宗の問題							
関連科目				連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー				
教科書	宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』（新潮文庫）			備考				
参考資料	参考資料は授業で随時紹介する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本近現代文学講読Ⅱ		2	かわだ かずこ 河田 和子	2年	後期	演習	JL必修 他コース選択	
授業概要	吉本（よしもと）ばななの小説「キッチン」と「ムーンライト・シャドウ」を精読する。作品背後の文化的、社会的現象との関わりに着目しながら、その表現の特徴、テーマについて考察する。小説におけるサブカルチャー（漫画や映画など）の影響関係についても考えていくつもりである。							
キーワード	吉本ばなな 文体 ボーダレス社会 サブカルチャー							
到達目標	・多角的な視点から、小説をより深く読み解く力を身につける。 ・小説の背後にある様々な文化的、社会的現象に着目し、幅広い視野を身につける。 ・登場人物の心理を読みとる洞察力と言葉に対する鋭い感性を養う。							
受講生に望む事	授業に積極的に参加するという態度をもって臨んでほしい。【事前学習】 ・次回の授業内容を予告しておくので、事前にテキスト（小説の該当箇所）を読んでくること。 ・分からない言葉の意味などは、辞書を引いて調べておくこと。【事後学習】 ・授業内容について復習し、質問や作品についての感想を書けるようにしておくこと。							
評価方法	授業態度（授業中の小レポートも含む 30%）、学期末レポート（70%）							
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	「満月 キッチン2」③ 光と影			
2	吉本（よしもと）ばななという作家について			10	映画「キッチン」（香港版）鑑賞・比較①			
3	海外の評価、台所の歴史			11	映画「キッチン」（日本版）鑑賞・比較②			
4	「キッチン」① 文体の新しさ			12	「ムーンライト・シャドウ」① 恋人の〈死〉というモチーフ			
5	「キッチン」② 〈死〉と孤独の問題			13	「ムーンライト・シャドウ」② 川向こうの奇跡			
6	「キッチン」③ 「夢のキッチン」とは？			14	「ムーンライト・シャドウ」③ 現代版七夕物語			
7	「満月 キッチン2」① 食べる小説			15	まとめ			
8	「満月 キッチン2」② 満月の意味							
関連科目				連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー				
教科書	吉本ばなな『キッチン』角川文庫			備考				
参考資料	参考資料は授業で随時紹介する。							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国文学概説Ⅱ	2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	前期	講義	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	この講義は、1年後期開講「中国文学概説Ⅰ」にひきつづき、時代にそって代表作品を読みつつ解説する。					
キーワード	唐宋八大家、元曲、四大奇書、『紅樓夢』					
到達目標	それぞれの時代の代表的な作品や文体などの特徴を知り、中国文学に対する理解を深める。					
受講生に望む事	1年次後期開講「中国文学概説Ⅰ」より引き続き履修することが望ましい。					
評価方法	論述形式による課題（100％）で評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 中国文学史の枠組みについて		9	元③——雑劇「救風塵」		
2	五代宋金①——唐詩から宋詩へ		10	明①——古文辞派と反古文辞派		
3	五代宋金②——南宋の詩		11	明②——南戲：湯顯祖と『還魂記』		
4	五代宋金③——唐宋八大家		12	明③——『西遊記』の成立		
5	五代宋金④——宋詞：柳永		13	清①——詩文		
6	五代宋金⑤——瓦舍文化と語り物		14	清②——『紅樓夢』		
7	元①——中国演劇の発生		15	まとめ		
8	元②——元曲の構造					
関連科目	JLコースで漢文学（中国文史哲学）分野での卒業論文執筆を希望する者は、その他にも、「漢文学講義Ⅰ」「漢文学講義Ⅱ」などの漢文学関係諸科目を履修することが望ましい。		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	火曜 12:00～13:00 金曜 12:00～13:00		
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。		備考	教職課程「教科又は教職に関する科目」 高校一種（国語・書道）選択必修科目		
参考資料	前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会）、吉川幸次郎述／黒川洋一編『中国文学史』（岩波書店）、興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）、奥野信太郎著・村松暎編『中国文学十二話』（NHKブックス）、倉石武四郎『中国文学講話』（岩波新書）、田中謙二編訳『戯曲集』（平凡社）、田仲一成『中国演劇史』（東京大学出版会）、鈴木陽一編『中国の英雄豪傑を読む』（大修館書店）など。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学講義Ⅰ	2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	後期	講義	JL 必修 他コース選択
授業概要	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」よりも専門性の高い問題について考え、各トピックにしたがって順次解説する。また成立時期やジャンルの異なる中国の文学作品と比較する。					
キーワード	中国小説の成立					
到達目標	作品読解のために必要な知識を身につける。中国の小説がどのような過程を経て成立しているのか、を理解する。					
受講生に望む事	受講前に、授業で扱う予定の作品について内容をおさえてくること。受講後は、授業で扱ったいずれかの作品について通読すること。					
評価方法	課題（合計100％）で評価する。他に授業への積極的な参加状況を加味する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	中国の小説とは		9	伝奇発生の背景		
2	神話と伝説		10	「補江総白猿伝」		
3	虚構文学の伝統		11	「遊仙窟」		
4	史伝の小説的特徴		12	「任氏伝」		
5	六朝志怪		13	「李娃伝」と「鶯鶯伝」		
6	不思議な世界		14	中国小説の展開		
7	怪異について		15	まとめ		
8	志人小説					
関連科目	JLコースで漢文学（中国文史哲学）分野での卒業論文執筆を予定している者は、その他にも、漢文学関係諸科目、「日中比較文化論」「東アジア史Ⅰ・Ⅱ」などを履修することが望ましい。		参考資料	今村与志雄訳『唐宋伝奇集下』（岩波文庫）、竹田晃『中国小説史入門』（岩波書店）など。		
資格			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。		オフィスアワー	火曜 12:00～13:00 金曜 12:00～13:00		
			備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
漢文学講読Ⅰ		2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	前期	演習	JL 必修 JC 選必, MC 選択	
授業概要	漢文を読むために必要なさまざまな知識を身につけるとともに、中学・高校国語科における漢文教育の方法を具体的に考えることにより、教壇に立った際に、自信を持って漢文を教えられる力を養成する。							
キーワード	漢文訓読、漢文教育							
到達目標	訓点付きの基本的な漢文（散文）を正しく書き下し、解釈できるようになる。漢文の背景となる中国古典文化への理解を深める。							
受講生に望む事	予習復習を十分に行うことが望ましい。							
評価方法	小テストと課題（70点）に、平常点（十分な予習をしたうえでの授業への参加30点）を加味する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンスとアンケート、現段階での実力を知るための小テスト			9	講読⑦			
2	講読①			10	講読⑧			
3	講読②			11	講読⑨			
4	講読③			12	講読⑩			
5	講読④			13	講読⑪			
6	講読⑤			14	講読⑫			
7	講読⑥			15	まとめ			
8	ここまでの復習							
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ・Ⅱ」など、中国文学・漢文学関連科目。また学習到達目標達成のためには、後期開講「漢文学講読Ⅱ」を継続受講することが望まれる。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、今年度開講の講読科目に続けて、3・4年生開講の「漢文学演習Ⅰ～Ⅲ」を受講すること。			参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、森野繁夫ほか『漢文【まとめと要点】』（白帝社）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）、簡野道明補注『補注論語集註』（明治書院）、国学院大学中国文学研究室編『中国文学概説』（笠間書院）など。			
				連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級			オフィスアワー	火曜日 昼休み 金曜日 昼休み			
教科書	馬場武次郎『句形整理 基礎からわかる漢文』（日栄社）予習のために中型漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。			備考	教職課程「教科に関する科目」高校一種（国語）必修科目 教職課程「教科又は教職に関する科目」高校一種（書道）選択必修科目			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
漢文学講読Ⅱ		2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	後期	演習	JL 必修 JC 選必, MC 選択	
授業概要	前期「漢文学講読Ⅰ」にひきつづき、訓点（送りがなと返り点）付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈する練習を積み重ねる。後期は、散文だけでなく韻文（漢詩）もとりあげ、近体詩（律詩・絶句）の規則を詳しく学ぶ。後期の講読演習では、前半には経書・諸子・別集から論説の文章を、後半では唐宋の詩を題材として用いる。この授業は演習形式であり、毎回の授業へは十分な予習が必要である。							
キーワード	漢文訓読、漢詩、漢文教育							
到達目標	訓点付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。近体詩（律詩・絶句）を構成する韻律の規則を理解する。							
受講生に望む事	予習復習を十分に行うことが望ましい。毎授業で小テストを課すのでテスト範囲を自宅で学習してくること。							
評価方法	期末試験（70点）に、平常点（十分な予習をしたうえでの授業への参加30点）を加味する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンスと期末試験の解説			9	論説文⑧			
2	論説文①			10	論説文⑨			
3	論説文②			11	近体詩の規則①			
4	論説文③			12	近体詩の規則②			
5	論説文④			13	韻文①			
6	論説文⑤			14	韻文②			
7	論説文⑥			15	韻文③			
8	論説文⑦			16	試験			
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ」など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、今年度開講の講読科目に続けて、3・4年生開講の「漢文学演習Ⅰ～Ⅲ」を受講すること。			参考資料	馬場武次郎『句形整理 基礎からわかる漢文』（日栄社）、田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）など。予習のために中型漢和辞典が必要。			
				連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級			オフィスアワー	火曜 12:00～13:00 金曜 12:00～13:00			
教科書	指定しない。			備考	教職課程「教科又は教職に関する科目」 高校一種（国語・書道）選択必修科目			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語文法	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	2年	前期	講義	JL, MC 選必 JC 選択
授業概要	本講義では、教科書に基づき日本語文法を中心に学んでいく。あわせて、日本語を対象とする心理言語学や方言研究から得られた知見なども紹介する。また、日本語研究の一環として、水前寺公園で開催される新能を見る予定である。					
キーワード	日本語文法, 心理言語学, 方言研究					
到達目標	・日本語文法の特徴を、他言語と比較しつつ理解する ・言語心理学の手法を理解する ・方言研究の基本的な手法を理解する					
受講生に望む事	わからないことは何でも質問して欲しい。					
評価方法	3回行われる小テスト (100%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	日本語の受身 (2): 第三者の受身		
2	形態素という概念		10	日本語のやりもらい		
3	連濁, 連声といった形態論的音韻論と意味		11	日本語の代名詞体系		
4	動詞活用体系		12	日本語の認識モダリティ		
5	動詞の自他		13	能作品に見られる現代日本語のルーツ		
6	日本語のテンス		14	まとめ		
7	日本語のアスペクト		15	能の鑑賞 (8/4, 土曜)		
8	日本語の受身 (1): まともの受身					
関連科目	日本語演習 I, II		連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本語教師		オフィス アワー			
教科書	ハンドアウトを配布します。		備考			
参考資料	『日本語学入門』, 近藤安月子, 研究社 『基礎日本語文法』, 益岡隆志・田窪行則, くろしお出版 『方言の文法』, 佐々木冠・工藤真由美・日高水穂・渋谷勝己・井上優・小林隆, 岩波書店					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
談話分析	2	はやしだ やすこ 林田 康子	2年 4年	後期	講義	JL, MC 選必 他選択
授業概要	会話は社会現象としてとらえられる。日常的に何気なく行われているように見えても、実際には、われわれは他の参加者とともに発話行為をやりとりし、一定の秩序ある現実を作り出しているからである。そこで、音声資料や映像資料も利用しながら、さまざまな場面における会話や談話を分析し、特徴的な相互行為を、相互行為の組織化の方法や言語的リソースの側面から理解することを目指す。					
キーワード	ディスコース分析、会話分析、エスノメソドロジー、相互行為					
到達目標	さまざまな場面における特徴的な相互行為を、組織化の方法や言語的リソースの側面から理解する。					
受講生に望む事	相互行為としてのことばや会話に注目してほしい。					
評価方法	課題レポート (70%)、授業態度 (積極的な取り組みなど 30%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンスおよび会話分析・談話分析とは何か		9	制度的状況における会話⑤～診察		
2	基本的な会話の規則①		10	制度的状況における会話⑥～教室		
3	基本的な会話の規則②		11	演習①～トランスクリプトの作成と分析		
4	基本的な会話の規則③		12	演習②～トランスクリプトの作成と分析		
5	制度的状況における会話①～自殺相談		13	演習③～データの収集と分析		
6	制度的状況における会話②～カウンセリング		14	演習④～データの収集と分析		
7	制度的状況における会話③～異文化コミュニケーション		15	演習⑤～発表		
8	制度的状況における会話④～テレビニュース					
関連科目			連絡先	Email: yasukohearn@yahoo.co.jp		
資格			オフィス アワー			
教科書	テキストは使用しない。プリント、文書資料を配布する。		備考			
参考資料	『会話分析への招待』好井裕明・山田富秋・西阪仰編, 世界思想社。『相互行為分析という視点: 文化と心の社会学的記述』西阪仰著, 金子書房。『社会的構築主義への招待: 言説分析とは何か』ヴィヴィアン・バー著, 田中一彦訳, 川島書店。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
言語心理学	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	2年 3年	前期	講義	JL, MC 選必 JC 選択
授業概要	人間が言語を認知し生成する過程について心理学的情報処理の観点から学ぶ。映像資料や簡単な心理実験を通して、文字や音素、モーラや音節、単語、文などの各処理レベルにおいて実行される情報処理の特徴を理解するとともに、処理レベル間の相互作用について理解する。さらに人間が乳幼児期に言語を獲得する過程について学び、人間における言語処理を総合的に理解する。					
キーワード	認知メカニズム、言語の理解と産出、言語習得、言語発達					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語の情報処理過程に関する基礎的知識を学ぶ</li> <li>言語学習にともなう心理的メカニズムを理解し、効果的な言語教育を行うための理論的根拠を学ぶ</li> </ul>					
受講生に望む事	前回の授業内容を復習の上、授業にのぞむこと					
評価方法	平常点（提出物、クイズ結果等）60%、学期末レポート 40%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	比喩の理解			
2	文字の認知	10	ワーキングメモリと言語処理			
3	音声の認知	11	発話とコミュニケーション			
4	視覚とことば	12	言語獲得①			
5	単語の認知	13	言語獲得②			
6	文の理解①	14	第二言語習得			
7	文の理解②	15	まとめ			
8	文の理解③					
関連科目	日本語学概説、日本語教授法概論		連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本語教員、日本語教育能力検定試験		オフィス アワー			
教科書	プリントを配布する		備考			
参考資料	『朝倉心理学講座5:言語心理学』針生悦子（編）朝倉書店『ことばの習得－母語習得と第二言語習得－』鈴木孝明 他著、くろしお出版『言語とこころ』、重野 純（編）、新曜社、『認知心理学3言語』、大津由起雄 編、東京大学出版会 などその他、授業内に適宜紹介する					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書学概論Ⅱ	2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎 くたみ たけし 久多見 健	2年	前期	講義	JC 必修 他コース選択
授業概要	理論面での幅広い学習を通して書に対する理解を深める。作品制作で重要な役割を果たす文房四宝の墨や、作品の背景としての中国書道史や日本の現代書について学ぶ。また和様書および仮名古典を中心に日本書道史の流れを追いながら様々な表現を学ぶ。					
キーワード	理論、文房四宝、書道史、現代書					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書学概論Ⅰ」での学習を踏まえ、さらに書道理論についての知識を深める。</li> <li>高等学校書道教育における教育内容に沿った理論面での知識を得る。</li> </ul>					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む（事前学習）資料をしっかりと読み込んでくる。（事後学習）各テーマごとにまとめる。					
評価方法	授業への取り組み 20%		提出物 80%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	墨色について（1）	9	仮名古典について（2）			
2	”（2）	10	”（3）			
3	”（3）	11	”（4）			
4	書道史について（1）	12	古筆分析について（1）			
5	”（2）	13	”（2）			
6	”（3）	14	日本の書について（1）			
7	現代書について	15	現代の仮名作品について			
8	仮名古典について（1）	16	まとめ			
関連科目	書学概論Ⅰ		連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 榎木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)		
資格				kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 (096-273-6321)		
教科書	{決定版}中国書道史（芸術新聞社）、{決定版}日本書道史（芸術新聞社）		オフィス アワー	(林田)月曜日 12:10～13:00 水曜日 12:10～13:00 (久多見)火曜日 16:20～17:20 木曜日 12:15～13:00		
参考資料			備考	高1書道教員免許状必修科目		

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
草書法	1	黒田 清和 <small>くろだ きよかず</small>	2年	前期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	漢字の草書体を実習形式で学習する。その中身としては、さまざまな草書の古典の臨書を通してその書美を鑑賞し、草書の魅力・技法を学ぶ。また、草書の崩し方・読み方や歴史の変遷についても理解を深め、さらに「書譜」を通して書論の学習にも触れる。その結果、これからの作品作りの幅を広げ、表現力を高めることに生かしていくことを目標とする。					
キーワード	晋唐宋、古典、崩し、臨書、創作。					
到達目標	・草書体独特の美を理解する。 ・草書体の崩し方・読み方・歴史の変遷を理解する。 ・草書作品への興味・関心・意欲を持ち、これからの制作活動に生かす。					
受講生に望む事	古典鑑賞における意欲的な姿勢と、小テストやレポート提出のための根気と熱意。					
評価方法	課題の提出・質 80%および小テスト・平常点 20%として評価を行う。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	草書の歴史の変遷（各書体との関連より）、草書の特徴・技法の基本（古典の鑑賞より）	9	古典の臨書（半紙） 書譜〈孫過庭〉			
2	古典の臨書（半紙） 十七帖〈王羲之〉	10	" "			
3	" "	11	" 宋代の草書〈黄庭堅〉			
4	" "	12	書譜より草書体の読み方小テスト			
5	" "	13	草書作品制作（半切） 詩句選定・集字・草稿			
6	" 書譜〈孫過庭〉	14	" イメージ・全体構成・落款			
7	" "	15	" 仕上げ			
8	" "					
関連科目	行書法の履修済が望ましい。	連絡先				
資格		オフィスアワー				
教科書	中国法書選 14 十七帖、38 書譜、47 黄庭堅集（二玄社）	備考				
参考資料	新修墨場必携 上・下（法政大学出版局）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
篆書法	1	神野 雄二 <small>じんの ゆうじ</small>	2年	前期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	篆書による中国と日本の代表的な古典をできるかぎり多く臨書する。篆書の基本的な筆使いから作品の創作まで幅広く学習する。更にその理論、鑑賞の学習を通して篆書理解を深める。また篆書を書作した書人の人と芸術に関しても講じる。					
キーワード	篆書、篆刻、古典					
到達目標	篆書の技法、理論、鑑賞を通して篆書への理解を深め、表現技法を学ぶ。また篆書作品を書作した書人の人と芸術に関して学習する。篆書の表現と鑑賞により篆書の基礎・基本の技法に習熟する。					
受講生に望む事	篆書の技法、理論、鑑賞を通して篆書の基礎・基本を理解してほしい。 篆書の基本的な表現技法に習熟するとともに、楽しさを味わってほしい。					
評価方法	提出作品の内容（80%）、レポート（20%）、試験を課することがある。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス、篆書概説、用具・用材概説（VTR）	9	篆書の臨書と創作（漢篆）篆書の歴史と鑑賞（5）中国の篆書⑤			
2	篆書技法の基礎①（VTR）篆書の基礎知識（1）	10	篆書の臨書と創作（小篆1）篆書の歴史と鑑賞（6）中国の篆書⑥			
3	篆書技法の基礎② 篆書の基礎知識（2）	11	篆書の臨書と創作（小篆2）篆書の歴史と鑑賞（7）中国の篆書⑦			
4	篆書技法の基礎③ 篆書の基礎知識（3）	12	篆書の臨書と創作（小篆3）篆書の歴史と鑑賞（8）日本の篆書①			
5	篆書の臨書と創作（甲骨文）篆書の歴史と鑑賞（1）中国の篆書①	13	篆書の創作①（半切以上）篆書の歴史と鑑賞（9）日本の篆書②			
6	篆書の臨書と創作（金文1）篆書の歴史と鑑賞（2）中国の篆書②	14	篆書の創作②（全紙以上）篆学（1）			
7	篆書の臨書と創作（金文2）篆書の歴史と鑑賞（3）中国の篆書③	15	作品鑑賞、批評（VTR）篆学（2）			
8	篆書の臨書と創作（大篆）篆書の歴史と鑑賞（4）中国の篆書④	16	試験、まとめ			
関連科目	篆刻、中国書道史	連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	『図解篆書入門』（小原俊樹著、木耳社）、 『標準篆刻篆書字典』（牛窪梧十編、二玄社）	備考	書道に関わらず、芸術全般にわたって興味・関心を深めて頂きたい。			
参考資料	『極める篆書』（幕田魁心著、木耳社）、『新書源』（二玄社編集部編、二玄社）、『中国法書選』（全60冊）（二玄社）、『篆書大辞典』（赤井清美編、私家版）、『大系漢字明解』（高田忠周著、富山房）、『必携篆書印譜字典』（蓑毛政雄編、二玄社）、『標準清人篆書字典』（北川博邦編、雄山閣）、『常用字解』『字統』（白川静著、平凡社）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
隷書法	1	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	2年	後期	実習	JC必修 他コース選択	
授業概要	中国の有名な古典作品を中心に学びながら隷書の書美について解明し、創作へとつなげる。時代ごとに作品を掲げ、それぞれの作品の臨書を通して実技指導をし、合わせて作品や用語解説も行う。						
キーワード	定義、変遷、歴史、技法						
到達目標	・隷書の特徴を理解する。 ・古典作品の特徴的な技法を習得する。 ・表現の多様性について理解し、鑑賞力を高める。						
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 [事前学習] ・授業で取り組む古典作品についての関連資料を読み込んでくる。 [事後学習] ・取り組んだ古典作品についてまとめる。 ・課題作品を仕上げてくる。						
評価方法	授業への取り組み 20% 提出物 80%						
回	授業計画			回	授業計画		
1	隷書について (1) 隷書の特徴、基本的技法			9	" (2) 古隷		
2	" (2) 歴史			10	課題作品 (2)		
3	乙瑛碑 (1) 乙瑛碑について			11	木簡 (1) 木簡について		
4	" (2) 拓本、八分			12	" (2) 書写材料		
5	曹全碑 (1) 曹全碑について			13	" (3)		
6	" (2) 石碑			14	作品制作 (1)		
7	課題作品 (1)			15	" (2)		
8	石門頌 (1) 石門頌について						
関連科目				連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 榆木キャンパス；大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)		
資格				オフィス アワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00		
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)			備考	高1書道教員免許状必修科目		
参考資料	新書道字典 (二玄社)						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
漢字仮名交じり書	1	くろだ きよかず 黒田 清和	2年	後期	実習	JC必修 他コース選択	
授業概要	読める書の重要性を念頭におき、漢字仮名交じり書を演習形式で展開していく。その中身としては、これまで学習してきた古典の書き下し文を書くことにより、それぞれの古典に合った仮名を研究させ、それを作品制作に生かしていく。楷書・行書の二体での創作を行い、自分独自の漢字仮名交じり書の発見を目指す。						
キーワード	漢字古典、書き下し、創作、字書。						
到達目標	・漢字仮名交じり書の意義を理解する。 ・漢字と仮名を調和させる基本を身につける。 ・古典を生かした深みのある漢字仮名交じり書の創造を目指す。						
受講生に望む事	創作における柔軟な発想力と、意欲的な探究心。						
評価方法	課題の提出・質 80%および平常点 20%として評価を行う。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	漢字仮名交じり書とは？ (意義、歴史、古典を生かす)			9	争坐位稿の書き下し文を画仙紙半切・半載に書く。		
2	1種目・爨寶子碑 (東晋) を半紙に臨書する。			10	前時の作品の自評、批評を踏まえて半切・半載に書き下し文を仕上げる。		
3	爨寶子碑の書き下し文を画仙紙半切1/2に書く。			11	智恵子抄ペン字原稿 (高村光太郎) を半紙臨書する。		
4	前時の作品の自評、批評を踏まえて書き下し文を仕上げる。			12	智恵子抄ペン字原稿を半切・半載に臨書する。		
5	2種目・楷書七言 (清・趙之謙) を半紙に臨書する。			13	各自が選んだ漢字仮名交じり文の構想を半切1/2・半紙で考える。		
6	趙之謙楷書七言の書き下し文を画仙紙半切1/2に書く。			14	前時に構想を練った作品の自評・批評を踏まえて画仙紙2×八尺に書く。		
7	前時の作品の自評、批評を踏まえて書き下し文を仕上げる。			15	前時に構想を練った作品の自評・批評を踏まえて画仙紙全紙に仕上げる。		
8	3種目・争坐位稿 (唐・顔真卿) を半紙に臨書する。						
関連科目				連絡先			
資格				オフィス アワー			
教科書	好みの古典 (書き下しが分かるもの)、プリント			備考			
参考資料	漢字かな交じりの書 (雄山閣書道講座 11) 書作品のまとめ方⑧ (二玄社)						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
仮名古典研究	2	くたみ たけし 久多見 健	2年	前期	演習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	仮名古典について字形、連綿、線、行の構成などあらゆる角度から書風を分析して、その古典の特徴をつかみ、臨書、倣書、創作に活かす。					
キーワード	仮名古典、分析、臨書					
到達目標	・様々な角度から古筆分析の仕方を理解する。 ・臨書をとおして古筆の特徴を表現できるようにする。 ・選んだ古筆の特徴、魅力についてプレゼンテーションできる力をつける。					
受講生に望む事	選んだ古典について調べ、徹底的に臨書して特徴を身に付けてほしい。 毎回、課題の提出と書き込みをしてもらうこと。					
評価方法	授業時提出物 (30%) レポート、課題提出作品 (40%) 試験 (30%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	古筆鑑賞 (複製本、臨書作品の鑑賞)	9	各自選んだ古典分析 (線)、臨書			
2	伝称筆者別に同筆、同系の古典を分け、鑑賞	10	各自選んだ古典分析 (行の構成)、臨書			
3	古典の鑑賞、分析の方法	11	"			
4	各自選んだ古典分析 (字形)、臨書	12	各古典書風のまとめ			
5	"	13	各自それぞれ分析した古典の「書風の特徴まとめ」の発表			
6	各自選んだ古典分析 (連綿)、臨書	14	"			
7	"	15	"			
8	各自選んだ古典分析 (線)、臨書	16	試験			
関連科目	仮名書法 I	連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地 : 1号館 3階 久多見研究室			
資格		オフィス アワー	火曜日 16:20~17:20 木曜日 12:15~13:00			
教科書	各自選んだ古典法帖	備考				
参考資料	「図説 日本書道史」(芸術新聞社)、 書道技法講座、日本書学大系					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
篆刻	1	じんの ゆうじ 神野 雄二	2年	後期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	篆刻技法の基礎から始め専門的内容まで学習する。篆刻三法と言われる字法・章法・刀法を理解するため、模刻や模写をし、創作としてできる限り多く刻す。また古印や近人の篆刻の鑑賞を通して篆刻の美への理解を深める。更に印章・篆刻の歴史や、印人の人と芸術に関しても講じる。					
キーワード	篆刻、篆書、古典					
到達目標	篆刻の技法、理論、鑑賞を通して篆刻の基礎・基本を理解する。篆刻の基本的な表現技法に習熟するとともに、創作の方法論を習得する。更に印章・篆刻の歴史や、印人の人と芸術に関して知識を深める。					
受講生に望む事	篆刻の技法、理論、鑑賞を通して篆刻の基礎・基本を理解してほしい。篆刻の基本的な表現技法に習熟するとともに、楽しさを味わってほしい。					
評価方法	提出作品の内容 (80%)、レポート (20%)、試験を課することがある。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス、篆書・篆刻概説、用具・用材概説 (VTR)	9	詞句印制作① 印の歴史と鑑賞 (4) 近人篆刻			
2	篆書技法の基礎・臨書、篆書概説、字典について (VTR)	10	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞 (5) 近人篆刻			
3	篆刻の基礎① (1字印 白文) 篆刻の基礎知識 (1) 参考書その他	11	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞 (6) 日本の篆刻			
4	篆刻の基礎② (1字印 朱文) 篆刻の基礎知識 (2) 印材その他	12	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞 (7) 日本の篆刻			
5	姓名印を刻す 篆刻の基礎知識 (3) 印譜その他	13	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞 (8) 日本の篆刻			
6	雅号印を刻す 印の歴史と鑑賞 (1) 古璽・秦・漢印	14	押印、完成 印学 (1)			
7	模刻・模写 (VTR) 印の歴史と鑑賞 (2) 三国以来官印その他	15	作品鑑賞、批評 (VTR) 印学 (2)			
8	詞句印制作① 印の歴史と鑑賞 (3) 封泥	16	試験・まとめ			
関連科目	刻字、篆書法	連絡先	榎木キャンパス教務課			
資格		オフィス アワー				
教科書	『図解篆刻入門』(小原俊樹著、木耳社)、『標準篆刻篆書字典』(牛窪梧十編、二玄社)	備考	書道に関わらず、芸術全般にわたって興味・関心を深めて頂きたい。			
参考資料	『篆刻の技法と鑑賞』(神野雄二共著、明徳出版社)、『毎日書道講座9篆刻』(関正人編、毎日新聞社)、『中国璽印類編』(小林斗庵編、二玄社)、『中国篆刻叢刊』(全40巻)(小林斗庵編、二玄社)、『篆刻全集』(全10巻)(小林斗庵編、二玄社)、『新書源』(二玄社編集部編、二玄社)、『大系漢字明解』(高田忠周著、富山房)、『篆刻にしたしむ本』(牛窪梧十著、二玄社)、『必携篆書印譜字典』(荻毛政雄編、二玄社)、『標準清人篆隷字典』(北川邦邦編、雄山閣)、『書道講座 第6巻 篆刻』(西川寧編、二玄社)、『常用字解』・『字統』(白川静著、平凡社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書式研究	2	久多見 健 <small>くたみ たけし</small>	2年	後期	演習	JC 必修 他コース選択
授業概要	日常生活の中で用いる毛筆による様々な書式について学び、工夫を凝らして表現できるようにする。書風、字の大きさ、文字の配置などについて考察し、実習する。当然、細字の力が求められるので適した細字古典の臨書も必要になる。					
キーワード	日常書、書式、細字					
到達目標	・毛筆による様々な日常書式を身に付ける。 ・書式に則り、工夫を凝らした自分なりの表現が出来るようにする。 ・細字の力を付け、積極的に毛筆を生活に活かす。					
受講生に望む事	普段から、身の回りの毛筆書を鑑賞する習慣を付けてほしい。次の授業の内容について事前に知らせるので、書く内容や書式について構想してくる。授業時間だけでは書写時間が足りないので家庭でよく練習の上、清書して次回までに作品を提出のこと。					
評価方法	授業時提出物 (50%) レポート、課題提出作品 (50%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	日常生活における様々な書式		9	手紙、はがきの書き方		
2	細字練習		10	"		
3	"		11	表札の書き方		
4	写経の書式		12	題字、碑の書き方		
5	"		13	演題の書き方		
6	賞状の書き方 (賞状の種類、割り付け、字の大きさ、字形など)		14	目録の書き方 (奉書紙に各種目録を書く)		
7	"		15	まとめ		
8	"					
関連科目			連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：1号館3階 久多見研究室		
資格			オフィス アワー	火曜日 16:20~17:20 木曜日 12:15~13:00		
教科書	プリント		備考			
参考資料	『実用細字のすすめ』三上栖蘭、『賞状の書き方』前田篤信 (日貿出版社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習 (書道コース)	2	林田 俊一郎 <small>はやしだ しゅんいちろう</small> 久多見 健 <small>くたみ たけし</small>	2年	後期	演習	JC 必修
授業概要	三年次からの創作研究につなげるための漢字・仮名作品の創作法について学ぶ。臨書から創作へ至るまでの関連性について学んだ後、作品を実作する。					
キーワード	作品、臨書、創作、					
到達目標	・漢字・仮名作品の創作法を理解する。 ・漢字・仮名作品の表現法の多様性について認識する。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 (事前学習) 準備をしっかりとる。(事後学習) 制作ノートを作成する。					
評価方法	授業への取り組み 20% 課題提出作品・レポート 80%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	漢字の創作法 (1)	仮名の創作法 (1)	9	仮名の創作法 (2)	漢字の創作法 (2)	
2	" (2)	" (2)	10	" (3)	" (3)	
3	" (3)	" (3)	11	作品制作 (1)	作品制作 (1)	
4	作品制作 (1)	作品制作 (1)	12	" (2)	" (2)	
5	" (2)	" (2)	13	" (3)	" (3)	
6	" (3)	" (3)	14	" (4)	" (4)	
7	" (4)	" (4)	15	まとめ	まとめ	
8	仮名の創作法 (1)	漢字の創作法 (1)				
関連科目	創作研究 I、II、III、IV		連絡先	(林田) 榎木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 096-273-6322 E-Mail : shayash@shokei-gakuen.ac.jp (久多見) 榎木キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 096-273-6321 E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー	(林田) 月 12:10~13:00 水 12:10~13:00 (久多見) 火 16:20~17:20 木 12:15~13:00		
教科書	書の古典と理論 (光村図書)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国書道文化研究 (3年以上対象)	2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	2年	前期	演習	選択必修
授業概要	中国書道史上の有名な史跡や碑刻、法帖等で目にする数々の書蹟を、本や写真資料、ビデオ映像も交えながら見て行く。それらをもとに、書に関連する各地の歴史、文化、風土、博物館、書蹟等について調べ、資料を作成し発表する。					
キーワード	中国書蹟、中国の歴史、文化、風土					
到達目標	・中国書道史上有名な書蹟の所在地、及びその地域の歴史、文化について理解する。 ・中国と日本の歴史・文化・風土などの違いを理解する。					
受講生に望む事	到達目標が達成できるように授業に取り組む。 [事前学習]・作成資料の資料収集をしっかりと。 [事後学習]・計画性をもって資料作成に努める。					
評価方法	授業への取り組み 20% 資料作成 50% プレゼンテーション 30%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	中国の歴史と文化について	9	資料作成 (3)			
2	中国の書蹟について	10	" (4)			
3	北京、洛陽	11	" (5)			
4	西安	12	" (6)			
5	山東省	13	各地域別プレゼンテーション (1)			
6	上海、楊州、蘇州、杭州、紹興	14	" (2)			
7	資料作成 (1)	15	まとめ			
8	" (2)	16				
関連科目	中国書道史	連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
教科書	{決定版}中国書道史(芸術新聞社)プリント資料	備考				
参考資料	中国書道史の旅(芸術新聞社) 中国の書・史跡と博物館ガイド(雄山閣) 中国碑刻紀行(芸術新聞社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域振興論	2	やまなか まもる 山中 守	2年	前期	講義	MC選必 他コース選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 地域は情報化社会の進展により発展しています。特に、地域特産物の振興についてはインターネットを利用したネット販売が普及して地域振興に役立っています。具体的な事例を多く取り上げるために、教科書を使用して解説します。					
キーワード	地域振興、情報化社会。					
到達目標	地域振興の現状と課題について理解すること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	評価方法は、①講義中の小レポート、②期末テストあるいは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、①が80%、②が20%です。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	情報の活用の仕方②			
2	地域振興と情報活用の事例①	10	情報の活用の仕方③			
3	地域振興と情報活用の事例②	11	地域が発展するために①			
4	地域振興と情報活用の事例③	12	地域が発展するための②			
5	地域格差の問題①	13	地域が発展するために③			
6	地域格差の問題②	14	まとめ①			
7	地域格差の問題③	15	まとめ②			
8	情報の活用の仕方①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域政策論	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィスアワー	水：12:00~12:50 木：12:10~12:55			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版、2013年。(この教科書は関連科目で共通に使用します)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域政策論	2	やまなか まもる 山中 守	2年	後期	講義	MC 選必 他コース選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では地域が発展する上で、国や県などの政策がどのように関係しているのかについて、分かりやすく解説します。地域は情報化社会の進展とともに発展してきましたが、この背景には国の経済開発政策があります。具体的に分かりやすく解説するために、具体事例を多く掲載した教科書を使用します。					
キーワード	情報化社会、地域経済					
到達目標	地域の発展と国や都道府県の政策の関係を理解すること					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	評価方法は、①講義中の小レポート、②期末テストあるいは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、①が80%、②が20%です。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	地域格差②			
2	政策とはどのようなものか①	10	地域格差③			
3	政策とはどのようなものか②	11	地域政策の課題①			
4	政策とはどのようなものか③	12	地域政策の課題②			
5	地域の発展と政策①	13	地域政策の課題③			
6	地域の発展と政策②	14	まとめ①			
7	地域の発展と政策③	15	まとめ②			
8	地域格差①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域振興論。	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィス アワー	水：12:00～12:50 木：12:10～12:55			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT 出版、2013年。 (注：この教科書は関連科目で共通に使用する教科書です)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
現代社会論	2	やまなか まもる 山中 守	2年	前期	講義	JC, MC 選必 JL 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 現代社会は情報化社会ですので、講義では情報化が生活にどのように影響しているのかについて詳しく解説します。情報化社会は目には見えにく部分も多いので、具体的な事例が豊富な教科書を使用して解説します。					
キーワード	情報化社会 (Information Society)					
到達目標	現代社会及び情報化社会の現況と課題について理解すること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	成績評価は、①授業中の小テストまたは小レポート、②期末テストまたは期末レポートで評価します。評価のウエイトは、①が80%、②が20%です。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	現代社会と格差問題②			
2	現代社会と情報①	10	現代社会と格差問題③			
3	現代社会と情報②	11	地域社会の再生について①			
4	現代社会と情報③	12	地域社会の再生について②			
5	情報社会の課題①	13	地域社会の再生について③			
6	情報社会の課題②	14	これからの社会について①			
7	情報社会の課題③	15	これからの社会について②			
8	現代社会と格差問題①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、地域振興論、地域政策論	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィス アワー	水：12:00～12:50 木：12:10～12:55			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT 出版、2013年。 (注：この教科書は関連科目で共通に使用します)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会調査法	2	やまなか まもる 山中 守	2年	前期	演習	MC 必修 他コース選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、社会の現状を捉えるためのデータの収集方法と調査方法について解説する。さらに調査で入手したデータの分析方法について解説する。統計学の基礎的な知識が習得できるようにしたい。					
キーワード	統計分析					
到達目標	統計データの収集と分析の基礎的な能力を習得することである。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	評価方法は、①講義中の小レポート、②期末テストあるいは期末レポートにより評価する。 評価のウエイトは、①が80%、②が20%である。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	グラフ化②			
2	調査の方法①	10	グラフ化③			
3	調査の方法②	11	統計分析①			
4	調査の方法③	12	統計分析②			
5	データの収集①	13	統計分析③			
6	データの収集②	14	まとめ①			
7	データの収集③	15	まとめ②			
8	グラフ化①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、 地域振興論、地域政策論	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィス アワー	水：12：00～12：50 木：12：10～12：55			
教科書	資料を準備する	備考				
参考資料	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』 NTT 出版、2013年。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
異文化理解	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	2年	後期	講義	JC、MC 選必 JL 選択
授業概要	シミュレーションゲームを通して、異文化接触を疑似体験する。また、いくつかの異文化接触場面について、グループで事例の検証・考察を行い、発表する。これらの活動を通して、異文化についての知見を深める。					
キーワード	異文化、コミュニケーション、価値観					
到達目標	異文化についての知見を深める					
受講生に望む事	シミュレーションゲームやグループ・ディスカッションに積極的に参加すること					
評価方法	平常点（発表、クイズ結果、など）60%、レポート40%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	カルチャーショックと異文化適応			
2	自文化と異文化	10	コンテキスト（文脈理解）と異文化			
3	異文化理解への態度	11	異文化交流			
4	異文化の警告：偏見・先入観・ステレオタイプ	12	異文化理解①：グループ・ディスカッション			
5	文化のパターンと多様性①：生活様式	13	異文化理解②：グループ・ディスカッション			
6	文化のパターンと多様性②：時間	14	異文化理解③：発表			
7	文化のパターンと多様性③：価値観	15	まとめ			
8	文化のパターンと多様性④：非言語コミュニケーション					
関連科目		連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィス アワー				
教科書	プリントを配布する	備考				
参考資料	授業中に適宜紹介する					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
アメリカ事情		2	たくち せいいち 田口 誠一	2年	前期	講義	MC 選必 他コース選択
授業概要	アメリカの歴史や文化、社会問題、外交問題などをトピック別に検討し、アメリカ社会の構造と人々の価値観について理解を深める。アメリカの事情をできるだけ日本と比較しながら考察してゆく。						
キーワード	アメリカ合衆国 (United States of America)、文化 (Culture)、歴史 (History)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ社会や人々の生活について基本的知識を身につける。</li> <li>・日米関係が密接な時代において、アメリカの歴史や文化などを学ぶことにより、豊かな人的交流の基礎にする。</li> </ul>						
受講生に望む事	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。 特にアメリカの政治、経済、文化、国際関係などにかかわる情報収集を心がけること。						
評価方法	レポート等課題 (80%)、学習態度 (20%)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	アメリカ合衆国について			9	アメリカの外交問題		
2	アメリカ合衆国について			10	アメリカの外交問題		
3	アメリカの歴史			11	アメリカでの生活や習慣について		
4	アメリカの歴史			12	アメリカでの生活や習慣について		
5	アメリカの社会問題			13	アメリカの観光地について		
6	アメリカの社会問題			14	アメリカの観光地について		
7	アメリカの社会問題			15	まとめ		
8	アメリカの社会問題						
関連科目				連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11		
資格				オフィスアワー	火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55		
教科書	プリントを配布する。			備考			
参考資料	多数あり。授業中に指示する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
多文化共生論		2	やまかわ きみこ 山川 仁子	2年 3年	前期	講義	JC, MC 選必 JL 選択
授業概要	日本社会における外国人受け入れの現状について、統計データや調査をもとに概観する。グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、外国人受け入れに伴う課題を整理するとともに、多文化共生の理解を深める。						
キーワード	多文化共生, グループディスカッション						
到達目標	多文化共生の課題を総合的に理解する						
受講生に望む事	普段から本授業に関わるテーマに関心をもつこと						
評価方法	授業内課題 (30%), プレゼンテーション (40%), レポート (30%)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション			9	グループディスカッション 1		
2	多文化共生の定義と視点			10	グループディスカッション 2		
3	日本における多文化共生の現状 1			11	プレゼンテーション 1		
4	日本における多文化共生の現状 2			12	プレゼンテーション 2		
5	日本における多文化共生の課題 1			13	プレゼンテーション 3		
6	日本における多文化共生の課題 2			14	プレゼンテーション 4		
7	熊本における多文化共生の現状			15	まとめ		
8	熊本における多文化共生の課題						
関連科目	異文化理解, アメリカ事情, 中国事情, 韓国事情, など			連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	プリントを配布する			備考			
参考資料	授業中に適宜紹介する						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
NPO 論	2	きたぐち ひでほ 北口 英徳	2年	後期	講義	MC 選必 他コース選択
授業概要	阪神淡路大震災など自然災害救済のサポートとして一般市民による非営利活動 (NPO) が活発になり、その重要性は高まってきています。また一方で地域活性かの立案者として、自分たちのまちを盛り上げようという動きも全国各地で広まっており、まちづくり NPO が多く設立されています。本講義では「NPO」についての基本的な考え方をおさえた後、実際にまちづくりに携わっている NPO の関係者から話を聞き、その現状と課題について把握することを目的にします。					
キーワード	NPO、まちづくり					
到達目標	NPO の現状と課題を把握する					
受講生に望む事	NPO 法人を立ち上げるくらいの前向きな姿勢					
評価方法	平常点 30% レポート 70%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義計画		9	NPO の課題 (外部講師 D)		
2	NPO とは何か (外部講師 A)		10	これからの NPO (外部講師 D)		
3	NPO の設立プロセス (外部講師 B)		11	NPO 設立を考える①		
4	NPO の事例① (外部講師 B)		12	NPO 設立を考える②		
5	NPO の事例② (外部講師 B)		13	NPO 設立を考える③		
6	NPO の事例③ (外部講師 C)		14	プレゼン①		
7	NPO の事例④ (外部講師 C)		15	プレゼン②		
8	海外の NPO (外部講師 C)					
関連科目	サービスラーニング関連科目		連絡先	Email : wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室 : 管理棟 3F、第 9 研究室		
資格			オフィス アワー			
教科書			備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
サービスラーニング演習 I	2	たくち せいいち 田口 誠一 ジョシュ・ノーマン	2年	前期	演習	MC 選必 他コース選択
授業概要	1年次までのサービスラーニングの活動を踏まえて、英語関連領域で地域のニーズを踏まえた活動に積極的に関わっていく。具体的には、大学近辺 (菊陽町、大津町あるいは熊本市) で幼稚園児から小学校低学年を対象とした英語教育の活動を企画し実践する。					
キーワード	サービスラーニング 児童英語					
到達目標	・課題探求力と解決力の向上 ・幼児や児童向けの英語教育実践力の向上					
受講生に望む事	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。幼児や児童の英語教育に関してできるだけ調べて理解しておくこと。また、学外活動のための事前準備や活動後の課題解決の考察に時間をかけてほしい。					
評価方法	活動への貢献度 (70%)、レポート等 (30%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	振り返り、事前準備		
2	事前準備		10	事前準備		
3	事前準備		11	学外活動 (幼児や児童向けの英語教育活動)		
4	事前準備		12	学外活動 (幼児や児童向けの英語教育活動)		
5	事前準備		13	学外活動 (幼児や児童向けの英語教育活動)		
6	学外活動 (幼児や児童向けの英語教育活動)		14	振り返り、事後指導		
7	学外活動 (幼児や児童向けの英語教育活動)		15	事後指導		
8	学外活動 (幼児や児童向けの英語教育活動)		16	ただし、活動先とのスケジュール調整により変更する場合があります。		
関連科目	児童英語		連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 楡木校地管理棟 3F 研究室 11		
資格			オフィス アワー	田口 (火 12:10 ~ 12:55、木 12:10 ~ 12:55) ノーマン (火 12:15 ~ 13:00、水 12:15 ~ 13:00)		
教科書	プリントを配布する。		備考	活動先は未定であるが、交通費自己負担 (参考 武蔵塚駅と肥後大津駅間往復 500 円) とする。徒歩 10 分ほどで行ける菊陽町武蔵ヶ丘児童館を第一候補として交渉中である。なお、通常の授業時間帯を多少変更したり、土曜や日曜に活動をすることもある。		
参考資料	授業中に紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
サービスラーニング演習Ⅱ	2	ところ よしひこ 所 吉彦	2年	後期	講義	MC 必修 他コース選択
授業概要	サービスラーニングの基礎を完成させる授業です。サービスラーニング入門Ⅰ、Ⅱ、同演習Ⅰと学修・体験してきたことをいかし、第三者が問題、課題と認識している事柄に対し解決提案および実践を行います。					
キーワード	体験学習、アクティブラーニング、意識変化					
到達目標	第三者が抱える問題、課題に対し解決提案および実践に向けてのものの考え方、プロセス管理の基礎ができる。現代コミュニケーション演習（MCゼミ）で他大学学生と共同で企業への解決提案、実践にエントリーできる。					
受講生に望む事	事前・事後学修は授業の指導ガイドラインに沿って、自ら情報収集しロジックを組み立て、課題解決に向けた仮説形成および実践による修正を繰り返します。					
評価方法	授業とチーム活動の貢献度 40%、振り返りノート提出 30%、成果発表 30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	ワークショップ		
2	市民活動、NPO 支援の現状（外部講師）		10	"		
3	合同ワークショップ		11	"		
4	くまもと県民交流館の課題（外部講師）		12	交流館事務局への提言プレゼンテーション		
5	ワークショップ		13	サービス活動		
6	"		14	"		
7	"		15	振り返り・まとめ		
8	中間発表		※学外学修が6回程度、くまもと県民交流会館、交通費実費			
関連科目	サービスラーニング入門Ⅰ、Ⅱ、同演習Ⅰ、課題探究プロジェクト演習、課題解決プロジェクト演習、地域プロジェクトワーク、海外プロジェクトワーク、現代コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ		連絡先	楡木キャンパス 1号館 2F 所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス ア ワ ー	木曜 12:00-13:00 金曜 09:00-10:00		
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域プロジェクトワーク	2	たぐち せいいち 田口 誠一 きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	前期	演習	MC 選必 他コース選択
授業概要	教室における「学び」と社会における「実践」を双方向でつなげるサービスラーニングを通して、課題探究力や解決力を身につけ、実践的なコミュニケーション力を向上させる。大津町あるいは菊陽町で地域住民向けのプロジェクトを実際に立ち上げ、運営するといった活動をおこなう。具体的な活動内容については、外国語や子供向けの読み聞かせなど様々なものが考えられるが、学生同士が意見を出し合って決定する。					
キーワード	サービスラーニング プロジェクト					
到達目標	コミュニケーション能力の向上 プロジェクト企画と運営能力の向上					
受講生に望む事	事前（2時間）・事後（2時間）を学修時間の目安とする。特にプロジェクト企画や課題解決の考察に時間をかけてほしい。					
評価方法	学外活動への取り組み 50%、レポート 50%					
回	授業計画		回	授業計画		
1			9	交通費自己負担（参考 武蔵塚駅と肥後大津駅間往復 500円） ※2日間に4コマずつ、計8コマ分の見込み		
2			10			
3	オリエンテーション 8月下旬～9月上旬 ※2コマ分		11			
4	事前指導 プロジェクトの検討と企画 9月上旬～中旬 ※2コマ分		12	事後指導、振り返り 9月中旬～下旬 ※2コマ分		
5			13			
6	大津町あるいは菊陽町にてプロジェクト企画に関する打ち合わせ 9月上旬～中旬 ※2コマ分		14	授業計画の日程等については、第1回の授業のオリエンテーション時に説明する。		
7			15			
8	大津町あるいは菊陽町にてプロジェクトの運営 9月中旬～下旬					
関連科目	課題探究プロジェクト演習		連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟 3F、第9研究室		
資格			オフィス ア ワ ー	田口（火 12:10～12:55、木 12:10～12:55） 北口（水 13:30～14:30、金 12:15～13:00）		
教科書	特になし。		備考			
参考資料	授業中適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
海外プロジェクトワーク	2	きたぐち 北口 ひでほ 英穂	2年	後期	演習	MC 選必 他コース選択
授業概要	海外でサービスラーニングのプロジェクトに参加します。今年度は台湾花蓮市を予定しています。協定校の慈済大学の学生と合同でプロジェクトを企画、運営します。今年度は観光都市花蓮市の日本人観光客誘致促進を全体テーマに設定する予定です。海外でのプロジェクトは国内よりも更に前向きな姿勢が求められます。中国語力が高い方がより効果的ですが、午前中は基本的に中国語センターで中国語を勉強しますし、受入先は日本語・英語ができる学生を想定していますので、とにかく挑戦してみたい学生を歓迎します。					
キーワード	サービスラーニング、海外、中国語					
到達目標	海外でのプロジェクト参加を通じたコンピテンシー能力の向上					
受講生に望む事	前向きな姿勢					
評価方法	平常点 (30%)、プレゼン+レポート (70%) で評価します。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	食費約 10,000 円			
2	事前指導①	10	※春季休暇中 (2月～3月中の4週間) 実施を想定しています。			
3	事前指導②	11	詳細は学期初めのオリエンテーションで説明します。			
4	プロジェクト参加 (4週間)	12				
5	午前中は慈済大学での中国語センターでの受講を想定しています。	13				
6	センターでの学費 25,000 台湾ドル (約 95,000 円)	14	事後指導①			
7	為替相場次第で変動あり)	15	事後指導②			
8	渡航費 50,000 円 海外旅行保険約 10,000 円					
関連科目	サービスラーニング関連科目	連絡先	Email : wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室 : 管理棟 3F、第 9 研究室			
資格		オフィス アワー				
教科書	なし	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習 (現代コミュニケーションコース)	2	たくち 田口 せいいち 誠一 きたぐち 北口 ひでほ 英穂	2年	後期	演習	MC コース必修
授業概要	現代コミュニケーションコースの専門科目を学修するうえで必要とされる知識や姿勢を学ぶ。前半の 8 回を田口、後半の 7 回を北口が担当し、それぞれの視点からアプローチをこころみる。					
キーワード	サービスラーニング、卒業研究					
到達目標	専門科目を学修するうえで必要な知識やものの見方を身につけること 卒業研究の土台作り					
受講生に望む事	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。 指示された予習や復習をきちんとおこなったうえで授業に臨むこと。					
評価方法	田口 (50%)、北口 (50%) でそれぞれレポート等で評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	コミュニケーション能力について	9				
2	コミュニケーション能力について	10				
3	自分と地域社会を考える	11				
4	自分と地域社会を考える	12				
5	日本の社会を考える	13				
6	日本の社会を考える	14				
7	グローバル社会を考える	15				
8	グローバル社会を考える					
関連科目	現代コミュニケーション演習 I～IV	連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11 wada@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 9			
資格		オフィス アワー	田口 (火 12:10～12:55、木 12:10～12:55) 北口 (水 13:30～14:30 金 12:15～13:00)			
教科書	プリントを配布する。	備考				
参考資料	授業中に適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報技術特論	2	おかだ のりひろ 岡田 則浩	2年	後期	講義	MC 選必 他コース選択
授業概要	IT パスポート資格取得を目標として、誰もが共通に備えておくべき基礎的な IT 基礎知識を学ぶ。 現在は、IT 関連企業だけでなく、業種・職種を問わずあらゆる企業においてコンピュータを使って仕事をする ことが当たり前の時代で、インターネットやメールの利用は生活をする上でも必須の技能となっている。					
キーワード	IT パスポート、IT 基礎知識					
到達目標	基礎的な IT 基礎知識を学び、IT パスポート資格知識の習得をめざす。					
受講生に 望む事	遅刻や欠席をしないこと。 [事前学習] 授業予定の部分の教科書を読んで不明部分にアンダーラインを引く。 [事後学習] 授業中に関連する問題を 1 問解く					
評価方法	学期末に実施する定期試験で評価する。					
回	授業計画					
1	ハードウェア・・・・・・・・・・ 情報の表現、5 大装置、メモリ、補助記憶装置、入出力装置					
2	ハードウェアとソフトウェア・・・・ 入出力インターフェース、基数変換、ソフトウェア、ファイル管理					
3	ソフトウェアとマルチメディア・・・・ バックアップ、表計算、データ形式とマルチメディア					
4	システム構成・・・・・・・・・・ システムの構成、クライアントサーバシステム、性能評価、信頼性					
5	ネットワーク・・・・・・・・・・ ネットワーク方式、通信プロトコル、インターネットの仕組み、通信サービス					
6	ネットワークとセキュリティ・・・・ 電子メール、WWW、情報セキュリティ、ユーザ認証、ウイルス対策					
7	セキュリティ・・・・・・・・・・ ネットワークセキュリティ、暗号化技術、デジタル署名					
8	データベース・・・・・・・・・・ 関係データベース、主キーと外部キー					
9	データベース・・・・・・・・・・ データの正規化、データ抽出と論理演算、整列と集計、排他制御と障害回復					
10	アルゴリズムとプログラミング・・・・ アルゴリズムとデータ構造、プログラム言語					
11	マネジメント・・・・・・・・・・ SLCP と調達、システム開発、テストと運用・保守、システム開発技能					
12	マネジメント・・・・・・・・・・ 工程管理、サービスマネジメント、システム監査					
13	企業活動と法務・・・・・・・・・・ 企業会計、知的財産権、関連法規と標準化					
14	経営戦略とシステム戦略・・・・・・・・ 企業活動と組織、全社戦略と事業戦略、機能別戦略					
15	経営戦略とシステム戦略・・・・・・・・ ビジネス戦略と経営管理システム、情報システム戦略					
関連科目	情報処理総論、情報処理実務 I、情報処理実務 II					
資格	IT パスポート					
教科書	“平成 27 年度 栢木先生の IT パスポート教室”，技術評論社，978-4-7741-6918-7，本体 1580 円					
参考資料	“平成 27 年度栢木先生の IT パスポート教室準拠書き込み式ドリル”，技術評論社，978-4-7741-6919-4， 本体 1280 円					
連絡先	okada-lec@shokei-u.jp					
オフィス アワー	随時 (via E-mail)					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
消費行動論	2	ところ よしひこ 所 吉彦	2年	後期	講義	JL 選択 他コース選必
授業概要	私たちの消費行動は企業行動の変化により様々な形で現れます。消費行動を意識する企業の動きをとらえ相互影響関係を学ぶため、TBL (Team-Based Learning) により消費行動、マーケティングを理解していきます。					
キーワード	消費者行動、TBL、マーケティング					
到達目標	私たちの消費行動と企業との関係、およびその他消費行動に影響を与える要因を感覚的に掴む力を養います。合わせてTBLにより主体性、発信力、傾聴力(特にコミュニケーション力)を向上させます。					
受講生に望む事	事前学修として毎回配布されるプリントを必ず読んで自分なりの消費側と企業側のイメージを作りチーム討議に備えます。事後学修はクラス討議の結果を振り返り、当初イメージとの違いを明らかにし記録してください。					
評価方法	レポート70%、成果発表30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	win-win		
2	企業の市場志向		10	GMSのELP		
3	顧客絶対主義の落とし穴と消費者 外部講師(予定)		11	消費者コミュニケーション		
4	外部講師		12	キャズムにおける消費者の分類		
5	消費者と顧客満足のメカニズム		13	コミュニケーション理論		
6	価格に対する消費者反応		14	成果発表会		
7	ブルーオーシャンをどう受け止めるか		15	振り返り・まとめ		
8	ポジショニングと消費者					
関連科目	会計学、ビジネス実務総論		連絡先	楡木キャンパス1号館2F所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	木曜12:00-13:00、金曜09:00-10:00		
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語演習 I	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	2年	前期	演習	選択
授業概要	授業では、日常生活の場で頻繁に利用される英語表現を学習する。「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能を効率的に高める中で、その基礎となる基本的な文法事項の確認も行う。					
キーワード	日常表現、文法					
到達目標	日常の様々な場面で用いる英語の典型的な表現を、可能な限り多く習得する。					
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わないこと。リスニングの訓練中はとにかく集中して聞き取る努力をすること。					
評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	授業内容、評価方法についての説明(オリエンテーション)		9	"		
2	On an Airplane		10	At a Restaurant		
3	"		11	"		
4	At Immigration and Customs		12	Taking a Subway		
5	"		13	"		
6	Getting to a Hotel		14	Asking for Directions		
7	"		15	"		
8	Checking into a Hotel		16	定期試験		
関連科目			連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(楡木キャンパス)		
資格			オフィスアワー			
教科書	Travel English at Your Fingertips 成美堂 1800円+税		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語演習Ⅱ	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	2年	後期	演習	選択
授業概要	授業では、日常生活の場で頻りに利用される英語表現を学習する。「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能を効率的に高める中で、その基礎となる基本的な文法事項の確認も行う。					
キーワード	日常表現、文法					
到達目標	日常の様々な場面で用いる英語の典型的な表現を、可能な限り多く習得する。					
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わないこと。リスニングの訓練中はとにかく集中して聞き取る努力をすること。英語演習Ⅰを受講済みであることが望ましい。					
評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Fast-food Restaurant & Snack Bar		9	Checking Out		
2	"		10	"		
3	Visiting a Campus		11	Dealing with Problems		
4	"		12	"		
5	At a Pharmacy		13	At a Bank		
6	"		14	"		
7	At a Gift Shop		15	At the Airport		
8	"		16	定期試験		
関連科目			連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：大学1号館2階（楡木キャンパス）		
資格			オフィスアワー			
教科書	Travel English at Your Fingertips 成美堂 1800円＋税		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
TOEFL/TOEIC Preparation I	2	たくち せいいち 田口 誠一	2年	後期	演習	選択
授業概要	様々なパターンの演習問題に取り組み、詳しい解説を加えながら英語のコミュニケーション能力の基礎を固め、TOEICのスコアを伸ばすトレーニングをおこなう。					
キーワード	TOEIC テスト (TOEIC test) , 英語運用能力試験 (English-proficiency test)					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC テストの試験形式に慣れる。</li> <li>TOEIC 500点以上、できれば600点突破を目指す。</li> </ul>					
受講生に望む事	事前(2時間)・事後(2時間)を学修時間の目安とする。演習問題をできるだけ予習してくるとともに、巻末の音読とシャドーイング練習ページで復習することを望む。					
評価方法	定期試験(80%)、学習態度(20%)で評価をおこなう。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	TOEIC テストについて		9	Unit 8 Job Titles and Responsibilities		
2	Unit 1 Everyday Life		10	Unit 9 Products and Services		
3	Unit 2 Travel		11	Unit 10 Shopping		
4	Unit 3 Hotels		12	Unit 11 Meetings		
5	Unit 4 Job Hunting		13	Unit 12 Promotions and Salaries		
6	Unit 5 Job Interviews		14	Unit 13 Business Performance		
7	Unit 6 At the Office		15	復習(プリント教材)		
8	Unit 7 Company Information, Department Names		16	定期試験		
関連科目	TOEIC Preparation II		連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 楡木校地管理棟3F 研究室11		
資格			オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55		
教科書	TOEIC Test Trainging 500(南雲堂)		備考			
参考資料	授業中に適宜指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英会話 I	2	Josh Norman	2年	前期	演習	選択
授業概要	ペアワークの練習課題が多く含まれている教科書の使用を通して、speaking と listening のスキル向上 に重点を置きながら英語の言語学習の4つの分野 (speaking, listening, reading and writing) のスキルアップを目指す。					
キーワード	English conversation, speaking					
到達目標	この授業を通して、学生は好き嫌い、趣味と興味、自分の日常生活と型にはまった行動などの話題について簡単な英語の表現や文章で話せるようになることが目標となっている。					
受講生に望む事	Students should always have a dictionary in class. Speak in English as much as possible.					
評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (20%), and quiz (50%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Unit 1		9	Unit 4		
2	Unit 1 (cont.)		10	Unit 4 (cont.)		
3	Unit 1 (cont.)		11	Unit 5		
4	Unit 2		12	Unit 5 (cont.)		
5	Unit 2 (cont.)		13	Unit 6		
6	Unit 2 (cont.)		14	Unit 6 (cont.)		
7	Unit 3		15	Quiz		
8	Unit 3 (cont.)					
関連科目	英会話 II		連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 榎木キャンパス：大学1号館 2F		
資格			オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Out Front" by Robert Diem and Roberto Rabbini (English Education Press)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英会話 II	2	Josh Norman	2年	後期	演習	選択
授業概要	ペアワークの練習課題が多く含まれている教科書の使用を通して、speaking と listening のスキル向上 に重点を置きながら英語の言語学習の4つの分野 (speaking, listening, reading and writing) のスキルアップを目指す。(Continuation of 英会話 I class.)					
キーワード	English, conversation					
到達目標	この授業を通して、学生は好き嫌い、趣味と興味、自分の日常生活と型にはまった行動などの話題について簡単な英語の表現や文章で話せるようになることが目標となっている。					
受講生に望む事	Students should always have a dictionary in class. Speak in English as much as possible.					
評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (20%), and quiz (50%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Unit 7		9	Unit 10		
2	Unit 7 (cont.)		10	Unit 10 (cont.)		
3	Unit 7 (cont.)		11	Unit 11		
4	Unit 8		12	Unit 11 (cont.)		
5	Unit 8 (cont.)		13	Unit 12		
6	Unit 8 (cont.)		14	Unit 12 (cont.)		
7	Unit 9		15	Quiz		
8	Unit 9 (cont.)					
関連科目	英会話 I		連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 榎木キャンパス：大学1号館 2F		
資格			オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Out Front" by Robert Diem and Roberto Rabbini (English Education Press)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語中級Ⅰ	1	きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	前期	演習	選択
授業概要	1年次で培った中国語文法の基礎固めを中心に、初級から中級への発展を促します。中国語理解につながる教材を用い、読解力向上も目指します。中国語検定試験やHSKへのチャレンジも念願に授業を行います。					
キーワード	中国語					
到達目標	文法の基礎固め					
受講生に望む事	予習・復習の徹底					
評価方法	平常点(受講姿勢等)30% 筆記試験70%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	復習		9	第4課「年轻人的就业观」①		
2	第1課「换钱」①		10	第5課「相亲」①		
3	第1課「换钱」②		11	第5課「相亲」②		
4	第2課「小学校前」①		12	第6課「外甥的婚房」①		
5	第2課「小学校前」②		13	第6課「外甥的婚房」②		
6	第3課「早上的公园」①		14	第7課「婆媳关系」①		
7	第3課「早上的公园」②		15	第7課「婆媳关系」②		
8	第4課「年轻人的就业观」①					
関連科目	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション中国語Ⅰ・Ⅱ		連絡先	Email:wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:管理棟3F、第9研究室		
資格	中国語検定試験3級・4級、HSK3級、4級		オフィス アワー			
教科書	相原茂・蘇明『日中いぶこみ12景』(朝日出版社)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語中級Ⅱ	1	きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き初中級から中級へのステップアップを目指します。語彙数の増加と長文読解も進めていきます。					
キーワード	中国語					
到達目標	語彙を増やし、長文にも慣れること					
受講生に望む事	予習・復習の徹底					
評価方法	平常点30% 中間・期末テスト70%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	復習		9	第11課「旅游」②		
2	第8課「川菜」①		10	第12課「除夕夜」①		
3	第8課「川菜」②		11	第12課「除夕夜」②		
4	第9課「中华医药」①		12	長文読解①		
5	第9課「中华医药」②		13	長文読解①		
6	第10課「九九重阳节」①		14	長文読解①		
7	第10課「九九重阳节」②		15	まとめ		
8	第11課「旅游」①					
関連科目	中国語基礎Ⅰ、コミュニケーション中国語Ⅰ・Ⅱ		連絡先	Email:wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:管理棟3F、第9研究室		
資格	中国語検定試験3級、HSK、4級		オフィス アワー			
教科書	前期と同じ『日中いぶこみ12景』		備考			
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション中国語Ⅰ		1	房 琦 <small>ふあん ちー</small>	2年	前期	演習	選択
授業概要	本講義のねらいは一通り発音や文法の基本を身につけた皆さんに、中国語会話・リスニングの基礎を習得させることにあります。要点は、1) 今まで学んだ発音を再確認し、正しく発音ができる。2) 聞いて、書き取れるようにする。3) 簡単な応用の会話力を身につける。授業では、基本的に中国語を使って授業を進めていきますが、皆さんの実力に応じて適宜日本語も使いますので安心して授業に臨んでください。						
キーワード	中国語 会話 リスニング 異文化理解						
到達目標	(1) 今まで学んだ正しい発音をもう一度確認し、確実に身につける。(2) 自分のことが確実に中国語で表現できるようにする。(3) 日常生活や旅行での簡単な会話ができるようにする。						
受講生に望む事	間違いを恐れず、積極的に会話に参加してください。						
評価方法	毎回簡単な会話(50%)とリスニング(50%)のテストを行い、それを評価の対象とします。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス、発音の復習、基本文法の復習(1)			9	第4課 我的一天		
2	発音の復習、基本文法の復習(2)			10	第4課 リスニング練習と会話練習		
3	第1課 自我介绍			11	第5課 我的朋友		
4	第1課 リスニング練習と会話練習			12	第5課 リスニング練習と会話練習		
5	第2課 大学			13	第6課 旅游		
6	第2課 リスニング練習と会話練習			14	第6課 リスニング練習と会話練習		
7	第3課 談愛好			15	総合演習1、まとめ		
8	第3課 リスニング練習と会話練習						
関連科目	日中比較文化言語基礎演習			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格				オフィス アワー			
教科書	陳浩・梁月軍『中国語会話ステップアップ』 (改訂版)、郁文堂			備考			
参考資料	月刊誌『聴く中国語』(日中通信社)						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション中国語Ⅱ		1	房 琦 <small>ふあん ちー</small>	2年	後期	演習	選択
授業概要	本講義のねらいは前期にひきつづき、一通り発音や文法の基本を身につけた皆さんに、中国語会話・リスニングの基礎を習得させることにあります。前期よりやや発展的内容になります。要点は、1) 今まで学んだ発音を再確認し、正しく発音ができる。2) 聞いて、書き取れるようにする。3) 簡単な応用の会話力を身につける。授業では、基本的に中国語を使って授業を進めていきますが、皆さんの実力に応じて適宜日本語も使いますので安心して授業に臨んでください。						
キーワード	中国語 会話 リスニング 異文化理解						
到達目標	(1) 今まで学んだ正しい発音を確実に身につける。基本的な文法について正しく理解する。(2) 自分のことが確実に中国語で表現できるようにする。(3) 中国や台湾などの中国語圏への旅行での簡単な会話ができるようにする。						
受講生に望む事	間違いを恐れず、積極的に会話に参加してください。間違えるほど、身につけていきます。						
評価方法	毎回簡単な会話(50%)とリスニング(50%)のテストを行い、それを評価の対象とします。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス、前期の復習、自己紹介			9	第10課 リスニング練習と会話練習		
2	第7課 做客			10	第11課 ホテルにて		
3	第7課 リスニング練習と会話練習			11	第11課 リスニング練習と会話練習		
4	第8課 中国菜			12	第12課 学漢語		
5	第8課 リスニング練習と会話練習			13	第12課 リスニング練習と会話練習		
6	第9課 購物			14	総合演習2		
7	第9課 リスニング練習と会話練習			15	まとめ		
8	第10課 北京の四合院						
関連科目	日中比較文化言語基礎演習			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格				オフィス アワー			
教科書	陳浩・梁月軍『中国語会話ステップアップ』 (改訂版)、郁文堂			備考			
参考資料	月刊誌『聴く中国語』(日中通信社)						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
検定中国語	2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	後期	演習	選択	
授業概要	これまでの中国語をブラッシュアップするために、中国語検定試験4級か3級合格を目標に授業を行います。過去問を繰り返し解き、また、不足しがちな語彙数の増加を目指します。						
キーワード	中国語検定試験						
到達目標	中国語検定試験3級・4級						
受講生に望む事	毎日中国語に触れること						
評価方法	平常点30% 中間・期末テスト70%						
回	授業計画			回	授業計画		
1	講義計画			9	処置文		
2	存在表現			10	受身文		
3	動作の完了、変化、経験			11	存現文		
4	動作の持続、進行			12	語気助詞		
5	疑問文			13	「不」と「没」		
6	程度・結果・方向補語			14	常用の副詞		
7	可能・動量・時量補語			15	その他		
8	比較文						
関連科目	中国語中級Ⅰ・Ⅱ			連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室		
資格	中国語検定試験3級・4級			オフィス アワー			
教科書	『耳タン 中級4級レベル』			備考			
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
韓国語中級Ⅰ	1	なかがわ あきお 中川 明夫	2年	前期	演習	選択	
授業概要	韓国語検定試験の中級レベル（ネイティブスピーカーとコミュニケーションが可能）に相当する語学力・言語文化力を身につける。						
キーワード	中級レベル、コミュニケーションが可能、語学力、言語文化力						
到達目標	・読む・話す・聞く・書くコミュニケーションに必要な単語・文章ルールを習得する。 ・韓国語によるコミュニケーションで使う言語文化を理解する。						
受講生に望む事	[事前学習]・予習（特に、読み、聞き）をするようにしてください。 ・授業でディスカッションする場合には、話す内容を作文しておいたほうが良いです。 [事後学習]・復習するようにしてください。 ・日ごろから、韓国語にたくさん触れるようにしてください。 ・特に、韓国語によるタイピング練習を薦めます。						
評価方法	試験（80%）、レポートなど（20%）						
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション、第1課			9	第7課		
2	第2課			10	まとめ2		
3	第3課			11	第8課		
4	第4課			12	第8課		
5	まとめ1			13	第9課		
6	第5課			14	第9課		
7	第6課			15	まとめ3		
8	第7課						
関連科目	コミュニケーション韓国語Ⅰ、日本語教育に関数科目			参考資料	プリント資料、映像資料		
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験などの韓国語関連の資格、案内通訳士、日本語教師、韓国語を使用するであろう司書、秘書、教職など			連絡先 オフィス アワー	E-mail: akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟3F研究室		
教科書	李昌圭、『韓国語をはじめよう 中級』、2011年、朝日出版社			備考	韓国語Ⅱ、韓国語基礎Ⅱの既習者、それに相当する韓国語検定試験に合格した学習者の履修が望ましい。		

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語中級Ⅱ	1	柳 景沃 <small>りゅうきんおく</small>	2年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き、韓国語検定試験の中級レベル（ネイティブスピーカーとコミュニケーションが可能）に相当する語学力・言語文化力を身につける。					
キーワード	中級レベルの韓国語力、語学力・文化言語力					
到達目標	・読む・話す・聞く・書くコミュニケーションに必要な単語・文章ルールを習得する。 ・韓国語によるコミュニケーションで使う言語文化を理解する。					
受講生に望む事	[事前学習]・予習（特に、読み、聞き）をするようにしてください。 ・授業でディスカッションする場合には、話す内容を作文しておいたほうがいいです。 [事後学習]・復習するようにしてください。 ・日ごろから、韓国語にたくさん触れるようにしてください。					
評価方法	試験（80％）、提出物（20％）を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション、第10課	9	第16課			
2	第10課	10	第17課			
3	第11課	11	まとめ2			
4	第12課	12	第18課			
5	第13課	13	第19課			
6	まとめ1	14	第20課			
7	第14課	15	まとめ3			
8	第15課					
関連科目	韓国語中級Ⅰ、コミュニケーション韓国語Ⅰ・Ⅱ、日本語教育関連科目	連絡先				
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験、日本語教師検定試験など	オフィス アワー				
教科書	李昌圭、『韓国語をはじめよう 中級』、2011年、朝日出版社	備考	韓国語中級Ⅰ、コミュニケーション韓国語Ⅰなどの韓国語関連科目の既習者、またはそれに相当する韓国語検定試験の合格者（受験者）の履修が望ましい。			
参考資料	プリント資料、映像資料					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション韓国語Ⅰ	1	中川 明夫 <small>なかがわ あきお</small>	2年	前期	演習	選択
授業概要	中級レベルの単語力・文法ルールを学び、ネイティブスピーカーとコミュニケーションが可能な語学力・言語文化力を身につける。					
キーワード	中級レベル、コミュニケーションが可能					
到達目標	・韓国語の多彩な表現ルールを理解し、応用できるようにする。 ・シャドーイングなどの通訳方式を経験する。 ・韓国語検定試験への合格を目指す。					
受講生に望む事	[事前学習]・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 [事後学習]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。					
評価方法	試験（80％）、レポート（20％）を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：授業方法・教材などの紹介	9	第5話			
2	第1話	10	まとめ（第4～5話）			
3	第2話	11	第6話			
4	第3話	12	第6話			
5	まとめ（第1～3話）	13	第7話			
6	第4話	14	第7話			
7	第4話	15	まとめ（第6～7話）			
8	第5話					
関連科目	韓国語中級Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション韓国語Ⅱ、日本語教育関連科目	参考資料	プリント・映像資料			
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験などの韓国語関連の資格、案内通訳士、日本語教師、韓国語を使用するであろう司書、秘書、教職など	連絡先	E-mail : akio@shokei-gakuen. ac. jp 管理棟 3F 研究室			
		オフィス アワー				
教科書	金珍娥、『ドラマチックハングル～君、風の中に～』、2012年、朝日出版社	備考	韓国語Ⅱ、韓国語基礎Ⅱの既習者、それに相当する韓国語検定試験に合格した学習者の履修が望ましい。			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション韓国語Ⅱ		1	柳 景沃 <small>りゅうきんおく</small>	2年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き、具体的な会話を視聴しながら、中級レベルの韓国語コミュニケーション力を習得する。教材の表現を応用した会話練習も行う。						
キーワード	中級レベルの韓国語コミュニケーション力、応用会話練習						
到達目標	・会話の流れが理解できる。 ・状況に合った表現を駆使できる。 ・画面に合わせて韓国語の台詞が言える。						
受講生に望む事	[事前学習]・学習する箇所を予習してください。 ・DVDをなるべくたくさん鑑賞するようにしてください。 [事後学習]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。 ・時間があるときにDVDを見るようにしてください。						
評価方法	定期試験(80%)、提出物(20%)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	第8話			9	第11話		
2	第8話			10	まとめ(第10～11話)		
3	第9話			11	第12話		
4	第9話			12	第12話		
5	まとめ(第8～9話)			13	第13話		
6	第10話			14	第13話		
7	第10話			15	まとめ(第12～13話)		
8	第11話						
関連科目	コミュニケーション韓国語Ⅰ、韓国語中級Ⅰ・Ⅱ、日本語教育関連科目			連絡先			
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験、日本語教師検定試験など			オフィス アワー			
教科書	金珍娥、『ドラマチックハングルー君、風の中にー』、2012年、朝日出版社			備考	韓国語中級Ⅰ、コミュニケーション韓国語Ⅰの既習者、またそれに相当する韓国語検定試験合格(受験者)の受講が望ましい。		
参考資料	プリント資料、映像資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
検定韓国語		2	中川 明夫 <small>なかがわ あきお</small>	2年	後期	演習	選択
授業概要	「ハングル能力検定試験」、「韓国語能力試験(TOPIK)」などの検定試験に出題された問題を解きながら中級以上の韓国語(文化)力を身につける。						
キーワード	ハングル能力検定試験、韓国語能力試験						
到達目標	各種韓国語試験の中級以上のレベルの韓国語力をつける。また、実際に検定試験にチャレンジしてみる。						
受講生に望む事	[事前学習]・配布されたプリントを予習しておいてください。 ・質問を考えておいてください。 [事後学習]・間違えた箇所を復習し、理解するようにしてください。 ・積極的に過去問題を解くようにしてください。						
評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション：授業方法、内容の紹介			9	演習		
2	演習			10	演習		
3	演習			11	演習		
4	演習			12	演習		
5	演習			13	演習		
6	演習			14	演習		
7	演習			15	まとめ		
8	まとめ						
関連科目	日韓比較文化言語原書講読、日韓比較文化言語演習Ⅰ・Ⅱ、応用韓国語、実用観光韓国語など、韓国語に関連した科目			連絡先	E-mail : akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟 3F 研究室 2		
資格	韓国語に関連した検定試験、案内通訳士			オフィス アワー			
教科書	自作プリントを配布。			備考	日韓比較文化言語原書講読、日韓比較文化言語演習ⅠまたはⅡなどの韓国語の授業の履修者、韓国語関連の検定試験に合格した新規履修者が望ましい。		
参考資料	ハングル能力検定試験・韓国語能力試験の過去問題集、参考書						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
対照言語学	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	2年	後期	講義	(旧) JL 選択必修, 他コース選択
授業概要	日本語・韓国語・中国語・英語など複数の言語の音声・語彙・言語行動・非言語行動について比較対照し、その異同から対象とする諸言語の特徴を明らかにする。さらに、対照研究の成果が外国語教育にどのように応用されてきたのかについて学ぶ。					
キーワード	比較対照, 外国語教育					
到達目標	対照言語学の基本的な知識を学び、言語の相違点を考察する					
受講生に望む事	前回の学習内容を復習の上、授業にのぞむこと					
評価方法	授業内課題 (60%), レポート (40%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	語彙・表現の対照 2 (ことわざ・慣用句)		
2	対照言語学と誤用分析		10	言語行動の対照 1 (挨拶行動)		
3	文字の対照		11	言語行動の対照 2 (謝罪, 依頼)		
4	音声の対照 1 (子音・母音)		12	非言語行動の対照 1 (ジェスチャー, パーソナルスペース)		
5	音声の対照 2 (リズム, アクセント)		13	非言語行動の対照 2 (時間)		
6	文法の対照 1 (動詞)		14	外国語教育への応用		
7	文法の対照 2 (形容詞・副詞)		15	まとめ		
8	語彙・表現の対照 1 (オノマトペ・外来語)					
関連科目	日本語・日本語教育・韓国語・中国語・英語に関連した授業, 比較言語学入門		連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本語教員, 日本語教育能力検定試験, 外国語の検定試験		オフィスアワー			
教科書	プリントを配布する		備考			
参考資料	授業で適宜紹介する					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日米比較文化言語基礎演習 I	2	たぐち せいいち 田口 誠一	2年	後期	演習	(旧) AA 選択必修 他コース選択
授業概要	アメリカ作家が日本作家に与えた影響の具体例を検証し、日本とアメリカ両国の文化的社会的背景や言語を比較し、特にその差異に注目しながらアメリカ文学の特質を理解する。アメリカ文学の作品を通して英文読解力を養成するばかりでなく、文学や言葉への鋭い感性を磨く。					
キーワード	ビアス (Bierce) 芥川龍之介 (Ryunosuke Akutagawa)					
到達目標	・アメリカ作家と作品への理解を深め、作品の読み方を深く学習することにより、卒業研究の土台づくりを目指す ・日米の文化的背景や歴史について学び、その差異や共通性について理解を深める ・原書を読むことにより英語の読解力を向上させる					
受講生に望む事	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。 学期末レポート以外に課題を数回提出してもらうので、特に時間をかけて内容をよく理解し、提出すること。					
評価方法	レポート等の課題 (60%)、学習態度 (40%) で評価をおこなう。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	日本におけるアメリカ文学について		9	ビアスの短編		
2	ビアスについて		10	ビアスの短編		
3	芥川について		11	芥川の短編		
4	芥川の短編 (英訳も使用)		12	ビアスと芥川の短編比較 (2)		
5	芥川の短編		13	ビアスの箴言集		
6	ビアスの短編		14	ビアスと芥川の箴言集比較		
7	ビアスの短編		15	まとめ		
8	ビアスと芥川の短編比較 (1)					
関連科目	日米比較文化原書講読 I		連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11		
資格			オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55		
教科書	プリントを配布する。		備考	高 1 英語教員免許状必修科目		
参考資料	『孤絶の諷刺家アンブローズ・ビアス』(新潮社) など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日米比較文化言語基礎演習Ⅱ	2	Josh Norman	2年	後期	演習	(旧)AA 選択必修 他コース選択
授業概要	Students will listen to authentic English using a DVD to see how Japanese and Americans their age maneuver through everyday situations. Students will have several opportunities to put their English into action with the speaking activities that mirror the visual content in each of the units.					
キーワード	Comparative culture, English, speaking, listening					
到達目標	1) Students should be able to compare how Japanese and American young people react in different social situations. 2) Students should be able to understand and use common English expressions and idioms that are used in daily conversation.					
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course. Students should prepare properly before each class and review after each class has finished.					
評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (20%), and quiz (50%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	Unit 1	9	Unit 8			
2	Unit 2	10	Unit 9			
3	Unit 3	11	Unit 10			
4	Unit 4	12	Unit 11			
5	Unit 5	13	Unit 12			
6	Unit 6	14	Review of Units 7-12			
7	Review of Units 1-6	15	Quiz			
8	Unit 7					
関連科目		連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 楡木キャンパス：大学1号館 2F			
資格		オフィスアワー	See schedule on my office door			
教科書	"America Live! English and Culture in Action" by Dave Fuller (MacMillan Language House)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日韓比較文化言語基礎演習	2	なかがわ あきお 中川 明夫	2年	後期	演習	(旧)選択
授業概要	多様な表現を聞く→読む・書く・読む練習を重ねながら、コミュニケーション力を習得する。また、韓国語タイピング練習を取り入れることで、ビジネス面で使える実践的な韓国語を習得したい。					
キーワード	読む・書く・読む練習、コミュニケーション力、実践的な韓国語					
到達目標	・韓国語の多彩な表現ルールを理解する。 ・韓国語のコミュニケーションに親しみ、慣れる ・韓国語検定試験（初・中級以上）に合格できる語学力と実践力をつける。					
受講生に望む事	大学の授業以外でも、日頃、韓国語に触れ、親しむように心がけてください。 [事前学習]・単語・文法ルールをあらかじめ予習しておいて下さい。・前授業時にディスカッションのテーマを決めますので、準備しておいてください。 [事後学習]・復習するようにしてください。・課題は、期限までに必ず出すようにしてください。（なるべくハングルワードで作成）					
評価方法	試験（80％）、レポート（20％）を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	授業法方・評価方法の紹介	9	鑑賞→考える→話す			
2	鑑賞→考える→話す	10	まとめ2			
3	鑑賞→考える→話す	11	鑑賞→考える→話す			
4	鑑賞→考える→話す	12	鑑賞→考える→話す			
5	まとめ1	13	鑑賞→考える→話す			
6	鑑賞→考える→話す	14	鑑賞→考える→話す			
7	鑑賞→考える→話す	15	まとめ3			
8	鑑賞→考える→話す					
関連科目	韓国語中級、コミュニケーション韓国語、日韓比較文化言語原書講読、日本語教育関連の授業		連絡先	E-mail: akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟 3F 研究室 2		
資格	各種の韓国語関連の検定試験、日本語教員検定試験		オフィスアワー			
教科書	自作プリント		備考	韓国語ⅢA・Bの履修者、または韓国語に関する検定試験に合格した新規履修者が好ましい。		
参考資料	映像資料、補足プリント					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学講義Ⅱ	2	たけしま かずき 竹島 一希	3年	前期	講義	選択
授業概要	室町時代には、日本文化における大きな転換点でした。この時代に生まれた芸能は、現代でも伝統文化として世界的に受け継がれています。この授業では、文学と芸能という二本立ての視点で、室町文化を総合的に捉えます。					
キーワード	室町時代、芸能、和歌、連歌					
到達目標	1 室町時代の文化について、それぞれを把握したうえで総体的に捉えることができる。 2 伝統芸能に対する基本的な知識を身に付けることができる。					
受講生に望む事	特にありません。					
評価方法	学期末試験で評価します（100％）。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	幸若舞を見る（2）			
2	室町物語（1）	10	連歌へようこそ			
3	室町物語（2）	11	連歌の歴史（1）			
4	能と狂言と幸若舞	12	連歌の歴史（2）			
5	狂言を見る	13	前句に付ける			
6	能を見る（1）	14	長連歌の世界			
7	能を見る（2）	15	まとめ			
8	幸若舞を見る（1）					
関連科目		連絡先				
資格		オフィスアワー	質問等は授業の前後で受け付けます。			
教科書	レジュメを配布します。	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学演習Ⅰ	2	たけだ まさのり 武田 昌憲	3年	前期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	随筆『徒然草』を読み解きます。平成27年度のテーマは「人生と芸術」です。作者兼好法師も何らかの「芸」を持って生活しています。中世の芸術がその後の日本文化の中核にあることを改めてみていきたいと思います。グループ調査と個人研究によって独自のこだわりと活発な意見を出してもらいたいと思います。本書は日本人にもっともよく読まれ、親しまれた古典作品です。そこには限りある人生を有効に生かす方法が至る所に描かれています。ぜひ本書を通読して人生の指針にさせていただきたいと思います。					
キーワード	徒然草 随筆 中世文学 兼好法師 有職故実 中世文化 中世歌人 二条派					
到達目標	古典の故実・人物・基礎的事項の調査方法がわかる。作者の美意識が理解できる。自分の意見が的確に表現できる。					
受講生に望む事	教職課程の者は受講すること。毎時間の積極的な質疑応答を期待します [事前学修] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと					
評価方法	発表資料・質疑応答・教場レポート 50% 期末試験（レポート） 50%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	はじめに 演習の方法と中世の思想（Ⅰ）について テキストの確認	9	演習発表 89段			
2	中世の思想（Ⅱ）について 発表手順・分担 兼好法師について	10	演習発表 92段			
3	序についての実演・発表。基本文献の確認	11	演習発表 145・146段			
4	演習発表 1段	12	演習発表 184段			
5	演習発表 9段	13	演習発表 226段			
6	演習発表 52段	14	演習発表 236段			
7	演習発表 53段	15	まとめ			
8	演習発表 54段	16	試験（レポート）			
関連科目	日本古典文学演習Ⅱ 日本古典文学史Ⅱ	連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『徒然草』（岩波文庫）	備考				
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学演習Ⅱ		2	たけだ まさのり 武田 昌憲	3年	後期	演習	JL選必 他コース選択	
授業概要	清少納言の『枕草子』を取り上げ、有職故実や文献の処理の仕方等を学びながら、調査・発表していきます。同時に平安貴族の王朝美とともに、厳しい現実世界をも見ていきます。女性がたくましく生きるその様子を鑑賞し、将来の自分の生き方の参考にしてもらえればと思います。							
キーワード	枕草子 有職故実 王朝美 清少納言 平安文学 古代文学							
到達目標	王朝時代の故実・人物・基礎的事項の調査方法がわかる。作者の美意識が理解できる。自分の意見が的確に表現できる。							
受講生に望む事	毎時間の積極的な質疑応答を期待します [事前学修] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと							
評価方法	発表資料・質疑応答・教場レポート 50% 期末試験（レポート）50%							
回	授業計画			回	授業計画			
1	はじめに、『枕草子』について テキストの確認			8	演習発表 8段			
2	物尽くし・随筆的章段・階層的章段の説明 発表の分担 演習発表の準備のために清少納言について・『徒然草』『方丈記』『枕草子』一随筆を探る			9	演習発表 9段			
3	演習発表 1段			10	演習発表 各自の選択した章段			
4	演習発表 2段			11	演習発表 各自の選択した章段			
5	演習発表 3段			12	演習発表 各自の選択した章段			
6	演習発表 4・5段			13	演習発表 各自の選択した章段			
7	演習発表 6・7段			14	まとめ			
				15	試験（レポート）			
関連科目	日本古典文学演習Ⅰ			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『枕草子』（岩波文庫） 840円 ISBN4-00-300161-3 C0195			備考				
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本近現代文学講義Ⅱ		2	かわだ かずこ 河田 和子	3年	前期	講義	選択	
授業概要	近代小説において〈病〉はどのように描かれてきたか、かつて〈不治の病〉とされた結核を題材にしたものとして、横光利一と堀辰雄の小説を取り上げて考察する。結核を題材とした小説というと暗いイメージを抱きがちだが、横光や堀においてはどうだったのか、両作家の表現の特徴や人生観を比較し検討する。小説の時代背景や、結核の文化的な問題も視野に入れながら、それぞれの小説の特徴を見ていくことにする。							
キーワード	横光利一 太宰治 病妻もの 結核							
到達目標	・それぞれの作家の表現の特徴について理解する。 ・小説背後の文化的、社会的問題を見ていくことで、幅広い視野を身につける。 ・作家の人生が、小説の表現（＝虚構）にどう反映されているかを理解する。							
受講生に望む事	必ず事前にテキストを読んでおくこと。 授業内容について復習し、作品に関する感想を書けるようにしておくこと。							
評価方法	授業態度（授業時の課題、小レポートなど30%）、学期末レポート（70%）							
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	堀辰雄「風立ちぬ」①			
2	〈結核〉の文化史と文学			10	「風立ちぬ」②			
3	新感覚派・横光利一の〈病妻もの〉について			11	「風立ちぬ」③			
4	横光利一「春は馬車に乗って」①			12	「風立ちぬ」④			
5	「春は馬車に乗って」②			13	「風立ちぬ」⑤			
6	「花園の思想」①			14	宮崎駿アニメ「風立ちぬ」一堀辰雄の小説からの着想			
7	「花園の思想」②			15	まとめ			
8	堀辰雄について							
関連科目				連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー				
教科書	堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』角川文庫 横光の小説についてはプリントで配布			備考				
参考資料	田清人『結核の文化史』名古屋大学出版会 他の参考文献は、授業で紹介する。							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学演習Ⅰ	2	かわだ かずこ 河田 和子	3年	前期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	大正期に書かれた芥川龍之介の短編小説をもとに、それぞれが調査研究したことを発表する。特に、芥川の翻案小説として、〈王朝もの〉と中国古典ものをもとに、先行論文や参考資料の調査、典拠との比較考察を行う。					
キーワード	芥川龍之介 王朝もの 典拠 翻案					
到達目標	・文学研究の基本的な方法を習得する。 ・芥川龍之介の作品に関する資料を収集、調査する力を身につけるとともに、読解力を磨く。 ・自分の意見をまとめ、発表するプレゼンテーション能力を身につける。					
受講生に望む事	発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望みます。最低2回、各自の発表をしてもらいます。 【事前学習】事前にテキストを読んでおくこと。 【事後学習】発表担当者のレジメを読み直し、質問や意見を言えるようにしておくこと。					
評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など10%）、発表（レジメの作成も含む40%）、学期末レポート（50%）。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス① 文学研究とは？	9	「地獄変」発表 ①			
2	ガイダンス② 資料の集め方、研究の方法（先行論文、典拠など）	10	「地獄変」発表 ②			
3	ガイダンス③ 口頭発表、レジメの作成について	11	「六の宮の姫君」発表 ①			
4	ガイダンス④ 芥川の〈王朝もの〉とは？ 作品分析－「鼻」を例に	12	「六の宮の姫君」発表 ②			
5	「羅生門」発表 ①	13	「杜子春」①			
6	「羅生門」発表 ②	14	「杜子春」②			
7	「芋粥」発表 ①	15	まとめ			
8	「芋粥」発表 ②					
関連科目		連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書	芥川龍之介『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八篇』文春文庫	備考	近現代文学関連で卒業論文を書くことを考えているものは、必ず受講すること。			
参考資料	参考資料は、授業のガイダンスで紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学演習Ⅱ	2	かわだ かずこ 河田 和子	3年	後期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	昭和期の無頼派作家の一人・太宰治の短編小説をもとに、それぞれが調査研究したことを発表する。先行論文や作家、作品に関わる様々な資料を集め、それらを整理しながら作品を分析し、考察する。各々の発表では、ディスカッションしながら作品の読みを深め、先行研究に対する多様な読みの可能性についても考える。					
キーワード	太宰治 無頼派 先行論文					
到達目標	・文学研究の基本的な方法を習得する。 ・太宰治の作品に関する資料を収集、調査する力を身につけ、読解力を磨く。 ・自分の意見をまとめ、発表するプレゼンテーション能力を身につける。					
受講生に望む事	発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望みます。最低2回、個人発表をしてもらいますので、そのつもりで受講すること。【事前学習】事前にテキストの作品を読んでくること。※発表担当者は、発表内容をまとめ、レジメを作成すること。 【事後学習】発表担当者のレジメを読み直し、質問や意見を言えるようにしておくこと。※発表担当者は追加課題を与えるので、そのことについて調査して、再度レジメを作成すること。					
評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など10%）、発表（レジメの作成も含む40%）、学期末レポート（50%）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス① 研究方法（先行論文、関連資料の集め方）	9	「駈込み訴え」発表			
2	ガイダンス② 発表の方法、レジメの作成について	10	「走れメロス」発表			
3	ガイダンス③ 太宰治という作家について	11	「清貧譚」発表			
4	ガイダンス④ 作品分析	12	「待つ」発表			
5	「満願」発表	13	「貧の意地」発表			
6	「富嶽百景」発表	14	「カチカチ山」発表			
7	「葉桜と魔笛」発表	15	まとめ			
8	「新樹の言葉」発表					
関連科目		連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書	太宰治『走れメロス・おしゃれ童子』（集英社文庫）	備考				
参考資料	参考書類は、授業のガイダンスで紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学講義Ⅱ	2	ふくなが みか 福永 美佳	3年	前期	講義	選択
授業概要	『聊齋志異』など、日本と関わりの深い作品をいくつかを選び、読むことを通じて、中国文学の世界に触れる。またこれらの小説がどのような歴史をたどってきたか、それぞれの作品がどのような関係にあるのかについても解説する。					
キーワード	『聊齋志異』、日中比較文学					
到達目標	中国を代表する作品について理解を深める。読解のために必要な工具書の取り扱いを身に付ける。					
受講生に望む事	この授業で取り上げる作品に関しては通読することが望ましい。					
評価方法	レポート及び発表（合計100%）で評価する。他に授業への積極的な参加状況を加味する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	作品鑑賞		
2	作品鑑賞		10	作品鑑賞		
3	作品鑑賞		11	作品鑑賞		
4	作品鑑賞		12	作品鑑賞		
5	作品鑑賞		13	作品鑑賞		
6	作品鑑賞		14	作品鑑賞		
7	作品鑑賞		15	まとめ		
8	作品鑑賞					
関連科目	JLコースで漢文学（中国文史哲学）分野での卒業論文執筆を予定している者は、その他にも、漢文学関係諸科目、「日中比較文化論」「東アジア史Ⅰ・Ⅱ」などを履修することが望ましい。		参考資料	大阪市立大学中国文学研究室編『中国の八大小説——中国近世小説の世界』（平凡社）、蒲松齡作・立間祥介編訳『聊齋志異』（岩波文庫）		
			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	火曜：昼休み 金曜：昼休み		
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学演習Ⅰ	2	ふくなが みか 福永 美佳	3年	前期	演習	JL選必 他コース選択
授業概要	『漢文学講義Ⅰ・Ⅱ』にひきつづき、訓点（送りがなと返り点）付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈する練習を積み重ねる。前期の演習では、唐宋八大家の文章を中心によむ予定である。この授業は演習形式であり、毎回の授業へは十分な予習が必要である。多くの文章の読解を通じて、漢文訓読の基本的な規則の習得を図りたい。					
キーワード	漢文訓読、唐宋八大家、散文					
到達目標	訓点付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。初見の漢文にとりくむために、工具書（辞書・字書・事典・索引・地図など）についての基礎知識を身につける。中学・高校の教壇で、自信をもって漢文を教えられるスキルを身につける。					
受講生に望む事	予習復習を十分に行うことが望ましい。					
評価方法	小テストと課題（70点）に、平常点（授業への参加30点）を加味する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンスとアンケート、現段階での実力を知るための小テスト		9	講読演習 論説文⑧		
2	講読演習 論説文①		10	講読演習 論説文⑨		
3	講読演習 論説文②		11	講読演習 論説文⑩		
4	講読演習 論説文③		12	講読演習 論説文⑪		
5	講読演習 論説文④		13	講読演習 論説文⑫		
6	講読演習 論説文⑤		14	講読演習 論説文⑬		
7	講読演習 論説文⑥		15	まとめ		
8	講読演習 論説文⑦					
関連科目	『中国文学概説Ⅰ・Ⅱ』『漢文学講義Ⅰ・Ⅱ』など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、今年度開講の講義科目に続けて、3・4年生開講の「漢文学演習Ⅱ～Ⅲ」を受講すること。		参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）、国学院大学中国文学研究室編『中国文学概説』（笠間書院）など。		
			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級		オフィスアワー	授業中に指示する。		
教科書	使用しない。テキスト・資料は適宜プリントとして配布する。予習のために漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学演習Ⅱ	2	ふくなが みか 福永 美佳	3年	後期	演習	JL 選必 他コース選択
授業概要	後期の講読演習には、史書・筆記・小説などから、ストーリー性があり理解しやすい作品を題材として用いる。この授業は十分な予習復習が必要である。					
キーワード	唐代伝奇、文言小説					
到達目標	高度な漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。初見の漢文にとりくむために、工具書（辞書・字書・事典・索引・地図など）についての深い知識を身につける。					
受講生に望む事	毎授業前に、小テストの準備をしてこること。授業後は復習を必ず行うこと。					
評価方法	発表及びレポートで100%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンスと期末試験の解説		9	演習 ⑧		
2	演習 ①		10	演習 ⑨		
3	演習 ②		11	演習 ⑩		
4	演習 ③		12	演習 ⑪		
5	演習 ④		13	演習 ⑫		
6	演習 ⑤		14	演習 ⑬		
7	演習 ⑥		15	まとめ		
8	演習 ⑦					
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ」など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、必ず受講すること。		参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）など。		
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	使用しない。テキスト・資料は適宜プリントとして配布する。予習のために漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。		オフィス	火曜 昼休み		
			アワー	金曜 昼休み		
			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
アナウンス実践論	2	いわもと かつお 岩元 克雄	3年	後期	講義 実技	JL・LC 選択必修 他コース選択
授業概要	基本的には、新人アナウンサーの教育に準じた訓練を行い、明瞭な発音ができるように基礎発声練習に重点をおく。同時に、古来親しまれてきた和歌・詩（漢詩）・古典の朗読・朗誦に力を入れる。講座を通して日本語の素晴らしさを認識し、言葉・日本語に対する「感性」と「国語力」を高めてもらう。					
キーワード	発声練習 朗読 面接対応 プレゼンテーション					
到達目標	・明瞭な発音ができること・「外郎売りの台詞」の一部の暗記・朗読技術の向上					
受講生に望む事	「やる気」のある学生の受講を希望					
評価方法	① 古典物の暗記、朗誦 20% ② 朗読技術を評価（大きな声で・ゆっくりと・はっきりと・読み方）する各20%ずつ 計80%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	話道のところとは		9	朗読Ⅱ		
2	発音・発声練習について		10	朗読Ⅲ		
3	標準語（共通語）について		11	朗誦		
4	鼻濁音・無声化について		12	自己紹介の仕方		
5	アクセントについて		13	面接の受け方		
6	外郎売りの台詞		14	プレゼンテーション		
7	お知らせアナウンス		15	講演実習		
8	朗読Ⅰ			※毎回、基礎発声発音練習を徹底、実技を主体とする		
関連科目			連絡先	尚絅大学教務課		
資格	日本漢字能力検定試験2級・及び日本語検定試験2級の取得をめざす		オフィス			
教科書	「話道のところ」岩元克雄著 スカイビュープランニング社		アワー			
参考資料	日本語発音アクセント辞典（NHK出版）		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語教育文法概論	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	3年	前期	講義	選択
<b>授業概要</b>	日本語教育における文法事項や用語を、実際の文法導入法を踏まえながら学ぶ。					
<b>キーワード</b>	文法導入、コソア、モダリティ、条件表現					
<b>到達目標</b>	・日本語教育の文法事項を理解する ・日本語を客観的に分析する力を身につける					
<b>受講生に望む事</b>	授業の毎回のテーマに合わせて各自参考書等で概要をつかんでおくこと					
<b>評価方法</b>	授業内課題（40%）、小テスト（60%）					
<b>回</b>	<b>授業計画</b>		<b>回</b>	<b>授業計画</b>		
1	イントロダクション		9	さまざまなモダリティ		
2	文の構造、品詞分類		10	アスペクト		
3	名詞文		11	形容詞・連体修飾		
4	指示詞（コソア）		12	副詞・連用修飾		
5	動詞①		13	複文		
6	動詞②		14	条件表現		
7	使役・可能・自発		15	まとめ		
8	受け身					
<b>関連科目</b>	日本語学概説Ⅰ，日本語学概説Ⅱ		<b>連絡先</b>	jin@shokei-gakuen.ac.jp		
<b>資格</b>	日本語教員，日本語教育能力検定試験		<b>オフィスアワー</b>			
<b>教科書</b>	プリントを配布する		<b>備考</b>			
<b>参考資料</b>	『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』，庵功雄 他，スリーエーネットワーク 『はじめての人の日本語文法』，野田尚史，くろしお出版 など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語教授法概論	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	3年	後期	講義	選択
<b>授業概要</b>	外国語・第二言語教育としての日本語教育の基礎を概観するとともに、教室活動における指導の在り方と方法について実際に課題に取り組みながら学ぶ。					
<b>キーワード</b>	外国語教授法，コースデザイン，初級指導法，中上級指導法					
<b>到達目標</b>	・日本語教師の仕事を理解する ・日本語教育に関する基礎的な知識を身につける ・さまざまな指導法を学ぶ					
<b>受講生に望む事</b>	授業中のクイズや練習問題などを活用し，毎回の講義のポイントが理解できたか確認すること					
<b>評価方法</b>	平常点（授業参加の様子，提出物，クイズ結果等）50%，期末提出課題（レポート，実演等）50%					
<b>回</b>	<b>授業計画</b>		<b>回</b>	<b>授業計画</b>		
1	イントロダクション：日本語教師の仕事について		9	中上級の教え方		
2	外国語教授法のいろいろ		10	評価法		
3	コースデザイン		11	模擬授業準備		
4	授業の組み立て，教案作成		12	模擬授業準備		
5	教材・教具の使い方		13	模擬授業体験		
6	初級の教え方①：文法		14	模擬授業体験		
7	初級の教え方②：文字・語彙・読解		15	まとめ		
8	初級の教え方③：発音・聴解・会話					
<b>関連科目</b>	日本語学概説，日本語文法，日本語教育文法概論		<b>連絡先</b>	jin@shokei-gakuen.ac.jp		
<b>資格</b>	日本語教員，日本語教育能力検定		<b>オフィスアワー</b>			
<b>教科書</b>	プリントを配布する		<b>備考</b>			
<b>参考資料</b>	『やさしい日本語指導10 日本語教授法 改訂版』，平畑奈美，凡人社 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ』，国際交流基金，ひつじ書房，など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語学演習 I	2	はたけやま 畠山 真一	3年	前期	講義	JL 選必 他コース選択
授業概要	本演習では、現代日本語文法において重要視されるトピックを概観しつつ、文法研究の方法論について考える。					
キーワード	日本語文法、テンポラリティ、モダリティ、文の階層性、とりたて詞					
到達目標	・現代日本語文法の諸概念を理解する ・テンス・アスペクト・モダリティに関する理論的な枠組みを理解する ・言語データを分析する能力を身につける					
受講生に望む事	自分の言語を他の言語と相対的に見る視点を持つよう、心がけてください。					
評価方法	レポート（学期末）の提出（100%）					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	森山卓郎 (3): 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」を検討する		
2	高橋太郎 (1): 『日本語の文法』を概観する		10	仁田義雄 (1): 「認識的モダリティとその周辺」を検討する		
3	高橋太郎 (2): 『日本語の文法』を概観する		11	仁田義雄 (2): 「認識的モダリティとその周辺」を検討する		
4	高橋太郎 (3): 『日本語の文法』を概観する		12	沼田善子 (1): 「とりたて」を検討する		
5	寺村秀夫 (1): 「日本語のシンタクスと意味 II」のモダリティ部分 (6章) を検討する		13	沼田善子 (2): 「とりたて」を検討する		
6	寺村秀夫 (2): 「日本語のシンタクスと意味 II」のモダリティ部分 (6章) を検討する		14	沼田善子 (3): 「とりたて」を検討する		
7	森山卓郎 (1): 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」を検討する		15	全体のまとめ		
8	森山卓郎 (2): 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」を検討する					
関連科目	日本語概説 I, 日本語概説 II		連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本語教師		オフィス アワー			
教科書	ハンドアウトを使用する。		備考			
参考資料	授業中に指示する					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語学演習 II	2	はたけやま 畠山 真一	3年	後期	演習	JL 選必 他コース選択
授業概要	本演習では、方言におけるアスペクトを考える。					
キーワード	テンポラリティ、テンス、アスペクト、モダリティ					
到達目標	・現代日本語文法の諸概念を理解する ・テンス・アスペクト・モダリティに関する理論的な枠組みを理解する ・言語データを分析する能力を身につける					
受講生に望む事	事前に指定された論文を読み、自分の感心に照らし合わせて、疑問点・問題点をクリアしておくこと。授業後は、関連論文を指示するので、該当分野に関する知見に関して、さらに調査すること。					
評価方法						
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	木部陽子: 「福岡地域のアスペクト・待遇・ムード」を検討する		
2	奥田靖雄: 「アスペクトの研究をめぐる」を検討する		10	住田幾子: 「北九州市域のアスペクト形式 (I)」を検討する		
3	金水敏 (1): 「時の表現」を検討する		11	丹羽一彌: 「述語の構造とアスペクト表現形式」を検討する		
4	金水敏 (2): 「時の表現」を検討する		12	二階堂整: 「談話資料から見た福岡方言のアスペクトの実態」を検討する		
5	金水敏 (3): 「時の表現」を検討する		13	津田智史: 「西日本諸方言のアスペクトの捉え方—宮崎方言を例にして—」を検討する		
6	工藤真由美 (1): 「シテイル形式の意味記述」を検討する		14	定延利之・アンドレイ・マルチュコフ: 「エビデンシャルティと現代日本語の「ている」構文」		
7	工藤真由美 (2): 「宇和島方言のアスペクト (I)」を検討する		15	全体のまとめ		
8	工藤真由美 (3): 「研究成果の概要—アスペクト・テンス・ムードを中心に」を検討する					
関連科目	日本語学演習 I		連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー			
教科書	ハンドアウトを使用する。		備考			
参考資料	授業中に指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
刻字	1	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	3年	後期	実習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	書表現の1つとしての刻字について理解するために陽刻又は陰刻の作品を制作し、刻字独特の表現、及び他の芸術分野との関連についても考える。又、刻すという表現が書道史の中でどのような役割を果たしてきたかを知り、現代に生きる刻字文化についても学ぶ。					
キーワード	立体、彩色、陽刻、陰刻、生活書					
到達目標	・刻字作品と書作品の違いについて理解する。 ・刻法についての基本的技法を習得する。 ・刻字文化の歴史の変遷について理解する					
受講生に望む事	集中して取り組む。 [事前学習]・資料を読み込み取り組む作業について理解しておく。 [事後学習]・制作ノートをまとめる。 ・授業の進度に合わせて作業を進めておく。					
評価方法	授業への取り組み 20%、提出物 80%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	刻字について (1) 刻字の特徴、歴史、作品鑑賞	9	ほんノミ (1)			
2	" (2) 作品制作について、用具・用材について	10	" (2)			
3	書稿 (1)	11	印			
4	" (2)	12	彩色			
5	籠字、貼り込み	13	箔押し			
6	すてノミ	14	仕上げ			
7	さらい (1)	15	作品鑑賞・まとめ			
8	" (2)					
関連科目		連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格						
教科書	工芸書を楽しむ (木耳社)	オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
参考資料	毎日書道講座 10 刻字 (毎日新聞社) 篆刻と刻字の技法 (理工学社)	備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国書道史	2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	3年	前期	講義	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	古代から中華民国までの中国書道史について学び、時代背景、代表的書人、作品などを通して各時代の書文化について知る。さらに、拓本等の資料を実見したり、重要語句について学ぶことでより理解を深める。					
キーワード	書体の変遷、書文化、歴史、重要語句					
到達目標	・書体の変遷を含めた中国書道史の全体の流れを掴む。 ・各時代の書文化の特色を把握する。 ・重要語句について理解し、説明出来るようにする。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 [事前学習]・資料を読み込んでくる。 [事後学習]・時代ごとに資料をまとめる。					
評価方法	授業への取り組み 20%、定期試験 80%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	中国書道史概論	9	南北朝 造像記、鄭道昭			
2	殷 刻符、甲骨文	10	隋 墓誌銘			
3	西周 金文	11	唐 (1) 唐の四大家			
4	春秋戦国 大篆、帛書	12	" (2) 狂草体			
5	秦 小篆、瓦當	13	宋 宋の三大家			
6	漢 八分、古隸、木簡、印	14	元、明 帖学派			
7	三国、西晋 紙、塼	15	清、中華民国 碑学派			
8	東晋、中間試験 王羲之	16	定期試験			
関連科目		連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格						
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)、中国書道史年表 (二玄社)	オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
参考資料	{決定版} 日本書道史 (芸術新聞社)	備考	高1書道教員免許状必修科目			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本書道史	2	くたみ たけし 久多見 健	3年	後期	講義	JC 選必 他コース選択
授業概要	日本の書がどのような発達、変遷をしたか明らかにする。上代に中国から伝わった漢字から日本書道史は始まり、各時代に能書、劇蹟を残している。時代背景を見ながら、各時代の書の様相をたどる。					
キーワード	日本の書・歴史・能書					
到達目標	・古代から今日までの日本書道史の変遷をつかむ。 ・各時代の能書・名筆劇蹟について理解する。 ・日本書道史における中国書道の影響を把握する。					
受講生に望む事	実技の力と書道理論の両方をバランスよく身に付けてほしい。 授業時に次回の内容を伝えるので、テキストを読んで予習しておく。毎回の授業で前回の確認小テストを行う。					
評価方法	レポート (50%) 試験 (50%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	大和・奈良時代	日本古代の金石文他	9	南北朝・室町	和様書、五山様	
2	"	奈良時代の写経他	10	安土桃山・江戸前期	古筆の愛好、寛永の三筆	
3	平安時代前期	三筆と作品他	11	江戸中・後期	お家流、唐様、黄檗の三筆、幕末の三筆	
4	"	仮名の発達	12	明治時代	楊守敬来日、明治の三大家	
5	平安時代中期	三蹟と作品他	13	大正から現代まで		
6	"	仮名の完成	14	郷土の書	中林梧竹、肥後の三筆他	
7	平安時代後期	変化のある書風	15	日本書道史の流れ		
8	鎌倉時代	懐紙、墨蹟	16	試験		
関連科目	中国書道史		連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：1号館3階 久多見研究室		
資格			オフィスアワー	火曜日 16:20~17:20 木曜日 12:15~13:00		
教科書	図説 日本書道史 (芸術新聞社)		備考	「書道」教職免許必修		
参考資料	図説 中国書道史 (芸術新聞社) 和漢書道史 藤原鶴来 (二玄社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
名跡鑑賞	2	かさしま たたゆき 笠嶋 忠幸	3年	前期集中	演習	JL, JC 選択必修 他コース選択
授業概要	日本及び中国の書の名跡を鑑賞し、書美の特質と諸要素を理解すると共に、その多様性について学ぶ。またPC 機材による画像提示の下、視覚的に鑑賞を行う。書の鑑賞や理解は、表現と相互に影響しあう関係を持っているが、書の古典技法の造形的分析を行うことにより、更に鑑賞能力を高めたい。特に書とそれに関連する芸術や諸文化との相互的影響についても言及する。					
キーワード	鑑賞、書美、古典					
到達目標	高校の書道教員として、鑑賞に関して必要な基本的・専門的内容を理解する。また、鑑賞の方法についても常に思考、改善できる能力を養い、論理的な文章として纏める力をつける。以上を到達目標とする。					
受講生に望む事	鑑賞に関して基本的・専門的内容を理解し、書美の理解と鑑賞の深化をはかってほしい。鑑賞したことを言葉で説明する能力を養い、さらに論理的な文章として纏める力をつけてほしい。					
評価方法	発表 (30%)、レポート (70%)、試験を課することがある					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス / 作品の見方		9	能書の定義 - 多様な表現と個性 (3)		
2	書作品の鑑賞方法 - 我々はどこを見ているか (1)		10	造形は伝潘 - 能書だって間違える		
3	書作品の鑑賞方法 - 我々はどこを見ているか (2)		11	造形は伝潘 - 時代性		
4	書作品の鑑賞方法 - 造形的特徴の分析 (1)		12	書の流儀 - 上代様		
5	書作品の鑑賞方法 - 造形的特徴の分析 (2)		13	書の流儀 - 中世		
6	書作品の鑑賞方法 - 造形的特徴の分析 (3)		14	書の流儀 - 近世		
7	能書の定義 - 多様な表現と個性 (1)		15	書の流儀 - 近現代		
8	能書の定義 - 多様な表現と個性 (2)		16	まとめ・レポート		
関連科目	書論研究、書道史		連絡先	榎木キャンパス教務課		
資格			オフィスアワー			
教科書	書を味わう (淡交社、2010) その他適宜資料を配布する。		備考	書道に関わらず、芸術全般にわたって興味・関心を深めて頂きたい。		
参考資料	『日本美術における「書」の造形史』(笠間書院)、『高等学校芸術科書道指導資料 鑑賞編』(文部省)、 『高等学校学習指導要領解説 芸術編』(文部科学省)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書論研究	2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	3年	後期	講義	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	書について述べられた書論の内容は多岐にわたり、書を理解する上では欠かせないものである。代表的な書論や書話を購読することにより、書の本質を探り、さらに作品制作へとつなげる。					
キーワード	書論、書話、理論、本質、探求					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な書論、書話について認識し把握する。</li> <li>書を理解する上での書論の重要性について認識する。</li> <li>作品制作との関連性について考察する。</li> </ul>					
受講生に望む事	書論の内容を理解し、積極的に作品制作に生かす。 [事前学習]・資料を読み込んでくる。 [事後学習]・課題についてまとめ提出する。					
評価方法	授業への取り組み20% 発表点30% 提出物50%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	書論と書話について		9	「書譜」購読 (4)		
2	書論・書話概説 (1)		10	" (5)		
3	" (2)		11	" (6)		
4	" (3)		12	「書話」購読 (1)		
5	" (4)		13	" (2)		
6	「書譜」購読 (1) 孫過庭について		14	" (3)		
7	" (2)		15	まとめ		
8	" (3)		16			
関連科目			連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)		
資格			オフィス アワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00		
教科書	新選書を語る (二玄社)		備考	高1種書道教員免許状必修科目		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢字創作研究	2	くろだ きよかず 黒田 清和	3年	前期	演習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	さまざまな用紙サイズや形式を導入し、漢字創作を実技形式で展開していく。その中身としては、選別した漢詩をこれまで学習してきた様々な書体で、古典からの集字資料を基に草稿を練り、それに個性が加味された創作へと発展させる。そして、ここで培った成果を4年の卒業制作作品に結びつけていく。					
キーワード	漢字古典、漢詩、創作。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の今求めている書風を見出す。</li> <li>漢字創作作品の見方・作り方を理解する。</li> <li>自らの作品制作において、感動と充実感を味わうところまで意識を高める。</li> </ul>					
受講生に望む事	創作における柔軟な発想力と意欲的な探究心。					
評価方法	課題の提出・質80%および出席状況20%として評価を行う。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	書作品の形式、全体構成(落款を含む)等について		9	第2作品詩文選定、集字資料制作、草稿作り		
2	第1作品詩文選定、集字資料制作、草稿作り		10	サンプル制作・決定(全紙以上で縦横自由)		
3	サンプル制作(全紙以上で縦横自由)		11	作品制作		
4	サンプル決定、作品制作		12	" (批評会実施)		
5	作品制作(批評会実施)		13	" (批評会実施)		
6	" (批評会実施)		14	" (批評会実施)		
7	" (批評会実施)		15	第2作品仕上げ		
8	第1作品仕上げ					
関連科目			連絡先			
資格			オフィス アワー			
教科書	集字のための書道字典 選択する詩文に合った墨場必携		備考			
参考資料	書作品のまとめ方①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧(二玄社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
仮名創作研究	2	くたみ たけし 久多見 健	3年	後期	演習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	これまで学んできた様々な古筆を基に、倣書から創作へと発展させる。細字、中字、大字仮名を短冊・扇面・色紙・懐紙・半切・全紙などの紙面に創作する。また、紙面構成としての散らし書きについて考察する。					
キーワード	仮名・創作・様々な形式・散らし書き					
到達目標	・和歌や俳句を題材に創作する手順を理解する。 ・古筆から集字して文字を選び、連綿・行構成を理解する。 ・散らし書きの余白美を感覚的に身に付ける。					
受講生に望む事	様々な形式に創作するので、事前の歌選び、集字の準備が不可欠です。授業時間は限られていますので、家庭での書き込みをしっかりとって作品を仕上げ、次回までに提出のこと。					
評価方法	各形式の清書作品（80％）授業への取り組み（20％）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	仮名創作とは	9	全紙作品創作			
2	短冊作品創作	10	"			
3	扇面 "	11	"			
4	色紙 "	12	各自好きな大きさ・形式に創作			
5	半壊紙 "	13	"			
6	半切 "	14	"			
7	"	15	作品鑑賞・まとめ			
8	"					
関連科目	仮名書法Ⅰ・Ⅱ、仮名古典研究		連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：1号館3階 久多見研究室		
資格		オフィスアワー	火曜日 16:20～17:20 木曜日 12:15～13:00			
教科書	「色紙 短冊の書き方」〈かな〉日比野光鳳編、 「かな条幅入門」清水透石著		備考			
参考資料	仮名連綿字典、かな字典					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
児童書道教育	2	くたみ たけし 久多見 健	3年	前期	演習	選択
授業概要	児童に文字の書き方を教える場合、発達段階に応じた指導が必要になる。学校や塾で硬筆や毛筆の指導をする場合の姿勢、筆の持ち方・運び方などを含めた技能と理論を習得する。模擬授業を担当して、児童への指導法を考察する。					
キーワード	児童書・書写・指導法					
到達目標	・小学校低学年児童の硬筆、毛筆における導入期の指導法を身に付ける。 ・毛筆書写における基本点画の書き方を習得し、指導法を考察する。 ・半紙や小条幅に漢字、仮名、漢字かな交じり書のまとめ方を習得する。					
受講生に望む事	児童の目線で、書写としての基本的な硬筆・毛筆の力を付けてほしい。 毎回の課題提出と授業内容の予習を課す。					
評価方法	授業時提出物（50％） レポート、課題作品（50％）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	幼児期における書写指導	9	点画のつき方・交わり方			
2	小学校入学後、初期段階の硬筆書写指導	10	文字の配列（縦書き、横書き）			
3	硬筆によるひらがな、カタカナの指導	11	字配り（漢字と仮名）			
4	初めての毛筆（正しい姿勢、用具の置き方、扱い方）	12	字配り（カタカナと漢字とひらがな）			
5	「横画」、「縦画」の筆使い。文字の組み立て方。	13	小筆で書く			
6	「折れ」、「点」、「はらい」、「はね」、「そり」、「まがり」、「むすび」	14	小条幅に書く			
7	点画の方向、画の長短	15	まとめ			
8	筆順と字形、文字の中心					
関連科目		連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地：1号館3階 久多見研究室			
資格		オフィスアワー	火曜日 16:20～17:20 木曜日 12:15～13:00			
教科書	書写（1～6年） 東京書籍、		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
アート表現研究	2	わたなべ よしふみ 渡辺 善文	3年	前期	演習	選択
授業概要	日常生活の中で目にする広告印刷物等のグラフィックデザイン、店舗看板、商品ポップ等のサインデザインには『書』『筆文字』によるロゴや題字を使ったデザインが多数存在する。この科目は『書』をデザインに活用する為の入門的な知識、スキルを学ぶ授業である。制作課題ではデザインの業界標準とされる Adobe イラストレーター、フォトショップを使用する（※ PC 台数制限アリ）。また授業時間外にも制作時間が要求される。					
キーワード	【Fine Art ⇔ Design】【Design=De+Sign】					
到達目標	デザインセンスというモノは先天的に持って生まれてくるモノではなく、日常生活において何を見、何を感じ、そしてそれらをどの ように分析整理するか?によって養っていくモノである。これまでの美術教育、経験は不問。この授業をきっかけにデザイン、出版業界を垣間見、自分のデザインの感性を養って欲しい。また、モノが完成したら終わりではなく、『どういうコンセプト、意図でこうなったのか?』というプレゼンテーションを最終形とし、社会においてのコミュニケーション能力も合わせて養って欲しい。					
受講生に望む事	『書作品』を創ることが目的ではなく『書』を表現手段の一つととらえ、幅広い視野で『書』の活かし方を考えて欲しい。					
評価方法	制作課題による判定 80% + 課題レポートによる判定 20% += 100% (ただし状況に応じ、アレンジする場合がある)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	1) 講義	デザインとは?デザインの基礎知識。	9	9) 課題制作	サイン計画3	
2	2) 課題制作	書文字をデジタルデータ変換1	10	10) 課題制作	立体的表現1	
3	3) 課題制作	書文字をデジタルデータ変換2	11	11) 課題制作	立体的表現2	
4	4) 課題制作	エディトリアル(編集)デザイン基礎1	12	12) 課題制作	立体的表現3	
5	5) 課題制作	エディトリアル(編集)デザイン基礎2	13	13) 課題制作	終了課題1	
6	6) 課題制作	エディトリアル(編集)デザイン基礎3	14	14) 課題制作	終了課題2	
7	7) 課題制作	サイン計画1	15	15) 課題制作	終了課題3 プレゼンテーション・講評	
8	8) 課題制作	サイン計画2	※課題制作の進行状況に応じて講義内容を変更する場合がある。また、美術館等の校外実習がある場合がある。			
関連科目			連絡先	連絡先: メール / zen-design@rik.bbq.jp		
資格			オフィス ア ワ ー			
教科書	必要に応じ資料配布・web サイトを使用		備 考	レポート提出の際、web サイトの丸写しは一切認めない(盗用とみなす)。ただし、必要であるならば、出典を明らかにし、引用する事は可。		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
水墨画研究	2	の だ りゅうたろう 野田 竜太郎	3年	後期	演習	JC 選択 他コース選必
授業概要	水墨画の運筆、基礎知識を学習することにより墨による表現力を身につけ、また東洋絵画の理念・伝統について理解を深める。主に臨画により基礎的な技法を身につけていく。					
キーワード	臨画…手本となる作品を模写すること。調墨…墨の濃度を調整すること。運筆…筆づかい。写意…見たままだけでなく、作者の心や思いまでも描くこと。					
到達目標	運筆の基本的技法、用具・用材の基礎知識・用法を修得する。水墨画の描くことに対する心構えを理解する。					
受講生に望む事	見たままにとらわれず、気持ちや心を写し出すように描いてほしい。					
評価方法	四君子(蘭・竹・菊・梅)の作品を講義の前半と後半にそれぞれ提出してもらう。(他作品も数点加える場合あり)これにより授業内でどの程度基本技法が身についたかを評価する。運筆・調墨・暈し技法・構図など。また、技法だけでなく、いかに作品に気持ちをのせて描いているか(写意)という所も評価の対象とする。提出状況 40% 技法 40% 写意 20%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	水墨画の歴史 用具の説明		9	臨画(小鳥)	生き物を描く	
2	臨画(四君子 蘭) 基本描法		10	臨画(古民家)	白抜き技法	
3	臨画(四君子 竹) 基本描法		11	臨画(滝)	破墨の技法	
4	臨画(四君子 菊) 基本描法		12	臨画(朝霧)	暈しの技法	
5	臨画(四君子 梅) 基本描法		13	基本描法のおさらい1		
6	臨画(コスモス) 様々な筆の描法		14	基本描法のおさらい2		
7	臨画(水辺の風景) 刷毛を使った描法		15	まとめ		
8	臨画(動物) 生き物を描く					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス ア ワ ー			
教科書	使用しない。臨画の時は手本作品のプリントをその都度配布する。		備 考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日米比較文学	2	たぐち せいいち 田口 誠一	3年	後期	講義	選択
授業概要	日本文学とアメリカ文学の作品に見られる人生観や自然観などに関して比較研究し、文学作品の鑑賞力を向上させる。特に日本とアメリカの自然主義文学について考察し、自然主義の本質も明らかにする。					
キーワード	自然主義 (Naturalism) クレイン (Crane) ロンドン (London) ドライサー (Dreiser)					
到達目標	・日本とアメリカの自然主義作家とその作品に関して理解を深める ・原作と映画の英語に触れて英語力を高める ・比較文学の面白さを知り、作品の読み方を深める					
受講生に望む事	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。翻訳を使用することもあるが、特に興味を持った作品は時間をかけて原作を読んでほしい。					
評価方法	レポート等課題 (70%)、学習態度 (30%) で評価をおこなう。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	自然主義について	9	アメリカの自然主義作家について (Jack London)			
2	自然主義について	10	アメリカの自然主義作家について (Jack London)			
3	日本の自然主義作家について	11	アメリカの自然主義作家について (Jack London)			
4	日本の自然主義作家について	12	アメリカの自然主義作家について (Theodore Dreiser)			
5	アメリカの自然主義作家について (Stephen Crane)	13	アメリカの自然主義作家について (Theodore Dreiser)			
6	アメリカの自然主義作家について (Stephen Crane)	14	アメリカの自然主義作家について (Theodore Dreiser)			
7	アメリカの自然主義作家について (Jack London)	15	日米の自然主義作家についてのまとめ			
8	アメリカの自然主義作家について (Jack London)					
関連科目	日韓比較文学	連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11			
資格		オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	プリントを配布する。	備考				
参考資料	『アメリカの自然主義小説』(英宝社)、『日米比較文学を語る』(金星堂) など多数有り。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
米英文学概論	2	たぐち せいいち 田口 誠一	3年	前期	講義	選択
授業概要	アメリカとイギリスの有名作家を紹介し、その代表的短編を取り上げて文学理解の基礎的事項を学習する。作品の時代と背景について理解を深めるとともに、作品の特徴や作者の人生観について考察する。短編の読み方を学習することにより、文学作品が持つ普遍性を洞察する。					
キーワード	サリンジャー (Salinger) カポーティ (Capote) スタインベック (Steinbeck)					
到達目標	・アメリカとイギリスの作家と作品に関して理解を深める ・作品の読み方を深く学習することにより、卒業研究の土台づくりを目指す ・原作の英語に触れて英語力を高める					
受講生に望む事	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。翻訳を使用することもあるが、特に興味を持った作品は時間をかけて原作を読んでほしい。					
評価方法	レポート等課題 (70%)、学習態度 (30%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	短編小説の歴史と読み方について	9	ヘミングウェイの短編			
2	サリンジャーとカポーティ紹介	10	アンドスンの短編			
3	サリンジャーの短編	11	オー・ヘンリーの短編			
4	カポーティの短編	12	ジュエットの短編			
5	スタインベックとフォークナー紹介	13	マンズフィールドの短編			
6	スタインベックの短編	14	ワイルドの短編			
7	フォークナーの短編	15	英米の短編小説について			
8	ヘミングウェイとアンドスン紹介					
関連科目	日米比較文化言語基礎演習 I	連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11			
資格		オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	プリント (各作家の紹介と短編に関すること) を配布する	備考	中・高1種英語教員免許状必修科目			
参考資料	『アメリカ短編小説』(創元社)、『近代短篇小説』(開文社出版) など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文体論	2	たけした ひろとし 竹下 裕俊	3年	後期	講義	選択
授業概要	英語学の方法論のひとつである文体論は、統語論、音韻論、意味論、語彙論などの雑多な方法論を全て包含する方法論である。それゆえ、creativeな文学作品の深い読みと理解にはある意味で最適の方法論とも言える。半期の授業では、前半、まずは、文体論という方法論についての充分な解説を行う。その後、実際の平易な分析例をプリントを通して観察し、文体論に対する理解を深める。後半は受講生を少人数に班分けして、それぞれの班に、英米文学の小編を課題として与える。各班は、割り当てられた作品に現れる英語の文体を分析して授業で発表しなければならない。					
キーワード	英米文学、文体分析					
到達目標	授業ではまず、文体論とは何かを受講生に理解させる。その上で、配付プリントにより実際の分析例を観察する。最終的には受講生一人ひとりが、英米文学の小編の文体分析ができるようになることを目指す。					
受講生に望む事	「英語学概論」を受講済みであることを強く希望。あと、やる気と分析作業でのハードワーク。分析作業では、事前準備にかなりの時間が必要となる。					
評価方法	授業中の発表を30%、レポートを70%として評価する。出席状況、受講態度の良いくない者は評価の対象にならないので注意すること。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	授業内容、評価方法等についての説明(オリエンテーション)	9	小説の英語の文体分析の実践と解説			
2	文体論概説(語彙論・音韻論を中心に)	10	小説の英語の文体分析の実践と解説			
3	文体論概説(意味論・統語論を中心に)	11	小説の英語の文体分析の実践と解説			
4	小説の英語の文体分析の実例解説	12	小説の英語の文体分析の実践と解説			
5	小説の英語の文体分析の実例解説	13	小説の英語の文体分析の実践と解説			
6	小説の英語の文体分析の実践と解説	14	小説の英語の文体分析の実践と解説			
7	小説の英語の文体分析の実践と解説	15	小説の英語の文体分析の実践と解説およびレポート指導			
8	小説の英語の文体分析の実践と解説					
関連科目	英語学概論	連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(榎木校地)			
資格		オフィスアワー				
教科書	プリント配付	備考	中1種英語教員免許状 選択必修科目			
参考資料	『英語の作法』 斎藤兆史著 東京大学出版会					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日米比較文化言語原書講読 I	2	たぐち せいいち 田口 誠一	3年	前期	演習	AA コース選択必修 他コース選択
授業概要	アメリカの児童文学を読んで、ものの考え方や自然観などに着目しながら、日米文化の差異と共通性を深く理解する。卒業研究の土台を作ることができるように、研究方法の基礎を徹底させる。授業では作品から抜粋した英文を読む。					
キーワード	ボーム (Baum) スタインバック (Steinbeck) ホワイト (E. B. White)					
到達目標	・日米の文化への理解 ・文学作品の読みを深めること ・英語力の養成					
受講生に望む事	事前(2時間)・事後(2時間)を学修時間の目安とする。英文読解には時間をかけて予習をしてほしい。また、復習として、原作の英文を何度も読み返すことも大切である。					
評価方法	レポート等課題(70%)、学習態度(30%)で評価をおこなう。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	日本の児童文学について	9	The Red Pony			
2	日本の児童文学について	10	The Red Pony			
3	Baum について	11	E. B. White について			
4	The Wizard of Oz	12	Charlotte's Web			
5	The Wizard of Oz	13	Charlotte's Web			
6	The Wizard of Oz	14	Charlotte's Web			
7	Steinbeck について	15	授業のまとめ			
8	The Red Pony					
関連科目	日米比較文化言語基礎演習 I	連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室 11			
資格		オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	プリントを配布する。	備考				
参考資料	『児童文学入門』(研究社)、『スタインバック研究』(大阪教育図書)など。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日米比較文化言語原書講読Ⅱ		2	Josh Norman	3年	前期	演習	AA 選必 JL・JC・LC 選択
授業概要	Students will read essays in English by Karen Hill Anton that have been previously published in the Japan Times newspaper. A variety of topics comparing American and Japanese culture will be covered.						
キーワード	English, reading, comparative culture						
到達目標	1) Read long essays written in English and understand them with the help of a dictionary 2) Express one's opinions using English as much as possible						
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course.						
評価方法	Class participation and attitude (40%), homework (20%), and quiz (40%)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	Introduction and Unit 1			9	Unit 8		
2	Unit 2			10	Unit 9		
3	Unit 3			11	Unit 10		
4	Unit 4			12	Unit 11		
5	Unit 5			13	Unit 12		
6	Unit 6			14	Review of units 7-12		
7	Review of units 1-6			15	Quiz		
8	Unit 7						
関連科目				連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 楡木キャンパス：大学1号館 2F		
資格				オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Insights" by Joseph Shaules and Terumi Miyazoe (Nan'un-do)			備考			
参考資料							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日米比較文化言語演習Ⅰ		2	たけした ひろとし 竹下 裕俊	3年	後期	演習	AA 選必 JL・JC・LC 選択
授業概要	特定のテーマについてアメリカ人と日本人が書いた英文エッセイを読み比べて、その視点の違いから、日米の文化の違いを比較・考察する。						
キーワード	文化比較、視点						
到達目標	文化比較の意義を理解する。						
受講生に望む事	受講の前提として、毎回授業前に必ずふたつの英文エッセイを丹念に読み込んでおくこと。						
評価方法	毎回実施する予習状況確認のための小テストを30%、レポートを70%として評価する。求められる予習が不十分な者、出席状況の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。なお、小テストでは予習時間の申告が義務づけられる。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション			9	Striving to be Average		
2	Change			10	Pride in One's School		
3	Shouganai			11	Monster Fruit		
4	Tatemaе and Honne			12	It's to Die For!		
5	Following the Crowd			13	No More Plastic Bags		
6	Vehicle Inspections			14	Girlie Men		
7	Overkill			15	School Uniforms		
8	Sports Day						
関連科目				連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：大学1号館2階（楡木校地）		
資格				オフィスアワー			
教科書	Eye on Japan 三修社 2,400円+税			備考			
参考資料	授業中、その都度紹介する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日米比較文化言語演習Ⅱ	2	Josh Norman	3年	後期	演習	AA 選択必修 他コース選択	
授業概要	In this course, students will learn in English about topics affecting Japanese society today, such as English in elementary schools, the Internet, and an aging society. Then these issues will be discussed from a Japanese and American point of view. Activities in the textbook will help students to increase their vocabulary as well as listening and writing skills.						
キーワード	Comparative culture, English, listening, reading, writing						
到達目標	1) Students should be able to compare how Japanese and American young people react in different social situations. 2) Students should be able to understand and use common English expressions and idioms that are used in daily conversation.						
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course. Students should prepare properly before each class and review after each class has finished.						
評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (30%), and quiz (40%)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	Chapter 2			9	Chapter 11 (cont.)		
2	Chapter 2 (cont.) and Chapter 3			10	Chapter 13		
3	Chapter 3 (cont.)			11	Chapter 13 (cont.) and Chapter 14		
4	Chapter 5			12	Chapter 14 (cont.)		
5	Chapter 5 (cont.) and Chapter 7			13	Chapter 15		
6	Chapter 7 (cont.)			14	Chapter 15 (cont.)		
7	Chapter 9			15	Quiz		
8	Chapter 9 (cont.) and Chapter 11						
関連科目	日米比較文化言語演習Ⅰ			連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 榎木キャンパス：大学1号館 2F		
資格				オフィス アワー	See schedule on my office door		
教科書	"On Topic: An Integrated Approach to Better Communication" by Masashito Kamiya and Timothy Gould (Kinseido)			備考			
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語学概論	2	たけした ひろとし 竹下 裕俊	3年	前期	講義	選択	
授業概要	授業では英語学の様々な分野を、おおよそ音韻論、書記論、語彙論、意味論、統語論、文体論の順番で概観する。各分野に2～3回の授業時間を当てる予定である。その際、理解の助けとなるようにテキスト以外の資料も配付する。講義形式の授業ではあるが、学生の授業参加を促し、理解を深めるために、課題プリント等で演習的な要素を大きく取り入れる予定である。						
キーワード	多様な方法論、言語資料分析						
到達目標	「英語学」とひとくちに言っても実際には様々な方法論があり多様である。本講では、ひと通り英語学の主な方法論について概要を説明して、「英語学」という学問分野の存在意義を理解させる。その上で学生は、それらの方法論を用いて様々な言語資料の実際の分析に挑戦する。「英語学」とは単なる机上の空論ではなく、人間の息づかいまでも感じ取ることができる生きた学問であることを理解させたい。						
受講生に望む事	未知の分野に興味を持って、貪欲に知識を吸収すること。						
評価方法	課題等の提出物を30%、レポートを70%として評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	授業内容、評価方法等についての説明(オリエンテーション)			9	意味論について		
2	音韻論について			10	統語論について		
3	"			11	"		
4	書記論について			12	文体論について		
5	"			13	"		
6	語彙論について			14	詩の文体・小説の文体		
7	"			15	"		
8	意味論について						
関連科目	文体論			連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：大学1号館2階（榎木校地）		
資格				オフィス アワー			
教科書	『英語の作法』 斎藤兆史著 東京大学出版会 定価 2,500円＋税			備考	中・高1種英語教員免許状必修科目		
参考資料	授業中、その都度紹介する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語史	2	たけした ひろとし 竹下 裕俊	3年	後期	講義	選択
授業概要	講義では、古英語・中英語・近代英語の順にその間の出来事（外面史）や英語そのものの変化・発展（内面史）を概観する。					
キーワード	英語の変化・発展、イギリス史					
到達目標	現代英語の理解に不可欠な、英語史の基礎知識を習得する。					
受講生に望む事	知識の吸収に貪欲であること。予習としてテキストを十分読み込んでおくこと。					
評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	授業内容、評価方法等についての説明(オリエンテーション)		9	中英語の内面史と外面史Ⅱ		
2	英語史とは		10	中英語の内面史と外面史Ⅲ		
3	英語史の外観Ⅰ		11	近代英語の内面史と外面史Ⅰ		
4	英語史の外観Ⅱ		12	近代英語の内面史と外面史Ⅱ		
5	古英語の内面史と外面史Ⅰ		13	近代英語の内面史と外面史Ⅲ		
6	古英語の内面史と外面史Ⅱ		14	アメリカ英語の歴史		
7	古英語の内面史と外面史Ⅲ		15	アメリカ英語の歴史・まとめ		
8	中英語の内面史と外面史Ⅰ		16	定期試験		
関連科目			連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(楡木校地)		
資格			オフィスアワー			
教科書	『ファンダメンタル英語史』 ひつじ書房 定価 1,500円+税		備考	中・高1種英語教員免許状必修科目		
参考資料	授業中、その都度紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
プレゼンテーションⅠ	2	Josh Norman	3年	前期	演習	選択
授業概要	Students will learn how to present their thoughts and opinions to others through a series of presentations given in front of fellow classmates.					
キーワード	Presentation skills, speeches					
到達目標	After completing the course, students should be able to plan, write, and deliver in-class presentations in English on a variety of stimulating and timely everyday topics.					
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course.					
評価方法	Class participation and attitude (40%) plus four short presentations (15% each) = 60%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Introduction and Unit 1		9	Unit 3		
2	Unit 1 (cont.)		10	Unit 3 (cont.)		
3	Unit 1 (cont.) and preparation for speech #1		11	Unit 3 (cont.) and preparation for speech #3		
4	Give speech #1		12	Give speech #3		
5	Unit 2		13	Review of Units 1-3		
6	Unit 2 (cont.)		14	Preparation for bonus speech #4		
7	Unit 2 (cont.) and preparation for speech #2		15	Give bonus speech #4		
8	Give speech #2					
関連科目	プレゼンテーションⅡ		連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 楡木キャンパス: 大学1号館 2F		
資格			オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Getting Ready for Speech" by Charles LeBeau and David Harrington (Language Solutions, Inc.)		備考	中1・高1英語教員免許状選択必修科目		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
プレゼンテーションⅡ	2	Josh Norman	3年	後期	演習	選択
授業概要	Students will learn how to present their thoughts and opinions to others through a series of presentations given in front of fellow classmates.					
キーワード	Presentation skills, speeches					
到達目標	After completing the course, students should be able to plan, write, and deliver in-class presentations in English on a variety of stimulating and timely everyday topics.					
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course. Students should prepare properly before each class and review after each class has finished.					
評価方法	Class participation and attitude (40%) plus four short presentations (15% each) = 60%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Introduction and Unit 4		9	Unit 6		
2	Unit 4 (cont.)		10	Unit 6 (cont.)		
3	Unit 4 (cont.) and preparation for speech #1		11	Unit 6 (cont.) and preparation for speech #3		
4	Give speech #1		12	Give speech #3		
5	Unit 5		13	Unit 7		
6	Unit 5 (cont.)		14	Unit 7 (cont.) and preparation for speech #4		
7	Unit 5 (cont.) and preparation for speech #2		15	Give speech #4		
8	Give speech #2					
関連科目	プレゼンテーションⅠ		連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 楡木キャンパス：大学1号館 2F		
資格			オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Getting Ready for Speech" by Charles LeBeau and David Harrington (Language Solutions, Inc.)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光英語	2	Josh Norman	3年	後期	演習	選択
授業概要	単なる一般英語ではなく、旅行者として、あるいは旅行者を率いる旅行業者として必要なコミュニケーション能力を身につける。旅行の予約、外国人旅行者への案内、観光など、実際の場面を設定した演習を通して学習し、観光英語検定2級に合格できる程度の「読む、聞く、書く、話す」能力を習得する。					
キーワード	Travel, English					
到達目標	・海外で個人旅行をする際、個人で旅程を組み、乗り物やホテルの予約、また単独で観光や買い物等を英語で対処することができるようになる。 ・国内で外国人に観光地や名所等を英語で紹介できるようになる。					
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course. Students should prepare properly before each class and review after each class has finished.					
評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (30%), and quiz (40%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Lesson 1		9	Lesson 5		
2	Lesson 1 (cont.)		10	Lesson 5 (cont.)		
3	Lesson 2		11	Lesson 6		
4	Lesson 2 (cont.)		12	Lesson 6 (cont.)		
5	Lesson 3		13	Lesson 7		
6	Lesson 3 (cont.)		14	Lesson 7 (cont.)		
7	Lesson 4		15	Quiz		
8	Lesson 4 (cont.)					
関連科目			連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 楡木キャンパス：大学1号館 2F		
資格	観光英語検定試験2級		オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Travel English: For Tourism Industry Professionals" by Reiko Fujita (MacMillan Language House)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
TOEFL/TOEIC Preparation II	2	なげした ひろよし 竹下 裕俊	3年	前期	演習	選択
授業概要	授業では毎回、様々なパターンの listening, grammar, reading の問題に取り組み、TOEFL や TOEIC のスコアアップを目指す。演習問題にはその都度詳しい解説を加える。					
キーワード	TOEFL Test, TOEIC Test					
到達目標	TOEIC 600 点以上					
受講生に望む事	ハードワーク					
評価方法	定期試験を 100% として評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション (授業内容、評価方法等についての説明)		9	Chapter 8 演習および解説		
2	Chapter 1 演習および解説		10	Chapter 9 演習および解説		
3	Chapter 2 演習および解説		11	Chapter 10 演習および解説		
4	Chapter 3 演習および解説		12	プリント配付		
5	Chapter 4 演習および解説		13	プリント配付		
6	Chapter 5 演習および解説		14	プリント配付		
7	Chapter 6 演習および解説		15	プリント配付		
8	Chapter 7 演習および解説		16	定期試験		
関連科目	TOEFL/TOEIC Preparation I		連絡先	E-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：大学 1 号館 2F		
資格	TOEIC、TOEFL、英検などの各種検定試験		オフィス アワー			
教科書	How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test 松柏社 定価 1,800 円 + 税		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日韓比較文学	2	しん みよんじく 申 明直	3年	後期	講義	選択
授業概要	日本と韓国の文学を様々なジャンル別に探ってみる。伝統的な物語から、今・この韓国と日本をトランスする小説や映画まで幅広く探る。まず伝統的な物語としては、韓国のパンソリと日本の歌舞伎や能とを比較する。近代文学を誕生させた李光洙と夏目漱石、漫文漫画ジャンルを開拓した岡本一平と安夕影の比較も行なう。植民地期の詩人であった林和と中野重治はどのように交流を続けてきたかについても検討する。最後に、映画と小説のジャンルも国境も越え進化してきた日韓文学・文化、東アジアの文化の現在を確認する。					
キーワード	パンソリ、四物ノリ、李光洙、夏目漱石、漫文漫画、林和、中野重治、浅田次郎、パイラン					
到達目標	・日韓の伝統的な物語の概略を理解する。・日韓にかかわる植民地近代の意味を、都会と農村を描いた作品を通じて分析する。・日韓を超えるトランスナショナル文学・文化を把握する。					
受講生に望む事	関連作品についての情報を事前に準備してから授業に参加すること。					
評価方法	発表・討論 (50%)、レポート・その他 (50%) で評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	東京と京城②：岡本一平と漫画漫文		
2	伝統物語の比較：韓国のパンソリと日本の歌舞伎・能		10	傾向文学の季節①：1920-30 年代の日本と韓国の農村風景		
3	庶民の遊び①：「ソリ (唱)」の社会学－韓国の映画『春香伝』と『西便制』		11	傾向文学の季節②：『蟹工船』と植民地朝鮮の農民小説		
4	庶民の遊び②：「笑い」の社会学－韓国の四物ノリと映画『王の男』		12	詩による対話：林和と中野重治		
5	近代文学の誕生①：李光洙と夏目漱石		13	小説と映画と東アジアの現在①：浅田次郎の小説「ラブライター」		
6	近代文学の誕生②：李光洙の長編小説『無情』		14	小説と映画と東アジアの現在②：「ラブライター」と韓国映画『パイラン』		
7	漫文漫画と都市文化：モガ・モボ		15	まとめ		
8	東京と京城①：安夕影と漫文漫画					
関連科目	日韓比較文化論		連絡先	shinmj@kumagaku.ac.jp		
資格			オフィス アワー			
教科書	申明直 (外)、『韓国文学ノート』、白帝社、2009。		備考			
参考資料	申明直、『幻想と絶望～漫文漫画で読み解く日本統治時代の京城』、東洋経済新報社、2005。等					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日中比較文化言語原書講読	2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	前期	演習	AA：選択必修 JL、JC、LC：選択
授業概要	「中国研究」「台湾研究」のための「原書」を読みます。卒論として関心あるテーマの「原書」、例えば中国語の新聞、雑誌、論文、専門書、資料集などを読み解いていきます。					
キーワード	中国研究、台湾研究					
到達目標	・中国語資料の読解					
受講生に望む事	毎日中国語に触れること					
評価方法	期末レポート（50％）と授業中の報告など（50％）で評価します。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義計画		9	関連文献読解と報告⑦		
2	ゼミ発表の準備、報告の方法について		10	関連文献読解と報告⑧		
3	関連文献読解と報告①		11	関連文献読解と報告⑨		
4	関連文献読解と報告②		12	関連文献読解と報告⑩		
5	関連文献読解と報告③		13	関連文献読解と報告⑪		
6	関連文献読解と報告④		14	関連文献読解と報告⑫		
7	関連文献読解と報告⑤		15	まとめ		
8	関連文献読解と報告⑥					
関連科目	「東アジア史」「日中関係史」など		連絡先	Email：wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室		
資格			オフィス アワー			
教科書	随時プリント等配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日中比較文化言語演習 I	2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	前期	演習	AA：選必修 JL、JC、LC：選択
授業概要	卒論のテーマに関連する文献を読み、報告をしてもらいます。					
キーワード	中国、台湾					
到達目標	・文献読解と報告の訓練 ・卒論の具体的なテーマ設定					
受講生に望む事	関連の文献を積極的に読む					
評価方法	期末レポート（50％）と授業中の報告など（50％）で評価します。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義計画		9	関連文献読解と報告⑦		
2	ゼミ発表の準備、報告の方法について		10	関連文献読解と報告⑧		
3	関連文献読解と報告①		11	関連文献読解と報告⑨		
4	関連文献読解と報告②		12	関連文献読解と報告⑩		
5	関連文献読解と報告③		13	関連文献読解と報告⑪		
6	関連文献読解と報告④		14	関連文献読解と報告⑫		
7	関連文献読解と報告⑤		15	まとめ		
8	関連文献読解と報告⑥					
関連科目	「東アジア史Ⅰ」「東アジア史Ⅱ」「日中関係史」「日中比較文化論」「日中比較文化言語基礎演習」「日中比較文化言語原書講読」など		連絡先	Email：wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室		
資格			オフィス アワー			
教科書	随時プリント等を配布します。		備考			
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日中比較文化言語演習Ⅱ		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	後期	演習	AA：選択必修 JL、JC、LC：選択	
授業概要	前期に引き続き、卒論のテーマに関連する文献を読み、報告をしてもらいます。							
キーワード	中国、台湾							
到達目標	・文献読解と報告の訓練 ・卒論の最終的なテーマ設定							
受講生に望む事	関連の文献を事前に熟読すること。報告担当学生は事前に準備を行い、報告後は得られた課題について解決し、次回報告すること。							
評価方法	期末レポート（50％）と授業中の報告など（50％）で評価します。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	講義計画			9	関連文献読解と報告⑦			
2	ゼミ発表の準備、報告の方法について			10	関連文献読解と報告⑧			
3	関連文献読解と報告①			11	関連文献読解と報告⑨			
4	関連文献読解と報告②			12	関連文献読解と報告⑩			
5	関連文献読解と報告③			13	関連文献読解と報告⑪			
6	関連文献読解と報告④			14	関連文献読解と報告⑫			
7	関連文献読解と報告⑤			15	まとめ			
8	関連文献読解と報告⑥							
関連科目	「東アジア史Ⅰ」「東アジア史Ⅱ」「日中関係史」「日中比較文化論」「日中比較文化言語基礎演習」「日中比較文化言語原書講読」「日中比較文化言語演習Ⅰ」など			参考資料				
資格				連絡先	Email：wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室			
教科書	随時プリント等を配布します。			オフィスアワー				
				備考				

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日韓比較文化言語原書講読		2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	前期	演習	AA：選択必修 他コース選択	
授業概要	韓国語で書かれたエッセイ・小説を鑑賞しながら、生きた韓国語の表現に触れる。							
キーワード	韓国語のエッセイ・小説、生きた表現、鑑賞							
到達目標	・生きた韓国語の文章に触れる。 ・表現方法を習得する。 ・韓国語で考えることができるようにする。							
受講生に望む事	「難しい」と、初めから違和感を感じるのではなく、好奇心を持ってください。また、日頃から韓国語に触れることを習慣付けましょう。 [事前学習]・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 [事後学習]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。							
評価方法	試験（80％）、レポート（20％）を加算して評価する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	授業方法・評価方法の紹介、1課 鑑賞→考える→話す			9	3課 鑑賞→考える→話す			
2	1課 鑑賞→考える→話す			10	3課 鑑賞→考える→話す			
3	1課 鑑賞→考える→話す			11	3課 鑑賞→考える→話す			
4	まとめ1			12	まとめ			
5	2課 鑑賞→考える→話す			13	4課 鑑賞→考える→話す			
6	2課 鑑賞→考える→話す			14	4課 鑑賞→考える→話す			
7	2課 鑑賞→考える→話す			15	4課 鑑賞→考える→話す			
8	まとめ							
関連科目	中級韓国語、日韓比較文化言語演習、応用韓国語、検定韓国語			連絡先	E-mail：akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟 3F 研究室 2			
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員資格試験			オフィスアワー				
教科書	中川明夫、『生きた表現を味わおう！中・上級韓国語読本』、2014年、青山社			備考	2年生で韓国語関連科目、またそれに相当する韓国語の授業の履修者、検定試験に合格した新規履修者が望ましい。			
参考資料	韓国語の原文資料、映像資料など							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日韓比較文化言語演習Ⅰ		2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	前期	演習	AA：選択必修 他コース選択	
授業概要	卒論を作成するためには、日韓両語の言語・文化的な特徴を理解する必要があります。本講義は、卒論研究の基礎となる韓国語の中級レベルの語学力を習得しつつ場面を通じた日韓言語文化の特徴を把握する。							
キーワード	中級レベルの語学力、日韓言語文化の特徴、論文研究							
到達目標	・韓国語の多彩な表現ルールを理解しつつ、生きた韓国語に触れる。 ・韓国語検定試験（中級以上）に合格できる語学力・実践力をつける。 ・卒論研究の内容を検討する。							
受講生に望む事	韓国語スピーカーが一般的によく使う言い回しや文化が理解できます。日本語と韓国語の特徴、さらに言語文化の特徴を把握するようにしましょう。 〔事前学習〕・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 〔事後学習〕・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。							
評価方法	試験（80%）、レポート（20%）を加算して評価する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション、第9 課			9	第16課			
2	第10課			10	第17課			
3	第11課			11	まとめ			
4	第12課			12	第18課			
5	第13課			13	第19課			
6	まとめ1			14	第20課			
7	第14課			15	第21課			
8	第15課							
関連科目	韓国語ⅢA・B、対照言語学、日韓比較文化言語基礎練習、日本語教育			連絡先	E-mail : akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟 3F 研究室 2			
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員資格試験、通訳案内士（韓国語）			オフィスアワー				
教科書	李昌圭、『韓国語をはじめよう 中級』、2011年、朝日出版社			備考	韓国語ⅢA・B、またはそれに相当する韓国語の授業の履修者、検定試験に合格した新規履修者が望ましい			
参考資料	映像資料、補足プリント							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日韓比較文化言語演習Ⅱ		2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	後期	演習	AA：選択必修 他コース選択	
授業概要	韓国語の中級レベルの語学力を習得しながら、卒論研究を行う。ディスカッションなどを通じて卒論を構成し、縮小版として小論文を完成させる。							
キーワード	中級レベルの語学力、卒論研究、小論文							
到達目標	・韓国語の多彩な表現ルールを理解しつつ、生きた韓国語に触れる。 ・卒論のテーマを決め、論文を構成し、縮小版を作成する。							
受講生に望む事	韓国語の原文を鑑賞し、映像などの資料に触れることで韓国語スピーカーが一般的によく使う言い回しや文化が理解できます。それらの基礎的な力を基にして卒論を作成する準備をします。 〔事前学習〕・原文はかなり難しいので予習しておいてください。 ・卒論のテーマにそって発表できるように「参考文献」を読み、自分の考えをまとめておいてください。〔事後学習〕・日韓の言語文化の特徴をまとめてください。 ・発表した内容を修正・補足するようにしてください。							
評価方法	試験（80%）、レポート（20%）を加算して評価する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション：授業内容、方法の説明。			9	講読＋卒論研究			
2	講読＋卒論研究			10	講読＋卒論研究			
3	講読＋卒論研究			11	講読＋卒論研究			
4	講読＋卒論研究			12	講読＋卒論研究			
5	講読＋卒論研究			13	講読＋卒論研究			
6	講読＋卒論研究			14	講読＋卒論研究			
7	講読＋卒論研究			15	まとめ			
8	まとめ							
関連科目	卒論研究、日韓比較文化言語演習Ⅰ、日韓比較文化言語原書講読、応用韓国語などの韓国語関連科目			連絡先	E-mail : akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟 3F 研究室 2			
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員資格試験、通訳案内士（韓国語）			オフィスアワー				
教科書	各種プリント資料			備考	日韓比較文化言語原書講読、日韓比較文化言語演習Ⅰ、応用韓国語や、それに準ずる韓国語の授業の履修者、韓国語関連の検定試験に合格した新規履修者が望ましい。			
参考資料	中川明夫、『生きた表現を味わおう！ 中・上級韓国語読本』、2014年、青山社。映像資料、補足プリント							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
応用中国語	2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	前期	演習	選択
授業概要	これまでの中国語を実践レベルに引き上げるために、中国語検定試験2級合格を目標に設定し、中国語で思考する「中国語脳」を作ることを目指します。そのために授業では出来る限り中国語を用います。					
キーワード	中国語、中国語検定試験2級					
到達目標	・中国語検定試験2級合格 ・「中国語脳」					
受講生に望む事	中国語で思考する癖をつける					
評価方法	学期末テストと小テスト（70%）と受講態度（取り組む姿勢等）（30%）で評価します。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義計画	9	処置文			
2	存在表現	10	受身文			
3	動作の完了、変化、経験	11	存現文			
4	動作の持続、進行	12	語気助詞			
5	疑問文	13	「不」と「没」			
6	程度・結果・方向補語	14	常用の副詞			
7	可能・動量・時量補語	15	その他			
8	比較文					
関連科目	「中国語ⅠA～ⅢB」「観光中国語」		連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室		
資格	中国語検定試験3級以上、HSK		オフィスアワー			
教科書	南勇『耳タン中国語（単語）初中級／中検3級レベル』（学研）		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
応用韓国語	2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	前期	演習	選択
授業概要	韓国語のトータルな語学力を習得するために、韓国語の単語力・文法力・表現力を身につけつつ、生の韓国語の会話を理解する練習をしながら、習得した知識を実践できる応用力を養う。					
キーワード	韓国語のトータルな語学力、実践、応用力					
到達目標	・韓国語の多彩な表現ルールを理解し、応用できるようにする。 ・シャドーイングなどの通訳方式を経験する。 ・韓国語検定試験への合格を目指す。					
受講生に望む事	6月または11月にある「ハングル能力検定試験」、4月または10月にある「韓国語検定試験」にチャレンジしてみましょう。 [事前学習] ・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 [事後学習] ・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。					
評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション: 授業方法・教材などの紹介	9	第5話			
2	第1話	10	まとめ(第1～5話)			
3	第2話	11	第6話			
4	第3話	12	第6話			
5	まとめ(第1～3話)	13	第7話			
6	第4話	14	第7話			
7	第4話	15	まとめ(第6～7話)			
8	第5話					
関連科目	日韓比較文化言語演習、日韓比較文化言語原書講読、検定韓国語、日本語教育		連絡先	E-mail: akio@shokei-gakuen.ac.jp 管理棟3F 研究室		
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員資格試験		オフィスアワー			
教科書	金珍娥、『ドラマチックハングル～君、風の中に～』、2012年、朝日出版社		備考	韓国語ⅢA・B、日韓比較文化言語基礎演習、またはそれに相当する韓国語の授業の履修者、検定試験に合格した新規履修者が望ましい。		
参考資料	韓国語・ハングル検定問題(プリント)。ウェブサイトの資料。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光中国語	2	房 琦 <small>ふらん ちー</small>	3年	後期	演習	選択
授業概要	中国の経済成長にともない、日本を訪れる中国人の観光客は増加しています。東京・京都などの大都市や観光地だけでなく、九州・熊本でも中国語を耳にする機会が多くなってきているのではないのでしょうか。今後、中国語で観光案内・日本の紹介ができる人材は大いに必要とされてくるはずです。この授業では中国人の観光客や友人を熊本や日本を代表する観光地へ中国語で案内し、さらに彼らに日本の文化・習慣を中国語で紹介できるようになることをめざし、様々な表現フレーズを学習していきます。授業ではなるべく日本語を使わないようにし、実践的な語学力を身につけてもらいたいと思います。					
キーワード	中国語 観光 熊本 日本文化 異文化理解					
到達目標	(1) 中国人観光客の聞きたいことについて、簡単な中国語で表現できる。(2) 熊本を中心に日本各地の観光地について、簡単な中国語で表現できる。(3) 日本の文化・食べ物・生活習慣について、簡単な中国語で表現できる。					
受講生に望む事	間違いを恐れず、積極的に中国語を話してみてください。					
評価方法	毎回簡単な会話(50%)とリスニング(50%)の小テストを行い、それを評価の対象とします					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 授業の趣旨説明、発音・基本的会話の復習		9	北海道観光		
2	中国人観光客に「あなたが聞きたいことはなんですか」(1) 宿泊について、食事について		10	『米其林指南2015』に紹介された日本のグルメ		
3	中国人観光客に「あなたが聞きたいことはなんですか」(2) ホテル・旅館について、交通について		11	演習：自分の好きな観光地の紹介		
4	熊本の紹介(1) 熊本城、水前寺公園、繁華街での買い物		12	日本文化の紹介 漫画、アニメ(動漫) 最新情報		
5	熊本の紹介(2) 阿蘇山、天草、などの紹介		13	日本文化の紹介 花見、茶道、年中行事と伝統文化		
6	演習：身近な地域の紹介、自分の出身地の紹介		14	日本文化の紹介 生活と食、温泉・和食		
7	京都観光、大阪観光		15	演習：自分が関心ある日本文化の紹介。授業のまとめ		
8	東京観光 浅草、箱根、富士山観光					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィスアワー			
教科書	授業ごとに教材を準備します。		備考			
参考資料	月刊誌『聴く中国語』(日中通信社) 月刊誌『中国語ジャーナル』(アルク) 『中国語でかたる日本』(日中通信社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光韓国語	2	李 熙淑 <small>い ひすく</small>	3年	後期	演習	選択
授業概要	韓日国際観光はだんだん手がかるようになっていくように感じる。特に福岡とプサンの間は短時間、低価格で異文化体験ができる。異文化体験は今までとは違う言語、自然、文化、食べ物など新しい出会いをもたらす。日本を訪れてくる韓国の観光客に日本を紹介して観光を深く味わせるにはある程度の韓国語能力とガイドさんの新しい出会いの経験が必要だと思う。観光韓国語ではまず学生自信が韓国を歩く事を描きながら、韓国語に励んでいる先輩たちの話を聞いてみる。基礎的な会話力を身につけ、国際観光の魅力を体験してみたら、韓国の観光客に日本の文化、観光地の紹介はもちろん日本での新しい出会いの感動を与えられると思う。					
キーワード	新しい出会いのための韓国語					
到達目標	韓国を歩く自分を描いてみよう。(動機をつかむ)簡単な韓国語で話してみよう。(基礎会話力を身につける)新しい出会いの感動を分かち合いましょう。(観光ガイドの素質を育む)					
受講生に望む事	基礎会話力は一定期間集中的に聞いてまねする事が大事。一人では続けるのが難しいけど仲間と一緒にならできるかも。					
評価方法	出席と定期試験					
回	授業計画		回	授業計画		
1	授業のガイド及び発音の復習		9	熊本城の紹介		
2	日本円を韓国のお金に換えてみよう。		10	大分県別府の魅力について		
3	地下鉄に乗ってみよう(1) 地下鉄の切符を買う。目的地を訪ねる。		11	実演：ガイドになって韓国観光客に熊本のお土産を紹介してみよう。		
4	地下鉄に乗ってみよう(2) 乗換時の聞き方。迷子になったらタクシーに乗る。		12	日本文化の紹介：和食 お茶 漬物とキムチ 日本と韓国のみそ汁		
5	食堂で注文してみよう(1) 食べ物の種類 注文のやり方。		13	日本文化の紹介：迷惑をかけない心使い 東北地震で見せてくれた譲り合い心		
6	食堂で注文してみよう(2) おいしい物を探すには情報が大事。		14	何でも話してみよう。なぜ ムラカミハルキと韓流ドラマに人たちははまるのか。		
7	在来市場で買い物してみよう。気持ちよく値下げする方法。		15	まとめ		
8	熊本阿蘇の紹介					
関連科目			連絡先	教務課		
資格	韓国語能力試験初級～中級		オフィスアワー			
教科書	プリントを配布します。		備考			
参考資料	月刊誌、『韓国語ジャーナル』(アルク), 『実用韓国語文法』					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
熊本の歴史と文化	2	いさみ ともゆき 勇 知之	3年	前期	講義	選択必修
授業概要	【概要】 実証的社会心理学における知見も基づき、実験・調査の紹介とその研究について講義する。 【内容】 孤立と親和、援助行動がどのような状況で抑制されやすいか、知的不協和の理論、原因帰属の考え方、他者の印象形成など社会における人の行動の特性に関する知見を紹介する。また、社会生活を送る個人としての問題意識を心理学の観点から論ずる手立てを学習する。					
キーワード	熊本の歴史と各地域文化の特色、地域文化再生の実践例、企画発表案作成					
到達目標	・県内地域文化の特色を知り、それを他者に語る知識を学習すること ・地域の良さを表現し、さらに維持発展させる表現力・発信力を養うこと ・自ら好奇心を持ち、現地を探究しようという気力を持つこと					
受講生に望む事	好奇心を持ち、自ら知り、自ら発信する楽しさを身につける					
評価方法	出席・毎回の短いレポート50%、期末レポート・論文50%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	日本史の流れの中での熊本の歴史の概要	9	肥後古流（茶道）と各地の名物			
2	熊本の海外交流史、アジアの中での熊本	10	横井小楠の教え			
3	県南の地域文化の特色	11	竹崎順子と肥後の女性			
4	県北の地域文化の特色	12	熊本城物語（加藤清正）			
5	熊本の地域文化の特色（まとめ）	13	熊本人の県民性と熊本の特色			
6	天草の文化の特色（キリシタン文化）	14	地域文化再生の実践とディスカッション			
7	平家と熊本の歴史（落人伝説）	15	期末レポート作成指導とまとめ			
8	細川の政治と文化					
関連科目	熊本の歴史と文化史	連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	「熊本の歴史と文化」（小冊子）又は毎回ポイントレジュメ、資料コピー配布	備考				
参考資料	「肥後の海史」「人あり熊本城物語」「文化ホールの町作り」（以上自著）「小堀家茶道資料」「竹崎順子」（徳富蘆花）他					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション論	2	よしだ みちお 吉田 道雄	3年	前期集中	講義	JC・LC選必 他選択
授業概要	私たちは人と人との関わりのおかげで生きています。そこで基本的に欠かせないもの、それが「コミュニケーション力」です。この授業では、「コミュニケーション」に関する理論的な情報を提供するとともに、実生活における「コミュニケーション」のスキルを高めるためにグループ・ワークを導入します。					
キーワード	コミュニケーション・スキル 集団理解 対人関係 対人理解 リーダーシップ					
到達目標	・これまで以上に「自分に対する理解」を深め、「自分に自信」をもつ。 ・人間と集団についての理解を深める。 ・より望ましい対人関係を創れる力を身につける。					
受講生に望む事	集中講義でグループ・ワークを入れることから、欠席者が出るとグループが維持できなくなる可能性が出てきます。そのため、基本的には100%出席するよう努めてください。					
評価方法	授業中に8回程度の「ミニレポート」を課し、これを評価の対象にする。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	コミュニケーションの基礎	9	コミュニケーションに関する実践行動の設定			
2	コミュニケーションのインフラづくり	10	GW 実践行動の振り返り			
3	対人関係とコミュニケーション	11	GW 実践行動の評価分析			
4	ことばとコミュニケーション・スキル(1)	12	リーダーシップとコミュニケーション			
5	ことばとコミュニケーション・スキル(2)	13	GW 効果的な集団活動とコミュニケーション(1)			
6	GW コミュニケーション・スキルアップ(1) (GW:グループ・ワーク)	14	GW 効果的な集団活動とコミュニケーション(2)			
7	GW コミュニケーション・スキルアップ(2)	15	まとめ			
8	GW いま求められるコミュニケーション・スキルの探求					
関連科目		連絡先	楡木キャンパス教務課 yoshida@kumamoto-u.ac.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書	ホームページからテキストをダウンロードします。その要領は1限目に説明します。	備考	夏期休暇中4日間実施します			
参考資料	吉田道雄「人間理解のグループ・ダイナミクス」（ナカニシヤ出版） 吉田道雄「実践的リーダーシップ・トレーニング」（メヂカルフレンド社）					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会心理学Ⅰ		2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	前期	講義	LC 選必 他コース選択
授業概要	【概要】 実証的社会心理学の知見も基づき講義を行う。 【内容】 対人コミュニケーションの基礎としての「自己」や自己概念の検討、及び自己開示・公平理論等、非言語的コミュニケーションとしての表情・視線・社会的距離・姿勢等、集団の効索性や問題点、及び実験・調査で用いられる研究法・心理統計法の基礎知識。						
キーワード	自己概念、情報源と説得効果、社会的勢力、集団凝集性、集団決定						
到達目標	社会心理学による発見や説明が、日常生活ではどのような具体的な現象として生じているかを説明でき、それを応用できること。						
受講生に望む事	評価方法に示す受講記録は、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて、(講義の箇条書きでなく)自分の言葉で記録すること。事前学習として、講義ノートを作成し、基本用語の下調べなどを行うこと。事後学習として、講義ノートを整理し、確認したい事がらは、次回までに調べ学習を行っておくこと。						
評価方法	平素の受講記録のレポート(40%程度)、および最終の研究レポート(60%程度)による総合評価						
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション：ex. 化粧行動			9	非言語的コミュニケーション：好きだと感じるバランス		
2	自己概念：I（主観的自我）とMe（経験的自我）			10	社会的態度		
3	社会的交換：うなずきは促進剤？			11	社会的勢力		
4	社会的交換：座席の選び方			12	社会的影響過程1：目撃証言		
5	仮想的有能感			13	社会的影響過程2：集団心理		
6	社会的自己：見せたい自分			14	社会的影響過程3：社会的役割		
7	社会的心理学の研究法			15	まとめ		
8	非言語的コミュニケーション：好意の種類						
関連科目	心理学、生涯発達心理学、教育心理学Ⅰ・Ⅱ 社会心理学Ⅱ			連絡先	榆木地区大学1号館3階No.1研究室		
資格				オフィス アワー			
教科書	斉藤勇 面白くてよくわかる社会心理学、 アスペクト			備考			
参考資料	吉田俊和、松原敏浩 編著 社会心理学～個人 と集団の理解、ナカニシヤ出版						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会心理学Ⅱ		2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	後期	講義	選択
授業概要	【概要】 実証的社会心理学における知見に基づき、実験・調査の紹介とその研究について講義する。 【内容】 孤立と親和、援助行動の抑制、知的不協和の理論、原因帰属の考え方、他者の印象形成など社会における人の行動の特性に関する知見を紹介する。また、社会生活を送る個人としての問題意識を心理学の観点から論ずる手立てを学習する。						
キーワード	孤立と親和、援助行動、認知的不協和、対人魅力、原因帰属、達成動機						
到達目標	社会心理学による発見や説明が、どのような日常生活の行動や現象に生じているかを説明でき、これをプラスに活用できること。						
受講生に望む事	評価方法に示す受講記録は、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて、(講義の箇条書きでなく)自分の言葉で記録すること。事前学習として、講義ノートを作成し、基本用語の下調べなどを行うこと。事後学習として、講義ノートを整理し、確認したい事がらは、次回までに調べ学習を行っておくこと。						
評価方法	平素の受講記録と中間レポート等(40%程度)、及び最終の研究レポート(60%程度)による総合評価						
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション			9	偏見・役割意識		
2	好意とバランス理論			10	同調行動		
3	非言語的コミュニケーション			11	認知的不協和		
4	居場所を求める：孤独・親和欲求			12	少数と多数、社会的勢力 公正理論		
5	心のひずみ			13	集団：職場という複雑な箱		
6	帰属意識			14	実証的研究の方法		
7	実証的研究の基礎			15	まとめ		
8	群集心理：行動感染、没個性化、攻撃行動、援助行動						
関連科目	心理学、生涯発達心理学、教育心理学Ⅰ、Ⅱ			連絡先	榆木地区大学1号館3階No.1研究室		
資格				オフィス アワー			
教科書	斉藤勇 面白くてよくわかる社会心理学 アスペクト			備考			
参考資料	吉田俊和・松原敏浩 編著、社会心理学～個人と集団の理解、ナカニシヤ出版						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会福祉論Ⅰ	2	さかい しんたろう 酒井 伸太郎	3年	前期	講義	LC 選必 他コース選択
授業概要	私たちの暮らしと健康を守る「最後の砦」の役割をもっている社会福祉の範囲が狭く、内容・水準が貧弱だと、まず社会福祉を必要としている人たちが切り捨てられたり放置されたりします。それは結果的に「社会福祉を必要としない」人たちの暮らしも脅かし、暮らしにくい社会となります。では私たちの社会はどうなっているのか、どうすれば良いのか、具体的なデータ・資料や歴史などをもとにした話し合いを通じて共に考えていきたいと思います。					
キーワード	社会福祉, ライフの視点, 生活問題, 貧困問題, 生存権					
到達目標	①「生活問題」についてのポイントを他人に説明できるようになること, ②社会福祉の主な制度は何でどういうものか、を他人に説明できるようになること, ③生活問題の改善方法を他人に説明できるようになること, を目標とします。					
受講生に望む事	授業では、学生自らがテーマを持ち、仲間とともに助け合いながら主体的に取り組むことを期待します。					
評価方法	授業での取り組み(約10%), 授業での提出物(約30%)と学期末試験(約60%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	健康問題と社会福祉(1):日本の医療制度の仕組みと特徴		
2	社会福祉を支える専門職 — ソーシャルワーカーの仕事を中心に —		10	健康問題と社会福祉(2):「医療福祉」と課題点		
3	「生活問題」とは何か?(1):「ライフの視点」と「枠組み」		11	健康問題と社会福祉(3):介護保険制度		
4	「生活問題」とは何か?(2):「階層性」による違いと共通性		12	社会福祉の「支援」の方法(1):困りごとをどう聴き取るか		
5	「生活問題」とは何か?(3):生活問題の「地域性」(ゲスト講義の予定)		13	社会福祉の「支援」の方法(2):ケアマネジメント		
6	貧困/問題と社会福祉(1):貧困の発見と社会保障		14	社会福祉の「支援」の方法(3):社会調査と社会運動		
7	貧困/問題と社会福祉(2):生存権と生活保護制度		15	基礎の総括:社会福祉は何のため?		
8	貧困/問題と社会福祉(3):現代の貧困問題		16	試験		
関連科目	社会科学関係全般、特に「社会福祉論Ⅱ」		連絡先			
資格			オフィス アワー			
教科書	プリントを配布します		備考			
参考資料	制度・歴史面については、唐鎌直義(2012年)『脱貧困の社会保障』旬報社。2200円+税を参考にします。その他、必要に応じて適宜紹介し、配布することもあります。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会福祉論Ⅱ	2	さかい しんたろう 酒井 伸太郎	3年	後期	講義	選択
授業概要	前期の社会福祉論Ⅰで学んだ社会福祉の視点から、「個人的」に起こっていることを、「社会的」な問題としてとらえる視点と方法を学びます。障害がある人(特に精神障害)や高齢者、子どもなどの具体的な「事例」を用いて、いろいろな角度から生活問題について検討します。その作業を通して、社会的な背景があるということはどういうことか、社会福祉の意義と限界、その中で私たちにできること、を共に考えます。					
キーワード	生活問題, 障害児者問題, 共通課題, ライフの視点, 自治・自立					
到達目標	聴講やグループでの作業を通して、①生活問題をとらえる「視点と枠組み」を理解する, ②「視点と枠組み」により個別的な問題から社会的な生活問題をとらえる方法を身につける, ③生活問題を解決するために「私たち」が取り組むべきことを考える力をつける, を目標とします。					
受講生に望む事	自分(たち)の生活や課題と結びつけて主体的に取り組むことを期待します。					
評価方法	授業での取り組み(約10%), 授業での提出物(約30%)と学期末レポート(約60%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション:社会福祉の基礎知識		9	事例から学ぶ(その5):認知症がある人と家族の生活問題:前編		
2	障害児・者福祉の取り組み(1):基本問題とノーマライゼーション		10	事例から学ぶ(その6):認知症がある人と家族の生活問題:後編		
3	障害児・者福祉の取り組み(2):障害がある人たちの暮らしを支える仕組み		11	障害がある人の家族の支援		
4	障害児・者福祉の取り組み(3):精神保健福祉の基本問題		12	障害がある人の「語り」		
5	事例から学ぶ(その1):統合失調症がある人と家族の生活問題:前編		13	障害がある「当事者」からの試み(1)		
6	事例から学ぶ(その2):統合失調症がある人と家族の生活問題:後編		14	障害がある「当事者」からの試み(2)		
7	事例から学ぶ(その3):うつ病がある人と家族の生活問題:前編		15	まとめ — 私たちの社会福祉		
8	事例から学ぶ(その4):うつ病がある人と家族の生活問題:後編					
関連科目	社会科学関連全般、特に「社会福祉論Ⅰ」		連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス アワー			
教科書	特にありません。プリントを配布します。		備考			
参考資料	制度・歴史面については、唐鎌直義(2012年)『脱貧困の社会保障』旬報社。2200円+税を参考にします。その他、必要に応じて適宜紹介し、配布することもあります。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
方言学	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	3年	後期	講義	JL 選必 他コース選択
授業概要	本講義では、方言学の基礎的な知識および調査方法を学ぶ					
キーワード	地域方言, ネオ方言, 方言価値, 言語変異, レジスター					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>方言学における分析方法を理解する</li> <li>方言学における調査方法を理解する</li> <li>言語接触に関する知見を理解する</li> </ul>					
受講生に望む事	事前に、指定された教科書の該当箇所をチェックする必要がある。授業後は、授業内に示された簡単な方言調査を実施すること。					
評価方法	中間レポート (40%), 学期末レポート (60%)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	言語接触 (2)			
2	観光資源としての方言	10	ネオ方言			
3	20年前の熊本方言	11	方言コスプレ			
4	標準語の確立	12	方言を調査する (1)			
5	方言の成立	13	方言を調査する (2)			
6	方言と歴史	14	方言を調査する (3)			
7	方言データの扱い	15	まとめ			
8	言語接触 (1)					
関連科目		連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教師	オフィス アワー				
教科書	木部暢子・竹田 晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ (編著), 『方言学入門』, 三省堂	備考				
参考資料	小林隆・篠崎晃一 (著), 『ガイドブック方言研究』, 『ガイドブック方言調査』					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国と地方の役割	2	やまなか まもる 山中 守	3年	後期	講義	選択
授業概要	[ 基礎力区分①課題発見力 ] 携帯電話やスマートフォン, インターネットが普及した情報化社会を取り上げ, その中で国と地方の役割について考えます. 予備知識が無くても分かるように説明します. 3年生になって将来の職業や進路について考え始めている頃だと思います. そのような職業の選択にも役立つように, 授業内容を考えています.					
キーワード	情報化社会, 地域社会, 国, 地方					
到達目標	地域社会における国と地方の役割について理解すること.					
受講生に望む事	日頃から, 世の中で起こっている出来事やニュースなどに関心をもっていると, 授業がより興味深くなります.					
評価方法	成績評価は, (1) 講義時間中の小レポートや小テスト, (2) 期末テストまたは期末レポートにより評価します. 評価のウエイトは, (1) 80%, (2) が20%です.					
回	授業計画	回	授業計画			
1	情報化社会の新しい動き (1)	9	地域社会の新しい取組 (2)			
2	情報化社会の新しい動き (2)	10	情報化社会の格差 (1)			
3	地域社会の現状と課題 (1)	11	情報化社会の格差 (2)			
4	地域社会の現状と課題 (2)	12	情報化社会の発展要因 (1)			
5	情報化で地域が変わる (1)	13	情報化社会の発展要因 (2)			
6	情報化で地域が変わる (2)	14	今後の学習の発展のために (1)			
7	イギリスの事例	15	今後の学習の発展のために (2)			
8	地域社会の新しい取組 (1)					
関連科目	情報社会学	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィス アワー	水: 12:00~12:50 木: 12:10~12:55			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版, 2013年.	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光学	2	まつもと ひろむ 松本 擴	3年	前期	講義	AA 選択必修 他コース選択
授業概要	1. 観光の人間生活における必要不可欠性を分析解説する。 2. 観光の意義と、実生活の中にある観光の実態を分析する。					
キーワード	歴史と実態の分析 観光産業の将来性研究 地域観光研究					
到達目標	観光関連の国家資格取得を目標とする（観光検定3級資格取得）。					
受講生に望む事	資格取得に積極性を持つこと。					
評価方法	内容理解 20% レポート 80%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	観光の歴史的背景（日本の部）	9	観光における国家資格内容（日本の部）			
2	観光の歴史的背景（日本の部）	10	観光における国家資格内容（日本の部）			
3	観光の歴史的背景（欧米）	11	観光における国家資格内容（海外の部）			
4	観光の歴史的背景（アジア）	12	観光における国家資格内容（海外の部）			
5	観光の社会的位置付けと意義	13	観光における国家資格内容（総合）			
6	観光の社会的位置付けと意義	14	総まとめ			
7	観光の経済的影響	15	総まとめ			
8	観光の経済的影響					
関連科目		連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格	旅行業務取扱主任者資格 熊本観光文化検定3級	オフィスアワー				
教科書	熊本観光文化検定公式テキストブック 時刻表	備考				
参考資料	実社会における各種広報資料					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光文化	2	まつもと ひろむ 松本 擴	3年	後期	講義	AA 選択必修 他コース選択
授業概要	1. 観光の人間生活における必要不可欠性を分析解説する。 2. 観光の意義と、実生活の中にある観光の実態を分析する。					
キーワード	観光産業（旅行業・ホテル経営・航空業界）の研究					
到達目標	観光関連の資格取得を目標とする。					
受講生に望む事	資格取得に積極性を持つこと。					
評価方法	内容理解 20% レポート 80%					
回	授業計画	回	授業計画			
1	観光文化の分析	9	"			
2	"	10	観光検定内容解説			
3	"	11	"			
4	観光文化の歴史的分析	12	"			
5	"	13	観光関連資格内容解説			
6	"	14	"			
7	観光文化の実態分析	15	"			
8	"					
関連科目		連絡先	楡木キャンパス教務課			
資格	旅行業務管理資格 熊本観光文化検定3級	オフィスアワー				
教科書	熊本観光文化検定公式テキストブック	備考				
参考資料	実社会における各種広報資料					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
消費経済学Ⅰ	2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	前期	講義	LC 選択必修 他コース選択
授業概要	経済学は大きく分けるとマクロ経済とミクロ経済ですが、消費経済はミクロを学びます。企業の行動に私たち消費者が反応している状況を学ぶため、TBL (Team-Based Learning) により産業、市場を理解していきます。					
キーワード	経済活動、市場メカニズム、消費者行動、TBL、マーケティング					
到達目標	自分の将来の就職先はどのような経済活動をしているのかを感覚的に掴む力を養います。合わせて TBL により主体性、発信力、傾聴力（特にコミュニケーション力）を向上させます。					
受講生に望む事	事前学修として毎回配布されるプリントを必ず読んで自分なりの消費経済イメージを作りチーム討議に備えます。事後学修はクラス討議の結果を振り返り、当初自分もっていたイメージとの違いを明らかにし記録する。					
評価方法	レポート 70%、成果発表 30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	オープン & シェア文化市場		
2	ミクロ経済		10	新規事業設計		
3	ブルーオーシャン戦略		11	マーケティング 3・0		
4	アンケートと顧客ニーズ		12	ブランドスパークス		
5	商品とポートフォリオ思考		13	マクロ経済学とミクロ経済学		
6	経営合理化と業績悪化		14	成果発表会		
7	ジレットモデル		15	振り返り・まとめ		
8	顧客課題と自社の強み					
関連科目	消費経済学Ⅱ		連絡先	榆木キャンパス 1 号館 2 F 所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー	水曜 10:30-11:30、木曜 10:30-11:30		
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
消費経済学Ⅱ	2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	後期	講義	選択
授業概要	経済学は大きく分けるとマクロとミクロ経済ですが、消費経済はミクロを学びます。後期は企業のマーケティング活動に消費者が反応している状況を学ぶため、TBL (Team-Based Learning) により経済を理解します。					
キーワード	経済活動、市場メカニズム、消費者行動、TBL、マーケティング					
到達目標	自分の将来の就職先はどのような経済活動をしているのかを感覚的に掴む力を養います。合わせて TBL により主体性、発信力、傾聴力（特にコミュニケーション力）を向上させます。					
受講生に望む事	事前学修として毎回配布されるプリントを必ず読んで自分なりの消費経済イメージを作りチーム討議に備えます。事後学修はクラス討議の結果を振り返り、当初自分もっていたイメージとの違いを明らかにし記録する。					
評価方法	レポート 70%、成果発表 30%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	チャネル政策①		
2	セグメンテーション		10	チャネル政策②		
3	ターゲティング		11	プロモーション政策①		
4	ポジショニング		12	プロモーション政策②		
5	製品政策①		13	マーケティング戦略		
6	製品政策②		14	成果発表会		
7	価格政策①		15	振り返り・まとめ		
8	価格政策②					
関連科目	消費経済学Ⅰ		連絡先	榆木キャンパス 1 号館 2 F 所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス アワー	木曜 12:00-13:00、金曜 09:00-10:00		
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報社会学	2	やまなか まもる 山中 守	3年生	後期	講義	選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、近年、急速に普及してきた情報化社会が私たちの消費生活にどのように影響しているのか、具体的に学びます。情報化社会とはどのような社会のことなのか、またどのような特徴があるのかなど、情報化社会の基本的な知識を学びます。					
キーワード	情報化社会 (Information Society), 地域社会 (Regional Community)					
到達目標	情報化社会の現状と課題について理解すること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
評価方法	成績評価は、(1) 授業中の小テストまたは小レポート、(2) 期末テストまたは期末レポートで評価します。評価のウエイトは、(1) が80%, (2) が20%です。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	情報化社会 (1)		9	情報化社会と消費経済 (1)		
2	情報化社会 (2)		10	情報化社会と消費経済 (2)		
3	情報化社会 (3)		11	情報化社会と消費経済 (3)		
4	地域社会の動き (1)		12	情報化社会と地域社会 (1)		
5	地域社会の動き (2)		13	情報化社会と地域社会 (2)		
6	情報化社会と地域再生 (1)		14	情報化社会と地域共生		
7	情報化社会と地域再生 (2)		15	これからの情報化社会		
8	情報化社会と地域再生 (3)					
関連科目	国と地方の役割		連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィス アワー	水: 12:00~12:50. 木: 12:10~12:55.		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』 N T T出版, 2013年.		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
交通論	2	しもむら ひとし 下村 仁士	3年	前期 集中	講義	選択
授業概要	交通は、日常生活と結びついた身近な存在ですが、どのようなかかわりあいをしているのか、その全容をつかむことは難しいのが実情です。この講義では、まちづくり・地域おこしの視点を中心に、交通とわたしたちとのかかわりについて、知識の習得を目指します。なお、受講者の関心や希望する進路によっては、授業計画を若干変更することもあります。					
キーワード	まちづくり、市民参加、地域交通					
到達目標	・ 現代の交通における基本的な問題を理解する。 ・ まちづくりにおける交通の役割を理解する。 ・ 交通と私たちの生活とのかかわりあいについて理解する。					
受講生に望む事	交通論は、生活に密着しているとともに、学際的な研究分野です。幅広い関心と問題意識をもって、受講してほしいと思います。なお、受講前には当日の講義内容にかんする講義テーマについて、新聞等からトピックを2~3点程度抜き出して、講義に参加してください。インターネットを使用できる方は、授業計画をキーワードにして検索エンジンで検索すれば、トピックが出てくるかと思えます。また、講義の後は、講義前に抜き出したトピックと講義の内容を対比して、見方や考え方の変化をまとめて、レポート作成の下準備にしてください。					
評価方法	講義への参加状況 (30%)、および全講義終了後に科すレポート (70%) で評価します。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション		9	ユニバーサルサービスとは		
2	交通論を学ぶ上での基礎知識		10	交通の公共性と交通権		
3	交通機関の現状 (長距離交通)		11	交通政策基本法		
4	交通機関の現状 (地域交通)		12	市民参加と公・民・共のパートナーシップ		
5	熊本の交通の現状と問題 (九州新幹線、熊本空港)		13	環境問題と交通		
6	熊本の交通の現状と問題 (熊本市内とその郊外の地域交通)		14	交通事業の経営		
7	交通まちづくり (コンパクトシティをつくるために)		15	講義のまとめ		
8	交通まちづくり (観光に生かすために)					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス アワー			
教科書	教科書は使用しません。必要があればプリントを配布します。		備考	質問がある場合は、下記あてにメールをお願いいたします。shimomura_h@nifty.com		
参考資料	詳しくは講義で紹介しますが、辞典のように使える参考資料として、日本交通学会編『交通経済ハンドブック』を取り上げておきます。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
流通論	2	宇野 史郎 <small>うの しろう</small>	3年	後期	講義	選択
授業概要	いま、流通がおもしろい。その流通問題のひとつに、商店街問題があります。多くの地方都市の中心商店街で空き地・空店舗が恒常化し、その結果中心市街地の空洞化が進んでいます。空洞化する中心市街地をいかに活性化するかは、大きな社会的課題です。この講義では、流通の役割と仕組みについての基礎的な視点を踏まえて、私たちが生活している都市（まち）の流通に焦点をあて、そのあり方について考えてみたいと思います。					
キーワード	市場経済、流通、商業、まちづくり、空間的競争、商店街問題、流通政策					
到達目標	流通や商業についての基本的な仕組みや役割を理解する。都市流通の変化の方向を理解する。					
受講生に望む事	内容理解が困難な点は必ず、質問すること。					
評価方法	期末レポート（60%）、出席状況（40%）					
回	授業計画		回	授業計画		
1	流通論を学ぶ意義		9	都市流通システムとまちづくり3法		
2	流通の役割と仕組みについて（1）		10	まちづくり3法と地方自治体の対応		
3	流通の役割と仕組みについて（2）		11	まちづくり3法改正と都市流通システム		
4	都市流通問題を考える視点（1）		12	大型店立地の波及効果についての検証		
5	都市流通問題を考える視点（2）		13	熊本市中心市街地のにぎわい空間づくり		
6	流通システムの空間競争とまちづくり		14	ホスピタリティの視点からのまちづくり		
7	都市流通システムと商店街問題		15	都市流通システムの空間的配置のあり方		
8	都市流通システムと流通近代化政策					
関連科目			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス アワー			
教科書	宇野史郎『まちづくりによる地域流通の再生』中央経済社、2012年		備考			
参考資料	講義の中で、適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会学演習Ⅲ	2	山 <small>やまなか</small> 中 <small>まもる</small> 守	3年	前期	演習	選択
授業概要	卒論を書くための演習です。まず卒論のテーマを選ぶ視点として、自分が興味を持っている分野であることが大切です。では、どのようなテーマで卒論に取り組むのか、また調査の方法はどうすればいいのか、などの基本的なことから指導します。さらに、レポートを書くためには、文章や図表の書き方も学ばなければなりません。卒論の勉強を通して、基本的な多くのことを学びます。					
キーワード	情報化社会、地域社会、産業の種類、ビジネス、情報					
到達目標	1) 社会問題で関心のあるテーマを見つける。 2) 卒論で取り組むテーマを見つけて、調査や分析の方法を習得する。					
受講生に望む事	興味のある分野から、まず調べてみよう。その中から卒論のテーマが見つかります。興味をもって前向きな姿勢で取り組むようになれば、新しい事を多く学ぶことができます。					
評価方法	評価方法は、(1) レポートの内容と、(2) 発表の内容で評価します。評価のウエイトは、(1) が50%で、(2) が50%です。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	1) 興味のあるテーマを調べる（1～4回）		9			
2	2) 統計や現地調査で実態を調べる（5～8回）		10			
3	3) レポート（図表も含めて）を作成する（9～12回）		11			
4	4) 発表の仕方（パワーポイントの使い方も含めて）を学ぶ（13～15回）		12			
5			13			
6			14			
7			15			
8			16			
関連科目			連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィス アワー			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版、2013年。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会学演習Ⅲ	2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	前期	演習	選択
授業概要	社会学演習Ⅳと連動し卒論題目作成に向けた準備を進めます。卒論作成に向け、社会学のテキストを輪読しながら基礎力・構想力を養うとともに自分の関心領域を模索していきます。					
キーワード	卒業論文					
到達目標	卒業論文着手に向けた基礎力・構想力を身につける。コメント力をつける。自分の関心領域をいくつかあげられる。					
受講生に望む事	「新たな社会の変化に敏感に対応している卒論題目か」「領域横断的に機動力ある展開を図れるか」などを意識して取り組むため、各自自分のテーマを事前・事後学修を通じ模索してください。					
評価方法	レポート100ポイント					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	"		
2	発表・ディスカッション		10	"		
3	"		11	"		
4	"		12	"		
5	"		13	"		
6	"		14	"		
7	"		15	振り返り、まとめ		
8	"					
関連科目	消費経済学Ⅰ、Ⅱ、社会学演習Ⅳ、表計算応用、推計学入門、卒業研究		連絡先	榎木キャンパス1号館2F所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	水曜10:30-11:30、木曜10:30-11:30		
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会学演習Ⅳ	2	やまなか まもる 山中 守	3年	後期	演習	選択
授業概要	この演習は、卒論を書くための演習です（前期からの続き）。卒論のテーマを選ぶ視点として、自分が興味を持っている分野であることが大切です。その中から特に興味をもったテーマを絞り込んでいきます。さらに図表の書き方のレベルも上げていきましょう。文章の書き方についても、いい文書が書けるように努力しましょう。卒論を書くことは、単なる卒論を書くのではなくて、卒論の勉強を通じて、多くの基礎知識を学ぶことにつながります。					
キーワード	情報化社会、地域社会、産業、情報					
到達目標	1) 社会問題で興味のあるテーマを見つける。 2) 卒論で取り組むテーマを見つけて、調査や分析の方法を習得する。					
受講生に望む事	【事前学習】毎回の演習の最後に、次回の演習課題について説明するので、それを小レポートに作成して、講義の時に持参し、提出すること。 【事後学習】演習ノートを作成しておくこと。演習ノートは適宜参照するので演習時に持参すること。					
評価方法	評価方法は、(1) レポートの内容と、(2) 発表の内容で評価します。評価のウエイトは、(1) が50%で、(2) が50%です。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	1) 興味あるテーマを調べる(1~4回)		9			
2	2) 統計や現地調査で実態を調べる(5~8回)		10			
3	3) レポート(図表も含めて)を作成する(9~12回)		11			
4	4) 発表の仕方(パワーポイントの使い方も含めて)学ぶ(13~15回)		12			
5			13			
6			14			
7			15			
8			16			
関連科目			連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィスアワー	水:12:00~12:50. 木:12:10~12:55.		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版、2013年。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会学演習Ⅳ	2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	後期	演習	選択
授業概要	卒論作成に向けた下準備を進めます。卒論作成に向け、基礎力・構想力を養うとともに自分の関心領域を模索し情報を集め、「何を明らかにしたいのか」「どのように研究を進めるのか」など各自が主体的に設定します。					
キーワード	卒業論文					
到達目標	卒業論文着手に向けた基礎力・構想力を身につける。コメント力をつける。卒業論文題目提出に向けた準備が整う。					
受講生に望む事	事前学修としてゼミに耐えられるよう次回課題に取り組む。事後学修は授業内容を各自の卒論下準備にどのようにいかしていくか整理し構想を練ってください。					
評価方法	レポート100ポイント					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	"		
2	発表・ディスカッション		10	"		
3	"		11	"		
4	"		12	"		
5	"		13	"		
6	"		14	"		
7	"		15	振り返り・まとめ		
8	"					
関連科目	消費経済学Ⅰ、Ⅱ、社会学演習Ⅲ 表計算応用、推計学入門、卒業研究		連絡先	榎木キャンパス1号館2F所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス ア ワ ー	木曜12:00-13:00、金曜09:00-10:00		
教科書	特にありません。授業中にレジユメを配布します。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学演習Ⅲ	2	たけだ まさのり 武田 昌憲	4年	前期	演習	JL選必 他コース選択
授業概要	激動の南北朝時代を描いた作品である『太平記』から、九州の菊池氏の活躍を描いた場面を中心に演習形式で研究・発表していきます。菊池氏については地元の名族なので知らない人はいないと思いますが、近時、若い人にはその活躍の様子が知られていないようです。そこで、今期は『太平記』巻11の「筑紫合戦」と巻16の「多々良浜合戦」を中心に、その文学性と作者の主張を、『梅松論』等の諸記録類と比較しながら検討していきます。					
キーワード	南北朝 太平記 梅松論 菊池氏 少弐氏 軍記文学 忠臣					
到達目標	地元の歴史がわかり、愛着・関心が持てる。基本的な資料が利用できる。時代(時間)と九州という土地(空間)の歴史的・文学的位置づけが説明できる。なぜ戦うのか、戦いは避けられないのかを考えていくことができる。『太平記』の大筋が理解され、説明できる。					
受講生に望む事	九州や肥後国に関心のある学生に受講してもらいたい。大河ドラマにも興味を持ってもらいたい。毎時間の積極的な質疑応答を期待します。〔事前学修〕毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと。〔事後学修〕配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと。					
評価方法	授業態度・演習発表内容・質疑応答・教場レポートで50点。期末試験(レポート)で50点					
回	授業計画		回	授業計画		
1	はじめに 南北朝とは、『太平記』とは		9	演習発表 巻16「多々良浜合戦」その1		
2	『太平記』の概要と特質 演習分担 諸本について 版本について		10	演習発表 同 その2		
3	菊池氏について 九州の豪族について 島津 大友 少弐について		11	演習発表 同 その3		
4	『太平記』の序について、		12	演習発表 同 その4		
5	演習発表 巻11「筑紫合戦」その1		13	演習発表 同 その5		
6	演習発表 同 その2		14	演習発表 その後の菊池氏の活躍について・伝説等		
7	演習発表 巻11「筑紫合戦」その3		15	まとめ		
8	演習発表 同 その4		16	試験(レポート)		
関連科目	日本古典文学講読Ⅰ・Ⅱ		連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィス ア ワ ー	月曜日昼休み、火曜日昼休み		
教科書	配布資料を利用		備考			
参考資料	『太平記』(岩波書店3冊・小学館4冊・新潮社5冊一各出版社のテキスト) 『梅松論』(群書類従・現代思潮社一各出版社のテキスト) ダイジェスト『太平記』(有精堂)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学演習Ⅲ	2	かわだ 和子 河田 和子	4年	前期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	近・現代の文学者の作品について、それぞれが調査研究したことを発表する（対象とする小説や詩については、発表者の関心に基づいて選んでもらう予定）。様々な資料に基づいて、作品を分析し、考察する。各々の発表では、ディスカッションしながら作品の読みを深め、先行研究に対する多様な読みの可能性についても考える。					
キーワード	研究論文 資料調査 作品分析					
到達目標	・自分で問題を設定し、解決していく思考力とねばり強さを身につける。 ・作家や作品に関する資料を収集し調査する力を身につけるとともに、読解力を磨く。 ・調査に基づいて考察したことを発表し、論文の形でまとめる方法も習得する。					
受講生に望む事	近代文学関係で卒業論文を書く予定の学生は、必ず受講すること。発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望みます。【事前学習】事前にテキストを読んでおくこと。【事後学習】発表担当者のレジメを読み直し、質問や意見を言えるようにしておくこと。					
評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など10%）、発表（レジメの作成も含む40%）、学期末レポート（50%）。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス① 研究方法について（資料の調査、作品の分析方法）		9	発表⑤		
2	ガイダンス② 作家研究と作品研究 先行論文の選び方		10	発表⑥		
3	ガイダンス③ 発表手順、プレゼンテーションの方法		11	発表⑦		
4	ガイダンス④ 論文の書き方		12	発表⑧		
5	発表①		13	発表⑨		
6	発表②		14	発表⑩		
7	発表③		15	まとめ		
8	発表④					
関連科目			連絡先	email address kawada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書			備考	卒論レベルの発表を求めため、一人三回以上の個人発表をしてもらう。近・現代文学関連で卒論を書く者でなければ、受講は勧めない。		
参考資料	「国文学」（学燈社）、「解釈と鑑賞」（至文堂、ぎょうせい） 他の参考資料については授業のガイダンスで紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学演習Ⅲ	2	ふくなが みか 福永 美佳	4年	前期	演習	JL 選必 他コース選択
授業概要	この授業は十分な予習復習が必要である。担当者には事前にしっかりと予習をしたうえで、レジメを作成し、発表してもらう。多くの文章の読解及び分析を通じて、中国文学に関する知識を深める。					
キーワード	漢文訓読、中国の文学作品全般					
到達目標	高度な漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。初見の漢文にとりくむために、工具書（辞書・字書・事典・索引・地図など）についての深い知識を身につける。					
受講生に望む事	予習復習をしっかりと行うことが望ましい。					
評価方法	発表及びレポートで100%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	演習⑧		
2	演習①		10	演習⑨		
3	演習②		11	演習⑩		
4	演習③		12	演習⑪		
5	演習④		13	演習⑫		
6	演習⑤		14	演習⑬		
7	演習⑥		15	まとめ		
8	演習⑦					
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ」など、中国文学・漢文学関連科目。 卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、必ず受講すること。		参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）。		
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	使用しない。テキスト・資料は適宜プリントとして配布する。予習のために漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある		オフィスアワー	火曜 昼休み 金曜 昼休み		
			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語教育実習	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	4年	前期	演習	選択
授業概要	日本語教師になるためには、日本語・教育学・外国語力に関する知識に加えて実践の場で外国人に日本語を教える経験を積まなければならない。ここでは県内で日本語を学ぶ日本語学習者を対象に日本語教育の実習を実施する。実習に先立ち、実習校で使用する教材を分析し、見学をしながら「指導案」を作成する。基本的には複数で授業を担当する。					
キーワード	日本語教師、知識、経験、外国人学習者、指導案					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な日本語の知識を習得する。</li> <li>直説法に基づく日本語教育の技術を身につける。</li> <li>外国の言語文化を理解する。</li> </ul>					
受講生に望む事	日本語学習者の立場に立って、分かりやすく日本語・文化を伝える方法を考えてみましょう。					
評価方法	実習(70%)と課題(30%)の内容を総合して評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション-実習の仕方、実習校・教科書の紹介		9	教科書研究6、模擬授業3		
2	日本語に対する確認		10	教科書研究7、模擬授業4		
3	日本語教育法に対する確認		11	実習1		
4	教科書研究1		12	実習2		
5	教科書研究2		13	実習3		
6	教科書研究3		14	実習4		
7	教科書研究4、模擬授業1		15	実習5		
8	教科書研究5、模擬授業2					
関連科目	日本語史、日本語表現、日本語教授法概論、日本語教育文法、外国語関連の授業など。		連絡先	E-mail: htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本語教員資格試験		オフィスアワー			
教科書	後日、提示。		備考	実習地：熊本市立国際交流振興事業団より例年受け入れている韓国人向け日本語指導を担当してもらう。		
参考資料	『新文化初級日本語』（文化外国語専門学校） 『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光英語応用	2	Josh Norman	4年	前期	演習	選択
授業概要	(Note: This class is a continuation of the 観光英語 class.) 単なる一般英語ではなく、旅行者として、あるいは旅行者を率いる旅行者として必要なコミュニケーション能力を身につける。旅行の予約、外国人旅行者への案内、観光など、実際の場面を設定した演習を通して学習し、観光英語検定2級に合格できる程度の「読む、聞く、書く、話す」能力を習得する。					
キーワード	Travel, English					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外で個人旅行をする際、個人で旅程を組み、乗り物やホテルの予約、また単独で観光や買い物等を英語で対処することができるようになる。</li> <li>国内で外国人に観光地や名所等を英語で紹介できるようになる。</li> </ul>					
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course.					
評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (30%), and quiz (40%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	Lesson 8		9	Lesson 12		
2	Lesson 8 (cont.)		10	Lesson 12 (cont.)		
3	Lesson 9		11	Lesson 13		
4	Lesson 9 (cont.)		12	Lesson 13 (cont.)		
5	Lesson 10		13	Lesson 14		
6	Lesson 10 (cont.)		14	Lesson 14 (cont.)		
7	Lesson 11		15	Quiz		
8	Lesson 11 (cont.)					
関連科目			連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 榎木キャンパス：大学1号館 2F		
資格	観光英語検定試験2級		オフィスアワー	See schedule on office door		
教科書	"Travel English: For Tourism Industry Professionals" by Reiko Fujita (MacMillan Language House)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光中国語応用	2	本田 暁美	4年	前期	演習	選択
授業概要	この授業は3年次の観光中国語の発展したものである。現在日本には国土交通省認定の通訳案内士という資格があり、この資格が無ければ外国人観光客を案内することはできないことになっている。今後、中国語圏からの観光客は増加すると考えられるので、通訳案内士の試験も視野に入れながら、具体的に日本、九州、熊本を案内する時、特に観光地に到着するまでの移動中に、事前に基本的な情報提供し、如何にして相手に正しく想像させることができるかを考えて、説明文を中国語で作成してみる。ガイドに必要な言い回しや単語も補充する。					
キーワード	日中文化比較 通訳案内士					
到達目標	熊本や福岡など九州各地の日本語による観光パンフから情報を得て、それを中国人向けの内容に編集し、実際の現場では説明時間に制限があることを考慮し、自分で中国語原稿を作成する。					
受講生に望む事	外国人の立場に立って、日本と相手国の文化や思考方式を比較しながら考えることに慣れてほしい。					
評価方法	学期中、何度か提出物があるので、その出来具合と定期試験を合わせて評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイドス、通訳とガイドの違い、通訳案内士試験の概要紹介	9	福岡空港での出迎えの場面を想像して実践してみる。			
2	日本に初めて来た観光客に大まかな日本概要を説明する。その内容を皆で取捨選択し、確定する。	10	福岡から熊本までを高速道路を走って移動する際に、車中のガイドングを実践する。			
3	前回の内容を宿題として翻訳したものを持ち寄り、中国語文を確定する。	11	ホテル到着時の案内の場面を想像して実践してみる。			
4	日本に初めて来た観光客に大まかな九州概要を説明する。その内容を皆で取捨選択し、確定する。	12	熊本城観光の前に、観光客に予備知識として話しておくべき内容を取捨選択し、確定する			
5	前回の内容を宿題として翻訳したものを持ち寄り、中国語文を確定する。	13	熊本城を1時間半の時間内でどれだけ説明できるか、各所での説明を確定する			
6	日本に初めて来た観光客に大まかな熊本県概要を説明する。その内容を皆で取捨選択し、確定する。	14	ガイドの途中でよく出てくる宴会の司会通訳の練習			
7	前回の内容を宿題として翻訳したものを持ち寄り、中国語文を確定する。	15	ガイドの途中でよく出てくる宴会の挨拶通訳の練習			
8	学生が各自の出身地を紹介するときに何をアピールしたいかを考え中国人向けの説明を考える	16	ガイドングの口答試験、もしくは筆記試験			
関連科目	中国語関係全般		連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格			オフィス アワー			
教科書	毎回、プリント教材を使用する		備考			
参考資料	実戦ビジネス中国語会話（白水社）、中国語通訳への道（大修館）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光韓国語応用	2	李 熙淑 <sup>い ひすく</sup>	4年	前期	演習	選択
授業概要	日本人には、日常的で当たり前のことが、外国人の目には新鮮で興味深い事も多い。説明を聞く相手の関心と興味を引きながら日本を紹介するには、韓国文化に対する簡単な理解が必要である。日本と韓国、二つの国を比較しながら説明するために、歴史、文化、観光、遺跡地を調べてみよう。日本の観光地に書かれている説明に含まれる漢字は、韓国で使われている漢字とほぼ同だが、読み方は異なる。その読み方には一定な法則があるので、それを学習すれば語彙を効率よく増やすことができる。					
キーワード	外国人の観点から見て考えてみよう。漢字のハングル読みのコツをつかもう。					
到達目標	・漢字を語源とするハングルを日本語と関連させて暗記する。 ・歴史、観光、遺跡地を紹介する時に、使用する動詞の活用法、文法の整理。（韓国語能力試験問題を参照） ・授業時間にできるだけ韓国語を使って聞く能力を養う。					
受講生に望む事	・韓国の友達に日本を紹介する気持ちで勉強したことを話してみよう。 ・授業時間に集中的に暗記や会話の練習をするので、授業時間に楽しく学ぼう。					
評価方法	毎回小テスト（40%） 授業への積極的参加度（20%） 課題（40%）					
回	授業計画	回	授業計画			
1	日本の春、花見1（本文を理解する。）	9	日本旅館の自尊心、会席料理1（本文を理解する。）			
2	日本の春、花見2（問題を解く。文法の整理。）	10	日本旅館の自尊心、会席料理2（問題を解く。文法の整理。）			
3	日本で一番美しい島、四国1（本文を理解する。）	11	北海道の雪祭りとワインと鮭1（本文を理解する。）			
4	日本で一番美しい島、四国2（問題を解く。文法の整理。）	12	北海道の雪祭りとワインと鮭2（問題を解く。文法の整理。）			
5	過去と現在が共存する京都1（本文を理解する。）	13	日本のお正月の風物詩、箱根駅伝1（本文を理解する。）			
6	過去と現在が共存する京都2（問題を解く。文法の整理。）	14	日本のお正月の風物詩、箱根駅伝2（問題を解く。文法の整理。）			
7	漫画共和国日本1（本文を理解する。）	15	まとめ			
8	漫画共和国日本2（問題を解く。文法の整理。）					
関連科目			連絡先	E-mail : daikon80@naver.com		
資格	韓国語能力試験中級		オフィス アワー			
教科書	資料はプリントとして配布する。		備考			
参考資料	『韓国語能力試験』（三修社） 月刊誌『韓国語 ジャーナル』（アルク）					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
旅行業法規		2	みやがわ かずお 宮川 和夫	4年	前期	講義	選択
授業概要	誰にとっても楽しみである旅行。その旅行を商品として企画・販売しているのが旅行会社。消費者と旅行会社、双方の保護と、納得いく商取引のために、旅行業法があります。実際に現在の社会に即した旅行商品を企画実施しながら、旅行業法規を学んでいきます。						
キーワード	ユニバーサルデザイン旅行。 地域との連携。						
到達目標	高齢の方や、障がいがある方も楽しめる、ユニバーサルデザインツアーを企画し、添乗する。旅行が商品となる一連を経験してみる。車いすを押す等の介助の基本を習得する。						
受講生に望む事	高齢の方や、障がいがある方も楽しめる旅行を、柔軟な発想で企画・実施し、旅の感動を共有してほしい。高齢の方や、障がいがある方も旅を楽しめるためには、交通機関、宿泊機関、観光地等が、どうあればよいか、考えてほしい。						
評価方法	授業へ向き合う意欲、態度、発言、提出課題（90パーセント） 最終レポート（10パーセント）						
回	授業計画			回	授業計画		
1	高齢の方も、障がいがある方も参加できる、ユニバーサルデザイン（UD）ツアーの紹介（全2回、1回目）			9	高齢の方、障がいがある方の、食事と入浴について配慮すること		
2	高齢の方も、障がいがある方も参加できる、ユニバーサルデザイン（UD）ツアーの紹介（全2回、2回目）			10	添乗員の心得、介助者として旅行中、配慮すべき点について、安全対策について。		
3	ユニバーサルデザイン（UD）ツアーでの配慮する点について。			11	旅行先下見、調査。現場を見て、気づく、考える。（学外実習）		
4	旅行商品とは。世に出るまでの流れについて。既存の旅行パンフレットをみて、旅行業法規に触れる			12	参加者1人1人への対応方法を考える。		
5	旅行商品（日帰り）を作ってみよう（観光課、観光協会が発行しているパンフレットを見てテーマ、コースを考える）			13	当日の役割分担を考える		
6	ツアー発表会（各自が考えたツアーのプレゼン、質疑応答）			14	ツアーを実施（授業外で、自由参加とする）		
7	旅行介助の実習（全2回、1回目は車いす操作等）			15	ツアーを終えて、気づいた点について意見交換。お客様からのアンケートから学ぶ。		
8	旅行介助の実習（全2回、2回目は視覚障がいがある方の手引き、知的障がいがある人への対応等）			16	まとめ、関係機関への感想文・提言文などを作成		
関連科目	観光学、観光文化			連絡先	楡木キャンパス教務課		
資格				オフィス ア ワ ー			
教科書	なし。			備 考	旅行先下見、調査（日帰り）については、学外実習とする。下見の際の経費（交通費・食費）は、各自負担すること。 5000円～8000円必要		
参考資料	各地観光課、観光協会が発行している観光パンフレット 既存の旅行パンフレット						

卒業研究・卒業作品研究



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業研究：日本文学・言語コース		6	武田・河田 島山・福永	4年	通年		必修
授業概要	卒業論文は本学科・本コースで学んだことの集大成となる。自分の興味や関心をもとに対象分析し、資料を収集し、教員の指導のもと、自らの意見をまとめ、立派な論文を作成することを目的とする。						
キーワード	卒業論文 研究 分析						
到達目標	学士として十分な教養と専門知識が「卒業論文」に反映されていること。						
受講生に望む事	毎回の卒論研究指導には必ず出席し、卒論進捗状況を報告・指導を受けること。						
評価方法	卒業論文(100%)						
回	授業計画						
1	卒業論文面接指導	17	卒業論文中間発表 (第2回・9月下旬予定)				
2	卒業論文面接指導	18	卒業論文面接指導				
3	卒業論文面接指導	19	卒業論文面接指導				
4	卒業論文面接指導	20	卒業論文面接指導				
5	卒業論文面接指導	21	卒業論文面接指導				
6	卒業論文面接指導	22	卒業論文面接指導				
7	卒業論文面接指導	23	卒業論文面接指導				
8	卒業論文面接指導	24	卒業論文面接指導				
9	卒業論文面接指導	25	卒業論文面接指導				
10	卒業論文面接指導	26	卒業論文面接指導				
11	卒業論文面接指導	27	卒業論文面接指導				
12	卒業論文面接指導	28	卒業論文面接指導				
13	卒業論文面接指導	29	卒業論文提出指導 (12月)				
14	卒業論文面接指導	30	卒業論文口頭試問 (1月)				
15	卒業論文面接指導	31	卒業論文発表会 (2月)				
16	卒業論文中間発表 (第1回・8月上旬予定)						
関連科目							
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先	各指導教員の連絡先を参照のこと						
オフィスアワー	各指導教員のオフィスアワーを参照のこと						
備考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業研究：書道コース		6	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎 くたみ たけし 久多見 健	4年	通年		必修
授業概要	卒業研究は、これまで学んできた書道の実技・理論の集大成である。自分の興味・関心のある書家や書作品について資料を集め、調査や分析などを行い、教員の指導のもと自分なりの結論を導き出す論文を執筆する。						
キーワード	卒業研究 研究 分析						
到達目標	章立てをきちんとして論理的に記述を進め、自分なりの結論を導き出す、						
受講生に望む事	資料収集を早くから充分に行う。 毎回の指導で進めた内容を報告し指導をうける。						
評価方法	卒業論文、口述試験						
回	授業計画						
1	卒業論文面接指導	16	中間発表会（9月）				
2	卒業論文面接指導	17	卒業論文面接指導				
3	卒業論文面接指導	18	卒業論文面接指導				
4	卒業論文面接指導	19	卒業論文面接指導				
5	卒業論文面接指導	20	卒業論文面接指導				
6	卒業論文面接指導	21	卒業論文面接指導				
7	卒業論文面接指導	22	卒業論文面接指導				
8	卒業論文面接指導	23	卒業論文面接指導				
9	卒業論文面接指導	24	卒業論文面接指導				
10	卒業論文面接指導	25	卒業論文面接指導				
11	卒業論文面接指導	26	卒業論文面接指導				
12	卒業論文面接指導	27	卒業論文面接指導				
13	卒業論文面接指導	28	卒業研究発表会（2月）				
14	卒業論文面接指導						
15	卒業論文面接指導						
関連科目							
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先	指導教員の連絡先を参照のこと						
オフィスアワー	指導教員のオフィスアワーを参照のこと						
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業研究 アメリカ・東アジア文化言語コース	6	たぐち せいいち なががわ あきお 田口 誠一 中川 明夫 きたぐち ひでほ たけしたひろとし 北口 英徳 竹下 裕俊 ジョシュ・ノーマン	4年	前期 後期	演習	必修
授業概要	アメリカ・東アジア文化言語コースで学んできた専門科目に関する知識をもとに、個人の研究テーマを設定し、指導教員からの指導を受けながらその研究成果を卒業論文としてとりまとめる。					
キーワード	卒業論文 先行研究 資料収集					
到達目標	研究テーマについて深く考え、調べ、論理的に表現する文章表現力を養い、大学での学びの集大成として卒業論文に取り組み完成させる。					
受講生に望む事	事前に卒業論文の書き方について手引書などを読んで理科しておくことが望ましい。また、平素から参考文献や各種資料の収集に積極的に取り組み、整理・分類しておくことが大切である。各自が問題意識を持ち、指導教員の指導に従い早めに取り組むことを期待している。					
評価方法	卒業論文の内容及び口述試験を総合的に評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
	第1回～第4回 卒論指導（研究テーマの確認、研究計画の作成） 第5回～第13回 卒論指導（研究方法や資料収集の検討など） 第14回～第16回 卒論指導（進捗状況や課題の確認、中間発表指導など） 第17回～第24回 卒論作成指導（卒論の書き方の指導、原稿提出とフィードバックなど） 第25回～最終回 卒論作成指導（原稿提出とフィードバック、最終チェックなど）					
関連科目	「アメリカ文化言語」および「東アジア文化言語」領域の専門科目		連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地管理棟 3F 研究室		
資格			オフィスアワー	田口（火 12:10～12:55, 木 12:10～12:55） 中川（火 12:10～12:55, 木 12:10～12:55） 北口（水 13:30～14:30, 金 12:15～13:00）		
教科書	特になし		備考			
参考資料	卒論指導中に紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業研究：地域文化・社会コース	6	やまなか まもる 山中 守 ところ よしひこ 所 吉彦	4年	通年	演習	必修
授業概要	文献研究・実証研究により論文を作成します。研究意義のあるテーマを見つけ、研究に資する文献をみつけることからスタートします。社会学演習Ⅲ、Ⅳを基礎に課題・仮説形成を行い、検証・考察を加え論文を完成させます。					
キーワード	卒業論文					
到達目標	卒業論文の完成					
受講生に望む事	卒業論文は優れた社会人になるための主体的学業を実践するためのものです。これまでの「教えられる」、「読む」から、自ら事前・事後学修で、「文献を探し、読んで、自ら書く」を実践してください。					
評価方法	卒業論文 100%					
回	授業計画		回	授業計画		
1 ～ 31	卒業論文作成指導 9月「卒論進捗報告および今後の研究展開」、11月「副査プレ審査」、2月「卒業研究発表会」があります。					
関連科目			連絡先	榎木キャンパス管理等 4F 山中研究室 yamanaka@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				榎木キャンパス 1号館 2F 所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	各自選択キーペーパー		オフィスアワー	オフィスアワーにかかわらず、指導が必要な場合は各教員にアポイントを入れてください。		
参考資料			備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業作品研究：書道コース		6	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎 くたみ たけし 久多見 健 くろだ きよかず 黒田 清和	4年	前期 後期	演習	選択必修
授業概要	それぞれ考えた作品について草稿作りから推敲を繰り返しながら、教員のアドバイスを受け制作していく。まずは自分で選んだ古典を徹底的に分析、臨書して自分のものにした上で創作にそれを生かす。						
キーワード	臨書 倣書 創作						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の選んだ古典について書風の特徴をつかみ、臨書作品として仕上げる。</li> <li>これまで学んできた古典を基に、これまでの集大成としての創作作品に仕上げる。</li> </ul>						
受講生に望む事	まず表現の意図を明確に持ち、基盤にする古典など徹底的に調べた資料を用意して用具、用材をよく吟味しながら自分なりの独自の表現を目指してほしい。何より、作品の書き込みが重要になるので推敲を繰り返しながら、よく練り上げた作品で批評会に臨むこと。						
評価方法	作品への取り組み状況。 提出作品。						
回	授業計画						
1	作品サンプル検討	16	書き込み				
2	作品サンプル検討	17	”				
3	書き込み	18	”				
4	”	19	批評会				
5	”	20	書き込み				
6	批評会	21	”				
7	書き込み	22	”				
8	”	23	批評会				
9	”	24	書き込み				
10	作品選別	25	”				
11	印の位置決め、押印	26	作品選別、印の位置決め				
12	作品サンプル検討	27	作品写真撮影（3点）				
13	”						
14	”						
15	”						
関連科目	書道専門科目全般						
資格							
教科書							
参考資料	各古典法帖等、各字典・辞書、作品集・図録など						
連絡先	林田研究室 久多見研究室 黒田先生（講師控室）						
オフィス アワー							
備考	授業の外に毎週学年錬成会、研究室錬成会を入れる。						

# 教職に関する科目



科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教職論	2	さざわ やすひろ 佐澤 安廣	1年	前期	講義	教職必修
授業概要	学校教育はさまざまな課題をかかえ、改革・改善の取り組みが求められ、また実際に行われている。その際最も重要なことは児童生徒の最善の利益を追求することであり、それを担う教師の意識、力量形成を抜きにして考えることはできない。この科目は教職を志す者に対して、教職の歴史的理解、教職の意義、職務、求められる資質能力等々について学ぶものである。					
キーワード	教育愛 (educational love)、教職の専門性 (teaching profession)、教育を受ける権利 (right to education)、教師に求められる資質能力 (ability and quality needed for the teacher)					
到達目標	教育の基本的概念について理解と確認。教師に求められるの資質・能力の全体及び教職の専門性についての把握。教育的愛情、教育者の使命・教養について考える。教師の意義と職務理解。					
受講生に望む事	教職論のノート作成を行うので、授業の要旨をまとめ、各授業時に指示された事項についての補充的学修を事後的に行うこと、を求める。また3回程度レポートを課す。					
評価方法	学期末試験 (50%)、レポート (25%) およびノート作成状況 (25%) により評価を行う。					
回	授業計画					
1	授業方針の説明、成績評価の方法の説明 教育の基本概念について復習					
2	教育の基本概念の整理—人間形成作用と教育の可能性、必要性、教育と社会の関係					
3	学校教育と教師の関係について					
4	教育愛とは何か。					
5	偉大な教育者に学ぶ—ソクラテス、ペスタロッチを例に					
6	歴史の中の教師 (1) 西欧における教師の歴史					
7	" (2) 我が国における教師の歴史—師範学校					
8	教師像の種類—専門職としての教職 (聖職、労働者)					
9	教師の資質能力について—基本的資質能力					
10	教師の資質能力について—具体的資質能力、更に教師の倫理と自己規律を加えて					
11	法規類から見た教師の使命—日本国憲法と教育基本法					
12	法規類から見た教師の使命—学校教育法その他					
13	教員の職務内容について理解する					
14	教員の実践活動について—学習指導、生活指導、学級経営					
15	教員の身分と服務及び研修について					
16	テスト					
関連科目	教育原理					
資格						
教科書	教職の意義と職務 (学芸図書 1200 円)					
参考資料	文科省刊行物「学習指導要領」及び「指導書」類					
連絡先	榆木キャンパス 管理棟 4F					
オフィスアワー	後期水木の午後を除く時間帯に対応可能。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育原理（教育課程を含む）	2	いなば こういち 稲葉 浩一	1年	前期	講義	教職必修
授業概要	<p>本講義は教職に関する科目のうち「教育の基礎理論に関する科目」で、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」と「教育課程の意義及び編成の方法」をカバーするものである。私たちは教育についてあれこれと、しかもかなりもっともらしく語ることができる。それでは歴史や経済についてはどうだろう。同じように語ることができるという人はかなり限られているのではないだろうか。史学や経済学という専門的な学術領域がある一方で、誰でも語ることができる教育を対象とした学問領域があるのはなぜだろうか。この問いは「原理的に考える」というテーマと結びつくものである。原理的に、つまり根本的なところから「教育」について考えてみる。そうすることで、私たちが当たり前としてきた「教育」の姿が、立体的に、奥行きをもって見えてくるはずだ。とりわけ将来教員になることを考えているひとにとって、この試みは不可欠といっていいたいだろう。この講義では私たちが慣れ親しんできた「教育」を、あまり慣れ親しまれていない概念や理論をもって考え直すことを目指す。そのうえで今日の教職に求められる見識・思考力等を養っていくことを目指すものである。</p>					
キーワード	教育思想、学校教育の意義、教職論、学習論、教育課程論					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎的理論及び概念の習得</li> <li>・学校教育の意義と課題及びこれからの学校教育の展開についての視野の獲得</li> <li>・専門職としての教職の理解及びそれに求められる思考力の養成</li> </ul>					
受講生に望む事	<p>すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。よって受講生には教員の説明をノートに取り自らまとめるとともに、それをもとにした予習・復習を行う姿勢が求められる。なお本授業においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。</p>					
評価方法	定期試験 100 パーセントとするが、折に触れてリアクションペーパー等の課題を与え、評価の参考にすることがある。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	教育の基礎理論①教育とは何か？					
3	教育の基礎理論②西洋の教育思想について（1）					
4	教育の基礎理論③西洋の教育思想について（2）					
5	教育の基礎理論④日本の教育思想について					
6	教育と「自己」①「自分」はどこからやってきたのか？					
7	教育と「自己」②自己実現と学校教育（1）					
8	教育と「自己」③自己実現と学校教育（2）					
9	教師という仕事①「先生」とは何か？					
10	教師という仕事②なぜ「お勉強」はつまらないのか？					
11	教師という仕事③児童生徒理解とは何か？（1）					
12	教師という仕事④児童生徒理解とは何か？（2）					
13	いじめについて考える①いじめとは何か？					
14	いじめについて考える②「いじめ問題」のもつ「問題」について					
15	まとめ					
関連科目	教職に関する科目					
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状					
教科書	テキストは使用せず、配布資料による。					
参考資料	適宜授業内にて紹介する。					
連絡先	kinaba@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考	受講生の理解度・関心に即しつつ適宜授業計画の進行を調整する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育方法論	2	いなば こういち 稲葉 浩一	1年	後期	講義	教職必修
授業概要	本講義は教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教育課程に関する科目」に該当する。取り上げる事項は「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」である。受講者は「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」に関わる諸概念について学習し、次いで教育方法をめぐる理論と歴史について理解を深めていく。そのうえで学校教育について、学習指導・授業スキル・教育メディア・教授組織と学習組織・教育評価の5つの観点から検討を加え、教育実践者として必要な知見と視野の習得を目指す。					
キーワード	教職に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、教育方法、教育技術					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法をめぐる理論と歴史について理解する。</li> <li>・教育の方法と技術に関わる諸概念を習得する。</li> <li>・授業実践に必要とされる基礎的な知識と技術を身に付ける。</li> </ul> 以上をもとに、教育実践者として必要な視野の獲得を目指す。					
受講生に望む事	すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。とりわけこの講義は教科書の内容を膨らませながら行われるため、受講者は授業内資料と自らがとったノート、教科書を見返しながら予習・復習を行う姿勢が求められる。なお授業内においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。					
評価方法	試験 70 パーセント、数回行われる課題を 30 パーセントとする。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	教育の方法と技術に関わる諸概念①教育方法と教育技術					
3	教育の方法と技術に関わる諸概念②指導計画と授業設計					
4	教育方法をめぐる理論と歴史①近代以前の教育方法と近代の教授法					
5	教育方法をめぐる理論と歴史②新教育運動と現代の教授理論					
6	教育課程と学習指導要領について①カリキュラムとは何か					
7	教育課程と学習指導要領について②カリキュラム開発について					
8	教師の役割と学習指導について					
9	授業スキルと学習者の「個性」について					
10	教育メディア①教育メディアの種類と機能					
11	教育メディア②教材・教具の選択と活用					
12	教育メディア③ICTの利用と今後の展開					
13	教育評価について①指導と評価の関係性					
14	教育評価について②能力とは何か？					
15	まとめと補論					
関連科目	教職に関する科目					
資格	栄養教諭一種免許状					
教科書	平沢茂（編著）2014 『改訂版 教育の方法と技術』図書文化社					
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤学 1996年 『教育方法学』岩波書店</li> <li>・文部科学省 2008年3月 『小学校学習指導要領』</li> <li>・文部科学省 2008年8月 『小学校学習指導要領 総則編』</li> <li>・文部科学省 2008年3月 『中学校学習指導要領』</li> <li>・文部科学省 2008年9月 『中学校学習指導要領解説 総則編』</li> </ul>					
連絡先	e-mail. kinaba@shokei-gakuen. ac. jp					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考	受講生の人数、理解度・関心に即しつつ適宜授業計画を調整し進行していく。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育制度	2	いなば 穂葉 こういち 浩一	2年	前期	講義	教職必修
授業概要	<p>私たちのほとんどは、学校に通い続けてきた。ほとんどのひとにとってそれが当たり前だったし、そのことに疑問をもつひとはあまりいなかっただろう。ただたとえば私たち日本人が「通学」ということをしだしたのは、せいぜい100数十年前のことである（しかも当初はあまり「人気」がなかった）。言い換えればそれより前の時代には、学校というところに毎日通うということは当たり前でも必要でもなかったのだ。なにしろ今でいうところの「学校」自体がなかったのだから。</p> <p>ではなぜ現代の私たちは、そのほとんどが学校に通い、あたかもそれが当然のように思われているのか。そのことを知るためには社会とか制度という、ちょっと小難しそうなことについて考えてみなければならない。学校はいつごろ、どうやってできたのか。どのようにして普及したのか。どう変わってきたのか。どんな理念で教育が行われているのか…などなど。</p> <p>そういったちょっと小難しいことを経由して、私たちが経験してきた学校教育についての考えを立体的に作り直していく。これが本講義の目指すところとなる。</p>					
キーワード	学校制度、教育行政論、教育法規、教職論					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育制度・教育法規に関する基礎的な知識と概念の習得</li> <li>・ 学校教育と社会制度の関係性についての理解</li> <li>・ 上記内容を自身の学校教育体験にフィードバック可能な応用力・分析力の養成</li> </ul>					
受講生に望む事	<p>すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。よって受講生には教員の説明をノートに取り、自らまとめ、予習・復習に役立てる姿勢が求められる。なお本授業においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。</p>					
評価方法	試験100パーセントとするが、適宜授業内において課題を設け、評価の参考として加味することがある。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	学校教育の誕生：制度としての「子ども」①					
3	学校教育の誕生：制度としての「子ども」②					
4	日本の教育制度史①：日本の学校はどうやってできたのか①					
5	日本の教育制度史②：戦前と戦後はどう変わったのか					
6	教育行政について①：文部科学省の役割					
7	教育行政について②：教育委員会の役割					
8	組織としての学校①：「学校」はどのようにして作られているのか					
9	組織としての学校②：教師の仕事について					
10	学校教育制度の意義と課題：ドラマ「堀の中の中学校」をもとに①					
11	学校教育制度の意義と課題：ドラマ「堀の中の中学校」をもとに②					
12	教育問題と制度①：「児童虐待」はいつからあったのか					
13	教育問題と制度②：「学校に通わないこと」の変遷					
14	教育問題と制度③：いじめとは何か / その定義と対策					
15	まとめ					
関連科目	教職に関する科目					
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状					
教科書	教科書は使用せず、配布資料による。					
参考資料	『中学校学習指導要領解説 総則編』 *ほか適宜授業内で紹介する。					
連絡先	e-mail < kinaba@shokei-gakuen. ac. jp >					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考	受講生の人数、関心、授業内容の理解度に応じて適宜授業計画の調整を行うことがある。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅰ	2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	2年	前期	講義	教職必修 (中・高1種国語)
授業概要	授業の前半は、国語科教育の理論や変遷の解説を中心に講義を行い、後半は学生同士の討議を行う。教材研究や学習指導案作成といった実践に結び付くように、単元のねらいや授業の組み立てについて具体的に学び、教育実習生として教壇に立てるだけの力を育成する。この際、意識的にPBL (Project-based learning) を取り入れて展開する。国語科の目標「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」を、国語教師としての視点から理解させる。教育効果の仮説の立て方等、学生が主体的に関わる事で実践的な教師力をつける。生徒主体の授業展開が出来るように指導していく。(関連科目である「国語科教育法Ⅱ」では、作成した学習指導案をもとに模擬授業を展開する予定である。人数によっては全員が模擬授業をすることは出来ないが、PBL で作成した指導案をもとに代表者が模擬授業を展開し、その後研究検討会を行う。)					
キーワード	中学国語、高校国語、教職					
到達目標	国語科教育について系統的に理解する。それぞれの学年に応じた目標を理解して、科目ごとのねらいを学ぶ。授業の組み立てや生徒の既習学習内容を意識して、指導案を書く為の準備が出来るようになる。					
受講生に望む事	教師としての自覚を持つ。また、模擬授業を想定した指導案を事前に指導を受けながら作成する。					
評価方法	課題提出 (60%)・学習態度 (40%) により、総合的に評価する。					
回	授業計画					
1	「国語科教育法」で何を学ぶか					
2	国語科の制度—学習指導要領と教科書					
3	発問・指示・板書・ノート指導・ワークシート					
4	「話すこと・聞くこと」の授業					
5	「書くこと」の授業					
6	「読むこと」の授業					
7	言葉を育む詩歌の授業					
8	古典の授業—「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の扱い方と言語活動					
9	日中漢字文化を生かした漢字・語彙指導					
10	教室での豊かな交流活動—グループ学習の進め方					
11	国語科の評価					
12	指導計画・学習指導案の作成					
13	授業を研究して育つ教師—教えながら学び育つ教師					
14	新しい時代の国語教育—メディア・リテラシー					
15	国語科教育の現状と課題					
関連科目	国語科教育法Ⅱ・国語科教育法Ⅲ・国語科教育法Ⅳ					
資格	中学校教諭1種免許状(国語)・高等学校教諭1種免許状(国語)					
教科書	町田守弘編『実践国語科教育法—『楽しく、力づく』授業の創造』(学文社) 『中学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省) 『高等学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)					
参考資料	適宜指示する。					
連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー						
備考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
国語科教育法Ⅱ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	2年	後期	講義・演習	教職必修 (中・高1種国語)	
授業概要	教材研究の方法と指導案作成について学ぶ。各科目ごとのねらいを考え、教材から授業をどのように組み立てるかを指導する。指導案の形式を教え、実際に作成してみる。それをもとに年間の授業計画を作成し、定期考査の作成もする。							
キーワード	中学国語、高校国語、教職							
到達目標	指導案の作成が出来る。教材から授業の組み立てが出来る。教材のねらいを読み取る。							
受講生に望む事	学習指導案を作成できるようにする。【事前学習】・模擬授業担当者は事前に個別指導を受けながら指導案を作成する。・模擬授業該当箇所の教材研究をする。【事後学習】・模擬授業担当者は、反省を踏まえて指導案を再作成する。・教材研究ノートを作成する。							
評価方法	指導案作成 (80%)・模擬授業 (20%) により、総合的に評価する。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	模擬授業「古文」③「三大和歌集」・「平泉」			
2	定期試験問題作成について①			10	模擬授業「評論」①「水の東西」・「命はだれのものなのか」			
3	定期試験問題作成について②			11	模擬授業「評論」②「ネットが崩す公私の境」・「余暇について」			
4	模擬授業「漢文」①「五十歩百歩」・「蛇足」			12	模擬授業「小説」①「羅生門」・「少女」			
5	模擬授業「漢文」②「送元二使安西」・「香炉峰下」			13	模擬授業「小説」②「富嶽百景」・「紫紺染について」			
6	模擬授業「漢文」③「鶏鳴狗盗」・「雑説」			14	模擬授業「詩歌」①「レモン哀歌」・「骨」			
7	模擬授業「古文」①「田舎の児」・「東下り」			15	模擬授業「詩歌」②「その子二十」・「いくたびも」			
8	模擬授業「古文」②「花は盛りに」・「門出」							
関連科目	国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅲ、国語科教育法Ⅳ			参考資料	適宜指示する。			
資格	中学校教諭1種免許状(国語)・高等学校教諭1種免許状(国語)			連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp			
教科書	『改訂版高等学校国語総合』三省堂 『常用国語便覧』浜島書店 『読解をたいせつにする体系古典文法』数研出版 『新基本漢文』数研出版			オフィス アワー	月12:00～13:00、木12:00～13:00			
				備考				

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書道科教育法Ⅰ		2	くたみ たけし 久多見 健	2年	後期	講義	教職必修 (高1種書道)	
授業概要	学校教育の理念、書道科教育に関する理論と方法について学ぶ。また、書教育の歴史や今後の展望と課題について考える。学習指導案の実例を示し、導入、展開、まとめ、評価などのあり方について考える。学習指導案を作成し、模擬授業を体験する。							
キーワード	指導要領・指導案・模擬授業							
到達目標	・「高等学校学習指導要領解説・芸術編」で目標や内容を正確に理解する。・学習指導案の実例を学び、自ら模擬授業を体験することで指導案が作成できるようにする。・模擬授業での合評会、講評の指摘を教育実習に活かす。							
受講生に望む事	教師を目指す者として、専門の教科はすべて履修してほしい。授業内容について予習を課す、特に模擬授業の指導案は事前に2度以上の指導を受けること。授業後は、次回確認テストを行うので復習を欠かさないこと。模擬授業後は、指導を受けた点を修正した指導案を提出のこと。							
評価方法	レポート(30%) 模擬授業および学習指導案(40%) 試験(30%)							
回	授業計画			回	授業計画			
1	教育基本法、学校教育法			9	教材、評価のあり方			
2	高等学校学習指導要領「書道Ⅰ」の学習指導内容			10	書写・書道基本用語			
3	"			11	模擬授業実践 反省、講評			
4	"			12	"			
5	"			13	"			
6	高等学校学習指導要領「書道Ⅱ」の学習指導内容			14	"			
7	学習指導案の書き方			15	教育実習について			
8	高等学校芸術科書道の現状			16	試験			
関連科目	書道科教育法Ⅱ			連絡先	E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp 榎木校地: 1号館3階 久多見研究室			
資格				オフィス アワー	火曜日 16:20～17:20 木曜日 12:15～13:00			
教科書	『高等学校学習指導要領解説・芸術編』、高校書道教科書「書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(東京書籍)			備考	「書道」教職免許必修			
参考資料	書の古典と理論(光村図書) 各社教科書(書道Ⅰ、Ⅱ)							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
道徳教育の研究		2	いなば こういち 稲葉 浩一	2年	前期	講義	教職必修 (中学校教諭一種免許状)
授業概要	<p>本講義は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。近年いじめ問題や少年非行といった問題が取り上げられるなかで、道徳教育の充実の必要性が語られている。だが道徳を教えるとはどういうことなのだろうか？たとえば英文法や公式を覚えていれば、私たちは正しく問題を解くことができる。だが「〇〇はよくない」とか「〇〇すべきだ」ということを知っていても、だからといってそれだけでは私たちは「道徳的」になるわけではない。道徳を教えるとはどういうことなのか。なぜ学校で道徳を教える必要があるのか。そもそも道徳とは何なのか。こういった問題に対して無自覚なまま道徳教育を実践することなどできるはずがない。以上の関心から本講義では道徳教育の基礎理論の習得を基礎とし、実践的思考力の養成へと展開することを目指す。</p>						
キーワード	教職に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、道徳教育、指導法、道徳の時間						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳と教育の基礎的な理論・概念を習得する。</li> <li>・学校教育における道徳教育の意義と課題について理解する。</li> <li>・「道徳の時間」の基礎的な指導法の習得及び指導案作成力を身に着ける。</li> </ul>						
受講生に望む事	<p>すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。よって受講生には教員の説明をノートに取り、自らまとめ、予習・復習に役立てる姿勢が求められる。なお本授業においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。</p>						
評価方法	<p>期末テスト 60 パーセント、授業内課題（発表等を含む） 40 パーセントとする。出席数それ自体は成績評価に加味しない。</p>						
回	授業計画						
1	オリエンテーション						
2	道徳と教育の基礎理論①道徳性と発達の理論						
3	道徳と教育の基礎理論②道徳性と社会化の理論						
4	道徳と教育の基礎理論③道徳教育の歴史						
5	道徳教育の意義と機能①デュルケム『道徳教育論』「規律の精神」前編						
6	道徳教育の意義と機能②デュルケム『道徳教育論』「規律の精神」後編						
7	道徳教育の意義と機能③デュルケム『道徳教育論』「社会集団への愛着」						
8	道徳教育の意義と機能④デュルケム『道徳教育論』「意志の自律性」						
9	「道徳の時間」の指導法①『中学校学習指導要領（道徳編）』を読む						
10	「道徳の時間」の指導法②『私たちの道徳』を読む						
11	「道徳の時間」の学習指導案の作成①						
12	「道徳の時間」の学習指導案の作成②						
13	「道徳の時間」のミニ模擬授業①						
14	「道徳の時間」のミニ模擬授業②						
15	まとめ						
関連科目	教職に関する科目						
資格	中学校教諭一種免許状						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『私たちの道徳 中学校』</li> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』</li> </ul> <p>*いずれも文部科学省ホームページよりダウンロード可能。</p>						
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領』平成20年3月告示。</li> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』平成20年9月。</li> <li>・文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』平成24年6月。</li> <li>・松下良平, 2011, 『道徳教育はホントに道徳的か? : 「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター。</li> <li>・E. デュルケム (訳書), 2010, 『道徳教育論』講談社文庫。ほか適宜授業内で紹介する。</li> </ul>						
連絡先	e-mail < kinaba@shokei-gakuen. ac. jp >						
オフィスアワー	1号館2階研究室にて						
備考	受講生の人数、内容理解、関心等に即しつつ、適宜授業計画の調整をする。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
特別活動の研究		2	佐々木 公久	2年	後期	講義	教職必修	
授業概要	教育の中での特別活動の意義を知らせる。その事を通して、特別活動の目的、活動内容に関する研究を行う。理論的な背景を理解する中で、実践的な指導力を育成する。また、指導力の基盤として、自ら考え、判断できる教師になるための幅広い素養を育成する。							
キーワード	特別活動の本質 集団づくり 授業実践力							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の目的、意義、活動内容を理解する。</li> <li>・学級担任のあるべき姿から学級運営の方法を知る。</li> <li>・集団の機能と集団づくりについて理解し、技法を体得する。</li> </ul>							
受講生に望む事	学級担任になった事を仮定して講義に望んでほしい。							
評価方法	試験65%、提出物・授業演習等への意欲35%							
回	授業計画			回	授業計画			
1	教育問題と人権教育 目指す教師像			9	集団づくりの技法の実践2(ロールプレイ等)			
2	青年期の特質と意義			10	学習指導案の作成法			
3	特別活動の目標と具体的内容			11	学級活動具体的活動内容(適応と成長及び健康安全)			
4	学級活動の具体的活動内容(学級活動)			12	学級活動具体的活動内容(適応と成長及び健康安全)			
5	学級活動を充実させる基盤としての学級づくり			13	模擬授業と授業評価			
6	望ましい集団づくりの技法1(ソーシャルスキル)			14	模擬授業の解説			
7	集団づくりの技法の実践1(ソーシャルスキル)			15	まとめと自己評価			
8	望ましい集団づくりの技法2(ロールプレイ等)							
関連科目	道徳教育、教職論、教育心理学などの教育課程 関連科目			連絡先	榆木キャンパス教務課			
資格	中・高1種教員免許状			オフィス ア ワー				
教科書	中学校学習指導要領解説特別活動編			備考				
参考資料	高等学校学習指導要領解説特別活動編							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
臨床心理学		2	江崎 百美子	2年	後期	講義	教職選択必修	
授業概要	臨床心理学の歴史、心理検査の種類と方法、様々な心理療法についての知識を得られるように、ワークシートを用いながら解説していく。							
キーワード	心理検査、心理療法、心の健康、パーソナリティ、アイデンティティ、ストレス							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や他者の性格、周囲との人間関係、心と体のバランスについて理解すること。</li> <li>・様々な悩みをもつ人に対する見立て(アセスメント)と援助の方法(心理療法)について理解すること。</li> <li>・日常生活場面での臨床心理学の関わり方について考えを深めること。</li> </ul>							
受講生に望む事	・質問や意見発表、ワークシートの提出など、自主的、積極的に参加してほしい。							
評価方法	定期試験の成績(80%)および講義のレポート(20%)を加味して評価を行なう。							
回	授業計画			回	授業計画			
1	臨床心理学とは何か、臨床心理学を作った人々			9	テストバッテリーの組み方			
2	心の構造と性格類型			10	知能について			
3	正常と異常			11	心理療法とは			
4	健康と障害			12	心理療法の実際(個人心理療法)			
5	心の発達段階、発達観			13	心理療法の実際(集団心理療法)			
6	発達段階における心の問題			14	社会と臨床心理学			
7	心理検査について			15	まとめ			
8	心理検査の実際			16	筆記期末終了確認試験			
関連科目				連絡先	榆木キャンパス教務課			
資格				オフィス ア ワー				
教科書	はじめての臨床心理学 森谷寛之・竹松志乃 編著 北樹出版 2,500円			備考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育心理学 I	2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	前期	講義	教職選択必修
授業概要	【概要】本科目では、発達、学習、知能、パーソナリティ、適応、特別支援教育及び教育心理学の研究法、統計法について解説する。 【目標】個人の心理学的視点からの理解を踏まえた教育場面における教師の指導性を高める。 【方法】1. 個人、集団、それぞれの理解の基礎となる教育心理学の知識を学び、研究法、統計法の観点の習得を図る。 2. ケース・スタディ、ロール・プレイングによって実践的感性を養い、理解の深化を図る。					
キーワード	研究法、発達理論、知能と測定、学習理論、パーソナリティ理論、社会性、特別支援教育、心理臨床					
到達目標	・発達理論の理解 ・学習理論の理解 ・心理臨床的視点の養成 ・研究法の観点の習得					
受講生に望む事	評価方法に示す受講記録は、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて（講義内容の箇条書きでなく）自分の言葉で記録してください。事前学習としては、指定教科書の基本単語について理解しておくこと、また、事後学習では、その理解の定着と深化を求めため、定期的な確認作業を行うこと。					
評価方法	平素の各回の受講記録（40%程度）、及び最終レポート（60%程度）による総合評価					
回	授業計画	回	授業計画			
1	教育心理学の歴史と研究領域	9	パーソナリティの理解 2			
2	教育心理学における調査等の研究法	10	動機づけ・社会性			
3	発達の原理	11	障がい児の心理と特別支援 1			
4	乳幼児期から青年期までの特色 1	12	障がい児の心理と特別支援 2			
5	乳幼児期から青年期までの特色 2	13	不適応と心理臨床 1			
6	知能の発達と測定	14	不適応と心理臨床 2			
7	学習メカニズム・教授過程	15	まとめ			
8	パーソナリティの理解 1					
関連科目	心理学、生涯発達心理学 I・II、教育心理学 II、社会心理学 I・II	連絡先	楡木地区大学 1号館 3階 No.1 研究室			
資格	教員免許	オフィスアワー				
教科書	たのしく学べる最新教育心理学－教職にかかわるすべての人に	備考				
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育心理学Ⅱ		2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	後期	講義	教職選択必修
授業概要	個としての児童生徒、及び集団としての学級、それぞれについて教育心理学の観点から講義する。教育心理学についての知見への理解を進めるために必要な研究法・実践法、及び心理教育統計法を概説する。						
キーワード	心理査定、事例（ケース・スタディ）、ロール・プレイング、研究法、心理教育統計						
到達目標	教育現場における事例を知り、解釈するための知識を得る。そのために、児童生徒の発達理解を中心とした心理診断法などさまざまな人間理解のための知識を得て、多面的な児童理解の視点を獲得。また、事例研究法、行為法などを通して、学級集団の関係の中において課題を発見できる。そして、個と集団、それぞれの観点からの理解を進めるために心理教育統計の観点を活用し、それを応用するための教育心理学研究法の基礎習得する。						
受講生に望む事	各講義では、評価方法に示す受講記録については、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて（講義内容の箇条書きでなく）自分の言葉で記録してください。事前学習としては、講義ノートを作成し、教科書・参考図書の（次回授業）範囲を通読の上、基礎用語の下調べなどを行うこと。事後学習：講義ノートを整理し、確認したい事がらば、次回までに調べ学習を行っておくこと。						
評価方法	平素の各回の受講記録と中間レポート等（40%程度）、及び最終の研究レポート（60%程度）による総合評価						
回	授業計画						
1	オリエンテーション						
2	教育心理学と教育実践のかかわり						
3	教育における研究法：測定と評価						
4	学習意欲の基礎						
5	動機づけ理論の展開 1						
6	動機づけ理論の展開 2						
7	事例研究						
8	学習行動の基礎						
9	知識獲得と理解						
10	スキル獲得と問題解決 1						
11	スキル獲得と問題解決 2						
12	個に応じた教育と自己学習力						
13	授業と学級のはたらき						
14	調査研究						
15	まとめ						
関連科目	心理学、生涯発達心理学、教育心理学Ⅰ、社会心理学Ⅰ・Ⅱ						
資格	教員免許						
教科書	学習と教育の心理学 増補版 市川伸一 岩波書店						
参考資料	適宜、指示する。						
連絡先	楡木地区大学 1号館 3階 No.1 研究室						
オフィス アワー							
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅲ	2	たけだ まさのり 武田 昌憲	3年	前期	講義・演習	教職必修 (中Ⅰ種国語)
授業概要	国語科教育法Ⅰ・Ⅱの学習を踏まえ、授業構想力の焦点化を深め、学習指導案の作成、模擬授業、及び授業研究を進めていきます。主に古典を中心に行っていきます。					
キーワード	国語科教育 中学国語 模擬授業 指導案					
到達目標	教材研究ができる。指導案の基礎が作成できる。模擬授業に慣れる。					
受講生に望む事	指導案の作り方に慣れてほしい。模擬授業についての評価が出来るようにしてほしい。 毎時間の積極的な質疑応答を期待します [事前学習] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと [事後学習] 配布資料の整理・保存と、次回の補正事項や質問の整理をしておくこと					
評価方法	模擬授業及び質疑応答 50% レポート 50%					
回	授業計画		回	授業計画		
1	はじめに 順番決定		9	模擬授業 「中学生の国語2」『平家物語』「敦盛最期」		
2	魅力のある授業について 教師の力量と基礎知識		10	模擬授業 「中学生の国語2」『平家物語』「扇の的」		
3	模擬授業 「中学生の国語1」『竹取物語』「今は昔」「天の羽衣」「昇天」		11	模擬授業 「中学生の国語3」『奥のほそ道』「月日は」		
4	模擬授業 「中学生の国語1」『故事成語』五十歩百歩、四面楚歌 蛇足等		12	模擬授業 「中学生の国語3」『奥のほそ道』「平泉」		
5	模擬授業 「中学生の国語2」『枕草子』「うつくしきもの」「さつきばかり」		13	模擬授業 「中学生の国語3」『中国の古典の言葉』		
6	模擬授業 「中学生の国語2」『徒然草』「仁和寺の法師」「弓射ること」		14	模擬授業 「中学生の国語3」『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』		
7	模擬授業 「中学生の国語2」『漢詩』黄鶴楼、春望、絶句		15	まとめ		
8	模擬授業 「中学生の国語2」『平家物語』「祇園精舎」					
関連科目	国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ		参考資料			
資格	中学校教諭一種免許状(国語)		連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp 榎木キャンパス 管理棟4階 第6研究室		
教科書	『中学生の国語 1, 2, 3』(三省堂・3冊セット・平成24年度版) 『教育実習生のための学習指導案作成教本国語科一中・高教育実習用』(蒼丘書林)		オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み		
			備考	高校教諭一種免許状(国語)取得希望者もできる限り受講してもらいたい		

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅳ	2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	3年	後期	講義・演習	教職必修 (中・高1種国語)
授業概要	文部科学省の掲げる国語教育の目標を理解し、教科書から年間授業計画・教材研究・指導案作成・模擬授業・試験問題作成までが出来るようにする。担当者による模擬授業を展開し、その後は学生が模擬授業を展開する。一年後の教育実習を念頭に置いた仕上げとしての指導をする。授業の様子をビデオ撮影し、学生自身が自分の授業を客観的に把握できるようにする。					
キーワード	中学国語、高校国語、教職					
到達目標	科目ごとで教材研究が出来る。指導案作成が出来る。指導案の通りに模擬授業が展開できる。					
受講生に望む事	学習指導案に沿った模擬授業を展開する。 【事前学習】・模擬授業担当者は事前に個別指導を受けながら指導案を作成する。・模擬授業該当箇所の教材研究をする。 【事後学習】・模擬授業担当者は、反省を踏まえて指導案を再作成して提出する。 ・教材研究ノートを作成する。					
評価方法	指導案作成(80%)・模擬授業(20%)により、総合的に評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス：魅力のある授業作りとは		9	模擬授業 「小説」②「トロッコ」		
2	年間授業計画について		10	模擬授業 「小説」③「走れメロス」		
3	模擬授業 「評論」①「水田のしくみを知る」		11	模擬授業 「小説」④「小さな手袋」		
4	模擬授業 「評論」②「この小さな地球の上で」		12	模擬授業 「小説」⑤「高瀬舟」		
5	模擬授業 「評論」③「壁に残された伝言」		13	模擬授業 「韻文」①「詩」雨二モ負ケズ		
6	模擬授業 「評論」④「『循環型社会』とは何か」		14	模擬授業 「韻文」②「短歌の世界」		
7	模擬授業 「評論」⑤「『文殊の知恵』の時代」		15	模擬授業 「韻文」③「俳句の世界」		
8	模擬授業 「小説」①「空中ブランコ乗りのキキ」					
関連科目	国語科教育法Ⅰ・国語科教育法Ⅱ・国語科教育法Ⅲ		参考資料	適宜指示する。		
資格	中学校教諭1種免許状(国語)・高等学校教諭1種免許状(国語)		連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	『教育実習生のための学習指導案作成教本国語科一中・高教育実習用』(蒼丘書林) 『国語便覧』浜島書店		オフィスアワー	月12:00～13:00、木12:00～13:00		
			備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書道科教育法Ⅱ		2	くたみ たけし 久多見 健	3年	後期	演習	教職必修 (高一種書道)	
授業概要	高等学校書道教育の視点に立った教育実践例を演習形式で展開していく。その中身としては、高等学校の組織を認識した上で芸術科書道の役割を確認し、教科の目標・表現・内容等について学習する。また、それを踏まえた年間指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を実施して基本的な指導法を体験習得し、次年度の教育実習に生かす。							
キーワード	教育実習、模擬授業、年間指導計画、学習指導案。							
到達目標	・年間指導計画を作成することにより自分の指導法の流れを認識する。 ・本時の学習指導案を作る上での留意点を確認し、自分らしい指導案の作成を目指す。 ・教育実習を踏まえての模擬授業を行うことにより自分の課題を見出す。							
受講生に望む事	学習指導案や模擬授業に対する意欲・独創性・向上心を持って受講のこと。模擬授業が中心になるので指導案の準備を早めに行い、事前に2度以上の指導を受けること。他の模擬授業者の指導案を事前に検討し、意見をまとめておく。模擬授業後は、それぞれ反省点をまとめ、指導を受けた点について指導案を見直し、訂正して提出のこと。							
評価方法	模擬授業（年間指導計画・学習指導案）80%および平常点20%として評価を行う							
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習指導要領概要、高等学校の教職員組織や芸術科書道教育の現状について			9	模擬授業実践（講評・合評会実施）			
2	学習指導の実践（年間指導計画・学習指導案の作成、模擬授業の内容等について）			10	"			
3	模擬授業実践（講評・合評会実施）			11	"			
4	"			12	"			
5	"			13	"			
6	"			14	"			
7	"			15	総括（教育実習における留意点の再確認を含む）			
8	"							
関連科目	書道科教育法Ⅰを履修済であること。			連絡先	kutami@shokei-gakuen.ac.jp 楡木キャンパス：大学1号館 3F 久多見研究室			
資格				オフィスアワー	火曜日 16:20～17:20 木曜日 12:15～13:00			
教科書	高等学校学習指導要領解説 芸術編（文部科学省）書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（東京書籍）			備考	高等学校1種免許（書道）取得においては必修。			
参考資料	大学書写・書道教育（第一法規）書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ指導資料（東京書籍）							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語科教育法Ⅲ		2	ゆのき しげゆき 柚木 繁之	3年	前期	講義	教職（英語） 中1種必修	
授業概要	国際化と高度情報化の社会で英語を実際に使う機会が増えるなか、今後の英語教育が期待される役割について研究し、同時に中学校・高等学校の英語教師としての知識を養います。文字通り英語の教え方を中心に講義します。なお、英語教育に関する基礎的な内容としては、目的、言語材料、言語活動、教材研究、視聴覚教材、教授法、学習指導案等がありますが、特に教授法とそれにともなう評価法を中心に講義を行います。							
キーワード	Methodology of English Language Education							
到達目標	・我が国における英語習得の目的について理解すること ・中学校・高等学校の英語教授法研究を通して、必要な知識を養うこと							
受講生に望む事	受講の前提として英語の相当程度の知識が必要となりますので、それらの知識は学科の関連科目等で深めて下さい。							
評価方法	筆答演習課題等70% 受講姿勢30%（予定）							
回	授業計画			回	授業計画			
1	コースオリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明			9	読むことの指導（高等学校）			
2	聞くことの指導（中学校）			10	リーディングの評価			
3	聞くことの指導（高等学校）			11	書くことの指導（中学校）			
4	リスニングの評価			12	書くことの指導（高等学校）			
5	話すことの指導（中学校）			13	ライティングの評価			
6	話すことの指導（高等学校）			14	教育機器の利用			
7	スピーキングの評価			15	総括			
8	読むことの指導（中学校）							
関連科目	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ			参考資料	適宜指示する			
資格	中学校教諭免許 外国語（英語）・高等学校教諭免許 外国語（英語）			連絡先	電子メール:yunoki@nifty.com IP電話:050-5532-7900(録音) 研究室:楡木キャンパス・管理棟・4F・柚木研究室			
教科書	新版英語科教育法 木村松雄 他 学文社 新編英語教育指導法事典 米山朝二 研究社 中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 高等学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 中学校学習指導要領解説 外国語編 文部科学省 開隆堂 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 文部科学省 開隆堂 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1 笠島準一 他 東京書籍 UNICORN English Communication 1 市川泰男 他 文英堂			オフィスアワー	前期:火曜12:15～13:00・火曜16:20～17:05 後期:水曜12:15～13:00・水曜16:20～17:05 ※最新情報は学生支援課掲示を必ず確認して下さい。			
				備考	※教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語科教育法Ⅳ	2	ゆのき 柚木 繁之	3年	後期	講義	教職（英語） 中・高1種必修
授業概要	国際化と高度情報化の社会で英語を実際に使う機会が増えるなか、今後の英語教育が期待される役割について研究し、同時に中学校・高等学校の英語教師としての知識を養います。またこの科目では、英語の教え方について実践を交えて講義します。具体的には、中学校における外国語（英語）、高等学校の外国語（英語）各科目の模擬授業等を通し、教室における指導法について、相互研究のもと、改善点に関する研究および指導を行います。					
キーワード	Methodology of English Language Education					
到達目標	・中学校・高等学校の英語教師としての基本的な知識を養うこと ・学習指導案作成とそれに基づく授業実践を経験し、教育実習に備えること					
受講生に望む事	受講の前提として英語の相当程度の知識が必要となりますので、それらの知識は学科の関連科目等で深めて下さい。					
評価方法	模擬授業（50%） 受講姿勢（30%） 各種課題（10+10%）：担当模擬授業の学習指導案他（予定）					
回	授業計画					
1	コースオリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明					
2	英語科教育法Ⅰ～Ⅲ総括					
3	現場（教育実習先学校）の昨今の状況と教育実習生が行うべき英語教育法					
4	大学で学ぶ教科教育指導法と実習先における指導における留意点					
5	学習指導案の作成 －基本的な文書作成の常識－					
6	学習指導案の立案 －具体的な学習指導案の作成 中学校 第1回目－					
7	学習指導案の立案 －具体的な学習指導案の作成 中学校 第2回目－					
8	学習指導案の立案 －具体的な学習指導案の作成 高等学校 第1回目－					
9	学習指導案の立案 －具体的な学習指導案の作成 高等学校 第2回目－					
10	学習指導案の相互検討					
11	モデル授業者によるリハーサル・相互検討					
12	模擬授業1・検討					
13	模擬授業2・検討					
14	各自の模擬授業ビデオを利用したレポート作成指導					
15	提出課題に対する講評・総括					
関連科目	英語科教育法Ⅰ～Ⅲ					
資格	中学校教諭免許 外国語（英語）・高等学校教諭免許 外国語（英語）					
教科書	新版英語科教育法 木村松雄 他 学文社 新編英語教育指導法事典 米山朝二 研究社 中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 高等学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 中学校学習指導要領解説 外国語編 文部科学省 開隆堂 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 文部科学省 開隆堂 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1 笠島準一 他 東京書籍 UNICORN English Communication 1 市川泰男 他 文英堂					
参考資料	適宜指示する					
連絡先	電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900（録音） 研究室：楡木キャンパス・管理棟・4F・柚木研究室					
オフィスアワー	前期：火曜 12:15～13:00・火曜 16:20～17:05 後期：火曜 12:15～13:00・火曜 13:00～13:45 ※最新情報は学生支援課掲示を確認して下さい。					
備考	※教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育実践研究		1	小沢 日美子 いなば 浩一 みやざき 尚子	3年～ 4年	後期～ 前期	演習	教職必修
授業概要	<p>本科目では教育実践を分析・考察するための基礎的な理論と方法を学ぶ。また、4年次の教育実習の事前・事後指導を兼ねている。したがって、本授業では具体的な教育問題と関連付けながら、教育実践にかかわる各領域の取り組みを理解することを狙いとする。そして、各自が教育実習で最低限求められる資質や能力を習得することを狙いとしている。そのため指導内容には、現職の先生方による講話、また、中学校・高等学校に赴いて行う観察実習等が含まれる。</p>						
キーワード	教職に関する科目、教育実習、観察実習						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員としての心構えや態度（学習意欲・態勢、模擬授業・指導案を作成する能力）を培い、教育実習における自己の課題を明確にする。</li> <li>・ 教育実習に際して最低限求められる資質や能力（専門的な基礎学力、体系的な理解力、論述する能力）を習得する。併せて、相互に改善を図ることで個々の授業力等を高める。</li> </ul>						
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員という使命感への認識を増し、実践的取り組み方の充実を図ってほしい。そのため自己の課題を明確化し、具体的な技能の習得に力を注いで欲しい。</li> </ul>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習への参加態度（質問や意見発表、プレゼンテーション、ロール・プレイング、模擬授業への取り組み） 40%</li> <li>・ 教育実習の事前準備（実習校との関係づくりと学習指導案の作成） 30%</li> <li>・ 教育実習の事後統括（学習成果の整理と報告：レポート、観察実習録、報告会） 30%</li> </ul>						
回	授業計画						
1	オリエンテーションー教育実習の意義と目的						
2	教育実習の内容と実習記録の方法						
3	現場における役割取得体験（ロール・プレイング）						
4	外部講話講師①						
5	模擬授業と授業研究①						
6	観察実習事前指導						
7	観察実習						
8	"						
9	"						
10	"						
11	観察実習の振り返り						
12	外部講師講話②						
13	模擬授業と授業研究②						
14	教育実習の心構え						
15	教育実習生体験報告会						
関連科目	教職に関する科目、教科に関する科目						
資格	中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状						
教科書	教育実習を考える会（編）2000、『新編 教育実習の常識―事例に基づく必須66項』蒼丘書林						
参考資料	適宜授業内にて紹介する。						
連絡先	小沢日美子 e-mail <himiko@shokei-gakuen.ac.jp> 稲葉 浩一 e-mail <kinaba@shokei-gakuen.ac.jp> 宮崎 尚子 e-mail <miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp>						
オフィス アワー							
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分						
教職実践演習（中・高）	2	小沢 日美子 稲葉 浩一 久多見 健 柚木 繁之 宮崎 尚子	4年	後期	演習	教職必修						
授業概要	本演習は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」である。本演習に含まれる事項は、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する事項、の4点である。以上の学習をとおして実践力を習得する。											
キーワード	教職に関する科目、学習指導、生徒指導、学級経営、実践的指導力											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上述の「授業概要」においてあげた4つの観点から、自己にとって何が課題であるのかを自覚する。</li> <li>・自覚にもとづいて不足している知識や技能等を補い、それらの知識や技能等の定着を図る。</li> <li>・教員として最小限必要な資質能力の全体について、教職課程の履修を通じて、確実に身に付けることができたか否かを明示的に確認する。</li> </ul>											
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習は、教職課程の他の科目の履修や教職指導の成果が、学生の中で統合され、最終的に教員として必要な資質能力が形成されたことを確認するという、他の科目にはない特色を有していることを理解の上、受講すること。</li> <li>・受講生はこれまでの履修カルテに関連づけさせながら、設定課題の分析、考察といった一連の探究プロセスと成果を期末にまとめ提出することが課せられる。</li> <li>・受講生は教壇に立つ責任を自覚し、専門性を高めるべく研鑽をつむことが求められる。また教科指導に不可欠となる取得予定免許の教科に関する知識及び教養の深化が求められる。</li> <li>・受講生は積極的な姿勢はもちろんのこと、常識を備えた上で履修すること。</li> </ul>											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み方及び期末に提出するレポート（70点）</li> <li>・各専門教科担当が指示する課題・提出物など（30点）</li> </ul>											
回	授業計画											
1	オリエンテーション											
2	教員に求められる資質についての確認及び専門職としての教師像の確立（授業概要①に対応）：小沢日美子、稲葉浩一											
3	外部講師による講話①：教師の使命感・責任感・教育的愛情について											
4	教育実習の振り返り、年間の指導計画の作成、定期試験問題・小テスト等の作成、模擬授業、あるいは、各担当者が定めた課題（授業概要④に対応）：久多見健、柚木繁之、宮崎尚子											
5												
6							"					
7	"											
8	学校現場における生徒指導の課題と実践（授業概要①②③に対応）：小沢日美子											
9							"					
10	学校経営の観点から教育の現代的課題（いじめ問題、不登校問題、少年非行、フリーター・ニート問題）に対する認識の深化と対応・解決策の探究：稲葉浩一											
11												
12	外部講師による講話②学校組織の運営と地域ぐるみでの指導について（仮）											
13	学校改善の最新動向（地域連携、学校組織マネジメント等）に沿った実践事例の学習を踏まえた、学校に求められる組織的対応についての理解（授業概要②に対応）：小沢日美子、稲葉浩一											
14												
15	総括											
関連科目	教職に関する科目、教科に関する科目											
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状											
教科書	各担当者が適宜指示する。											
参考資料	各担当者が適宜指示する。											
連絡先	小沢日美子 e-mail <himiko@shokei-gakuen.ac.jp> 久多見 健 e-mail <kutami@shokei-gakuen.ac.jp> 稲葉 浩一 e-mail <kinaba@shokei-gakuen.ac.jp> 柚木 繁之 管理棟 4階研究室 宮崎 尚子 e-mail <miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp>											
オフィスアワー	小沢日美子：大学1号館3階研究室 久多見 健：大学1号館3階研究室にて 稲葉 浩一：大学1号館2階研究室 柚木 繁之：管理棟4階研究室にて 宮崎 尚子：大学1号館2階研究室											
備考												



# 司書に関する科目



科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館情報技術論	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	1年	後期	講義	司書必修
授業概要	現代社会と情報技術の関わりを概観したうえで、図書館業務に必要な基礎的な情報技術について解説する。具体的には、図書館業務システム、図書館ホームページ、データベース、電子資料・電子図書館、デジタルアーカイブ、最新の情報技術の図書館への応用等について、実例を挙げて解説する。					
キーワード	コンピュータ、Web ページ、電子図書館、電子アーカイブ、OPAC					
到達目標	(1) コンピュータのハードウェアとソフトウェア、ネットワーク、データベースの仕組みを理解する (2) 図書館業務システムおよび図書館 Web サイトの機能と特徴を理解する (3) 情報技術の図書館への応用に関する近年の動向について理解する					
受講生に望む事	◆事前学習 次回の内容を指示するので、それに準じた企業や情報サービス機関の Web サイトを閲覧し、Web ページやデータベースの情報、機能について関心を持っておくこと。 ◆事後学習 授業に該当した範囲に則って、各自、図書・雑誌・Web ページを一読し、知識を深めておくこと。					
評価方法	レポート 50%、小テスト 50% (シリーズ毎に 2 回に分けて実施)					
回	授業計画					
1	司書科目における本科目の位置づけ					
2	コンピュータの仕組みと演算装置					
3	記憶装置					
4	補助記憶装置					
5	入出力装置					
6	情報技術とネットワーク					
7	データベースとデータマイニング					
8	図書館業務システム					
9	図書館 Web サイトの比較検証 (調査)					
10	図書館 Web サイトの比較検証 (発表)					
11	検索エンジン					
12	図書館で提供する電子情報					
13	デジタルアーカイブ					
14	コンピュータセキュリティと図書館					
15	まとめ 最新の情報技術と図書館					
関連科目						
資格	司書資格					
教科書	今まど子編『図書館学基礎資料』(樹村房、2013年)。					
参考資料						
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 榎木キャンパス管理棟 3階 研究室 122 (研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館制度・経営論	2	くわばら よしや 桑原 芳哉	1年	後期	講義	司書必修
授業概要	<p>図書館に関わる法体系及び公共図書館・大学図書館に関わる近年の政策動向について概観し、政策や社会の動向に対応した図書館制度及び経営のあり方について解説する。</p> <p>具体的には、自治体行政・大学経営の動向と図書館、管理運営形態の多様化、図書館業務・組織・職員の理論と実際、サービス計画、図書館施設・設備計画、図書館ネットワーク、図書館業務・サービスの評価等について、近年の事例を紹介して解説する。</p> <p>毎回、図書館に関する最近の報道事例及び特徴的な図書館の事例を紹介し、図書館を取り巻く問題意識の共有を図る。</p>					
キーワード	図書館経営、図書館法、図書館政策、図書館ネットワーク、これからの図書館					
到達目標	<p>司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。</p> <p>①我が国の図書館政策の動向 ②図書館の法的位置づけ ③図書館経営の現状と課題</p> <p>特に、図書館の組織と職員、図書館の施設と設備、サービス計画、図書館評価、管理形態の多様化等に関する近年の動向について、幅広い視点から考察できることを目指す。</p>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。</li> <li>・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。</li> <li>・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。</li> </ul>					
評価方法	<p>レポート 45% 中間に1回のレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。</p> <p>定期試験 45% 期末に定期試験を行う。</p> <p>平常点評価 10% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。</p>					
回	授業計画					
1	ガイダンス（図書館情報学関係研究雑誌、参考図書を紹介）、図書館経営の意義（教科書 p. 1～5、p. 96～103）					
2	図書館制度の概観、図書館法の解説（1）（教科書 p. 8～42）					
3	図書館法の解説（2）（教科書 p. 35～42）					
4	図書館に関するその他の法規（教科書 p. 23～34、p. 43～74）					
5	図書館政策（教科書 p. 75～94）					
6	公共図書館の経営：自治体行政と図書館、公共経営としての図書館経営（教科書 p. 89～94、p. 104～119）					
7	図書館の組織と職員（教科書 p. 120～131）					
8	図書館の財政と予算、図書館業務の理論と実際（1）具体的な業務（教科書 p. 132～143、p. 120～131）					
9	図書館業務の理論と実際（2）業務の効率化と専門性（教科書 p. 190～195）					
10	図書館の施設と設備（教科書 p. 144～148）					
11	図書館の計画とマーケティング（教科書 p. 144～167）					
12	図書館整備計画の策定（図書館の地域計画）（教科書 p. 144～148）					
13	図書館の経営評価（教科書 p. 168～183）					
14	図書館の運営形態の多様化（教科書 p. 184～205）					
15	まとめ：これからの図書館と求められる司書像					
16	定期試験 筆記試験					
関連科目	図書館概論					
資格	司書					
教科書	<p>糸賀雅児・葉袋秀樹／編集 『図書館制度・経営論』（現代図書館情報学シリーズ 2） 樹村房、2013（ISBN 978-4-88367-202-8）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。</li> <li>・授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。</li> <li>・文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。</li> </ul>					
参考資料	<p>今まどり編著『図書館学基礎資料 第11版』樹村房、2013（ISBN 978-4-88367-222-6）</p> <p>※『図書館概論』で教科書として使用した図書を、本授業でも参考資料として使用します。</p>					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー						
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館サービス概論	2	くわばら よしや 桑原 芳哉	2年	前期	講義	司書必修
授業概要	図書館の基本的な機能とサービスの動向について概観し、社会の動向に応じた図書館サービスのあり方について解説する。具体的には、図書館サービスの種類、「貸出」を中心とした資料提供サービス、利用対象ごとのサービス、これからの図書館に求められるサービス等について、近年の事例を紹介して解説する。毎回、図書館に関する最近の報道事例及び特徴的なサービスの事例を紹介し、図書館を取り巻く問題意識の共有化を図る。					
キーワード	図書館サービス、公共図書館、資料提供、情報発信、課題解決支援					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ① 図書館の基本的な機能とサービスの考え方 ② 多様な図書館サービスの意義・目的と現状 ③ 図書館サービスの近年の動向と課題 特に、図書館を取り巻く近年の社会情勢を踏まえ、求められるサービスの方向性とその実態について、幅広い視点から考察できることを目指す。					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。</li> <li>事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。</li> <li>居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館サービスの現状について問題意識を持って観察すること。</li> </ul>					
評価方法	レポート 90% 2回のレポートの提出を求める。2回とも期限まで必ず提出のこと。 平常点評価 10% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス（図書館情報学関係研究雑誌、参考図書を紹介）、図書館サービスの意義（教科書 p. 10～17）					
2	図書館サービスの種類（教科書 p. 18～25）					
3	資料提供サービス（1）貸出サービス（教科書 p. 54～65、p. 92～113、p. 126～129）					
4	資料提供サービス（2）貸出に関連するサービス（教科書 p. 66～91、p. 114～125、p. 134～137）					
5	レファレンスサービス、情報提供サービス（教科書 p. 130～133、p. 150～168）					
6	利用対象に応じたサービス（1）児童サービス、ヤングアダルトサービス（教科書 p. 170～181）					
7	利用対象に応じたサービス（2）高齢者サービス、障害者サービス、多文化サービス（教科書 p. 182～201）					
8	利用対象に応じたサービス（3）大学図書館・学校図書館におけるサービス					
9	多様なサービス（1）集会・文化活動、他機関との連携（教科書 p. 202～211）					
10	多様なサービス（2）移動図書館、館外サービス（教科書 p. 212～215）					
11	課題解決支援サービス（教科書 p. 216～218）					
12	サービス計画と広報・PR（教科書 p. 26～45、p. 50～53、p. 230～237）					
13	図書館サービスと著作権（教科書 p. 138～149）					
14	図書館サービスと危機管理（教科書 p. 222～225）					
15	まとめ：これからの図書館と求められるサービス、職員に求められる資質と能力（教科書 p. 46～49）					
関連科目	図書館概論、図書館制度・経営論、児童サービス論、情報サービス論					
資格	司書					
教科書	小田光宏／編著『図書館サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ 3）日本図書館協会発行 2010年、(ISBN 978-4-8204-0917-5) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。					
参考資料	参考図書：大申夏身／編著『課題解決型サービスの創造と展開』（図書館の最前線 3）青弓社／発行、2008年、(ISBN 978-4-7872-0038-9) 上記参考文献は、授業では直接使わないが、理解を深めるために各自で参考に読むことが望ましい。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。また文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー						
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報サービス論	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	前期	講義	司書必修
授業概要	図書館が行う情報サービスの意義や特徴はなにか、その内容と手法について、先進的な事例を取り上げながら概観する。また、サービスを具体的にを行う際の情報探索行動やレファレンスツール利用の技法についても解説する。					
キーワード	レファレンスサービス、レフェラルサービス、レファレンスプロセス、情報探索行動					
到達目標	(1) 図書館が行う情報サービスの意義と現状について説明できる (2) レファレンスプロセスを把握し、実際の行動に結びつけることができる (3) レファレンスツールの特徴を把握し、目的に応じた取り扱いができる					
受講生に望む事	図書館で情報サービスを利用したり、学習したレファレンスブックを実際に使用してみしてほしい。					
評価方法	試験 (70%) + 課題 (30%)					
回	授業計画		回	授業計画		
1	司書資格における本科目の位置づけ (目的)		9	レファレンス質問への対応 レファレンスプロセス、レファレンスインタビュー		
2	情報サービスの概要 定義、意義		10	情報の検索と回答		
3	情報サービスの基礎 レファレンスサービス		11	情報検索の仕組み 見出し・排列・索引、DB、トランケーション		
4	情報サービスの展開 レフェラルサービス、利用指導、カレントアウェアネスサービス		12	情報サービスの管理		
5	多様な情報サービス 読書相談、地域情報の提供、専門的な情報提供		13	情報源の特質 事実検索と文献検索		
6	情報サービスの歴史的展開		14	事実情報検索の実際		
7	情報源整備の実際		15	文献情報検索の実際		
8	利用者の情報利用に対する理解 情報ニーズ、情報探索行動		16	試験		
関連科目	情報サービス演習が実践科目なので、できるだけ前後期と連続して履修すること。		連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 楡木キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)		
資格	司書資格					
教科書	(1) 小田光宏編『情報サービス論：JLA 図書館情報学テキストシリーズ3』(日本図書館協会、2012年)。(2) 今まど子編『図書館学基礎資料：第11版』(樹村房、2013年)。* (2)は旧版でも可。ただし改訂された部分は各自で補足しておくこと。		オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45		
参考資料	適宜紹介、配布する		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報サービス演習 (A)	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	前期	演習	司書必修
授業概要	情報サービス論で修得したレファレンスツールに関する知識をふまえた上で、レファレンスブックやデータベース、Web サイトを用いて実践的演習を行う。					
キーワード	情報探索、検索、データベース、参考図書、レファレンスブック、レファレンスツール、OPAC、Web サイト					
到達目標	(1) 質問内容を分析し、必要に応じてレファレンスブックやデータベースを選択することができる。 (2) 多様な情報源から回答を提示することができる。 (3) グループのメンバーと協力し、探索、まとめ、発表し、自己の再評価をすることができる。					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探索・検索からまとめ・発表というサイクルで単元ごとに繰り返し行う。グループ活動が中心となるので、良好なコミュニケーションを図るよう心がけること。</li> <li>・授業に欠席する場合は、グループリーダーに事前に伝えておくことや、次回までの自分の担当箇所を確認しておくなど、メンバーに迷惑をかけぬよう常に連絡を密にしておくこと。</li> </ul>					
評価方法	毎回の課題 40%、発表 20%、小テスト 40% *グループでの協力を重視する					
回	授業計画					
1	司書科目における本科目の意義と目的					
2	文字・言語 の探索					
3	論理演算とトランケーション					
4	事物・事象の探索					
5	図書・雑誌の探索					
6	単館目録 (1)					
7	総合目録 (2)					
8	雑誌・新聞記事の探索					
9	シソーラス (1)					
10	シソーラス (2)					
11	前半の振り返りと小テスト					
12	歴史・日時の探索					
13	地理・地名の探索					
14	人物・団体の探索					
15	まとめ					
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、「情報サービス論」の演習科目なので、受講の際には必ず「情報サービス論」を履修しておくこと。</li> <li>・情報サービス (A) と (B) は、内容につながりがあるので前後期連続して受講することが望ましい。</li> </ul>					
資格	司書資格					
教科書	石井保廣・工藤邦彦『情報検索演習—フリーサイトによるスキルアップ—』佐伯印刷、2014年。 長澤雅男・石井裕子『レファレンスブックス』日本図書館協会、2013年。					
参考資料	(1) 小田光宏編『情報サービス論：JLA 図書館情報学テキストシリーズ3』（日本図書館協会、2012年）。 (2) 今まどり編『図書館学基礎資料：第11版』（樹村房、2013年）。 授業内でも随時配布・紹介するので、欠席した場合は各自で対応することを心がけること。					
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 楡木キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報サービス演習 (B)	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	後期	演習	司書必修
授業概要	情報サービス論で得たレファレンスツールに関する知識をふまえた上で、レファレンスブックやデータベース、Webサイトを用いて実践的演習を行う。					
キーワード	情報探索、検索、データベース、参考図書、レファレンスブック、レファレンスツール、OPAC、Webサイト					
到達目標	(1) 質問内容を分析し、必要に応じてレファレンスブックやデータベースを選択することができる。 (2) 多様な情報源から回答を提示することができる。 (3) グループのメンバーと協力し、探索、まとめ、発表し、自己の再評価をすることができる。					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>探索・検索からまとめ・発表というサイクルで単元ごとに繰り返す。グループ活動が中心となるので、良好なコミュニケーションを図るよう心がけること。</li> <li>授業に欠席する場合は、グループリーダーに事前に伝えておくことや、次回までの自分の担当箇所を確認しておくなど、メンバーに迷惑をかけぬよう常に連絡を密にしておくこと。</li> </ul>					
評価方法	毎回の課題 40%、発表 30%、試験 30% *グループでの協力を重視する					
回	授業計画					
1	情報サービス演習Aの振り返り					
2	歴史・日時の探索					
3	地理・地名の探索					
4	人物・団体の探索					
5	図書・雑誌の探索 (1)					
6	図書・雑誌の探索 (2)					
7	雑誌・新聞記事の探索 (1)					
8	雑誌・新聞記事の探索 (2)					
9	レファレンスブックのガイド・書誌の書誌 (1)					
10	レファレンスブックのガイド・書誌の書誌 (2)					
11	パスファインダーを作ってみよう					
12	総合問題 (1)					
13	総合問題 (2)					
14	パスファインダーの発表					
15	まとめ					
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目は、「情報サービス論」の演習科目なので、受講の際には必ず「情報サービス論」を履修しておくこと。</li> <li>情報サービス (A) と (B) は、内容につながりがあるので前後期連続して受講することが望ましい。</li> </ul>					
資格	司書資格					
教科書	石井保廣・工藤邦彦『情報検索演習—フリーサイトによるスキルアップ—』佐伯印刷、2014年。 長澤雅男・石井裕子『レファレンスブックス』日本図書館協会、2013年。					
参考資料	(1) 小田光宏編『情報サービス論：JLA 図書館情報学テキストシリーズ3』（日本図書館協会、2012年）。 (2) 今まど子編『図書館学基礎資料：第11版』（樹村房、2013年）。 授業内でも随時配布・紹介するので、欠席した場合は各自で対応することを心がけること。					
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 榎木キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館情報資源概論	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	3年	前期	講義	司書必修 司書教諭必修
授業概要	本講義は、図書館サービスを提供する際に情報源となるモノとしての資料について解説する。まず、図書館資料の概念を理解するために媒体の歴史の変遷について触れたのちに各資料の特質や保存方法を考えたい。次の図書館における資料の選択は、今日までどのような考えの基に行われてきたのかという歴史的論争を踏まえながら解説する。また、差別や犯罪を助長すると思われる資料に対する図書館の対応について議論しながら方向性を明らかにしたい。					
キーワード	図書館資料、図書館情報資源、選書、知的自由					
到達目標	(1) 図書館が扱う情報資源について特性を理解したうえで、適切な情報資源の評価・選択ができる。(2) 図書館資料の流通・収集過程について理解する。(3) 図書館の自由の意義について説明できる。					
受講生に望む事	授業で扱った内容や教科書を丸暗記しようとするのではなく、それに関連する図書や論文を探索したり、様々な図書館を訪問したりと自主的な取り組みを期待する。					
評価方法	レポート(30%) + 毎時間の課題(30%) + 試験(40%)、					
回	授業計画	回	授業計画			
1	司書資格における本科目の位置づけ	9	情報源の選択とコレクション構築			
2	図書館資料と情報資源	10	情報源へのアクセスと保存			
3	情報源の種類 印刷資料	11	出版と流通			
4	情報源の種類 非印刷資料	12	著作物と著作権			
5	パッケージ系電子出版物とネットワーク情報資源	13	著作権の制限1			
6	図書館の自由とは	14	著作権の制限2			
7	図書館の自由に関する具体的事例1	15	まとめ			
8	図書館の自由に関する具体的事例2	16	試験			
関連科目		連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト {https://sites.google.com/site/hatadaweb/} [畑田研究室] 検索 榎木キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)			
資格	司書資格、司書教諭資格	オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45			
教科書	今まで子編『図書館学基礎資料 第11版』(樹村房、2014年)。 *旧版でも可。ただし、改訂された部分は各自補うよう注意すること。	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報資源組織論	2	くわばら としや 桑原 芳哉	3年	前期	講義	司書・司書教諭必修
授業概要	図書館で扱う情報資源(資料・情報)の組織化について、その意義と考え方を概説するとともに、その方法について学習する。具体的には、目録法と分類法、特にわが国で広く使用されている「日本目録規則」と「日本十進分類法」について、その体系および記述方法について学習する。					
キーワード	目録法、分類法					
到達目標	司書および司書教諭資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。①目録法の意義や考え方、記述方法 ②分類法の意味や役割機能、歴史と種類 ③日本十進分類法の体系 ④目録の書誌構造と書誌検索の仕組み					
受講生に望む事	・事前学習として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学習として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。・図書館を利用して、「なぜこの本はこの場所にあるのか」という疑問を持った経験について、考えておくこと。					
評価方法	定期試験 60%   平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス 「図書館で本を探す」経験について	9	情報通信技術と情報資源組織 目録の機械化/MARC/OPAC/メタデータ/ウェブページの組織化/書誌コントロール(教科書p.132~185)			
2	情報資源組織 その目的・意義と概要(教科書p.1~15)	10	日本十進分類法の実際(1) 分類の体系/分類法の原則(教科書p.85~102)			
3	目録法(1) 意義/考え方/目録規則/記述/標目(教科書p.16~39)	11	日本十進分類法の実際(2) 各類の内容(1) 1類(哲学・宗教)、2類(歴史・伝記・地理)			
4	目録法(2) 歴史と動向/日本目録規則1987年版(教科書p.40~60)	12	日本十進分類法の実際(3) 各類の内容(2) 3類(社会科学)、6類(産業)			
5	主題組織法 組織化の目的と意義、方法(教科書p.61~74)	13	日本十進分類法の実際(4) 各類の内容(3) 4類(自然科学)、5類(技術、工学)			
6	分類法(1) 基本原理/意義・役割・機能/種類/歴史(教科書p.75~85)	14	日本十進分類法の実際(5) 各類の内容(4) 7類(芸術)、0類(総記)			
7	分類法(2) 日本十進分類法/分類規程/分類作業・所在記号(教科書p.86~108)	15	日本十進分類法の実際(6) 各類の内容(5) 8類(言語)、9類(文学)			
8	語による主題組織法 自然語と統制語/シソーラス/件名標目(教科書p.109~131)	16	定期試験 筆記試験			
関連科目	情報資源組織演習(A)・情報資源組織演習(B)を履修するには本講義を履修すること	参考資料	日本目録規則1987年版(改訂2版) 日本図書館協会 2001年 日本十進分類法 新訂9版 森 清 日本図書館協会 1995年			
資格	司書・司書教諭	連絡先	研究室(管理棟4階 研究室14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp			
教科書	田窪直規/編集『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ 9) 樹村房、2011 (ISBN 978-4-88367-209-7) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。	オフィスアワー				
		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
情報資源組織演習 (A)	1	桑原 芳哉 <small>くわばら よしや</small>	3年	後期	演習	司書必修	
授業概要	図書館で扱う情報資源(資料・情報)の組織化について、実務に必要な知識および技能について、演習により学習する。本授業では、日本十進分類法(NDC)による図書の分類を中心に、基本件名標目表(BSH)による件名付与についてもあわせて学習する。						
キーワード	分類法、日本十進分類法(NDC)、基本件名標目表(BSH)						
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解し、技能を習得することを目標とする。①日本十進分類法(NDC)の構造、分類体系 ②日本十進分類法(NDC)による適切な分類の付与 ③基本件名標目表(BSH)による件名の付与						
受講生に望む事	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学修として、教科書の各回の該当ページに含まれる演習問題について各自で解答作成をすること。・図書館を利用して、「なぜこの本はこの場所にあるのか」という疑問を持った経験について、考えておくこと。						
評価方法	課題 60% 期末に課題の提出を求める。平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス 情報資源組織演習の概要(件名及び分類)(教科書 p.150~159)			9	分類演習(1) 人文科学(1) 2類 歴史・伝記・地理の図書の分類(教科書 p.199~204)		
2	件名基礎演習 基本件名標目表(BSH)の階層構造、細目、規程(教科書 p.251~266)			10	分類演習(2) 人文科学(2) 1類 哲学・宗教の図書の分類、7類 芸術の図書の分類(教科書 p.193~198、p.205~210)		
3	分類基礎(1) 日本十進分類法(NDC)の構成、日本十進分類法(NDC)の使い方(教科書 p.160~164)			11	分類演習(3) 人文科学(3) 8類 言語の図書の分類、9類 文学の図書の分類(教科書 p.211~216)		
4	分類基礎(2) 一般補助表:形式区分、地理区分、海洋区分(教科書 p.165~174)			12	分類演習(4) 社会科学 3類 政治・法律・経済・社会・教育ほかの図書の分類(教科書 p.217~228)		
5	分類基礎(3) 一般補助表:言語区分、言語共通区分、文学共通区分(教科書 p.175~177)			13	分類演習(5) 自然科学、技術 4類 自然科学の図書の分類、5類 技術・工学の図書の分類(教科書 p.229~234)		
6	分類基礎(4) 分類記号の付与の原則(1) 主題分析(教科書 p.178~180)			14	分類演習(6) 産業、総記 6類 産業の図書の分類、0類 総記の図書の分類(教科書 p.235~239)		
7	分類基礎(5) 分類記号の付与の原則(2) 分類記号の与え方(教科書 p.180~181、p.246~250)			15	分類演習(7) 総合演習(教科書 p.240~245)		
8	分類基礎(6) 分類記号の付与の原則(3) 分類規程(教科書 p.182~192)						
関連科目	「情報資源組織論」を履修済みであること			参考資料	『日本十進分類法 新訂9版』日本図書館協会 1995年 『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会 1999年 ※第7回以降の演習においては、『日本十進分類法 新訂9版』(教員が用意します)を実際使用して演習を行う。		
資格	司書			連絡先	研究室(管理棟4階 研究室14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美/共著『情報資源組織演習』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) 日本図書館協会、2014 (ISBN 978-4-8204-1317-2) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。			オフィス ア ワ ー			
				備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
情報資源組織演習 (B)	1	桑原 芳哉 <small>くわばら よしや</small>	3年	後期	演習	司書必修	
授業概要	図書館で扱う情報資源(資料・情報)の組織化について、実務に必要な知識および技能について、演習により学習する。本授業では、日本目録規則(NCR)による図書の目録記述について概説したうえで、目録作成の演習を行う。						
キーワード	目録法、日本目録規則(NCR)、書誌データ						
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解し、技能を習得することを目標とする。①日本目録規則(NCR)による図書の目録記述の概要 ②図書、雑誌(合本製本)、録音資料、電子資料の書誌データの作成						
受講生に望む事	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学修として、教科書の各回の該当ページに含まれる演習問題について各自で解答作成をすること。・図書館を利用して、「なぜこの本はこの場所にあるのか」という疑問を持った経験について、考えておくこと。						
評価方法	課題 60% 期末に課題の提出を求める。平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。						
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス 情報資源組織演習の概要 目録法総則(教科書 p.16~19)			8	目録演習(2) 目録作成演習Ⅱ(教科書 p.104~113)		
2	目録の基礎(1) 図書の記述 その1(教科書 p.20~32)			9	目録演習(3) 目録作成演習Ⅲ(教科書 p.104~113)		
3	目録の基礎(2) 図書の記述 その2(教科書 p.33~46)			10	目録演習(4) 目録作成演習Ⅳ(教科書 p.104~113)		
4	目録の基礎(3) その他の資料の記述 継続資料、録音資料、映像資料、電子資料等(教科書 p.47~76)			11	目録演習(5) 目録作成演習Ⅴ(教科書 p.104~113)		
5	目録の基礎(4) 標目(教科書 p.77~91)			12	目録演習(6) 目録作成演習Ⅵ(教科書 p.115~123)		
6	目録の基礎(5) 排列(教科書 p.92~95)			13	目録演習(7) 目録作成演習Ⅶ(教科書 p.115~123)		
7	目録演習(1) 目録作成演習Ⅰ(教科書 p.104~113)			14	目録演習(8) 目録作成演習Ⅷ(教科書 p.115~123)		
				15	目録演習(9) 目録作成演習Ⅸ(教科書 p.115~123)		
関連科目	「情報資源組織論」を履修済みであること			参考資料	『日本目録規則 1987年版(改訂2版)』日本図書館協会 2001年		
資格	司書			連絡先	研究室(管理棟4階 研究室14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美/共著『情報資源組織演習』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) 日本図書館協会、2014 (ISBN 978-4-8204-1317-2) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。			オフィス ア ワ ー			
				備考	第1回~第6回は講義室で、第7回以降の演習については情報処理教室で行う。		

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書・図書館史	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	4年	後期	講義	司書選択
授業概要	蔡倫による紙の改良、ゲーテンベルグによる印刷技術の開発から今日まで、図書は各国の文化を伝達する媒体として主要な役割を果たしてきた。それら図書と図書館の誕生から発展過程を、各国（地域）の政治・経済・社会・文化的特異性に留意しながら解説し、今日および将来の図書館や資料の形について考察する。					
キーワード	教区図書館、学校区図書館、ボストン公立図書館					
到達目標	(1) 紙や印刷技術の誕生が人々や国の形にどのような影響を与えたのか述べることができる。 (2) 各地域・各国の図書館の発展について特徴を述べることができる。 (3) 図書の形態についてその特徴を述べることができる。					
受講生に望む事	・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。					
評価方法	毎時間の課題（50%）＋最終レポート（50%）					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 図書・図書館の歴史を学ぶ意義		9			
2	記録メディアの誕生 文字の発達、媒体の変容		10			
3	印刷技術の誕生と図書の形態 紙と印刷術の誕生		11			
4	世界の図書館史 ヨーロッパ、アジア、アフリカ		12			
5	アメリカ図書館史 大陸会議とパブリックライブラリーの誕生		13			
6	日本図書館史 1 前近代、近代、戦時体制化の図書館		14			
7	日本図書館史 2 戦後の図書館改革、1950年代、1970年代の図書館		15			
8	まとめ これからの図書・図書館について		16			
関連科目			連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト {https://sites.google.com/site/hatadaweb/} [畑田研究室] 検索 榎木キャンパス管理棟3階 研究室122（研究室前にポスト有）		
資格	司書資格		オフィス アワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45		
教科書	未定		備考			
参考資料	今まどり編『図書館学基礎資料 第11版』樹村房、2013年。*版は以前のものでも構わない。		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館情報資源特論	1	くわばら よしや 桑原 芳哉	4年	前期	講義	司書選必
授業概要	図書館は、図書館種別、サービス対象、設立母体・目的、歴史的背景、地域性などによって、さまざまな資料を所蔵している。また、情報化の進展に伴い、電子ジャーナルや電子書籍などの電子情報源の提供も拡大している。図書館を取り巻く近年の社会情勢を踏まえて、図書館で扱う情報資源に関する特徴的な話題や事例を取り上げ、紹介するとともに、図書館における収集・提供に関する課題や方向性について議論することにより、図書館情報資源に関する理解を深める。					
キーワード	図書館情報資源、情報資源の特性					
到達目標	司書資格取得のために履修する科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①図書館情報資源の特性 ②近年の図書館情報資源に関する動向					
受講生に望む事	・事前学修として、図書館情報資源に関するこれまでの学修内容について確認しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。 ・大学図書館のほか、居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、さまざまな資料の所在について知識を得ること。					
評価方法	平常点評価 100% 発表・質問等についての積極性、授業態度、授業の中で紹介した問題点や方向性に関する理解度等を評価する。					
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 図書館情報資源に関する最近の話題		9			
2	情報資源の特性 公共図書館・学校図書館で扱う情報資源の特性		10			
3	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (1)		11			
4	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (2)		12			
5	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (3)		13			
6	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (4)		14			
7	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (5)		15			
8	まとめ：司書（図書館職員）は、情報資源にどのように関わるか		16			
関連科目	図書館情報資源概論、図書館サービス概論		連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	司書		オフィス アワー			
教科書	教科書は使用しない。毎回レジュメ及び参考資料を配付する。		備考			
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館基礎特論	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	4年	前期	講義	司書選択
授業概要	<p>地域社会における公共図書館の役割の1つに地域情報の発信が挙げられる。本講義は、これらの期待に図書館はどう応えることができるのか、受講生自ら広報・PRの戦略を考え、実際に新聞・雑誌の制作を行う。</p> <p>最初に企業や図書館のPRの事例をグループに分かれて調査してもらい、取材対象を大学内の情報資源に限定した上で、月刊誌を企画し、発行するサイクルを4回行う。限られた資源（ヒト・モノ・カネ・時間）の範囲内でどのようにすれば最大の効果が発揮できるのかを考え、それを具現化する過程において試行錯誤する上で様々な技術を身につけてもらいたい。</p>					
キーワード	広報戦略、PR、図書館新聞、図書館便り					
到達目標	<p>(1) 広報・PRとは何か説明できる</p> <p>(2) 図書館をPRするための実効的な戦略を立てることができる</p> <p>(3) 印刷物を制作するために、必要な技術を習得する</p>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はグループ活動が中心となる。</li> <li>・毎時間、グループ単位で企業や図書館の広報活動について調査した結果を発表してもらうので、グループのメンバーに迷惑をかけないように留意すること。</li> </ul>					
評価方法	グループ活動(40%) + 課題(30%) + レポート(30%)					
回	授業計画					
1	ガイダンス、グループ活動					
2	広報とはなにか：ディスカッション					
3	広報・PR戦略と評価					
4	図書館PRの試み					
5	新聞・雑誌記事の著作権・肖像権					
6	図書館をPRするためのマスタープラン					
7	作品制作					
8	報告・発表					
関連科目						
資格	司書資格					
教科書	ガイダンス時にグループ毎にテーマを決めるので、それに則って各グループで決定する。					
参考資料						
連絡先	<p>Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp</p> <p>Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a></p> <p>[畑田研究室] 検索 楡木キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)</p>					
オフィスアワー	<p>月曜 12:00-12:45</p> <p>木曜 12:00-12:45</p>					
備考	司書課程受講生は、図書・図書館史、図書館基礎特論、図書館情報資源特論、図書館実習のうち2科目を卒業までに履修しておくこと					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館実習	1	くわばら 桑原 よしや 芳哉	4年	前後期 集中	実習	司書選択必修
授業概要	<p>司書課程科目の履修により得た知識及び技術に基づき、公立図書館における実務を経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時期 8月後半～9月</li> <li>・実習を行う図書館 熊本県内公立図書館</li> </ul> <p>提示する「実習先図書館一覧」から希望を募りますが、図書館の受け入れ人数等による調整に伴い、希望した図書館以外が実習先となる場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間 5日間程度</li> </ul> <p>4月に行う1回目の事前指導において、履修希望者数を確認のうえ、実習を受け入れてくれる図書館と調整を行いますので、履修希望者は必ず4月の事前指導に出席してください。</p>					
キーワード	図書館業務、公立図書館、図書館サービス					
到達目標	<p>司書資格取得のために履修する科目として、次の点について理解することを目標とする。</p> <p>①図書館業務の実際 ②利用者とのコミュニケーションの実際</p>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修として、実習先図書館の概要について各自で調査すること。また、利用者との応対や身だしなみなどについて、社会人としての知識を会得すること。</li> <li>・事後学修として、実習報告書を作成し提出すること。また、司書課程受講者を対象とした「報告会」において、口頭で実習の報告を行うこと。</li> <li>・卒業後の進路として、司書（図書館職員：学校図書館等も含む）を志望する学生の履修を望みます。</li> </ul>					
評価方法	・実習先図書館からの評価・報告に基づく評価：60% ・「実習報告書」による評価：40%					
回	授業計画					
1	事前指導 (1) 図書館実習の概要、実習先図書館に関する説明					
2	事前指導 (2) 図書館業務の実際 (1)					
3	事前指導 (3) 図書館業務の実際 (2)					
4	事前指導 (4) 実習先図書館の現状 (1)					
5	事前指導 (5) 実習先図書館の現状 (2)					
6	実習 公立図書館における実習（業務体験）（5日間程度）					
7	事後指導 (1) 実習報告 (1)					
8	事後指導 (2) 実習報告 (2)					
関連科目	司書課程科目全般					
資格	司書					
教科書	教科書は使用しませんが、これまで履修した司書課程科目の教科書等により、知識及び技術の確認を行うこと。					
参考資料						
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー						
備考						



# 司書教諭に関する科目



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
学校経営と学校図書館		2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	4年	前期	講義	司書教諭必修
授業概要	本科目は、学校図書館の目的や司書教諭、学校司書等の使命と役割について解説する司書教諭科目の中核的・概論的科目という位置づけとなっている。まず、日本とアメリカにおける学校と学校図書館の歴史的発展と図書館思想に触れ、今日の学校教育における学校図書館の理念と教育的意義について考察する。次いで、学校図書館を取り巻く教育行政や法律との関係、学校図書館の経営・管理について具体的事例を用いながら解説する。						
キーワード	学校図書館、学校経営、学校図書館法、司書教諭						
到達目標	(1) 学校図書館法や関連する法律について理解する (2) 司書教諭や学校司書の役割について理解する (3) 今後の望ましい学校図書館組織と経営のあり方について説明できる						
受講生に望む事	・グループワークおよびディスカッションを随時行う。 ・多くの学校図書館や公共図書館を訪問するなどして見聞を広めてほしい。						
評価方法	グループワーク(30%) + 授業での発言・意見(30%) + レポート(40%)						
回	授業計画			回	授業計画		
1	司書教諭科目における本科目の位置づけ(意義・目的)			8	学校図書館の組織2 予算、経営立案とプロセス		
2	学校教育と学校図書館 生涯教育・学習、教育課程、学習指導要領			9	前半の補足・まとめ		
3	学校図書館史1 欧米の学校図書館			10	経営評価1 施設・設備、情報源		
4	学校図書館史2 近代日本の学校図書館			11	経営評価2 職員、サービス		
5	学校図書館と法律1 教育基本法、学校教育法、			12	学校内外の活動 ネットワーク、広報活動、集会行事		
6	学校図書館と法律2 学校図書館法、図書館法			13	司書教諭教育：大学教育、職員研修		
7	学校図書館の組織1 ヒト(司書教諭、学校司書、主任、図書館委員会、PTA、ボランティア)			14	現代の学校図書館研究：研究領域・方法、		
				15	まとめ 学校図書館の課題と展望		
関連科目				連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 榎木キャンパス管理棟3階 研究室122(研究室前にポスト有)		
資格	司書教諭資格			オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45		
教科書	ガイダンス時に話し合って決定する			備考			
参考資料	授業のなかで随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
学習指導と学校図書館		2	くわばら よしや 桑原 芳哉	4年	前期	講義	司書教諭必修
授業概要	学校教育における学校図書館の役割を論じる際に、近年は情報リテラシーという用語をよく耳にするようになった。コンピュータとインターネットの一般家庭への普及によって、情報の加工が容易で固定化されない電子資料やネットワーク情報資源への的確な対応能力の育成が学校教育で求められている。本講義では、学習情報センターとしての学校図書館において、司書教諭が果たすべき情報活用能力の育成を中心に、その内容・方法・校内での推進計画等について具体的事例を取り上げて解説する。						
キーワード	学校図書館、学習指導、情報リテラシー教育、司書教諭						
到達目標	司書教諭資格取得のために履修すべき科目として、次の点を目標とする。 ①学校図書館や公共図書館の効果的な活用法について提言できる ②情報リテラシーについて正しい認識を持ち教授できる ③学校図書館の現状と課題に関する動向を知る						
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。</li> <li>事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。</li> <li>学校図書館及び公共図書館のホームページについて関心を持って閲覧する</li> <li>公共図書館及び大学図書館のレファレンスツールを積極的に利用する</li> </ul>						
評価方法	レポート 50% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 50% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。						
回	授業計画						
1	ガイダンス 司書教諭科目における本科目の位置づけ（目的・意義）について						
2	学びの必要性と学校図書館の役割、学校教育カリキュラムと学校図書館（教科書 p. 10～47）						
3	主体的学習と情報活用能力の育成（1）情報活用能力育成の必要性（教科書 p. 48～55）						
4	主体的学習と情報活用能力の育成（2）図書館利用指導と情報活用能力の育成（教科書 p. 56～68）						
5	情報活用能力の育成：計画と方法 計画の作成と指導の方法（教科書 p. 69～92）						
6	学校図書館における情報サービス（1）情報サービスとレファレンスサービス（教科書 p. 93～99）						
7	学校図書館における情報サービス（2）学校における情報サービス（教科書 p. 99～111）						
8	学校図書館における情報サービス（3）ネットワーク情報源の活用（教科書 p. 108～118）						
9	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（1）						
10	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（2）						
11	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（3）						
12	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（4）						
13	教職員に対する支援と働きかけ（1）教科教育における支援（教科書 p. 119～156）						
14	教職員に対する支援と働きかけ（2）総合的な学習の時間等における支援（教科書 p. 157～191）						
15	まとめ これからの学びを支える学校図書館の役割（教科書 p. 19～24）						
関連科目							
資格	司書教諭資格						
教科書	「シリーズ学校図書館学」編集委員会・編『学習指導と学校図書館』（シリーズ学校図書館学 3巻） 全国学校図書館協議会 2010年発行（ISBN：978-4-7933-2244-0） ・教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること ・授業では毎回レジュメを配付する						
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。						
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー							
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報メディアの活用	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	3年	後期	講義	司書教諭必修
授業概要	学習過程において電子メディアやネットワーク情報資源の利用があらゆる学年で授業に導入されている一方で、新しいツールに対する懐疑的な見方があることも否定できない。情報リテラシー教育の必要性が望まれている昨今、学校図書館がその役割の一翼を担うことが期待されている。本講義においては、情報探索の基礎知識と加工・活用方法について学ぶだけでなく、情報資源の評価方法や電子メディアに関する著作権や個人情報保護方法やマナーについても実際の導入事例を見ながら解説をしていきたい。					
キーワード	コンピュータ、OPAC、新聞、マスメディア、メディアリテラシー					
到達目標	(1) 情報検索する際に適切なキーワードを特定できる (2) 各データベースやWebページの特徴を理解し、評価できる (3) ハードウェアやソフトウェア、Webサービスを駆使し、授業での活用、情報発信や管理方法など提示できる					
受講生に望む事	・グループワークを重視するので、毎回、発表とディスカッションをする。 ・随時、小試験を行うので毎時間の復習を欠かさないこと。 ・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。					
評価方法	発表、グループワーク(40%) + レポート(30%) + 小テスト(30%:2回実施)					
回	授業計画	回	授業計画			
1	司書教諭科目における本科目の位置づけ	9	シソーラス、類語			
2	ハードウェア(1)	10	分類・件名からの検索			
3	ハードウェア(2)	11	検索エンジンの活用と評価			
4	ソフトウェア(1)	12	OPAC 単館目録と総合目録			
5	ソフトウェア(2)	13	メディアリテラシー			
6	Webサイトとデータベース	14	情報リテラシー：著作権、ネチケット、プライバシー保護、ウイルス対策			
7	検索語・索引語	15	まとめ			
8	論理演算、トランケーション					
関連科目		連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 楡木キャンパス管理棟3階 研究室122(研究室前にポスト有)			
資格	司書教諭資格	オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45			
教科書	(1)石井保廣・工藤邦彦『情報検索演習—フリーサイトによるスキルアップ—』佐伯印刷、2014年。 (2)今まどり編『図書館学基礎資料 第11版』(樹村房、2014年)。 *旧版でも可。ただし、改訂された部分は各自補うよう注意すること。	備考				
参考資料	授業内に配布する					



- 单位修得控
- 履修届控
- 管理棟平面図
- 大学校舎平面図







区分	授 業 科 目	成 績	単 位	備 考
教職に関する科目				
		合 計		

区分	授 業 科 目	成 績	単 位	備 考
司書に関する科目				
		合 計		

区分	授 業 科 目	成 績	単 位	備 考
司書教諭に関する科目				
		合 計		

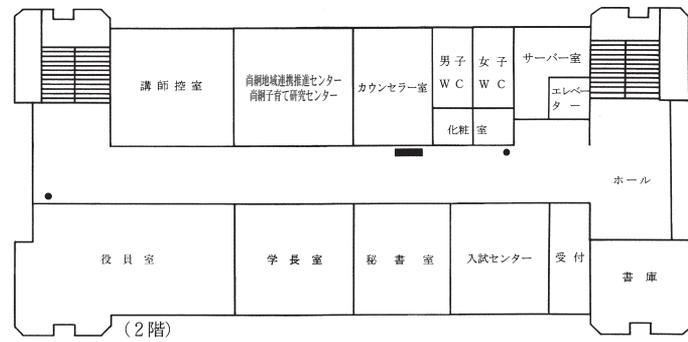
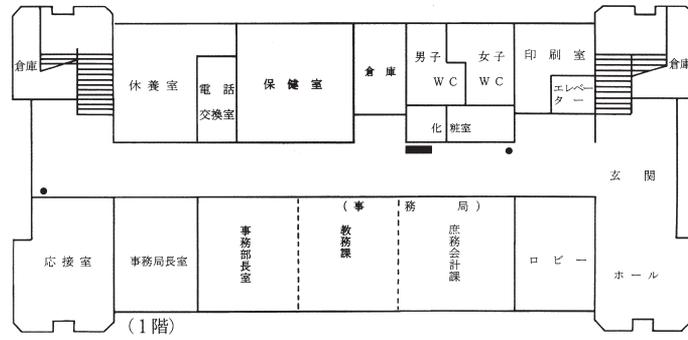
## 履 修 届 控

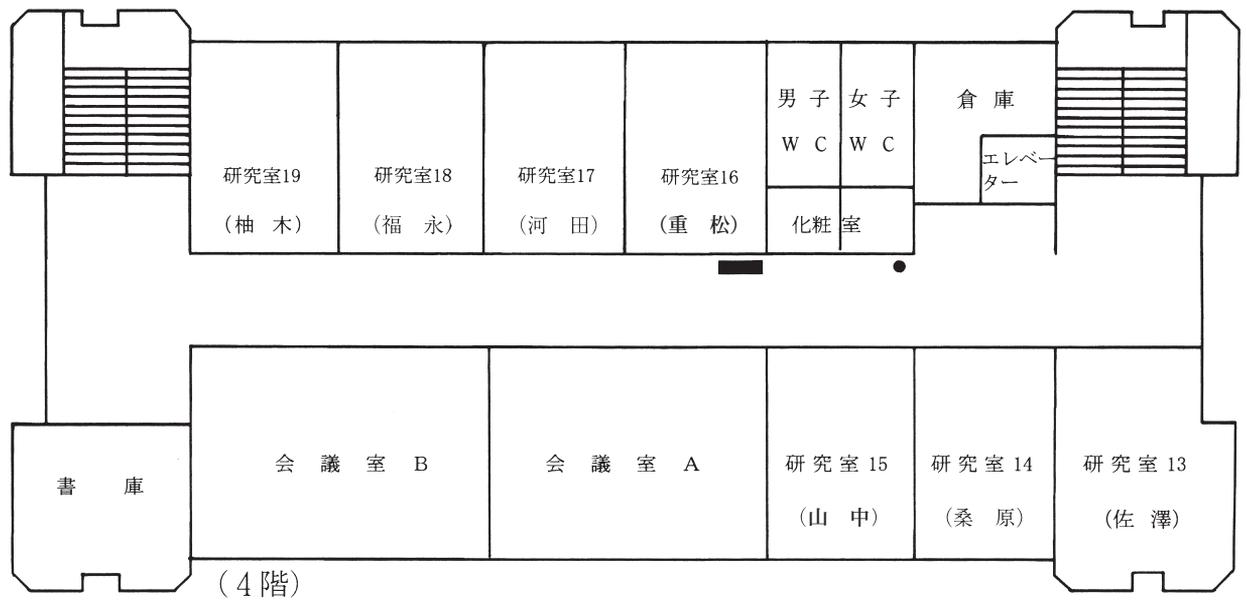
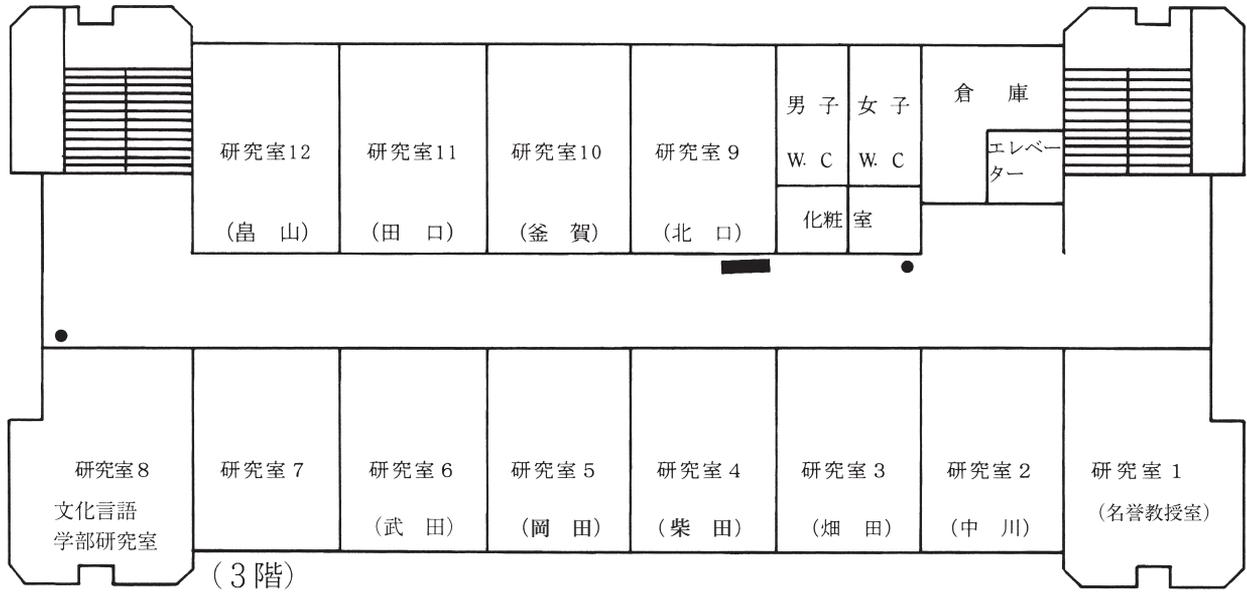
平成 年度 履修届控

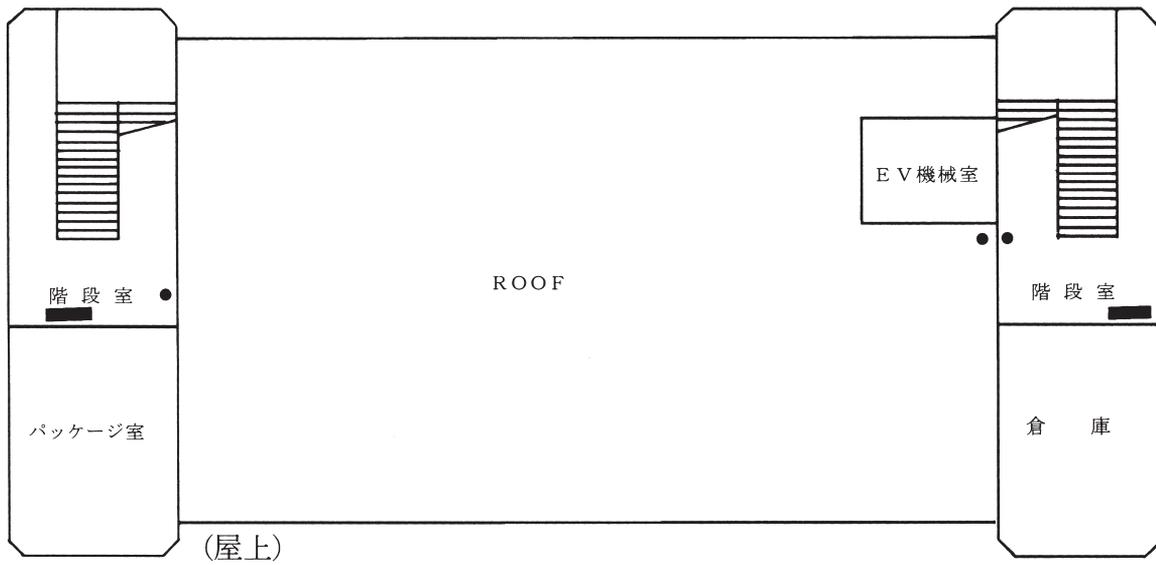
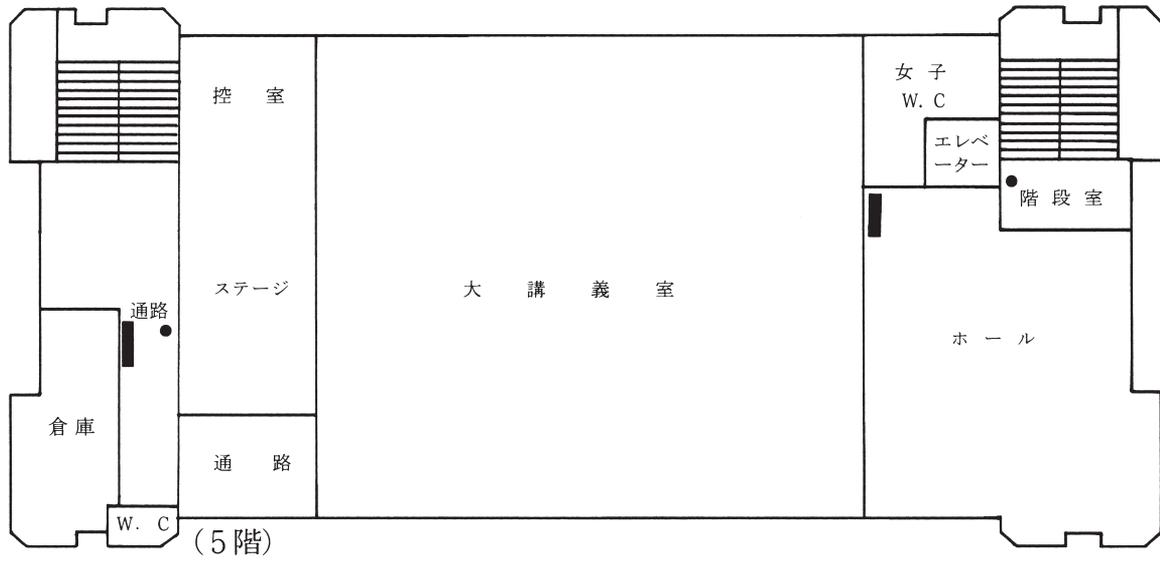
	1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
月					
火					
水					
木					
金					
集中 講義					

3. 管理棟平面図

- 消火栓、火災報知機
- 消火器







# 大学校舎平面図

- 消火栓、火災報知機
- 消火器

